

講義科目名称： 安全学

授業コード： 100100A

英文科目名称： Safety Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
橘 幸子			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(保健医療学部)	010001L2POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	安全及び医療安全の基礎知識を理解し、医療安全を確保するための手法を身に付けることを目標とする。		
授業の概要	安全の基本概念を学び、安全及び医療安全に関する基本的素養を身に付ける。事例から学び、事故分析、ヒューマンファクター、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全システム、安全文化について教授する。		
授業計画	第1回	授業の進め方、成績の付け方等について 安全学・医療安全の歴史、医療現場と危険性 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	安全学の基本概念 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	リスク表現と安全目標、安全品質 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	事故はなぜ起こるのか、どう防ぐのか、 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	事故はなぜ起こるのか、どう防ぐのか、 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	医療安全の基本1 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	医療安全の基本2 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	個人としての医療安全 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	事故防止の考え方 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	職種連携およびチームによる医療安全 前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	医療機関・地域および国の医療安全 事前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第12回	医療安全とコミュニケーション	

	事前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第13回 組織としての医療安全 事前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第14回 事故事例からの学び1 事前回の復習と小テスト 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第15回 事故事例からの学び2 これまでのまとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）
テキスト	山内豊明・荒井有美：医療安全（改訂第2版）、南江堂、2024年
参考書・参考資料等	ジェームズ・リーズン著、高野研一・佐相邦英訳：組織事故、日科技連、2005年出版 リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン、2018年、診療と治療者、2018年 古田一雄・長崎晋也：安全学入門、日科技連、2023年 篠原一彦：医療のための安全学入門（第2版）、丸善株式会社、2023年 川村治子：看護の統合と実践2、医療安全（第5版）、医学書院、2025年 小澤かおり他：看護の統合系実践、看護実践マネジメント／医療安全（第5版）、メヂカルフレンド社、2025年 （公財）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	講義終了時筆記試験 80% 小テスト 20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。 「講義での学び」の質問に適宜回答し、知識をフィードバックする。
備考	

講義科目名称： 教育原理

授業コード： 500600A

英文科目名称： Principle of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】 理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
趙 雪梅			
講義	養護教諭対象科目	010002L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	学校と社会、子どもの発達と教育をふまえて学校教師の役割を学ぶ		
授業の概要	この授業では以下のことを学び検討する。①歴史的ルーツをたどることによる教育に関するイメージの形成 ②社会変動の中の教育と教育の国際化 ③子どもの発達と教育について、子どもの学びと学校教育について、今の子どもを取り巻く状況 ④その上で、学校・教師（養護教諭も含めて）の役割を学ぶ。		
授業計画	第1回 教育の歴史 西洋 事前学習：図書館で西洋史を調べる。（2時間） 事後学習：プリントやノートを用いて、習得した知識を整理する。（2時間） 第2回 教育の歴史 日本 事前学習：図書館で日本史を調べる。（2時間） 事後学習：プリントやノートを用いて、習得した知識を整理する。（2時間） 第3回 教育思想の名人からの学び 事前学習：教育思想家について調べる。（2時間） 事後学習：プリントやノートを用いて、習得した知識を整理する。（2時間） 第4回 社会変動と教育 事前学習：社会変動について調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、教育の社会性を深く理解する。（2時間） 第5回 教育の国際化 事前学習：国際化の意味について調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、教育における国際化の重要性を深く理解する。（2時間） 第6回 小括と討議 事前学習：これまでの学習内容から興味関心があるところを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間） 第7回 子どもの発達 事前学習：人間形成とは何かを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、現代社会における子どもの成長を深く理解する。（2時間） 第8回 発達と教育と学習 事前学習：特別支援教育について調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、発達・教育・学習の関連性を深く理解する。（2時間） 第9回 教科学習と学力 事前学習：学力の意味を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、大学の学習から育成する学力を深く理解する。（2時間） 第10回 「教える」と「学び」 効果的な方法 事前学習：「学び」の角度から、教え方を考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、自分らしい方法を整理する。（2時間） 第11回 小括と討議 事前学習：これまでの学習内容から興味関心があるところを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間） 第12回 現在の子どもを取り巻く状況 事例研究 その1 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間） 第13回 現在の子どもを取り巻く状況 事例研究 その2 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間） 第14回 学校・教師（養護教諭も含む）の役割 事前学習：自分の学校時代を思い起こし、学校・教師のことを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、学校・教師の役割を深く整理する。（2時間） 第15回 小括と討議 事前学習：これまでの学習内容から興味関心があるところを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）		
テキスト	特に定めずその都度資料を提供		
参考書・参考資料等	堀尾輝久『教育入門』岩波新書54 安彦忠彦・藤井千春・田中博之『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房		
学生に対する評価	通常の小テスト（50％）とレポート（50％）で評価する 評価基準：教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。		

備考	
----	--

講義科目名称： 教育方法論

授業コード： 501100A

英文科目名称： Educational Methodology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】 理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
趙 雪梅			
講義	養護教諭対象科目	010003L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	教育方法の歴史的展開や動向を理解し、教育実践の位置づけを理解する。グループでの検討を通じて、レポートをまとめ、実践的に活用できることに対する認識を深める。		
授業の概要	学習の方法および技術についての基礎的な理論や考え方を調べ、意味を理解する。事例を通して、指導技術を理解する。ディスカッションやグループワークを行い、教育方法に関する議論を展開する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション（講義の内容や流れの確認） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第2回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（古代・中世） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第3回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（古代・中世） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第4回	教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（古代・中世） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第5回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（中世・近代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第6回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（中世・近代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第7回	教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（中世・近代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第8回	小括と討議 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第9回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（近代・現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第10回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（近代・現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第11回	教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（近代・現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第12回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第13回	教育方法の歴史的展開と基礎理論（現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第14回	教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第15回	小括と討議 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
テキスト	特に定めずその都度資料を提供		
参考書・参考資料等	佐藤学 『教育の方法』左右社、2010年		
学生に対する評価	通常の小テスト（50％）とレポート（50％）で評価する。 評価基準：教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する		

備考	
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
塩見 格一			
講義		010004LIP0SN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	記述統計学と推測統計学の理解とそれらの応用ができるまでを目標とする。		
授業の概要	日常的に出合う多くのデータを読み解き意味のある命題を導出するための統計的な手法を身につけるために、統計学における基礎的な概念や手法を、それぞれ幾つかの課題を例として分析することで理解を図る。		
授業計画	第1回	講義内容、授業の進め方、成績の付け方等についての説明 事前学習： 統計学の授業においては、毎回、アクティブ・アカデミーを利用して、授業で使用するデータを *.csv あるいは *.xlsx 形式で事前に配布します。各人においてこの配布されたデータをダウンロードして、エクセル等の表計算ソフトウェアにより開き、折れ線グラフや散布図の生成が可能であることを確認し、また以下のキーワードについて、その意味を参考資料等により調べてノートにまとめておくことが必要です。（2時間） キーワード： 保健統計、統計データ、質的データ、量的データ 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第2回	記述統計学・推測統計学の概略説明と統計学の全体像説明 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 記述統計学、推測統計学、フィッシャーの統計学、ナイチンゲールの業績 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第3回	データの分類、データの図示、度数分布表、ヒストグラム 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 度数分布表、ヒストグラム、階級幅、階級値 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第4回	最頻値、中央値、平均値 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 標本データ、平均値、中央値、最頻値、四分位数、四分位区間、外れ値 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第5回	範囲、分散、標準偏差、歪度、尖度 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 範囲、分散、標準偏差、歪度、尖度、標本標準偏差、不偏標準偏差、自由度 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第6回	正規分布とその応用 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 正規分布、標準正規分布、累積正規分布、誤差関数、カール・フリードリッヒ・ガウス（人名） 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第7回	t分布、χ^2分布、F分布、2項分布、ポアソン分布 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： t分布、χ^2分布、F分布、2項分布、ポアソン分布、ヤコブ・ベルヌーイ（人名）、シメオン・ドニ・ポアソン（人名） 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第8回	母集団、標本、標本平均の分布、母集団と標本の関係、中心極限定理 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 母集団、標本、標本平均の分布、中心極限定理、 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第9回	母集団の母数の区間推定 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 標準誤差、区間推定、95%信頼区間、下限値、上限値 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間）	

	第10回 仮説検定とは、仮説検定の手順、帰無仮説、対立仮説、有意水準 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード：仮説検定、帰無仮説、対立仮説、有意水準、危険率、検出力、第1種過誤、第2種過誤、P値 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第11回 両側検定、片側検定、Z検定、t検定 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード：両側検定、片側検定、Z検定、t検定 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第12回 母平均の検定、2つの母平均の差の検定 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード：母平均の検定、母平均の差の検定、母相関係数、母比率、同等性試験、非劣性試験 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第13回 分散分析とは、一元配置分散分析 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード：分散分析、一元配置分散分析、二元配置分散分析、主成分分析 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第14回 相関図、相関係数、回帰直線、順位相関係数 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード：相関図、相関係数、回帰直線、順位相関係数、回帰分析、ロジスティック回帰分析 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第15回 ベイズ統計、21世紀の統計学 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード：ベイズの定理、ベイズ統計、ベイズ推定、コンピュータ・シミュレーション 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間） 定期試験
テキスト	縣俊彦著：やさしい保健統計学（改訂第5版増補）南江堂
参考書・参考資料等	倉田博史 監修：東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 統計 NEWTON PRESS 倉田博史 監修：東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 確率 NEWTON PRESS
学生に対する評価	定期試験（筆記試験100%）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9時から18時、講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】 理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
塩見 格一			
講義		010005L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	情報処理の基礎知識を理解し、文書作成からプレゼンテーションまでの情報処理技術、及び表計算ソフトによる統計等データ処理に係る情報処理技術を身に付けることを目標とする。 1) コンピュータのハードウェアとソフトウェア等システム構成を理解し、情報表現・情報処理・情報検索等を実施する技術を身につける。 2) 一般的な情報技術として、具体的にオフィス・アプリケーションの統合的な用法を習得する。 3) 情報倫理とリテラシーを理解し、インターネット・アプリケーションを利用して、日常的な様々な問題を解決するインターネットの応用技術を習得する。 4) 生成 AI を利用してレポート等の過不足を補い、インターネット上の偽情報を見破り「その都度の時点において正しいと考えられる情報」の取りまとめを行えるようになる。
授業の概要	医療分野では広くコンピュータが使われ、基本的な情報処理技術は全ての医療従事者に必要不可欠なものとなっている。そこで本授業では、社会に普及している情報処理基盤の利用に要する技術的な知識を、これを支える知識として情報科学の発展の経緯から将来的な展望までを基本的な概念の理解と共に身につけられるように、実践的な課題を処理して学習する。
授業計画	第1回 コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて説明できる 情報科学の授業では、実際にパソコンを使用して課題を解きます。 インターネットに Wi-Fi 接続できるように調整したパソコンを準備する必要があります。 事前学習： 課題は事前にアクティブ・アカデミーにより配布致しますので、配布された課題やデータの内容を確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： コンピュータの起源と発展の歴史、ハードウェア、ソフトウェア、アラン・チューリング（人名）、ジョン・ノイマン（人名） 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第2回 高度情報化社会で使われる情報表現・情報処理・情報検索の技術、インターネットや情報倫理について説明できる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 情報表現・情報処理・情報検索の技術、インターネットの仕組みと応用、情報倫理 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第3回 ワードプロソフトWordを使った基礎的情報表現ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： Word 画面構成、文書の作成、表の作成、文書の編集、文書の保存・印刷 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第4回 ワードプロソフトWordを使った応用的情報表現ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 図形を使った文書作成、長文の作成、文書の校閲、Excel データの利用、便利な機能 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第5回 表計算ソフトExcelを使った基礎的情報処理ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： Excel の画面構成、表作成、表内計算、ソート、検索・抽出、グラフ作成、保存・印刷 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第6回 表計算ソフトExcelを使った応用的情報処理ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： 関数の利用、データベースの活用、ピボットテーブル、便利な機能 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第7回 プレゼンテーションソフトPowerPointを使った基礎的プレゼンテーション資料の作成ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。（2時間） キーワード： PowerPoint の画面構成、文字入力、表作成、グラフ作成、図形作成、画像挿入、保存・印刷 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々人の学習資料を作成・追加する。（2時間） 第8回 プレゼンテーションソフトPowerPointを使った応用的プレゼンテーションができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにま

	とめます。(2時間) キーワード: 画像の加工, Word・Excelデータの利用, 原稿作成, プレゼンテーションの校閲, スライドショー 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) インターネットと AI の基礎的活用ができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: インターネットの歴史, インターネット・ブラウザ, ホームページの検索・利用, YouTube, SNS 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) インターネットと AI の応用的活用ができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: メディカルオンラインを使った医学文献検索, 翻訳機能 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 表計算ソフトExcelを使って、基礎的統計計算ができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: 平均値, 中央値, 最頻値, 分散, 標準偏差, 変動係数, 歪度, 尖度, 度数分布表作成, ヒストグラム作成 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 表計算ソフトExcelを使って、相関分析と回帰分析ができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: 散布図, 相関係数, 相関分析, 回帰直線, 決定係数, 回帰分析 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 表計算ソフトExcelを使って、2項分布、ポアソン分布、正規分布を求めることができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: 2項分布, ポアソン分布, 正規分布 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 表計算ソフトExcelを使って、母平均の推定ができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: 推測統計学とは, 母集団, 標本, 標本平均の分布, 母集団と標本の関係, 中心極限定理, 信頼度, 区間推定 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 表計算ソフトExcelを使って、仮説検定ができる 事前学習: 配布された課題やデータを確認し, また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード: 仮説検定とは, 仮説検定の手順, 帰無仮説と対立仮説, 有意水準, 両側検定, 片側検定, Z検定, t検定 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 定期試験
テキスト	杉本 くみ子, 大澤 栄子 著: 30時間でアカデミック Office2021 実教出版
参考書・参考資料等	小舘香椎子他著: 教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版, 丸善, 2020年出版 小林健一郎他著: 教養情報科学概論—ユビキタス時代の情報活用—, 共立出版, 2006年出版 菅民郎著: 「Excelで学ぶ統計解析入門 - Excel2019/2016 対応版, Ohmsha, 2020年出版」
学生に対する評価	定期試験(筆記試験50%), 課題50%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	9時から18時, 講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
塩見 格一			
講義		010006L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人間工学は、使い易い機器や安全で快適な生活環境等を実現し、更に、技術をより人に優しくし、機械をより使い易くし、より快適な生活環境の実現を目的とする学問である。従って、人間工学は、その地域に、またその時々の人間の生活に密着したものでなければならず、本授業では、日常生活における人間工学的な成果を理解するために知識を獲得し、日常生活において経常的に人間工学的な眼差しを持ち続ける姿勢を身につける。		
授業の概要	人間工学は、人に優しい技術、使いやすい機器、生活しやすい環境を創るために生まれてきた学問であり、いろいろな分野で広く応用されている。現代はコンピュータ技術、情報科学、システム工学などの進歩によって人間と機械との境界がなくなり、人間と機械・機器・システムの関係が変化してきている。人間と機械の関わり、人間の運動特性と心理・感性、人間工学の応用とヒューマンインターフェース、医療技術と人間工学などについて、具体例に基づいて学ぶ。		
授業計画	第1回	人間工学の目的とその意義、歴史的な人間工学の成果 事前学習：人間工学の授業では毎回の講義の前に、アクティブ・アカデミーによる当日の資料を配布します。 ・配布資料には、章毎に、また適宜キーワードが示されていますから、キーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：人間工学と安全工学、原子力事故、航空宇宙事故、20世紀の重大事故、21世紀の重大事故 ・また、YouTubeなどの動画資料も示すこともありますから、その場合はその動画を見て下さい。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第2回	人間工学の枠組みと周辺の学術分野との関係 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：航空機のcockpitや自動車の運転席の発展の歴史とその発展に寄与した科学と工学 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第3回	日常生活における快適性の向上を具体的に実現した人間工学的成果 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：日常生活における必需品の変遷の歴史、筆記具の歴史、計算機や計量器の歴史、情報処理機器の歴史 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第4回	産業環境・社会基盤の効率化と安全性向上を両立させる人間工学の役割 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：社会基盤の構成要素、産業革命と情報革命の類似点と相違点、文化的な差異による人命に対する考え方 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第5回	「使い易い」という事柄の科学的・工学的な理解 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：キッチン・ツールは使い易いか？、家電製品、情報処理機器、自転車や自動車 ・使い易いという事はどのようなことか考察します。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第6回	人体の形状と機能を考慮した作業目的に対する合理的作業環境と作業姿勢 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：オートクチュール、プレタポルテ、ユニバーサル・デザイン、ロナルド・メイス（人名） 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第7回	人体の生理機能、またその概日周期や高齢化等による変化 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。（2時間） キーワード：身体と精神の健全性、自律神経の働き、高齢化 ・高齢化により低下する機能や失われる機能は如何に代替・支援されるべきか？ 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。（2時間）	
	第8回	ストレス（精神負担と生体負担）の概念と、その計測手法 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノート	

	第9回 にまとめて下さい。(2時間) キーワード: 疲労とストレス, 汎適応症候群, 心身症, 神経症, ハンス・セリエ (人名) 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 疲労とストレスの関係, また健全性を維持するための手法 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 疲労やストレスの計測, 疲労指標, 自律神経系における反応, 過労死, 上畑鉄之丞 (人名) 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第10回 スリップや躓きの防止等, 生活環境の危険を排除する人間工学の役割と成果 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 転倒・転落事故の防止, 家庭内での事故防止, 風呂場とトイレ, 屋外での事故防止, 交通事故の防止 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第11回 事故や高齢化により低下した身体機能の補完技術における人間工学的な考え方 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 認知機能, 事故の認知, 錯覚, 誤解, 能力の不足・欠如, ・・, 知的機能の補完技術としての AI ・個々人の必要性に対応した技術支援が必要ですが, ユニバーサル・デザインの考え方などを踏まえて, 集約・共通化は可能でしょうか? 「何をする場合も AI を呼び出して, リクエストして, 自分では直接的な操作などは一切行わないで済ませることは可能になるのでしょうか?」 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第12回 具体的事故例から考えるヒューマンファクターとヒューマンエラーの関係 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: (家電製品やガス器具などの) 誤操作, 自動車の運転における誤操作 ・誤操作はなぜ起こるのか? なぜ繰り返されるのか? 自動車の運転における誤操作は技術により防げるか? 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第13回 生活環境や作業環境におけるリスクアセスメント 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 理想的な生活環境, 未来社会における生活必需品, QOL, ドナルド・ノーマン (人名) ・人間らしい生活に必要な最小限なモノと社会環境基盤の関係を検討・考察しましょう。 ・生きることと, 生き活きと生きることについて考察しましょう。 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第14回 未知の事態への対応とその準備として人間工学において為すべき事柄 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 太古の衣食住, 文明黎明期の衣食住, 中世社会の衣食住, ルネッサンス期の衣食住, 近代・現代の衣食住, 未来の衣食住 ・中世からルネッサンス期の衣食住については, キリスト教社会, イスラム教社会, 中華儒教社会, 日本の平安時代から江戸時代, などなどと区別して考える必要がありますが, それぞれの社会においても上流階級と中下流階級では全く異なる生活をしていたのかも知れません。想像力を働かせて, 個々人は何のために, 何を求めて現世を生きていたのか? 考えてみましょう。 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 第15回 人の幸福の実現のための人間工学と人間工学の可能性を広げる周辺科学 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 人間工学, 安全工学, 社会基盤, 海洋開発, 宇宙開発 ・人間工学, また安全工学が将来において果たすべき役割について検討・考察して下さい。 ・前回第14回の課題への解答を思い起こしながら考えて下さい。人類は失敗を繰り返して今日を築いて来ましたが, 失敗の拡大再生産を繰り返さないための工学としての役割は常にあった筈で, これからもある筈です。 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 定期試験
テキスト	特になし, 毎回資料を配布する。
参考書・参考資料等	福田収一著「デザイン工学」(財)放送大学教育振興会 D.A.ノーマン著「誰のためのデザイン? 増補・改訂版」新曜社。
学生に対する評価	定期試験(筆記試験100%)
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	9時から18時 講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
青井 利哉			
講義	A T対象科目		010101L1POSNA
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人の心を科学的に扱うことができるのかについて学ぶとともに、自分自身や他者、日常における様々な問題について心理学的視点から捉えることができるようになる。		
授業の概要	現代の心理学は、人間についての科学的で総合的な理解を目標に、心の働きと行動について研究する学問である。治療やケアの対象となる人間の心理や行動を追究し、多面的に理解するための心理学の基礎(知覚や感覚、学習、記憶、情動や動機付け、思考や言語、発達、性格)を学ぶ。 また心理学を学習することで、自己理解や自己統制を助け人間形成にも役立てる。心理学の基礎知識、方法論を学習し、自他の理解について、心理学的なアプローチがあることを学習する。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と広がり II-3-① いわゆる近代心理学が成立した年としては1879年があげられる。エビングハウスが1908年に出版した心理学要論の冒頭には、「心理学の過去は長いが歴史は短い」と書かれてあるが、その意味について概説する。	
	第2回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 心理学の研究法 実験法、質問紙法、面接法、観察法、心理検査法といった基本的な研究法の実証的論理を把握する。	
	第3回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 人間行動を心理学で説明するための基礎を理解する 心理学は「行動の科学」などと言われている。心理学には研究の領域によってさまざまな分野に分かれている。実験心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、臨床心理学などのそれぞれの領域では人の行動をどのように説明しようとするのか概説する。	
	第4回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 感覚と知覚 感覚は、感覚器官を経由して外部世界や身体内部に関する情報を受容する過程のことで、知覚は感覚器官からの情報を過去の学習・経験によって活用したりすると考えられているが、具体的にどうということなのか説明する。	
	第5回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 学習（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ、学習理論 III-3-③ 学習というと学校の勉強という印象が強いが、心理学では、私たちが経験を通して身に付けたものを学習と捉える。学習（1）では、古典的条件づけにみられる基本的な学習を学ぶ。	
	第6回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 学習（2）技能学習、社会的学習 III-6-② 技能を獲得するとはどういうことなのだろうか。自転車に乗れた経験や、楽器がうまくなりたくて猛練習した経験など、学習（2）では、特に動作や技術の習得についての学習を説明する。	
	第7回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 演繹的推論、帰納的推論、思考について 思考が果たす機能には、直面している問題を解決したり、対処したりするという特徴がある。例えば、「全ての人は死ぬ、ソクラテスは人である」から導かれる答えは何だろう。推論に見られる人の思考のあり方について説明する。	
	第8回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 感情、動機づけ II-3-②, II-3-③ 人のさまざまな行動の背景には、行動を起こそうとする心の働きがある。行動を起こそうとする心の働きを動機づけと言い、行動を起こそうとする心の働きと、行動を起こした結果には、感情の揺れ動きが大きくかかわっている。	

	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 記憶の特徴（感覚記憶、短期記憶、長期記憶） 心理学で扱う記憶を、感覚記憶、短期記憶、長期記憶に分類して説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 記憶と忘却 忘却とは何か、なぜ忘却が起きるのか、さまざまな説を紹介しながら説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） パーソナリティやパーソナリティを調べる諸方法、個人差について III-6-① パーソナリティとは、人格・個性・性格と同義で、特に個人の全体的な特性の総体を言うが、私たちのパーソナリティをどのように調べるのか、具体的な検査を紹介しながら説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 欲求不満とストレス ストレスが引き起こす心理的な反応について説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 発達の特徴（発達段階、発達課題） III-10-⑥ 人の成長過程においては、個人差はあるものの、多くの人に共通して見られる発達段階ごとの特徴がある。種々の発達段階や発達理論を紹介するので、自分自身の発達と照らし合わせて聞いて欲しい。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 他者を知ること（対人認知、印象形成） 周りにいる他者について、その人がどんな人か推測したり、他者の内面についてさまざまに思いめぐらせることは誰しもが行うことである。人がどのように他者の印象を形成するのか説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 心理アセスメント III-6-①, III-10-⑥ アセスメントには、評価や査定という意味がある。心理療法などの臨床心理学的援助の過程において、面接や心理検査などの技法を用いて行うかわりのことである。なぜ心理アセスメントが必要なのか、事例を紹介しながら説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 定期試験
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	松川順子 編：「心・理・学」、ナカニシヤ出版、2009年 鈴木常元、谷口泰富、有光興起、他6名：心理学、新曜社、2014年 リファレンスブック 公益財団法人 日本スポーツ協会 発行
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナ養成「共通科目」読替

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】 理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
高木 祐介			
講義		010102L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	生命倫理学の視点から、「生命」、「ヒト」、「死」、「性」、「幸福」、「医療」、「研究」等について考察し、社会で顕在化する関連事象について、多義的に解釈できるようになることを目指します。		
授業の概要	テレビや新聞等を毎日眺めると、実に多くの生命倫理に関するニュースがあることに気づきます。皆さんは、どのように感じ取っているのでしょうか。自身の価値観で、あるいは、感情のままに考えている方、いるかと思います。皆さんは、将来、医療従事者になる可能性が高い大学生です。「生命」や「ヒトが生きている」、「性」や「死」等に関して、広く深い見聞が求められます。また、医療現場における多種多様な人々との対応の中で、これらに係る考え方が基礎となって解決されることもあるかと思います。そういったことから、皆さんがこれから培っていく考え方に、生命倫理学の視点を入れ、生命に係る様々な事象に対して多義的な解釈ができるようになって欲しいと思っています。本講義では、以上のような考えを基に、生命倫理学の基礎とそれに係る社会的事象、関連する学問分野（社会学、法学、心理学、等）について、皆さんと共に考えていきます。		
授業計画	第1回	ガイダンス、ヒトとは何か？生命とは何か？ 事前学習：シラバスを熟読しましょう。ヒト科の生物の意思伝達方法や子育て等も調べましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第2回	ヒトの理想の生き方とは何か？（1） 事前学習：自己の理想の生き方について、考えてください。人生設計図をつくることもよいです。（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第3回	ヒトの理想の生き方とは何か？（2） 事前学習：前回講義で学習した内容を整理し、延命や多様性に係る様々な問題を調べてみましょう。（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第4回	ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（1） 事前学習：自殺、他殺、死刑制度、人体実験について、関係する歴史・社会問題を調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）	
	第5回	ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（2） 事前学習：緩和ケア、リビング・ウィル、尊厳死、安楽死について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）	
	第6回	ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（3） 事前学習：人工妊娠中絶について、様々な視点から調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）	
	第7回	ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（4） 事前学習：宗教上の問題、呪術療法、戦争、をテーマとした種々の問題を調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）	
	第8回	ヒトが摂取するものについて、生命倫理学の視点から考える 事前学習：人工的に細胞を培養してつくられた食物について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第9回	医療における自己決定権と説明責任を考える（1） 事前学習：医療過誤や医療従事者の法的責任について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第10回	医療における自己決定権と説明責任を考える（2） 事前学習：前回授業で作成したノートを整理し、復習しましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第11回	医学研究における不正を考える 事前学習：捏造、盗用、改竄について、その読み方と意味、それらに係る事件を調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）	
	第12回	育児・介護に係る倫理的課題（1）	

	事前学習：赤ちゃんポスト、児童虐待、子どもの権利について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間） 第13回 育児・介護に係る倫理的課題（2） 事前学習：認知症、高齢者虐待、ターミナルケアについて、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間） 第14回 育児・介護に係る倫理的課題（3） 事前学習：障がい者虐待、ノーマライゼーション、ユニバーサル・デザインを調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間） 第15回 小テスト、まとめ 事前学習：これまでにノートに記したことを整理し、学習した内容を振り返りましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、全講義内容を理解しましょう。（2時間） 定期試験 実施しません
テキスト	適宜資料等を配布します。
参考書・参考資料等	講義中に適宜紹介する。
学生に対する評価	小テスト 50 %、課題（小レポートや発表、参加度、等）50 %とします。その他、講義態度等にて、適宜、加 点、あるいは、減点し、総合して評価します。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時に対応する。
備考	

講義科目名称： 英語 I（社会と文化）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】看護
担当教員			
クラインズ ピーター			
演習	養護教諭対象科目	010103S1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	高校で学んだ基礎的知識を補強しつつ、日本人が苦手とする音の区別から始めて、基礎レベルの英文読解力・聴解力・英文作成能力・英会話力の充実を図ることを目的とする。		
授業の概要	日本人の苦手な音の区別から始めて、語彙力の増加と基本的な構文の再確認及び英文の反復練習に重点をおきながら、上記の四つの英語コミュニケーション能力をバランスよく身につけられる学習を行う。		
授業計画	第1回 オリエンテーションを行った、英語で自己紹介する 第2回 Unit 1を用いて英語文法・リスニング活動を行う。答えを広げる。 第3回 Unit 1を用いてリーディング・スピーキング活動を行う。さらに質問する。 第4回 Unit 2を用いて英語文法・リスニング活動を行う。プレゼンテーション・スキル1。 第5回 Unit 2を用いてリーディング・スピーキング活動を行う。グループ発表練習。 第6回 Unit 3を用いて英語文法・リスニング活動を行う。プレゼンテーション・スキル1。 第7回 Unit 3を用いてリーディング・スピーキング活動を行う。グループ発表練習。 第8回 まとめのテスト。Unit 4を用いて英語文法・リスニング活動を行う。 第9回 Unit 4を用いてリーディング・スピーキング活動を行う。発表でスクリプトを読まない。 第10回 Unit 5を用いて英語文法・リスニング活動を行う。発表のスライドデザイン1。 第11回 Unit 5を用いてリーディング・スピーキング活動を行う。発表のスライドデザイン2。 第12回 Unit 6を用いて英語文法・リスニング活動を行う。発表の準備。 第13回 Unit 6を用いてリーディング・スピーキング活動を行う。発表の練習。 第14回 最終プレゼンテーション 第15回 最終プレゼンテーション		
テキスト	Stretch Level 1 Student's Book & Workbook Multi-Pack A with Online Practice Oxford University Press ISBN: 978-0-19-460328-7		
参考書・参考資料等	なし		
学生に対する評価	小テスト 20% 授業中アクティビティ 20% まとめのテスト 20% 最終プレゼンテーション 40%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する		
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします		

講義科目名称： 英語Ⅱ（健康と医療）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】看護
担当教員			
浅井 純子			
演習		010104S1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護とリハビリテーションの領域における医療英語の読解・聴解・英文作成・英会話の四分野の基本的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。		
授業の概要	平易な英文で書かれた医療関係の情報の収集方法の習得と、英文記事などを読解するために、かつ簡単な英文を作成するために基礎的な医療英語の語彙・用語と文章表現を学習する。臨床現場で簡単な会話もできるように、医療英会話の基本的表現の聴解と運用の学習を行う。またポスタープレゼンテーションを通してプレゼンテーションの基礎を学ぶ。		
授業計画	Week 1 Introduction オリエンテーションを行った後、英語で自己紹介をする 事前学習（2時間）テキストを購入し準備学習を開始する 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 2 Unit 1: Vitamin D (Unit 1) Vitamin Dを用いてリスニング・スピーキング・ライティング活動と医療語彙増加学習を行う 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 3 Unit 2: Dealing with Addiction (Unit 2) Dealing with Addictionを用いて語彙学習・リーディング活動を行う 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リーディング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 4 Unit 2: Dealing with Addiction (Unit 2) Dealing with Addictionを用いてリスニング・スピーキング・ライティング活動と医療語彙増加学習を行う 事前学習（2時間）学んだ語彙を復讐し、この章で扱うリスニング・スピーキング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 5 Unit 4: Back Pain (Unit 4) Back Painを用いて語彙学習・リーディング活動を行う 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リーディング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 6 Unit 4: Back Pain (Unit 4) Back Painを用いてリスニング・スピーキング・ライティング活動と医療語彙増加学習を行う 事前学習（2時間）学んだ語彙を復讐し、この章で扱うリスニング・スピーキング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 7 まとめのテスト Week 1～Week 7 までの総まとめを行った後、まとめのテストを実施する 事前学習（2時間）まとめのテストの試験勉強をする 事後学習（2時間）まとめのテスト結果を見直し、理解不十分な点について改善を行う Week 8 Unit 8: A Promising Treatment for Alzheimer's (Unit 8) A Promising Treatment for Alzheimer'sを用いて語彙学習・リーディング活動を行う ポスター発表の準備を開始する 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リーディング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 9 Unit 8: A Promising Treatment for Alzheimer's (Unit 8) A Promising Treatment for Alzheimer'sを用いてリスニング・スピーキング・ライティング活動と医療語彙増加学習を行う ポスター作成のグループワークを行う 事前学習（2時間）学んだ語彙を復讐し、この章で扱うリスニング・スピーキング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 10 Unit 9: Link Between Diet and Brain (Unit 9) Link Between Diet and Brainを用いて語彙学習・リーディング活動を行う ポスター作成のグループワークを行う 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リーディング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 11 Unit 9: Link Between Diet and Brain (Unit 9) Link Between Diet and Brainを用いてリスニング・スピーキング・ライティング活動と医療語彙増加学習を行う ポスター作成のグループワークを行う		

	事前学習（2時間）学んだ語彙を復讐し、この章で扱うリスニング・スピーキング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 12 Unit 12: Multimorbidity vs. Quality of Life (Unit 12) Multimorbidity vs. Quality of Lifeを用いて語彙学習・リーディング活動を行う ポスター作成のグループワークを行う 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リーディング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 13 Unit 12: Multimorbidity vs. Quality of Life (Unit 12) Multimorbidity vs. Quality of Lifeを用いてリスニング・スピーキング・ライティング活動と医療語彙増加学習を行う プレゼンテーションの基礎を学習する 事前学習（2時間）学んだ語彙を復讐し、この章で扱うリスニング・スピーキング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 14 Unit 13: Save the Planet Diet (Unit 13) Save the Planet Dietを用いて語彙学習・リーディング活動を行う プレゼンテーションの基礎を学習する 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リーディング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 15 Poster presentation グループごとにポスターのプレゼンテーションを行う。 事前学習（2時間）プレゼンテーションの準備をする 事後学習（2時間）プレゼンテーションの評価を見直す 定期試験 行わない
テキスト	Caregiver Renewed 今求められる医療と看護 朝日出版社（2021） ISBN 978-4-255-15672-9
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要
学生に対する評価	小テスト・授業中のアクティビティへの積極的な参加 30% まとめのテスト 30% ポスター発表 40%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

講義科目名称： 英語Ⅲ（総合演習）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
浅井 純子			
演習		010105S2POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の学習を基にして、医療領域での総合的でより高度な英文読解力・聴解力・英文作成能力・英語によるプレゼンテーション能力の獲得を目指す。		
授業の概要	福祉・文化・社会・国際分野における様々な時事情報に関して、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」より難度の高い英文の読解・記述・聴解を通して、語彙の増加を促進しつつ、英語で思考する習慣を身につけ意思疎通もできるようになる学習を行う。		
授業計画	Week 1 Introduction オリエンテーションを行った後、英語で自己紹介をする 事前学習（2時間）自己紹介の準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 2 Visit to the clinic 1 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 3 Visit to the clinic 2 復習テスト1 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 4 Injury and pain 1 復習テスト2 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング活動を行う 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 5 Injury and pain 2 復習テスト3 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 6 Medical examination 1 復習テスト4 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 7 Medical examination 2 復習テスト5 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 8 Presentation 1 プレゼンテーション1を行う 事前学習（2時間）プレゼンテーション1の準備をする 事後学習（2時間）プレゼンテーションの評価結果を見直し、次回のプレゼンテーションに向けて改善を行う Week 9 Lifestyle-related disease 1 復習テスト6 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備を開始する 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 10 Lifestyle-related disease 2 復習テスト7 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Week 11 Dietary restrictions 1 復習テスト8 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備をする		

	Week 12 事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Dietary restrictions 2 復習テスト9 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする Week 13 事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Dementia 1 復習テスト10 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備をする Week 14 事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Dementia 2 復習テスト11 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする Week 15 事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Presentation 2 プレゼンテーション2を行う 事前学習 (2時間) プレゼンテーション2に向けてリハーサルを行う 事後学習 (2時間) プレゼンテーションの評価を見直す 定期試験 行わない
テキスト	プリント配布
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要
学生に対する評価	小テスト 20% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 10% プレゼンテーション1 30% プレゼンテーション2 40%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	必修科目である「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」に加えて、この選択科目「英語Ⅲ」を受講することにより、英語力の強化に努めましょう 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

講義科目名称： 英会話（医療系英会話）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】看護
担当教員			
Lorraine Sakka			
		010106S1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「英語Ⅱ」と同時進行的に、日常生活と医療現場における英語によるコミュニケーション運用能力の充実と発展を図る。		
授業の概要	日常英会話と臨床英会話の基本的及び発展的表現を反復練習して身につけ、それらをロールプレイングやドラマパフォーマンスなどの様々な英語運用方法を通して、日常や国際的な場で遭遇する外国人の患者や医療従事者との意思疎通が臆せずにできる英語コミュニケーション能力を修得する。		
授業計画	第1回 オリエンテーションと コミュニケーションゲーム；テキストの紹介、Classroom Englishと自己紹介の課題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第2回 第1章 Asking Basic Questions, 会話の練習、ペアワーク； Classroom English 復讐 自己紹介発表 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第3回 第2章 Patient's First Visit；リスニングと医療用語の学習活動を行う・よくある症状単語・ペアワーク 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第4回 第3章 Where's Internal Medicine? リスニングと医療用語の学習活動を行う・病院内の医科・ペアワーク・まとめと宿題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第5回 復習テスト第4章 Admission to the hospital・時間・日にち・スペルのテクニック・リスニングと使える英語のフレーズなど 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第6回 第6章 Symptoms リスニングと医療の症状・病院内の医科・ペアワーク・グループワーク課題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第7回 まとめのテスト1 Week 1-6 の総まとめとして、まとめのテスト1を行う 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第8回 グループ発表練習・第7章 Injuries and Emergencies リスニングと医療の症状・Body Parts・ペアワーク 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第9回 第7章 Injuries and Emergencies 練習・まとめ 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第10回 グループ発表 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第11回 第8章 How are you feeling? リスニングと医療用語の学習活動を行う・ペアワーク・ポスター課題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第12回 患者様・クライアントと患者との会話を成功させるアドバイスなど 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第13回 第10章 Medicine リスニングと医療用語の学習活動を行う・ペアワーク・服薬指導・ポスター練習 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします 第14回 ポスター発表 第15回 まとめのテスト2 Week 8-14 の総まとめとして、まとめのテスト2を行う		
テキスト	Speaking of Nursing 南雲堂 (2017) ISBN 978-4-523-17850-7		
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要		
学生に対する評価	小テスト又は宿題など 30% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 40% まとめのテスト1 & 2 30%		

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

講義科目名称： スポーツ医学

授業コード：

英文科目名称： Sports Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【選択】理学、作業、言語、看護
担当教員			
林 浩嗣・小俣 直人			
講義	AT&初級障がい者スポーツ指導員 対象科目(理学・作業・言語)	010107L2POSNA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	スポーツ指導者がスポーツ医学に関する知識を持つことの重要性について理解を深め、スポーツ活動と健康（QOL）との関わりについて学ぶ。スポーツ活動中に多いケガや病気について、その発生の原因や症状について理解し、スポーツ指導者としての対応の仕方について学ぶ。スポーツと精神医学の関わりや、精神障害者スポーツについて学ぶ。		
授業の概要	（オムニバス方式／全15回） （林 浩嗣／全12回） スポーツに関する医学的知識、アンチ・ドーピング、障がい者とスポーツについて学ぶ。 （小俣 直人／全3回） スポーツと精神医学の関わりや、精神障害者スポーツについて学ぶ。		
授業計画	第1回	スポーツと健康 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第2回	アスリートの健康管理 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第3回	アスリートの内科的障害と対策 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第4回	女性アスリートの障害と対策 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第5回	スポーツによる精神障害と対策 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第6回	外傷・障害の予防 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第7回	コンディショニングの手法 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第8回	救急処置（救急蘇生法） （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第9回	救急処置（外科的応急処置） （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第10回	アンチ・ドーピング（総論） （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第11回	アンチ・ドーピング（各論） （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第12回	障がい者とスポーツ （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第13回	スポーツにおける精神医学の役割 （担当：小俣 直人） 事前学習：上記に該当する内容をテキストや参考書で事前学習しておくこと（2時間）	

	第14回 事後学習：テキストや参考書、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 精神医学におけるスポーツの役割 （担当：小俣 直人） 事前学習：上記に該当する内容をテキストや参考書で事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキストや参考書、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第15回 精神障害者スポーツ （担当：小俣 直人） 事前学習：上記に該当する内容をテキストや参考書で事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキストや参考書、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）
テキスト	公益財団法人日本スポーツ協会：Reference Book、2019
参考書・参考資料等	①公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識、文光堂、2019 ②公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 健康管理とスポーツ医学、文光堂、2019 ③公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第6巻 予防とコンディショニング、文光堂、2019 ④公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第8巻 救急処置、文光堂、2019 ⑤（公財）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）、（株）ぎょうせい、2020 ⑥日本スポーツ精神医学会：スポーツ精神医学、診断と治療社
学生に対する評価	筆記試験：林 浩嗣80%、小俣 直人20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	【実務経験について】 林 浩嗣：福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 小俣直人：精神科病棟や精神科外来で勤務した経験を基に、当講義を進める。 精神科医での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

講義科目名称： スポーツ栄養学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	【選択】理学、作業、言語、看護
担当教員			
鳴瀬 碧			
講義	AT、養護	010111L2POSNAH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントする上での第一歩であることを学習する。 ・競技者に対する栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割及び関係する栄養素などについての知識及び実践方法を身につける。		
授業の概要	健康保護、健康増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得るとともに、日々の食事を規則正しく摂取することが健康的なスポーツライフをマネジメントするための第一歩であることを学習する。また、水分補給の重要性についても学習する。 競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高める。競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。		
授業計画	第1回	1 五大栄養素の役割と特徴 P239 1) 糖質 2) 脂質 3) たんぱく質 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	1 五大栄養素の役割と特徴 P241、 2 アスリートの栄養摂取の考え方 P243 （五大栄養素の役割と特徴） 4) ミネラル 5) ビタミン （アスリートの栄養摂取の考え方） 1) スポーツ栄養に関する国際的な見解 、その他 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	2 アスリートの栄養摂取の考え方 P244 2) 食事摂取基準 3) スポーツ栄養マネジメント 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	3 サプリメント摂取に関する注意点 P245 1) サプリメントの特徴と関連情報 2) サプリメントとドーピング問題 3) サプリメントと健康問題 4) どんな時に活用するか 5) 使用時に必ず確認する項目 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	4 基本の食事 P247 1) 日常的な食事の基本 2) 食品群別摂取の考え方 3) 補食について 4) 外食と中食のポイント 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	5 水分補給 P249 1) アセスメント 2) 水分補給の目安量 3) クーリング 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	6 栄養食事計画の立案 p251 1) 減量 2) 増量 3) 貧血予防 4) 試合前・試合後の食事 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	6 栄養食事計画の立案、P256 まとめ 5) 遠征時の食事 6) 疲労骨折予防 7) 疲労回復・夏バテ 8) 女性アスリート	

	事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験
テキスト	・配布資料
参考書・参考資料等	・リファレンスブック（公益財団法人 日本スポーツ協会 発行）P239～261 ・随時紹介
学生に対する評価	筆記試験90%，講義中の提出物10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

講義科目名称： 体育 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
片岡 雅彦			
講義	養護教諭対象科目	010109LIP0SNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 健康についての多様な考え方について説明できる。 2. 体力および、体力トレーニングの基礎理論を説明できる。 3. 新体力測定の目的、実施方法、評価を理解するとともに、効果的な運動プログラムを説明、紹介ができる。		
授業の概要	身体発育発達と機能について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を教授する。また、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの理解を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、健康水準、平均寿命、健康のとらえ方、自己実現、ヘルスプロモーションについて説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	生活習慣病とその予防について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	運動の意義、運動習慣、休養・睡眠の意義について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	健康を阻害する喫煙、飲酒、薬物乱用について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	心の健康について説明できる 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	技能と体力とは何か。また、技能と体力を高めるための注意点を説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	体力づくりのためのトレーニングの基礎理論を説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	文部科学省 新体力テストを基本とした測定方法、効果判定方法。レポート作成 自己体力診断が評価できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
テキスト	なし		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する		
学生に対する評価	受講態度（意欲・積極性）30％ 毎回の記録およびレポート70％		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。		
備考			

講義科目名称： 体育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
片岡 雅彦			
実技	養護教諭対象科目	010110P1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康・体力に対する認識を深め、運動・スポーツの健康的意義を理解する。スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して修得する。		
授業の概要	スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して学ぶ。また実際に各種スポーツを体験することにより、スポーツの楽しさを理解する。		
授業計画	第1・2回 オリエンテーション ・授業の進め方、評価に関することを説明後体育館へ移動 体力測定（新体力測定） 第3・4・5回 バドミントン ・スキル向上課題練習と簡易ゲーム（ダブルス） ・バドミントンの概要説明とスキル向上課題提示・スキルテスト 第6・7・8回 バレーボール ・スキル向上課題練習とバレーボール種目の概要説明とスキル向上課題提示 ・スキル向上練習とゲーム・スキルテスト 第9・10回 フットサルまたはサッカー ・フットサル、サッカー種目の概要説明とスキル向上課題提示 ・スキル向上練習と簡易ゲーム・スキルテスト 第11・12回 ソフトボール ・スキル向上課題練習とゲーム・スキルテスト 第13・14回 ショートテニス ・ショートテニスの概要説明とスキル向上課題提示・ダブルスゲーム 第15回 スキルテスト 定期試験 授業内に実施		
テキスト	なし		
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する		
学生に対する評価	スキルテスト70%、受講態度（意欲・積極性）30%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	トレーニングウェア、シューズ等着用のこと 講義中および終了時に適宜返答する。		
備考			

講義科目名称： フレッシュヤーズセミナーⅠ

授業コード： 102300A

英文科目名称： Freshers' SeminarⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
堀 秀昭			
講義		010201LIP0SN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	学生を取り巻く環境は時代とともに変化している。大学生生活を円滑に進めるために、様々な知識やスキルを身につける必要がある。入学後のオリエンテーションを含めて授業を構成する。		
授業の概要	新入生を対象とした必修科目であり、大学での4年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。 内容としては、課題を遂行する事で知識の定着を図り、今後の勉学のモチベーションの向上を図る。そして、授業を行う中での図書の活用方法を教授し、スムーズな学業への移行を支援する。 また、患者接遇マナー、キャンパスハラスメントに対する対処法、学生を取り巻く課題としての消費者問題への対処法やアルコール依存、薬物依存などを防ぐための対処法、そして通学における車社会への対応、交通安全等に関する講義等を行い、4年間の学生生活への支援を行う。		
授業計画	第1回 大学における教育方針、授業の進め方（全体オリエンテーション①） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、福井医療大学の教育方針の理解を深める（2時間） 第2回 大学の組織及び学則について（全体オリエンテーション②） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、福井医療大学の組織の理解を深める（2時間） 第3回 大学教育における単位履修及の進め方（全体オリエンテーション③） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、単位履修について理解を深める（2時間） 第4回 大学教育における学生生活の進め方（全体オリエンテーション④） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、学生生活の進め方の理解を深める（2時間） 第5回 学科専攻における授業概要についての説明（学科専攻別①） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業概要の理解を深める（2時間） 第6回 学科専攻における学生として資質向上（グループによる自己啓発）（学科専攻別②） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、自己研鑽について理解を深める（2時間） 第7回 大学におけるリスク管理1（交通安全について） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、交通安全の理解を深める（2時間） 第8回 大学におけるリスク管理2（性犯罪防止について） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、性犯罪防止の理解を深める（2時間） 第9回 大学におけるリスク管理3（キャンパスハラスメントについて） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、キャンパスハラスメントの理解を深める（2時間） 第10回 大学におけるリスク管理4（消費者問題、悪徳商法とは） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、消費者問題の理解を深める（2時間） 第11回 大学におけるリスク管理5（薬物乱用防止について） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、薬物乱用の理解を深める（2時間） 第12回 大学におけるリスク管理6（防災時の対応） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、防災時の理解を深める（2時間） 第13回 大学教育における図書利用、文献等の利用について 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、福井医療大学の図書館利用の理解を深める（2時間） 第14回 社会人マナーに関して 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、社会人マナーの理解を深める（2時間） 第15回 奨学金制度に関して 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、奨学金の理解を深める（2時間）		
テキスト	配布資料		

参考書・参考資料等	
学生に対する評価	レポート100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	各講義終了後
備考	担当教員は、リハビリテーション関連施設で、理学療法の実務経験を有し、その経験を生かし授業を実施している。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
堀 秀昭・野村 友美・中島 裕也・村田 里佳・青井 利哉			
講義		010202L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1、専門職としてのアイデンティティを確立する。 2、チーム医療を確立するために、それぞれの専門職を理解する。 3、臨床・臨地実習において、臨床から学生に求められるものを理解する。 4、専門職としての報告書を作成することができる。 5、グループワーク（k-J法）を理解する
授業の概要	専門職としてのアイデンティティの確立は、4年後の国家試験に向けて重要な学修のテーマである。専門職としてどうあるべきか、専門職として必要なことは何か、互いを尊重しながら、グループワークを通して確立する。 また、専門職として働くうえでチーム医療について理解することは大切である。チーム医療とは、対象者の多様な諸問題（ニーズ）に応じて、多数の専門家がそれぞれの専門的視点から対象者の障がいをアセスメントし、綿密に連携をとり、一つの方向に向けて治療を推進していく統一的な活動をいう。そのためには、それぞれの仕事内容を理解することが重要である。 最後にそれぞれの課程で臨床・臨地実習が行われているが、臨床の指導者からは、専門職として学生に求めているものがある。それらについてグループワークを通して理解を深め、プレゼンテーションする。また臨床においては、報告書の作成も必須であり、報告書の基本について学修する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明（グループワークを通して 専門職としての意識を高める） グループワークを通して、他者と協力して課題に取り組む力が身につける。 グループの協力関係を確立するために、課題に取り組む。 グループの作成（10名程度）PTOTSTNSをそれぞれ配置 自己分析（専門職アイデンティティ、コミュニケーション能力等） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第2回 グループワーク1（専門職に必要なこと） グループワークを通して、専門職として必要なものについて考える。また抽出されたキーワードをエクセルに入力する。司会者を決定し、グループワークを進める。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第3回 グループワーク1（専門職に必要なこと） 専門職として必要なことを、情意領域、認知領域、精神運動領域に分類し、ポスターを作成する。書記3名、発表者1名を決定し、グループワークを進める。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第4回 グループワーク1（専門職に必要なこと） グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第5回 グループワーク1（専門職に必要なこと） グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第6回 グループワーク1（専門職に必要なこと） 各学科・専攻で、10名程度のグループを作成し、それぞれの専門職について調べる。また司会者、書記3名、発表者を決定する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第7回 専門職として必要な能力をプレゼンテーションする 専門職に必要な能力に関して、パワーポイントを使用して発表する 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第8回 専門職として必要な能力をプレゼンテーションする 専門職に必要な能力に関して、パワーポイントを使用して発表する 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第9回 グループワーク2（専門職の仕事内容） グループワークを通して、専門職の仕事内容について考える。また抽出されたキーワードをエクセルに入力する。司会者を決定し、グループワークを進める。グループの作成（10名程度）再度グループ作成PTOTSTNSをそれぞれ配置 グループワークを通して、専門職として必要なものについて考える。また抽出されたキーワードをエクセルに入力する。司会者を決定し、グループワークを進める。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間）

	第10回 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） グループワーク2（専門職の仕事内容） 各学科・専攻で、10名程度のグループを作成し、それぞれの専門職について調べる。また司会者、書記3名、発表者を決定する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第11回 グループワーク2（専門職の仕事内容） キーワードを分類し、臨床から学生に求められるのもまとめる。まとめ方に関しては、グループで話し合い、プレゼンテーションの資料を作成する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第12回 グループワーク2（専門職の仕事内容） キーワードを分類し、臨床から学生に求められるのもまとめる。まとめ方に関しては、グループで話し合い、プレゼンテーションの資料を作成する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第13回 専門職の仕事内容をプレゼンテーションする グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第14回 専門職の仕事内容をプレゼンテーションする グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 第15回 講評・まとめ 自己分析（専門職アイデンティティ等） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	グループワークの参加状況、発表内容を総合的に判断して評価する。 評価 1、積極的な参加態度を示すことができた 2、プレゼンテーションを工夫して行うことができた（分かり易く説明した。多少曖昧な、分かり辛い表現をした。） 3、報告を時間内に行うことができた（制限時間の1～30秒以内に抑える、制限時間の1分以上前に終了、または延長30秒以上）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	それぞれ理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師としての実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 総合病院での臨床経験及び病院管理業務の経験を踏まえ、当講義を進める。

講義科目名称： 人間関係論

授業コード： 101100A

英文科目名称： Human Relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
青井 利哉			
講義		010203L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	医療に従事する職業には、その基礎に人間関係がある。この授業では人間関係の基礎的な考え方、基礎的な技術について教授する。人間関係の諸相を理解することで、より良い人間関係を構築するための基礎的な知識やスキルを修得し、それを日常の行動に応用できることが目標である。		
授業の概要	日常生活において経験する人間関係の諸相を、心理学的視点より明らかにし、人間関係のプロセスやメカニズムについて理解を深める。さらに医療従事者と患者、さらには医療職種間におけるコミュニケーションについて、講義を通して学ぶ。		
授業計画	第1回	人間関係の基本的視点について理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第2回	自分とは何か、他者とは何かについてその関係性を理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第3回	他者とのコミュニケーションはどのように成立するのかについて理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第4回	生涯発達の視点から人間関係を理解する 乳幼児期～学童期 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第5回	生涯発達の視点から人間関係を理解する 青年期～老年期 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第6回	人間関係の諸相を理解する 家族関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第7回	人間関係の諸相を理解する 夫婦関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第8回	人間関係の諸相を理解する 親子関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第9回	人間関係の諸相を理解する 職場関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第10回	支配と服従の人間関係について理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第11回	攻撃と対立の人間関係について理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第12回	対人関係の問題について理解する 児童虐待とDV 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第13回	人間関係の改善について理解する ストレスへの対処 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第14回	対人援助における人間関係について理解する① 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間）	

	第15回 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間） 対人援助における人間関係について理解する② 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間） 定期試験
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	服部祥子（著）：人を育む人間関係論, 医学書院, 2003 石川ひろの（著）：人間関係論 第3版（系統看護学講座 基礎分野）, 医学書院, 2018
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード： 102500A

英文科目名称： Japanese Constitution

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】 理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
横井 正信			
講義	養護教諭対象科目	010204L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	日本国憲法に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。		
授業の概要	第二次世界大戦後に国民主権、平和主義、基本的人権の保障を柱として日本国憲法が制定された歴史を踏まえ、私たちの生活と権利を守る日本国憲法の基本的人権の精神を学ぶとともに、判例の紹介などを通じて日本国憲法を実際の生活に活かすことを目指す。同時に、憲法は国家の行動を規律するという役割もあることから、国家のあり方を監視することによって国民の権利を守る存在としての日本国憲法の歴史的・現代的意義を学ぶ。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 大日本帝国憲法の特徴と日本国憲法制定の経緯 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	国民主権と象徴天皇制 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	平和主義と憲法9条 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	基本的人権の原理と限界 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	包括的基本権と法の下の平等 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	精神的自由権（内心の自由） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	精神的自由権（表現の自由） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	婚姻の自由と家族制度 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	経済的自由権・人身の自由 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	社会権 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	参政権と選挙制度 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第12回	国民代表と国会 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第13回	議院内閣制 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第14回	裁判所と違憲審査権 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間）	

	第15回 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 地方自治 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験
テキスト	特になし（授業要約等の資料で代替）。
参考書・参考資料等	授業のなかで随時紹介する。
学生に対する評価	定期試験（筆記試験60%）、レポート40%（第1回授業時に評価方法について詳細な説明を行うので、必ず聞いておくこと）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義の前後に対応する
備考	

講義科目名称： コーチング論

授業コード： 103000A

英文科目名称： Coaching Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
長谷川 優樹			
講義	AT&初級障がい者スポーツ指導員対象科目(保健医療学部)	010205L1POSNA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	コーチングとは、他者が存在して初めて行われる活動であり、人間関係づくりが基盤となる。近年のスポーツコーチングにおいては、競技における専門的知識に限らず、コミュニケーション能力や人間力の高さがより重視される。本講義は、コーチングの資質向上とともに、人間力向上を目指すものである。		
授業の概要	コーチングの手法はコーチの人間観によってもパフォーマンスが左右される。人間が持つ本来の力をいかに発揮させるがコーチングの姿である。 講義では、理論とトレンドな情報、映像を交え、時には従来の精神主義、根性主義的なコーチングと現在のコーチングとの比較を試みながら、あるべきコーチングのあり方、効果的なコーチング手法を講義し時にはロールプレイを行い実践者としての理解を深めていきたい。 毎回レポートの提出を行い、コーチング理解の進捗状況を見極めながら講義を進める。		
授業計画	第1回	コーチの成り立ち・コーチの哲学について理解し、説明することができる。Ⅰ-2-① 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	コーチの役割、求められるコーチ像について理解することができる。Ⅰ-2-② Ⅰ-2-③ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	「プレーヤーズ・センタード・コーチング」について理解し、説明することができる。Ⅲ-2-① Ⅱ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	理想的なコーチング（選手の自主・主体性）について理解し、実践できる。Ⅰ-6-② Ⅱ-2-① 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	コミュニケーションスキル（バーバル・ノンバーバルコミュニケーション）を理解し、実践できる。Ⅱ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	コミュニケーションスキル（受容と共感、聞くスキルと伝えるスキル）を理解し、実践できる。Ⅰ-2-④ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	全国障害者スポーツ大会の概要から、スポーツ参加への動機付けを理解することができる。Ⅰ-2-④ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	障がい者スポーツ推進の取り組みを理解、説明することができる。Ⅱ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	障がい者スポーツ指導者としての必要なコミュニケーションスキルを理解することができる。Ⅱ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	コーチと保護者の関わり方について考えることができる。Ⅱ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	望ましいコーチングのあり方について考える Ⅰ-6-① Ⅲ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第12回	コーチとしての学びについて考えることができる。Ⅰ-6-① 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	

	間) 第13回 効果的なミーティングを理解し、実践できる。Ⅱ-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第14回 一貫指導体制システムを説明できる。協働について考える。Ⅲ-2-③ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第15回 まとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 定期試験
テキスト	・リファレンスブック 公益財団法人 日本スポーツ協会 発行 ・スポーツ心理学(日本スポーツ心理学会編) ・配布資料
参考書・参考資料等	・レイナー・マートン スポーツ・コーチング学, 西村書店 ・ロビン・S. ビーリー コーチングに役立つ実力発揮のメンタルトレーニング, 大修館書店 ・(公財)日本障がい者スポーツ協会(編), 障がいのある人のスポーツ指導教本, 株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	筆記試験80%, 毎講義終了前のレポート20%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	メール時による質問、問い合わせ可能。積極的なコミュニケーションを図りたい。(アドレス samegee108@gmail.com)
備考	※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成「共通科目」読替 【実務経験について】 競技力向上や教育を目的としたスポーツ心理学の研究活動及び現場で6000時間以上のメンタルトレーニング(応用スポーツ心理学)の指導実践経験を積み、日本スポーツ心理学会認定：スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有する。その知識と経験を基に当講義を進める。

講義科目名称： リハビリテーション医学治療学

授業コード： 202000A

英文科目名称： Treatment of Rehabilitation Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護、理学、作業
担当教員			
林 浩嗣			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(看護)	020411L2PON	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	リハビリにおける基本的治療法について理解を深める。		
授業の概要	リハビリテーション医学における代表的疾患である脳卒中、脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、呼吸循環器障害に対する評価治療についての理解を深める。特に、それぞれの疾患に共通の合併症については、その発生機序、予防的観点（疾病及び障害の予防を中心とした第1次予防から第3次予防にかけての基礎を含む）について、症例を通して学習する。また虚弱老人に対する予防的側面を踏まえた転倒予防に関する取り組みについても学習する。		
授業計画	第1回 運動療法について理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第2回 マッサージ・マニピュレーションの適応について理解する。物理的エネルギーを利用した治療を理解する。バイオフィードバックを理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第3回 牽引療法・水治療・電気治療について理解し実践できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第4回 神経ブロックについて理解する。基本動作訓練について理解し実践できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第5回 歩行障害について理解し治療できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第6回 作業療法・言語療法について理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第7回 患者の心理について理解する。義肢装具療法の適応を理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第8回 リハビリテーションに必要な機器について理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）		
テキスト	配布資料		
参考書・参考資料等	千野直一監修：現代リハビリテーション医学 改訂第4版、金原出版、2017年 （公財）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい		
学生に対する評価	筆記試験 100%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。		
備考	【実務経験について】 福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。		

講義科目名称： 臨床栄養学

授業コード： 206700A

英文科目名称： Clinical Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護、理学、作業
担当教員			
大林 洋子・中島 有紀			
講義		020412L2PON	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	対象者の健康状態を把握し、その健康レベルに合わせて、健康生活の維持・増進・回復への援助について教授する。さらに、その中で必要となる栄養は、個人が抱える健康障害との関連も大きい。ため、多角的に栄養に関するアセスメントができるための基礎知識、療養生活と栄養、食事指導等について教授する。		
授業の概要	(オムニバス方式全8回) (中島有紀/4回) 栄養状態の評価と栄養摂取量、病院食の特徴と種類、摂食・嚥下障害や代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、高齢者の特徴と栄養の基本等について教授する。 (大林洋子/4回) 代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、妊産婦・小児の特徴と栄養の基本、褥瘡対策やNSTの活動等について教授する。		
授業計画	第1回	栄養状態の評価結果をもとに適切な改善策を考える事ができる。主な栄養素の働きと内容を理解できる。 (担当：中島 有紀) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第2回	高齢者の栄養管理の基本と摂食嚥下障害について理解できる。 (担当：中島 有紀) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第3回	病人食の分類と特徴、代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則を理解し、必要に応じて意義や特徴が説明できる。 (担当：中島 有紀) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第4回	代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則を理解し、必要に応じて意義や特徴が説明できる。 (担当：中島 有紀) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第5回	代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則を理解し、必要に応じて意義や特徴が説明できる。 (担当：大林 洋子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第6回	代表的な生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則を理解し、必要に応じて意義や特徴が説明できる。 (担当：大林 洋子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第7回	術前・術後、癌患者の栄養管理、更年期・妊産婦・小児の栄養管理の基本を理解し、必要に応じて意義や特徴が説明できる。 (担当：大林 洋子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第8回	医療保険制度・介護保険制度と食事療養、NST活動について理解する。 (担当：大林 洋子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間) 定期試験	
テキスト	・ 中村丁次他：系統看護学講座 別巻5 栄養食事療法, 医学書院		
参考書・参考資料等			

学生に対する評価	筆記試験：中島 有紀50%・大林 洋子50% (全ての教員の試験を受験した上で評価します。)
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	【実務経験について】 大林洋子：病院で急性期病棟などで勤務した経験を基に、当講義を進める。管理栄養士での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 中島有紀：管理栄養士での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

講義科目名称： チーム医療論

授業コード： 202900A

英文科目名称： Team Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
浅井 智恵美			
講義		020503L3POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画する事ができるようになるために、チーム構成員の職能、医療倫理をはじめとするチーム医療の基礎知識を習得する。 2、関係職種と協働し、ともに地域社会の人々の保健・医療・福祉・教育に貢献できるような態度を身に付け職種間のコミュニケーションの重要性を理解する		
授業の概要	医療に携わる専門スタッフには、職能の発揮だけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが求められる。そのためには、各専門スタッフの職域を理解し、それぞれに課された役割を理解する必要がある。 内容は、チーム医療の歴史、必要性、実際、各専門職域と役割、医療現場、在宅現場における事例を提示し、それぞれの職種の関わりを教授する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 医療のイメージ 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第2回 チーム医療とは チーム医療の起源 医療従事者の捉えるチーム医療 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第3回 チーム医療における患者医療者関係 患者参加 チームの中での医療者・患者・家族の役割 患者中心の協働的なチームアプローチ 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） チーム医療の倫理 チーム医療の倫理性 倫理的効用を高める民主的なチーム体制 インフォームドコンセント 各専門職の職能 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第4回 地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムの理解 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第5回 進行性の病気療養者の実態を知る 進行性の病気への支援を考える 事前学習：ALSの病気理解（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第6回 グループワーク「今後どのような支援が必要か 各専門職として考える」 事前学習：ALSを支える支援について（2時間） 事後学習：授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第7回 発表 「今後どのような支援が必要か 各専門職として考える」 事前学習：発表内容確認（2時間） 事後学習：発表内容の復習を行う（2時間） 第8回 コミュニケーション チームダイナミックス コミュニケーション論 チームダイナミックス論 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験		
テキスト	鷹野 和美編著 チーム医療論、医歯薬出版株式会社、2002年		
参考書・参考資料等	細田 満知子著：「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、2012年出版 水本清久 岡本 牧人 石井 邦雄 土本 寛二編著：実践チーム医療論 実際と教育プログラム、医歯薬出版株式会社、2011年		
学生に対する評価	筆記試験 100%		

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了中に適宜返答する
備考	【実務経験について】 総合病院病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 看護師、保健師、訪問看護師、介護支援専門員、地域包括支援センターでの実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

講義科目名称： 環境と健康

授業コード： 203100A

英文科目名称： Environment and Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】看護、理学【選択】作業
担当教員			
出口 洋二			
講義	養護教諭対象科目	020504L1PONH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「環境」をあらゆる角度から捉え、健康に及ぼす影響と健康を保つための施策を理解し、医療技術に活用できる能力を修得する。		
授業の概要	環境の変化は人々の健康に影響し、社会的な問題となっている。また、人口動態の変化や疾病構造の変化も社会的な問題となっている。人々の健康な生活を支援する者として、これらに関する知識をもち広い視野で医療技術を考えなければならない。ここでは「環境」をあらゆる角度から捉え、健康に及ぼす影響と健康を保つための施策を理解し、医療技術に活用できる能力を養う。 内容は、生活環境と健康、教育環境と健康、労働環境と健康、人口動態と健康指標、疾病予防と健康管理、健康と衛生行政等である。		
授業計画	第1回	包括的医療と公衆性活動の特徴 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	疫学の考え方と研究方法 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	集団の健康指標と保健統計の意義 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	健康施策の現状と課題（1）母子保健・学校保健 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	健康施策の現状と課題（2）産業保健・老人保健 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	環境施策の現状と課題（1）食品衛生 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	環境施策の現状と課題（2）空気・水・廃棄物 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	総まとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験	
テキスト	小山洋・辻一郎編『シンプル衛生公衆衛生学 2026』（南江堂）		
参考書・参考資料等	厚生労働協会編『国民衛生の動向 2025/26』		
学生に対する評価	評価点＝ 提出課題（20点）＋筆記試験（80点、持込なし）		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】看護
担当教員			
猪口 徳一			
講義	養護教諭対象科目		020701L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 正常な人体の構造（解剖学）について、医療に携わる者の共通言語および知識を習得する。 2. 正常な人体の機能（生理学）について、医療に携わる者の共通言語および知識を習得する。 3. 人体の構造と機能を統合的に理解し説明することができる。		
授業の概要	疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体の関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく人体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を教授する。内容は、細胞の構造と働き、遺伝子の構造と役割、組織の分類と概要、消化器系、呼吸器系、体液と血液、循環器系、泌尿器系の構造と機能について取り扱う。		
授業計画	第1・2回 形からみた人体と機能からみた人体についての基本概要を説明できる（p 8～27, p 502～510） 事前学習（各回0.5時間）：高校生物の細胞や人体に関わる範囲を復習しておくと共に、教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：専用のノートを用意し、授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第3・4回 人体を構成する細胞の構造と機能、および組織の分類と役割が説明できる（p 27～54） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第5・6回 栄養の消化と吸収について説明できるⅠ（口、咽頭、食道、胃）（p 55～71） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第7・8回 栄養の消化と吸収について説明できるⅡ（小腸、大腸、すい臓、肝臓、胆のう）（p 72～93） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第9・10回 第1～8回の授業範囲のグループワークおよび小テスト 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第1回～8回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと 第11・12回 呼吸系の構造について説明できるⅠ（気管、肺、呼吸運動）（p 95～107） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第13・14回 呼吸系の機序について説明できるⅡ（内呼吸、外呼吸、ガス交換）（p 108～126） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第15・16回 体液の区分と役割を説明できる（血液・止血・血液型）（p 38～42, p 126～148, p 230～237） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第17・18回 第11～16回の授業範囲のグループワークおよび小テスト 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第11回～16回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと 第19・20回 心臓の構造と心筋の電気的興奮の機序、心電図の原理が説明できる（p 149～167） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第21・22回 心周期について説明できる身体各部位の主な血管とその機能について説明できる（p 167～187） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第23・24回 血圧、循環調節の機序が説明できる（p 187～208）、心臓についてのまとめのグループワーク 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第25・26回 排泄の構造と機能について説明できる（p 209～237） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと 第27・28回 第19～26回の授業範囲のグループワークおよび小テスト 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第19回～26回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと 第29・30回 これまでの授業で学修したした内容について統合的に説明できる 事前学習（各回0.5時間）：これまでの学修で解いてきた教科書のゼミナール問題と、自身のノートを見て、重要事項の確認をしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：これまでの学修で作成してきたノートを完成させること 定期試験		
テキスト	〈系統看護学講座 専門基礎分野〉人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版、医学書院		

参考書・参考資料等	毎回事前に配信する講義資料ファイル 『系統看護学講座』準処 解剖生理学ワークブック、医学書院 カラー図解 人体の正常構造と機能 第5版、日本医事新報社 やさしい生理学 第7版、南江堂 グレイ解剖学 原著第5版 エルゼビア・ジャパン株式会社
学生に対する評価	小テスト（3～4回）とグループワーク20%、筆記試験 80%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	面談、メールにて随時可能
備考	

講義科目名称： 人体構造機能学Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Human Anatomy and Physiology II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】看護
担当教員			
猪口 徳一			
講義	養護教諭対象科目		020702L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 正常な人体の構造（解剖学）について、医療に携わる者の共通言語および知識を習得する。 2. 正常な人体の機能（生理学）について、医療に携わる者の共通言語および知識を習得する。 3. 人体の構造と機能について統合的に理解し説明することができる。		
授業の概要	疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体の関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく人体の巧みな構造（解剖）と機能（生理）の基礎を教授する。内容は、内分泌系、運動器系、神経系、感覚器系、生殖器系の構造と機能、生体防御・免疫、代謝・体温調節、睡眠と概日リズム、発生・成長・老化について取り扱う。		
授業計画	第1・2回	内分泌の構造と機能について説明できるI（自律神経、内分泌による調節、脳一下垂体系）（教科書 p 239～259） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：専用のノートを用意し、授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第3・4回	内分泌の構造と機能について説明できるII（甲状腺、膵臓、副腎、性腺）（p 259～280） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第5・6回	第1回～4回までの範囲の教科書章末問題とストレス測定機器を利用したグループワーク、当該範囲の小テスト 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第1回～4回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと	
	第7・8回	骨の構造と身体各部の主な骨を説明できる（骨格模型と3D画像を使った講義）（p 281～306） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第9・10回	身体各部の主な筋肉の名称と役割を説明できる（骨格模型と3D画像を使った講義）（p 306～339） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第11・12回	骨格筋の構造と収縮の機序を説明できる（p 339～355）、7回～11回までの範囲の骨格模型を用いたグループワーク 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第7回～11回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと	
	第13・14回	7回～11回までの範囲の小テスト、神経系の構造と機能について説明できるI（神経細胞、活動電位、神経伝導）（p 357～368） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第15・16回	神経系の構造と機能について説明できるII（脊髄、脳）（p 368～392） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第17・18回	感覚器の構造と機能について説明できる（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、体性感覚、痛み）（p 393～420） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第19・20回	脳の統合機能について説明できる（睡眠、記憶、情動、中枢神経系の障害）（p 420～432） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第21・22回	第14回～20回までの範囲のグループワークおよび小テスト 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第14回～20回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと	
	第23・24回	免疫に関与する主な組織と細胞、その役割が説明できる、体温調整の仕組みについて説明できる（p 433～457） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第25・26回	生殖器の構造と機能について説明出来る（p 459～475） 事前学習（各回0.5時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：授業で学習した範囲の教科書章末のゼミナール問題を解くこと	
	第27・28回	発生・成長・老化の仕組みについて構造と機能に関連させて説明できる（p 475～499）、第23回～27回までの範囲のグループワーク 事前学習（各回1.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 第23回～27回の授業範囲のグループワークの準備としてゼミナール問題の解答をまとめておくこと	
	第29・30回	第23回～28回までの範囲の小テスト、これまでの授業で学修したした内容について統合的に説明	

	できる 事前学習（各回0.5時間）：これまでの学修で解いてきた教科書のゼミナール問題と、自身のノートを見て、重要事項の確認をしておくこと 事後学習（各回0.5時間）：これまでの学修で作成してきたノートを完成させること 定期試験
テキスト	<系統看護学講座 専門基礎分野>人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版、医学書院
参考書・参考資料等	毎回事前に配信する講義資料ファイル 『系統看護学講座』準処 解剖生理学ワークブック、医学書院 カラー図解 人体の正常構造と機能 第5版、日本医事新報社 やさしい生理学 第7版、南江堂 グレイ解剖学 原著第5版 エルゼビア・ジャパン株式会社
学生に対する評価	小テスト（3～4回）とグループワーク20%、筆記試験 80%、
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	面談、メールにて随時可能
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
猪口 徳一			
講義		020703LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. ヒトの体を構成する物質(糖質、脂質、蛋白質、核酸)の種類・構造・性質について理解し説明することができる。2. ヒトの体を構成する物質が食物から消化吸収され、体内で代謝される過程を化学反応として説明することができる。3. 代謝異常を原因とする疾患について関連する代謝経路や臨床における検査項目を説明することができる。4. 遺伝情報と病気との関係について、遺伝子診断や遺伝子治療など最新のトピックをふまえて説明することができる。		
授業の概要	人は食物からエネルギーを取りだし、それを利用して生体内で行われる様々な生命現象を営んでいる。これら生命現象を化学反応としてとらえ、生体を構成する物質である、糖質・脂質・タンパク質などの代謝機序や、遺伝子発現の仕組みについての基本的な原理を教授する。また、さまざまな疾患と代謝異常、遺伝子との関係を学習することで、疾病の成り立ち、薬理学、栄養学の理解につなげる。内容は、細胞の全体構造と機能、酵素、エネルギー物質の生成と利用、生体構成物質(糖質、脂質、アミノ酸・蛋白質、核酸)の種類・構造・性質と代謝、遺伝情報、遺伝子診断・遺伝子治療、先天性代謝異常などである。		
授業計画	第1回 生化学総論・代謝総論 教科書p10-36、p171-176 事前学習(0.5時間): 生化学総論の高校化学の内容を事前に理解しておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第2回 酵素の働き p37-44 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第3回 糖質の構造と性質 p48-55 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第4回 糖質代謝(解糖系、クエン酸回路、電子伝達系) p55-69 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第5回 脂質の構造と性質 p70-77 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第6回 脂質代謝 p78-91 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第7回 タンパク質とアミノ酸の構造と性質・代謝 p92-111 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第8回 核酸・ヌクレオチドの構造と性質・代謝 p112-126 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第9回 視聴覚資料および問題演習を通じて、1-8回までの内容を復習する 事後学習(1.0時間): 1-8回までの内容について演習問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第10回 エネルギー代謝の統合と制御 p127-134 事前学習(0.5時間): 糖尿病について事前に調べておくこと、教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第11回 ビタミンとその欠乏症 p135-142 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第12回 遺伝情報1、遺伝情報の複製・転写・翻訳 p143-157 事前学習(0.5時間): 高校生物で学んだ「遺伝」に関する項目を事前に理解しておくこと、教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第13回 遺伝情報2、遺伝子の変化と病気、遺伝子診断、遺伝子治療 p157-162 事前学習(0.5時間): 遺伝子診断、遺伝子治療に関する本や新聞記事、ニュースなどの情報を意識して調べておくこと、教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること 第14回 先天性代謝異常 P163-169 事前学習(0.5時間): 教科書の対応する範囲を通読し、不明な点を明確にしておくこと 事後学習(0.5時間): 復習用問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること、授業で取り上げた先天性代謝疾患についてノートにまとめること 第15回 視聴覚資料および問題演習を通じて、10-14回までの内容を復習する。 事後学習(1.0時間): 1-14回までの内容について演習問題を配布するので教科書と配布資料を参考に取り組みすること、生化学の知識と関連する患者からの質問(教科書記載)について答えられるようノートにまとめること		

	定期試験
テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 第7版、メディカ出版 講義資料および復習用プリントを配布する
参考書・参考資料等	系統看護学講座 生化学 第14版、医学書院 基礎から学ぶ遺伝看護学、羊土社 好きになる生化学、講談社 イラストレイテッド生化学 原書8版（リッピンコットシリーズ）、丸善 イラストレイテッドハーパー・生化学 原書32版、丸善
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	面談、メールにて随時可能
備考	

講義科目名称： 疾病治療総論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
供田 文宏			
講義	養護教諭対象科目		020801L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	先天異常・代謝障害・循環障害、炎症及び免疫異常、腫瘍の病態と病理変化を学ぶことで、それらの疾患の原因と成り立ちを理解する。		
授業の概要	人間の健康状態を科学的にアセスメントし必要な援助を考える上で、疾病に関する知識は不可欠である。これを理解するための科目として病態治療論を位置づける。病態学総論では、病態治療論Ⅰ～Ⅴの基礎となる疾病の概念、病態、病理変化について教授する。 内容は、疾病の概念と病因、疾病の分類とその成り立ち、先天異常・代謝障害・循環障害・炎症及び免疫異常・腫瘍の病態と病理変化である。		
授業計画	第1回 刺激や障害に対する細胞・組織の病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第2回 出血、浮腫、血栓・塞栓症の病態と病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第3回 ショックと高血圧の病態と病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第4回 生体の免疫機構とその異常 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第5回 炎症と自己免疫性疾患 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第6回 感染症の発症機序、検査および治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第7回 細菌・ウイルス・結核菌の感染症の特徴と形態異常 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第8回 先天異常と腫瘍の発症機序と病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）		
テキスト	小林正伸ら著：なるほどなっとく！病理学 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴、南山堂出版、2022年（第1版）出版 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護④ 血液／アレルギー・膠原病/感染症 2026年1月発行 第2版		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	筆記試験 100%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	14時から17時に研究室6で随時受けつける。 講義中および終了時に適宜返答する。		
備考	担当教員は富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、担当教員は富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
山口 明夫・恩地 英年・林 浩嗣			
講義		020802LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	胸腹部外科系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を教授し、診断・治療の特徴と具体的方法について学ぶ。主に食道癌、胃癌、結腸および直腸癌、膵・胆管癌、乳癌、肺癌、心臓手術等の周術期の医療、ならびに術前術後の医療管理の方法と、再発を予防するためのセルフケアならびに術後の状態の現状維持と悪化を予防するための生活に可能なリハビリテーション治療の方法について教授する。		
授業の概要	(オムニバス方式全15回) (山口明夫/4回) 主に食道、胃十二指腸、肝・脾、胆道、膵臓手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療等について教授する。 (恩地英年/5回) 主に乳腺、急性腹症、小腸、大腸、肛門、ヘルニア手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療について教授する。 (林 浩嗣/5回) 主に胸部疾患の治療、肺がん、心臓手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療について教授する。		
授業計画	第1回	食道・胃・十二指腸疾患の病態と外科治療 (担当：山口 明夫) 事前学習：上記内容をテキストで学習し、概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第2回	肝疾患の病態と外科治療 (担当：山口 明夫) 事前学習：上記内容をテキストで学習し、概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第3回	胆道・脾臓疾患の病態と外科治療 (担当：山口 明夫) 事前学習：上記内容をテキストで学習し、概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第4回	膵臓の病態と外科治療 (担当：山口 明夫) 事前学習：上記内容をテキストで学習し、概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第5回	乳腺疾患の病態と外科治療 (担当：恩地 英年) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第6回	大腸疾患Ⅰ (担当：恩地 英年) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第7回	大腸疾患Ⅱ (担当：恩地 英年) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第8回	小腸疾患 (担当：恩地 英年) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第9回	肛門疾患・ヘルニア等 (担当：恩地 英年) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	
	第10回	急性腹症 (担当：恩地 英年) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)	

	時間) 第11回 肺および気管支の疾患 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第12回 胸膜・縦隔の疾患 胸部外傷 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第13回 心臓の疾患 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第14回 血管の疾患 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第15回 血管の疾患・リンパ系の疾患 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論：医学書院 (山口・恩地) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論：医学書院 (林)
参考書・参考資料等	スライドを用いての講義 (スライドはプリントにして配布します) (山口・恩地) スライドおよびテキストを用いての講義 (林)
学生に対する評価	筆記試験：山口 明夫27%・恩地 英年40%・林 浩嗣33% (全ての教員の試験を受験した上で評価します)
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する (山口) 月～金曜日 講義日に返答 (恩地) 講義中および終了時に適宜返答する (林)
備考	【実務経験について】 山口明夫：大学病院等で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 消化器外科医での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 恩地英年：大学病院等で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 消化器外科医での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。 林 浩嗣：大学病院等で急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 疾病治療論Ⅱ（整形・脳神経）

授業コード： 205800A

英文科目名称： Pathophysiology and Therapeutics Ⅱ（Plastic Surgery and Neurosurgery）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
林 浩嗣・水野 勝則			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(看護)	020803L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	骨・関節・脳神経系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を理解し、診察・治療の特徴と具体的方法について学習する。また、主要疾患である骨折・リウマチ・脳梗塞・脊髄損傷等の疾患を持って生活維持するためのセルフケアの方法、悪化を予防して生活を可能にするリハビリテーション治療の方法についても学習する。		
授業の概要	(オムニバス方式全15回) (林 浩嗣/8回) 膠原病各種疾患、神経疾患などの病態、および主要症状や診断・治療について学習する。 (水野 勝則/7回) 運動器を構成する骨・関節・人体ならびに運動器を動かす神経・筋肉・腱の構造について学習し、運動器疾患の主要症状や診断・治療について学習する。さらに、先天性疾患、外傷、変性疾患、感染、腫瘍などの代表的な運動器疾患について学習する。		
授業計画	第1回	自己免疫疾患とその病態生理について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第2回	膠原病の症状・検査・治療について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第3回	脳・神経系の構造と機能について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第4回	神経疾患の症状と病態生理について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第5回	神経疾患の検査と治療について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第6回	神経疾患（脳卒中、脳腫瘍）について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第7回	神経疾患（脊髄疾患、末梢神経障害）について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第8回	神経疾患（神経変性疾患、筋疾患、認知症など）について説明できる。 (担当：林 浩嗣) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第9回	骨の構造・機能について説明できる。骨折について基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第10回	関節の構造・機能について説明できる。運動器疾患の治療・処置について説明できる。脱臼・靱帯損傷について基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第11回	運動器疾患の症状について説明できる。変形性関節症、痛風、下肢および下肢帯の疾患について基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第12回	神経の構造・機能について説明できる。運動器疾患の診断・検査について説明できる。脊椎・神経の外傷、脊椎の疾患について基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間)	

	第13回 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 筋肉・腱の解剖について説明できる。筋・腱の疾患、神経の疾患、上肢および上肢帯の疾患、四肢循環障害について基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 第14回 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 先天性疾患、骨関節感染症、関節リウマチについて基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 第15回 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 骨・軟部腫瘍、代謝性骨疾患について基本的な知識を習得できる。 (担当：水野勝則) 事後学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 定期試験
テキスト	・ナースিং・グラフィカー疾患と看護 (4) 血液/アレルギー・膠原病/感染症 メディカ出版 2019 (林) ・系統看護学講座 脳・神経 成人看護学7 医学書院 (林) ・系統的看護学講座 運動器 成人看護学10 医学書院 (水野)
参考書・参考資料等	(公財) 日本障がい者スポーツ協会(編), 障がいのある人のスポーツ指導教本, 株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	筆記試験：林 浩嗣50%、水野 勝則50% (全ての教員の試験を受験した上で評価する)
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	【実務経験について】 林 浩嗣：大学病院、基幹病院での急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 大学病院での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 水野勝則：大学病院、基幹病院での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 疾病治療論Ⅲ(排泄・感覚・歯)

授業コード： 205900A

英文科目名称： Pathophysiology and Therapeutics Ⅲ (Excretion, Sense and Dentistry)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
上坂 さやか・中村 直博・木下 英荘・高橋 昇			
講義		020804L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人間の感覚器、排泄、口腔に関する疾患の機序、病態及び治療等について教授する。
授業の概要	(オムニバス方式全15回) (上坂さやか/3回) 眼科領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(白内障・緑内障・網膜剥離等)の病理及び主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。 (中村直博/4回) 腎・泌尿器領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(前立腺肥大・前立腺がん等)の病理及び主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。 (木下英荘/4回) 歯科・口腔領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(う蝕・歯髄炎・歯肉炎等)の病理および主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。 (高橋昇/4回) 耳・鼻・咽喉領域における、成長発達に伴う変化や特徴、疾患(中耳炎・副鼻腔炎等)の病理および主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。
授業計画	第1回 解剖・眼科検査と診療の流れ (担当：上坂 さやか) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第2回 主な眼科疾患① (外眼部疾患、白内障、緑内障など) (担当：上坂 さやか) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第3回 主な眼科疾患② (網膜剥離、糖尿病網膜症など) (担当：上坂 さやか) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第4回 泌尿器科の解剖・検査 (担当：中村 直博) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第5回 泌尿器科の疾患①(排尿障害) (担当：中村 直博) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第6回 泌尿器科の疾患②(尿路感染症・尿路結石) (担当：中村 直博) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第7回 泌尿器科の疾患③(悪性腫瘍・その他) (担当：中村 直博) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第8回 口腔を構成する骨、筋、神経、反射に関して説明できる (担当：木下 英荘) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第9回 顎関節と唾液腺の構造と機能、代表的な疾患に関して説明できる (担当：木下 英荘) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第10回 歯の発生、歯や歯周組織の構造と機能、齲蝕と歯周病に関して説明できる (担当：木下 英荘) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第11回 口腔領域の代表的な疾患について成因、病態、治療に関して説明できる (担当：木下 英荘) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 第12回 耳・鼻・咽喉頭領域の構造と機能を理解する。 [P16～P34] (担当：高橋 昇)

	第13回 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 耳・鼻・咽喉頭領域の主要症状、主な検査と治療を理解する。 [P36～P93] (担当：高橋 昇) 第14回 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 耳・鼻領域の疾患を理解し説明できる。 [P99～P136] (担当：高橋 昇) 第15回 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 咽喉頭・頸部領域の疾患を理解し説明できる。 [P136～P167] (担当：高橋 昇) 事前学習 上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習 テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間) 定期試験
テキスト	系統看護学講座 成人看護学13 眼 医学書院 (上坂) 医学書院 系統看護学講座 腎・泌尿器 (中村) 小島愛子他著：成人看護学 歯・口腔疾患患者の看護、医学書院、2004. (木下) 小島博巳他：系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉、医学書院、2025年 (高橋)
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	筆記試験：上坂 さやか25%・中村 直博25%・木下 英荘25%・高橋 昇25% (全ての教員の試験を受験した上で評価します)
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する 授業担当日で、講義終了後。
備考	【実務経験について】 上坂さやか：大学病院で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 眼科医での実務 (勤務) 経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 中村直博：大学病院等で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 泌尿器科医での実務 (勤務) 経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。 木下英荘：大学病院で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 歯科口腔外科医での実務 (勤務) 経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。 高橋 昇：耳鼻咽喉科医での実務 (勤務) 経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

講義科目名称： 疾病治療論Ⅳ(呼吸・循環・血液)

授業コード： 206000A

英文科目名称： Pathophysiology and Therapeutics Ⅳ (Respiration, Circulation and Blood)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
供田 文宏			
講義		020805L1N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患の病態・検査・診断・治療を学ぶ。			
授業の概要	呼吸・循環・血液系の疾患における病態の発現、進行機序、検査と治療での特徴と手技について教授する。特に主要疾患として、気管支喘息・高血圧症・心不全・虚血性心疾患・白血病・貧血等の慢性疾患において、生活維持に向けてのセルフケアの遂行と悪化予防とともに現状を維持するためのリハビリテーション治療について教授する。			
授業計画	第1回	呼吸器の解剖と生理機能、呼吸器疾患の症候、呼吸不全の病態 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第2回	呼吸器疾患の検査、閉塞性肺疾患（COPDと気管支喘息）の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第3回	肺炎（定型肺炎と異型肺炎）と間質性肺炎の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第4回	肺がん、サルコイドーシス、睡眠時無呼吸症候群、肺水腫、過換気症候群、気胸の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第5回	循環器の解剖と生理機能、循環器疾患の検査 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第6回	循環器疾患の症候、心不全の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第7回	不整脈の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第8回	虚血性心疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第9回	弁膜症、心膜炎、心筋症、感染性心内膜炎の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第10回	先天性心疾患、肺高血圧症、肺性心の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第11回	高血圧、動静脈疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第12回	貧血の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第13回	輸血の手技と問題点、白血病の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第14回	悪性リンパ腫、骨髄異型性症候群、骨髄腫の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
	第15回	出血性疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（0.5時間）		
テキスト	ナースング・グラフィカEX 疾患と看護①	呼吸器	2026年1月発行	第2版
	ナースング・グラフィカEX 疾患と看護②	循環器	2026年1月発行	第2版
	ナースング・グラフィカEX 疾患と看護④	血液／アレルギー・膠原病/感染症	2026年1月発行	第2版
参考書・参考資料等	特になし			

学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	14時から17時に研究室6で随時受けつける。 講義中および終了時に適宜返答する。
備考	担当教員は富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、担当教員は富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 疾病治療論Ⅴ(腎臓・内分泌・消化器)

授業コード： 206100A

英文科目名称： Pathophysiology and Therapeutics Ⅴ (Kidney, Endocrine and Digestive Organ)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
供田 文宏			
講義		020806L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、腎尿路系疾患の病態・検査・診断・治療を学ぶ。		
授業の概要	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、腎尿路系疾患における病態の発現、進行機序、検査と治療での特徴と手技について教授する。特に主要疾患として、胃潰瘍・肝炎・肝硬変・腎炎・尿毒症・糖尿病等の慢性疾患において、生活維持に向けてのセルフケアの遂行と悪化予防とともに現状を維持するためのリハビリテーション治療について教授する。		
授業計画	第1回	消化器の構造と機能、消化器疾患の代表的な症候 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第2回	食道・胃・十二指腸疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第3回	小腸・大腸および腹膜の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第4回	肝臓の構造と機能、肝臓病の検査と肝臓疾患の代表的な症候（黄疸・門脈圧亢進症） 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第5回	肝炎、肝硬変、肝不全、肝癌の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第6回	膵臓疾患、胆道系の疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第7回	視床下部・下垂体疾患、甲状腺の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第8回	副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第9回	糖尿病の概念、分類、診断、治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第10回	脂質異常、メタボリック症候群、尿酸代謝異常の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第11回	水・電解質異常と酸塩基平衡異常の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第12回	腎臓・尿路系の構造と機能、腎疾患の代表的な症候 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第13回	急性腎障害、慢性腎不全の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第14回	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、間質性腎炎、全身性疾患による腎障害の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第15回	尿路系疾患の病態・検査・治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
テキスト	ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護③ 消化器 2026年1月発行 第2版 ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 2026年1月発行 第2版		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	筆記試験 100%		

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	14時から17時に研究室6で随時受けつける。 講義中および終了時に適宜返答する。
備考	担当教員は富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、担当教員は富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
供田 文宏			
講義		020807L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	老化による身体機能と臓器機能の低下の機序と問題点および老化の疾病に及ぼす影響を理解する。高齢者が罹患する疾病の病態と治療を理解する。
授業の概要	老年者は複数の疾患を持ち、加齢と疾患が相互に影響を及ぼす。その結果、疾患の病態は高齢者では複雑で症状の発現が非典型的で、個人差が大きいのが特徴である。老年者における加齢の機序と病態への影響を明確にし、症状や検査での特徴や治療を教授する。 具体的内容は、老化の身体機能や臓器への影響、老年者の臨床検査値の特徴、老年者の神経疾患、循環器・呼吸器疾患、骨関節疾患、悪性腫瘍、感覚器の疾患、皮膚疾患、外科的治療を教授する。
授業計画	第1回 老化の病態や臓器への影響 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第2回 高齢者における薬の服用での問題点、意識障害、脱水症 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第3回 腰痛、やせ、浮腫、排尿障害、フレイル、サルコペニアの病態と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第4回 高齢者の身体所見や検査成績における特徴と注意点 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第5回 認知症、脳血管障害、パーキンソン病、うつ病の診断と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第6回 高齢者での心血管系疾患と呼吸器疾患の特徴 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第7回 高齢者での消化管疾患、内分泌・代謝疾患、骨疾患の特徴 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 第8回 高齢者疾患の総括 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）
テキスト	鳥羽 研二ら著：系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論、医学書院出版、2018年(第5版)出版
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	14時から17時に研究室6で随時受けつける。 講義中および終了時に適宜返答する。
備考	担当教員は富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、担当教員は富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 子どもの疾病治療論

授業コード：

英文科目名称： Pathophysiology and Therapeutics (Pediatrics)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
林 浩嗣			
講義		020808L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	小児の疾病に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。		
授業の概要	健康障害をもつ小児の健康状態や発達状態に応じて、小児と家族への援助を考えられるように、小児の疾病や障害についてその病態や検査・診断、治療などについて教授する。 具体的内容は小児特有の疾患の病態・検査・治療であり、小児の先天異常、新生児の疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、ウイルス感染症、細菌感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液疾患、悪性新生物、泌尿器疾患、神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾病、耳鼻咽喉疾患、精神疾患、外傷、小児の虐待等である。		
授業計画	第1回	小児の先天異常、新生児疾患のおおよそを説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第2回	主な小児の代謝性疾患、内分泌疾患について説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第3回	主な小児の免疫・アレルギー疾患、ウイルス感染症について説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第4回	主な小児の細菌感染症、呼吸器疾患について説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第5回	主な小児の循環器疾患、消化器疾患について説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第6回	主な小児の血液疾患、悪性新生物、泌尿器疾患について説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第7回	主な小児の神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患について説明できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
	第8回	主な小児の耳鼻咽喉疾患、精神疾患について説明できる。小児の事故、虐待を考える。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）	
テキスト	奈良間美保 他：系統看護学講座 専門Ⅱ小児臨床看護各論 小児看護学②，医学書院，2015.		
参考書・参考資料等	なし		
学生に対する評価	筆記試験 100%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	質問があれば、講義終了後に返答する。		
備考	【実務経験について】 福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。		

講義科目名称： 女性・周産期疾病治療論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
竹内 譲・折坂 早苗			
講義		020809L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	ハイリスク妊娠と女性の生殖器疾患について理解する。		
授業の概要	(オムニバス方式全8回) (竹内譲/4回) 妊娠や分娩を中心としたハイリスク状態にある妊婦の病態・治療について学習する。 (折坂早苗/4回) 女性特有の疾患や女性生殖器腫瘍などを病態・検査・治療等について学習する。		
授業計画	第1回 妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠、多胎妊娠、妊娠持続期間の異常、子宮外妊娠 (担当：竹内 譲) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第2回 産道の異常、娩出力の異常、胎児に異常による分娩障害 (担当：竹内 譲) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第3回 胎児の付属物の異常：胎盤・臍帯・卵膜・羊水の異常、分娩時の損傷 (担当：竹内 譲) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第4回 産科処置と産科手術：分娩誘発、会陰切開、骨盤位牽出術、吸引分娩、帝王切開術 (担当：竹内 譲) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第5回 性分化疾患、臓器別疾患(外陰の疾患、膣の疾患) (担当：折坂早苗) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第6回 子宮の疾患(子宮頸癌、子宮体癌、子宮筋腫、子宮内膜症、絨毛性疾患の診断、検査、治療) (担当：折坂早苗) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第7回 卵巣・卵管の疾患(良性・悪性腫瘍、診断、検査、治療)について学ぶ (担当：折坂早苗) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第8回 不妊症・不育症(原因、検査、診断、治療) 出生前診断(適応、検査方法、診断方法、実施) (担当：折坂早苗) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 定期試験		
テキスト	1～4回は、森 恵美：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，母性看護学各論，母性看護学② 医学書院 5～8回は、池田 正：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，女性生殖器，成人看護学⑨ 医学書院 8回は、森 恵美：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，母性看護学各論，母性看護学② 医学書院		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	筆記試験：竹内 譲50%，折坂 早苗50% (全ての教員の試験を受験した上で評価します)		
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する		
備考	大学病院で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。		

	産科婦人科医での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。
--	--

講義科目名称： こころの疾患治療論

授業コード：

英文科目名称： Treatment of Mental Disorders

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
小俣 直人			
講義		020810L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神と行動の障害における病態、診断、治療に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。		
授業の概要	精神医学とは精神の異常ないし病的状態（精神病）に対する医学である。おもに精神疾患、精神障害の分類と検査、診断、それらの成因、病態、治療方法などについて系統的に教授する。また、精神疾患を持つ人々だけでなく、その他の疾患を持つ人の心理的背景や、地域の人々の心の健康を考え、心理的背景を理解できるように促し、精神的、心理的回復援助につなげることができる基礎的知識を教授する。		
授業計画	第1回	精神疾患の分類、精神症状学 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第2回	認知症 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第3回	発達障害、てんかん 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第4回	統合失調症 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第5回	気分障害 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第6回	神経症、摂食障害 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第7回	薬物・アルコール依存、睡眠障害 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
	第8回	精神保健福祉と司法精神医学 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。（2時間） 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） 定期試験	
テキスト	プリント		
参考書・参考資料等	武井麻子他：系統看護学講座 精神看護の基礎、医学書院		
学生に対する評価	定期試験（筆記試験）90%、修学態度 10%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および講義終了後に適宜返答する。		
備考	精神科病棟や精神科外来で勤務した経験を基に、当講義を進める。 精神科医での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。		

講義科目名称： 微生物学

授業コード： 206600A

英文科目名称： Microorganism

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
竹内 健司			
講義	養護教諭対象科目	020812L1NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	病原体の観点のみから教授するのではなく、微生物の特徴を人体の機能と関連させながら教授し、看護の視点から微生物を捉えられるようにする。		
授業の概要	具体的内容は、微生物の性質（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、人体と微生物の共生（微生物の生態系、常在微生物叢、人体の非特異的防御反応等）、共生のバランスの崩壊（侵入門戸、感染による人体の反応、主な病原微生物の特徴、感染症の現状、感染症の診断と治療、院内感染、感染症の予防手技）などである。講義が中心であるが、実習関連の内容も含める。		
授業計画	第1回	微生物学の基礎 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第2回	感染症の成立と多様性 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第3回	免疫と生体防御機構 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第4回	アレルギーと移植免疫 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第5回	細菌類（Ⅰ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第6回	細菌類（Ⅱ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第7回	細菌類（Ⅲ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第8回	ウイルス類（Ⅰ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第9回	ウイルス類（Ⅱ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第10回	真菌類、寄生虫類 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第11回	ワクチンで予防できる病気 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第12回	感染症の臨床（化学療法含む） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第13回	感染症の制御（疫学と医療体制、コロナなどパンデミック含む）／課題リポートの提案 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第14回	院内感染対策等の実際（スライド供覧） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	

	時間) 第15回 国家試験演習／課題レポートの提出 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間） 定期試験
テキスト	増澤俊幸著：感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学、羊土社
参考書・参考資料等	毎回の項目ごとに関係の資料を配布する。
学生に対する評価	定期試験（筆記試験90%、出欠状況やレポート提出など10%）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	【実務経験について】 福井大学医学部または県内看護系学校で微生物学あるいは感染症分野の実務（勤務）経験を有し、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 薬理学（看護）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
村松 郁延			
講義	養護教諭対象科目		020814L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	現代医療において、薬物療法は主要な役割を占める。看護者は患者の状態をアセスメントし指導する上で、また医療事故を防止するためにも薬物に関する知識が不可欠である。本授業では、各病態の治療や看護に必要な薬理の知識をまとめて修得する。		
授業の概要	薬物の作用と体内動態、薬効に影響する因子、薬の有害作用、中枢神経作用薬、ホルモン・オータコイド、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系・皮膚及び眼作用薬、ビタミン、化学療法薬、抗感染症薬、消毒薬について学習する。		
授業計画	第1回	薬理学総論 1； 薬とは、薬理学とは、基本用語 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第2回	薬理学総論 2； 薬物の生体に対する作用、体内動態 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第3回	末梢神経系作用薬 1； 神経伝達の基礎知識、副交感神経系に作用する薬物 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第4回	末梢神経系作用薬 2； 交感神経系に作用する薬物 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第5回	末梢神経系作用薬 3； 筋弛緩薬、局所麻酔薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第6回	中枢神経系作用薬 1； 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第7回	中枢神経系作用薬 2； 抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第8回	心・血管系作用薬 1； 循環の基礎知識、降圧薬、利尿薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第9回	心・血管系作用薬 2； 強心薬、抗不整脈薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第10回	心・血管系作用薬 3； 血液および造血器官に作用する薬物 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第11回	抗炎症薬、呼吸器系作用薬； 抗炎症薬、解熱性鎮痛薬、気管支拡張薬、喘息治療薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第12回	物質代謝に作用する薬物； 糖尿病治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬、脂質代謝、骨代謝 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第13回	消化器系作用薬； 消化性潰瘍治療薬、胃腸機能調整薬、 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	
	第14回	抗感染症薬； 化学療法概論、抗感染症薬、 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）	

	時間) 第15回 抗腫瘍薬； 腫瘍と抗腫瘍薬 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間） 定期試験
テキスト	・吉岡 充弘 他： 系統看護学講座 薬理学，医学書院，2023
参考書・参考資料等	・植松俊彦 他： 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学、メデカルフレンド社、2017年 ・医療情報科学研究所編： 薬がみえる、メディックメディア、2014年
学生に対する評価	定期試験（筆記試験 100%）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	

講義科目名称： 看護と法律

授業コード： 207100A

英文科目名称： Nursing and Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
永岩 里美			
講義		020902L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	法の概念について基本的な知識を習得したうえで、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とその根拠となる諸法令を理解すること。		
授業の概要	看護職が活動するために必要な保健・医療・福祉制度について教授する。また、医療を取り巻く環境、労働環境等、医療や看護領域に関連のある法律について教授する。 具体的内容は、法規の概念、衛生法規、医事法(特に保健師助産師看護師法、医師法、歯科医師法、医療法および薬剤師法等の医療関係資格に関する法律)、薬務法規、保健衛生法規、予防衛生法規、環境衛生法規、社会保険法規、福祉法規、労働および社会基盤に関する法規等である。		
授業計画	第1回	法を理解するうえでの基礎的用語・概念の説明、衛生法の分類、厚生行政の仕組み	
	第2回	看護法 (保健師助産師看護師法・看護師等の人材確保の促進に関する法律)	
	第3回	医事法 (医療法、医事法、歯科医師法、保健・医療・福祉に関する各種専門資格)	
	第4回	保健衛生法 (共通保健法令・精神保健・母子保健・感染症・食品に関する法令・環境衛生の法令等) 薬務法 (医薬品医療機器等法・危険薬物等の取締に関する法律)	
	第5回	社会保険法 (医療保険、年金保険、介護保険)	
	第6回	福祉法 (社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法)	
	第7回	労働法と社会基盤整備 (労働基準法、労働契約法、労働安全衛生法、労災法、男女雇用機会均等法等)	
	第8回	環境法 (環境保全・公害防止・自然保護)	
		定期試験	
テキスト	森山幹夫：看護関係法令 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 医学書院，2021年版 田村やよひ：私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法（第2版） 日本看護協会出版会，2015年出版		
参考書・参考資料等			
学生に対する評価	定期試験 100%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中ないし終了時に適宜返答する		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】看護
担当教員			
出口 洋二			
演習・講義	養護教諭対象科目		020903L2NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人間集団の抱える健康問題を解決するための重要な科学的手段である疫学の方法とライフステージに応じた各種保健施策や環境衛生施策の背景について修得する。		
授業の概要	看護師が医療現場で患者や家族の達成可能な健康レベルの到達を支援するためには、地域社会において提供される公衆衛生サービスの内容とその科学的根拠を十分理解し、最も適したサービスを助言できる必要がある。当該科目では、人間集団の抱える健康問題を解決するための重要な科学的手段である疫学の方法とライフステージに応じた各種保健施策や環境衛生施策の背景について教授する。 内容は、各種健康施策の現状と課題（母子保健・学校保健・産業保健・老人保健）、環境施策の現状と課題（食品衛生・空気・水・廃棄物）などである。また、人間集団の抱える健康問題を解決するための科学的手段としての疫学の方法や方法を用い、健康や環境に関する現状や課題を演習形式にて教授する。		
授業計画	第1回	母子保健・学校保健・産業保健・地域成人保健・高齢者保健・地域環境衛生（食品・廃棄物）の学修班（9班）を編成し、学生が自ら調査するための日程調整を班ごとに行う。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2～4回	各班の調査予定項目の紹介とその科学的背景を発表する。 （各班20分、パワーポイントを使用して、1回につき3班ずつ担当）発表後、教員が補足説明や次回発表に向けて必要な指導を行う。 他班の学生は各自で発表に対する評価点（10点満点）と発表内容に対する質問や意見を記載した発表評価・質問票Wordファイルを所属班長へ提出し、班長は班でまとめた発表評価質問票Wordファイルを教員へメールで提出する。教員は発表評価質問票の全体集計結果を全班長を通じて各班員に還元する。	
	第5～7回	事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 各班で調査した重要な健康施策の現状について発表する。 （各班20分、パワーポイントを使用して、1回につき3班ずつ担当）発表後、教員が補足説明や次回発表に向けて必要な指導を行う。 他班の学生は各自で発表に対する評価点（10点満点）と発表内容に対する質問や意見を記載した発表評価・質問票Wordファイルを所属班長へ提出し、班長は班でまとめた発表評価質問票Wordファイルを教員へメールで提出する。教員は発表評価質問票の全体集計結果を全班長を通じて各班員に還元する。	
	第8～10回	事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 各班で調査した重要な健康施策の課題について発表する。 （各班20分、パワーポイントを使用して、1回につき3班ずつ担当）発表後、教員が補足説明や次回発表に向けて必要な指導を行う。 他班の学生は各自で発表に対する評価点（10点満点）と発表内容に対する質問や意見を記載した発表評価・質問票Wordファイルを所属班長へ提出し、班長は班でまとめた発表評価質問票Wordファイルを教員へメールで提出する。教員は発表評価質問票の全体集計結果を全班長を通じて各班員に還元する。	
	第11～13回	事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 各班で考察した健康施策の改善策を発表する。 （各班20分、パワーポイントを使用して、1回につき3班ずつ担当）発表後、教員が補足説明や次回発表に向けて必要な指導を行う。 他班の学生は各自で発表に対する評価点（10点満点）と発表内容に対する質問や意見を記載した発表評価・質問票Wordファイルを所属班長へ提出し、班長は班でまとめた発表評価質問票Wordファイルを教員へメールで提出する。教員は発表評価質問票の全体集計結果を全班長を通じて各班員に還元する。	
	第14回	第13回終了後、各班の調査した重要な健康施策について簡潔な文章表現によるレポート原稿をWordで作成し、教員へ提出する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 科学的なレポートの作成をめざして教員の支持に基づき原稿を修正する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	

	第15回 全班の修正済みレポートファイルを各自のUSBメモリーに保存し、各班のレポートに簡潔な要旨を作成するとともに他班のレポートを指定された評価項目に基づき各自採点したレポート達成度評価表を提出する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）
テキスト	小山洋・辻一郎編 『シンプル衛生公衆衛生学 2025』（南江堂）
参考書・参考資料等	厚生労働統計協会編 『国民衛生の動向 2025/26』
学生に対する評価	① グループ得点 60点＝（発表評価得点30点＋レポート30点）×班に対する寄与率（班長100%） ② 個人別得点 40点×（他班に対する発表評価・質問票提出回数/32）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

講義科目名称： 生涯発達心理学

授業コード： 207400A

英文科目名称： Life-Span Development Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】看護
担当教員			
青井 利哉			
講義	養護教諭対象科目		020905L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	生涯発達心理学の基礎知識を習得し、養護教諭は他者の発達にかかわる存在であることに気づき、さらに自己理解を深めることを目標とする。		
授業の概要	近年、生活や教育における様々な人間の発達に関わる問題が多くなってきている。人間の生涯にわたる精神発達を学習する必要性について学び、その後、子どもから成人になるまでの変化・発達について学習する。ピアジェやエリクソンの発達理論をベースに各段階についての代表的な心理学的アプローチと知見を学び、老年期および死と死の受容についても心理学的な理解を深め、支援のあり方について考える。		
授業計画	第1回	人間発達の概要と発達概念 発達、成長、成熟、学習、遺伝、環境、輻輳説、発達理論 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第2回	エリクソンの発達理論 自我と自己の発達、ライフサイクル、心理社会的危機状況 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第3回	ピアジェの認知発達論 思考の発達、感覚運動段階、前操作的段階（象徴的思考、直感的思考）、操作的段階（具体的操作、形式的操作） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第4回	学習の原理とメカニズム 学習が成立する過程を説明する代表的な理論（行動理論、認知理論） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第5回	学習意欲の基礎 動機づけ、学習性無力感 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第6回	概念の発達と学習 幼児期までの日常的概念の発達、児童期における科学的概念の学習過程 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第7回	乳児期の発達 身体発育、運動機能の発達、認知機能や対人関係の発達、愛着関係の形成 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第8回	幼児期の発達 言語の獲得、遊びと学習レディネスの形成、自己・他者認知の発達 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第9回	児童期の発達 論理的思考、メタ認識の芽生え、仲間関係、道徳性の発達 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第10回	児童期に抱える諸問題 いじめ、不登校、メンタルヘルス	

	第11回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 青年期の発達 親子関係・友人関係、親からの心理的自立、自我同一性の確立
	第12回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 成人期・老年期の発達 職業生活、家族生活、親となること、エイジングとパーソナリティ、死への対応
	第13回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 知的発達に遅れが見られる幼児、児童および生徒 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達、知的障害の特徴（記憶、学習の特徴）
	第14回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 発達に偏りが見られる幼児、児童および生徒 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達、学習障害、自閉症スペクトラム障害
	第15回	事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 障害のある幼児、児童および生徒の支援の方法 知能検査の解釈について、社会性をはぐくむ支援の方法、障害特性に応じた個別支援 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 定期試験
テキスト	指定しない。適宜プリントを配布する。	
参考書・参考資料等	岩崎・花熊・吉松：人間発達学、医学書院、2010年 上田礼子：生涯人間発達学、三輪書店、2012年 市川伸一：学習と教育の心理学 増補版、岩波書店、2011年	
学生に対する評価	筆記試験 100%	
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室	
備考	小中学校でのスクールカウンセラー実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。	

講義科目名称： 健康教育論

授業コード： 207500A

英文科目名称： Health Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【選択】看護
担当教員			
出口 洋二			
講義	養護教諭対象科目		020906L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	公衆衛生活動は国民の生存権（健康で文化的な最低限度の生活を営む権利）を確保するための社会保障制度の根幹を担っており、自主的健康管理行動を誘導するために健康教育の重要性を理解し、健康支援をする専門職として必要な、第1次～第2次予防による医学的健康管理方法の実践を修得することを目標とする。		
授業の概要	健康教育論の目的は、健康問題が起こらないようにする（予防）、おこってもすぐ対処できるようにする（早期発見・早期治療）、健康問題を解決する（治療）、完全に解決して社会復帰する（リハビリテーション）、よい方に向かわせるという意味あいを含む。個人が健康的な生活習慣を確立できるように、社会環境の整備とともに、教育面から支援を行い、行動変容への動機付けや、行動変容に必要な知識・技術の習慣を促すことが必要となる。具体的内容は、健康教育の定義、セルフケア論、行動科学と健康教育、健康教育の発展過程、KAPモデル、プリシード・プロシードモデル、健康教育と行動変容、自己効力感と健康教育、健康教育の方法等について教授する。		
授業計画	第1回	健康教育の定義、意義、開発されてきた理論の概要を理解する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	保健行動理論と保健指導で活用できる理論（ヘルスコミュニケーションの基礎） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	健康教育の技術と展開（行動変容を促すヘルスコミュニケーションの実践） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	グループワーク課題 1：自己実現をめざす健康教育 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	グループワーク課題 2：動機づけを高めるために（1）生きて働く知識・腑に落ちる理解・自己効力感 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	グループワーク課題 3：動機づけを高めるために（2）自尊感情・指導の押さえどころ・行動実践へ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	グループワーク課題 4：行動実践のPDCAサイクル 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	グループワーク課題 5：意欲を高める環境と支援 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験	
テキスト	戸部秀之・齋藤久美著『児童・生徒の自己実現をめざす！行動科学を生かした集団・個別の保健指導』（少年写真新聞社）2016年		
参考書・参考資料等	島崎崇史著『ヘルスコミュニケーション』早稲田大学出版部 2016年 大竹文雄著『行動経済学の使い方』岩波新書 2019年 日本健康教育学会編『健康行動理論による研究と実践』医学書院 2019年 鈴木宏昭著『認知バイアス』講談社ブルーバックス 2020年		
学生に対する評価	グループワークの発表評価点（20点）＋提出演題課題（30点）＋筆記試験（50点）		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。		
備考			

講義科目名称： 社会福祉学

授業コード： 101600A

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必須】看護
担当教員			
今井 靖子・浅井 智恵美・木戸屋 圭史郎			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(看護)	020907LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	社会福祉事業とは何かにはじまり、社会福祉の法制、サービス体系、社会福祉の経営、財政、民間社会福祉活動あるいは高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度、福祉専門職と関連職種との連携など社会福祉の全体像を学ぶ。		
授業の概要	(オムニバス方式／全15回) (今井靖子／全8回) 社会福祉の概論を中心に、社会福祉の歴史、社会福祉の方法論（個別的援助、集団的援助）を包括的に教授する。また高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度について教授する。 (浅井智恵美／全4回) 地域福祉を中心に、在宅における地域包括ケアシステム、地域包括支援センターのあり方を教授し、地域リハビリテーションの根幹を学ぶ。 (木戸屋圭史郎／全3回) バイステックの7原則など対人援助技術の基礎を学ぶ。		
授業計画	第1回 社会保障制度の概念、体系、内容。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第2回 社会福祉の歴史と現在の法体系。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第3回 現代社会の変化と社会福祉の動向. 人口、家族、経済状況と現代社会、雇用情勢の変化. 保健医療・社会福祉サービスの動向。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第4回 医療保障と所得保障. 沿革、構造体系. 医療保険、年金保険、社会手当、労働保険。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第5回 公的扶助. 貧困、低所得問題と生活保護制度のしくみ. 対策、動向。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第6回 障害者福祉. 定義と実態. 理念ノーマライゼーション. 制度の変遷と施策。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第7回 児童福祉と母子及び寡婦福祉. 児童福祉法、DV防止、少子化対策。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 康子） 第8回 社会福祉実践と医療、看護. 各援助技術. 社会福祉の実践と医療、看護の連携 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：今井 靖子） 第9回 高齢者の状況 高齢者福祉の背景 老人保健事業について 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） （担当：浅井 智恵美） 第10回 介護保険法の背景と概要を知る （福井市発行介護保険あんしんガイド） 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）		

	(担当：浅井 智恵美) 第11回 地域包括ケアシステムの背景と概要を知る 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） (担当：浅井 智恵美) 第12回 包括支援センターの役割・目的・事業内容の理解（地域包括支援センター運営マニュアル3訂） 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） (担当：浅井 智恵美) 第13回 人権擁護と成年後見制度 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） (担当：木戸屋 圭史郎) 第14回 対人援助の基礎 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） (担当：木戸屋 圭史郎) 第15回 対人援助・コミュニケーション技術 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） (担当：木戸屋 圭史郎) 定期試験
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉 ― 健康支援と社会保障制度 ― 医学書院発行（今井・浅井） 福井市発行介護保険あんしんガイド（浅井）
参考書・参考資料等	地域包括支援センター運営マニュアル3訂（浅井） （公財）障がい者スポーツ指導教本 初級・中級，日本障がい者スポーツ協会
学生に対する評価	筆記試験：今井 靖子50%，浅井 智恵美30%，木戸屋 圭史郎20% （全ての教員の試験を受験した上で評価します）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する（浅井） 講義中および終了後に適宜返答する（今井） 講義中および終了後適宜返答する（木戸屋）
備考	【実務経験について】 浅井智恵美：総合病院病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 看護師、保健師、訪問看護師、介護支援専門員、地域包括支援センターでの実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 今井靖子：福井総合病院で社会福祉士としてソーシャルワーカー業務の経験をふまえ、講義を進める。 木戸屋圭史郎：障害者福祉・介護保険施設での実務経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 看護の基本となる概念

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
森山 悦子			
講義	養護教諭対象科目		064001L1NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護の基本的な考え方を学び、「看護とは何か。どのようなことを“看護”というのか」という自身の考える看護を表現することができる。		
授業の概要	我が国では高齢多死社会化が進むといわれている。移り行く社会の中で看護及び看護学のありようは今後さらに大きく変化し続けることが予測される。このようななか、初学者においても「看護とは何か」を考え、そのために必要な知識を身につけることが求められる。看護活動の受け手は「人間」であること、その人間が心身ともに良好な状態であるには「健康」であること、その「健康」は人間をとりまく「環境」と密接な関係にあるといわれている。当該科目では、「人間」「健康」「環境」の視点より「看護とは何か」を考え、自己の看護観を形づくっていくために必要な知識などについて学ぶ。 具体的内容として、看護及び看護職の定義、看護の対象、国民の健康と生活、看護の職業としての確立、専門職としての看護職の養成や看護活動の実際、看護における倫理、拡大している看護の役割と機能などから、看護の提供と拡がりについて学ぶ。		
授業計画	第1回	学科目『看護の基本となる概念』とは(講義概要の説明) 学習内容と授業日程 私(私たち)の考える看護とは 「入学時のあなたが考える看護とは」「看護師とは何をする職業か」について考え、表現する。(個人ワーク、グループワーク) 事前学習：入学時における「看護とはどういったことか」について自身の考えをまとめておく。(学習時間0.5時間) 事後学習：グループワーク内容、配布資料、教科書等を見直し、「入学時のあなたが考える看護」を整理する。(学習時間：0.5時間)	
	第2回	看護・看護学とは 1)看護の定義 2)看護学とは、看護学の中心にある概念とは 3)看護の役割と機能 事前学習：下記テキスト1)「看護学概論」の“はしがき、看護の本質 ①看護の変遷 ②看護の定義”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間)	
	第3回	看護の対象「人間」の「からだところ」を知る(1) 1)看護の「対象」とはなにか 2)看護の対象「人間」とは — 「からだ」を知る — 事前学習：テキスト1)「看護学概論」の“人間の「ところ」と「からだ」を知ることの意味”を読む。 対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理、“看護の使命と結びつく要素”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間)	
	第4回	看護の対象「人間」とは — 人間の「からだところ」を知る(2) 1)看護の対象「人間」とは — 「ところ」を知る 2)人間のところとからだ 事前学習：テキスト1)「看護学概論」の“人間の「ところ」と「からだ」を知ることの意味を理解する。 「ところ」と「からだ」にかかるストレスの影響、患者心理の理解—病気による「ところ」の変化をとらえる”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間)	
	第5回	看護の対象「人間」とは — 「生涯発達し続ける存在としての人間」を知る 1)生涯発達し続ける存在としての人間—身体発育と心理社会的発達 2)人間の「暮らし」 事前学習：テキスト1)「看護学概論」の“生涯発達し続ける存在としての人間の理解、人間の「暮らし」を読む”(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間)	
	第6回	看護の対象「人間の健康」とは 1)健康とは 2)国民の健康と生活 事前学習：テキスト1)「看護学概論」の“第4章国民の健康状態と生活における発達”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間)	
	第7回	看護の対象「人間の健康」とは 1)健康でない状態とは 2)国民のライフサイクル	
	第8回	職業(看護職)としての看護の提供 — 看護職—保健師、助産師、看護師による看護の提供	

	1) 看護の役割と機能(復習) 2) 職業としての看護 ー看護職：保健師、助産師、看護師とは 3) 看護の役割ー看護活動の場・継続性・連携 事前学習：①テキスト1)「看護学概論」の“第1章看護とは” B看護の役割と機能 C看護の継続性と連携 “第4章看護の提供者 B看護職の資格・養成・就業状況”を読む。②テキスト3)「保健師助産師看護師法を読む」(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護における倫理(1) 第9回 1) 倫理、看護倫理とは 2) 現代社会における倫理の必要性 事前学習：①教科書「看護学概論」の“第5章看護における看護倫理”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護における倫理(2) 第10回 1) 医療及び看護における倫理原則とケアの倫理 2) 医療における倫理的課題への取組 事前学習：①教科書「看護学概論」の“第5章看護における看護倫理”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護における倫理(3) 第11回 1) 職業倫理としての看護倫理 事前学習：①教科書「看護学概論」の“第5章看護における看護倫理”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護の理論(1) 第12回 1) 看護学と看護理論 2) 理論、看護理論とは 事前学習：(1) テキスト1)「看護学概論」の“第1章看護とは 2)A-2看護の定義 ②看護職能団体による看護の定義③看護理論家による看護の定義”を読む。(2) テキスト2)看護理論第1章を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護の理論(2) 第13回 看護の哲学を論じた理論家 1) F. ナイチンゲールの示す看護 2) V. ヘンダーソンの示す看護 事前学習：テキスト1)「看護学概論」の“第1章看護とは A-1看護の本質 看護の哲学を論じた理論家F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン、②テキスト1)「看護理論」、F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソン”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護の理論(3) 第14回 概念モデルを示した看護理論家 1) ドロセア・E・オレムの示す看護 2) シスター・カリスタ・ロイの示す看護 事前学習：①テキスト1)「看護学概論」の“第1章看護とは A-1看護の本質 概念モデルを示した看護理論家ドロセア・E・オレム、シスター・カリスタ・ロイ、②テキスト2)「看護理論」のドロセア・E・オレム、シスター・カリスタ・ロイ”を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 看護の理論(4) 第15回 人間関係や人間の相互作用を示した理論家 1) ヒルデガード・E・ペプロウの示す看護 2) アイダ・ジーン・オーランドの示す看護 3) ジョイス・トラベルビーの示す看護 事前学習：①テキスト2)看護理論第2章に示すヒルデガード・E・ペプロウ アイダ・ジーン・オーランド ジョイス・トラベルビーの紹介を読む。(学習時間：0.5時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：0.5時間) 定期試験
テキスト	1) 茂野香おる：看護学概論 基礎看護学1 専門分野 I 系統看護学講座 医学書院 最新版. 2) 筒井真優美：看護理論-看護理論21の理解と実践への応用- 看護学テキスト 南江堂 最新版. 3) 田村やよひ：私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会 最新版. 4) ウェッジニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの 再新装版, 日本看護協会出版会, 最新版.
参考書・参考資料等	1) フォーレンス・ナイチンゲール著：小玉香津子訳：看護覚え書, 日本看護協会出版会, 最新版. 2) フォーレンス・ナイチンゲール著：看護覚え書, 現代社, 最新版. 3) 茨木 保：図説 看護覚え書とともに, 医学書院, 最新版.
学生に対する評価	次の2点を総合して評価します。 1) 中間試験・定期試験の総合成績：80% 2) 個人およびグループ課題の提出：20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	毎時講義終了後に対応致します。
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 看護の過去と未来

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
森山 悦子			
講義		064002LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護の発祥から現在までを概観し、“看護”とは何か、職業としての看護とはどのようなことかを理解し、看護に求められている課題やこれからの看護について理解する。
授業の概要	社会が過去-現在-未来を通じて多様かつ複雑に変化し続ける中で健康への関心は高まり、看護においても保健医療福祉を統合したケアの時代を迎え活動している。これまでに起こった事実、現在も変化し続ける事実、さらには今後起こりうると思われる諸事に触れ、求められている看護、必要とされる看護、未来に向けたこれからの看護について学ぶ。 具体的内容として、看護の誕生から近代看護に至る変遷とその事実に含まれている意味、第二次世界大戦までの看護の変遷とその意味、今日の看護に触れ、未来への課題等について、時代を変えた看護理論家の考えに触れるとともに、発展し続ける看護の実践や教育の視点などから看護を学ぶ。
授業計画	第1回 学科目“看護の過去と未来”とは 1) 学習内容と日程 看護の発祥から近代に至る看護の変遷を概観する。 近代看護の確立とF. ナイチンゲールの功績 事前学習：①前期学習した「看護の定義」の内容について、テキストや資料を読み直し復習をする。 (学習時間：2時間) ②テキスト「看護学概論」の”第1章看護とは A看護の本質 看護哲学を論じた理論 家による看護のとらえ方F. ナイチンゲール”を読む。 事後学習：看護の発祥から近代に至る看護の変遷について整理し、不明な点を明らかにする。 (学習時間：2時間) 第2回 職業としての看護のはじまり～確立期(明治期から第二次世界大戦まで) 事前学習：①テキスト「看護学概論」“第4章看護の提供者 A-①職業としての看護のはじまり”を読む。 (学習時間：2時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間) 第3回 職業としての看護の確立期(第二次世界大戦～昭和40年頃まで) “看護独自の機能”を明らかにしたV. ヘンダーソンの看護 事前学習：①テキスト「看護学概論」の“第4章看護の提供者 A-②終戦時から昭和中期の看護”を読む。 (学習時間：2時間) ②テキスト「看護学概論」の”第1章看護とは A看護の本質 看護哲学を論じた理論 家による看護のとらえ方V. ヘンダーソン”を読む。 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間) 第4回 職業としての看護の充実期(昭和後期から平成初期まで) 事前学習：①テキスト「看護学概論」の“第4章看護の提供者 A-③昭和後期から平成初期の看護”を読む。 (学習時間：2時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間) 第5回 職業としての看護の発展期(現在) 1) 職業としての発展とは(平成中期以降～) 2) 看護職の養成と課題 事前学習：①テキスト「看護学概論」の“第4章看護の提供者 A-④職業としての看護の発展(現在の看護)”を読む。(学習時間：2時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間) 第6回 看護職の養成と課題ー専門看護師 認定看護師 特定行為に係る看護師の研修制度ー 1) 看護の専門分化ー継続教育、高度実践看護に係る養成と課題 事前学習：①テキスト「看護学概論」の“第4章看護の提供者 C看護職者の継続教育とキャリア開発、特定 行為に係る看護師の研修制度の開始”を読む。(学習時間：2時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間) 第7回 これからの看護ー現在、そして未来に向けて (1)ー 1) 広がる看護活動 2) 社会から期待される看護活動 事前学習：①テキスト「看護学概論」の(1)“第1章B看護の役割と機能” (2)“第4章看護の提供者A-⑤職 業としての看護の新たな展開(これからの看護)”を読む。(学習時間：2時間) ②テキスト「看護学概論」 の”第7章広がる看護の活動領域”を読む。(学習時間：2時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間) 第8回 これからの看護ー現在、そして未来に向けて (2)ー これからの日本に求められる看護 事前学習：①テキスト「看護学概論」の“第7章広がる看護の活動領域”を読む。(学習時間：2時間) 事後学習：授業内容、授業資料を見直し、不明な点を明らかにする。(学習時間：2時間)

	定期試験
テキスト	1) 茂野香おる他：看護学概論 基礎看護学1 専門分野 I 系統看護学講座 医学書院 最新版.
参考書・参考資料等	随時紹介します。
学生に対する評価	次の2点で評価します。 ①定期試験：80% ②課題：20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義日の授業終了後に対応致します。
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 生活を支える看護Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
藤本 ひとみ・蔵屋敷 美紀			
講義		064003LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護における実践能力の基礎となる基本的な援助技術について、理論的な根拠を踏まえた知識と技術を学習する。		
授業の概要	看護を学ぶ上で基本となる方法論や人間を把握するための援助技術について、対象の身体的・心理的・社会的側面の意義を踏まえ、理論的な根拠に基づいて考え実践できる能力を養えるよう教授する。内容は、環境調整技術、活動・休息の援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の技術など、講義・演習を通して教授する。		
授業計画	第1・2回 ガイダンス、看護技術とは 講義：講義・演習の予定、内容、進め方等の説明、実習室使用方法、使用物品等の説明 看護技術とは、日常生活行動と援助の必要性、看護用語の説明 事前学習：テキストの序章を熟読し、講義の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：講義内容の中で専門用語やわからない用語は意味を調べて、理解しながらテキストや講義資料に書き込むこと。（各回0.5時間） 第3・4回 環境調整技術① 講義：看護援助における環境調整、ナイチンゲール病棟にみる療養環境 演習：ベッド周囲の環境整備 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間） 第5・6回 環境調整技術② 演習：病床を整える技術（ベッドメイキング、リネン交換） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間） 第7・8回 スタンダードプリコーション（手洗い） 講義・演習：標準予防策：スタンダードプリコーション、衛生的手洗い（流水による手洗い、擦式消毒用アルコール製剤を用いた手洗い） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間） 第9・10回 食事援助技術 講義：食事援助の基礎知識（栄養状態、水分・電解質バランス、食欲、摂食・嚥下能力のアセスメント） 口腔内の構造と機能 演習：食事摂取の介助、口腔ケア 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間） 第11・12回 活動・休息、苦痛の緩和・安楽確保の技術 講義：基本的活動の援助の基礎知識（活動、運動）、体位保持（ポジショニング）、安楽の援助の基礎知識 睡眠・休息の援助の基礎知識 演習：体位、移動（体位変換・歩行・移乗・移送）、さまざまな体位のポジショニング、電法（温電法、冷電法） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間） 第13～15回 ベッドメイキング実技試験 詳細は事前にアナウンスする 事前学習：看護援助実技試験に必要な用紙を準備し、練習とイメージトレーニングを行うこと。（各回0.5時間） 事後学習：自身の看護援助実技を振り返り、自己分析をすること。（各回0.5時間）		
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2025。 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2025。 フローレンス・ナイチンゲール著，小玉香津子・尾田葉子訳：看護覚え書 本当の看護とそうでない看護，日本看護協会出版会，2020。		
参考書・参考資料	※講義時、随時紹介		

等	
学生に対する評価	1. 小テスト:20% 2. 実技試験:30% 3. 筆記試験:50% 全ての試験を受験した上で評価
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 生活を支える看護Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
藤本 ひとみ・蔵屋敷 美紀			
講義		064004LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護における実践能力の基礎となる基本的な援助技術について、理論的な根拠を踏まえた知識と技術を学習する。			
授業の概要	看護を学ぶ上で基本となる方法論や人間を把握するための援助技術について、対象の身体的・心理的・社会的側面の意義を踏まえ、理論的な根拠に基づいて考え実践できる能力を養えるよう教授する。内容は、感染防止の技術、食事援助技術、清潔援助技術、排泄援助技術、学習支援など、講義・演習を通して教授する。			
授業計画	第1・2回	感染防止の技術① 講義：感染予防・感染経路別予防策の基礎知識、感染性廃棄物の取り扱い、洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習内容、及びテキストの動画を確認し、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）		
	第3・4回	感染防止の技術② 講義：無菌操作の基礎知識 演習：無菌操作（滅菌物の取り出し方、滅菌手袋の着用） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間）		
	第5・6回	清潔援助技術① 講義：清潔援助の基礎知識（皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の全身、心理・社会的効果） 入浴、シャワー、足浴援助の基礎知識 演習：足浴 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間）		
	第7・8回	清潔援助技術② 講義：全身清拭、寝衣交換援助の基礎知識 演習：全身清拭、寝衣交換 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間）		
	第9・10回	清潔援助知識③ 講義：洗髪援助の基礎知識 演習：洗髪 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間）		
	第11・12回	排泄援助技術 講義：排泄援助の基礎知識（排尿・排便のメカニズム、摘便、浣腸）、 演習：オムツ交換、尿器・便器介助 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義・演習の概略を掴んでおくこと。（各回0.5時間） 事後学習：学習した看護技術の動画を観て、要点を確認しておくこと。（各回0.5時間）		
	第13～15回	清潔援助実技試験 全身清拭、洗髪、足浴など 詳細は事前にアナウンスする 事前学習：清潔援助技術の練習とイメージトレーニングを行うこと。（各回0.5時間） 事後学習：自身の実施した看護技術を振り返り、自己分析をすること。（各回0.5時間）		
	テキスト	茂野香おる:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ,医学書院,2025. 任和子:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ,医学書院,2025.		

参考書・参考資料等	※講義時、随時紹介
学生に対する評価	1. 小テスト:20% 2. 実技試験:30% 3. 筆記試験:50% 全ての試験を受験した上で評価
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 看護コミュニケーション

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
藤本 ひとみ			
講義		064005L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	コミュニケーションの理論を学び、看護・医療におけるコミュニケーションスキルを学習する。		
授業の概要	看護師に求められるコミュニケーションは、看護の対象となる人や家族をケアするためには必須であり、また同時に看護師間や他職種との連携においても必要不可欠である。知識だけではなく実践できる技術として習得できるよう教授する。内容は、コミュニケーション論、看護におけるコミュニケーション、臨地実習で遭遇する事例をもとに講義・演習を通して教授する。		
授業計画	第1回	コミュニケーションの理論 ・コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションの種類（言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション） ・コミュニケーションに影響する要因	
	第2回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・コミュニケーション手段 ・構成要素と成立過程 ・ミスコミュニケーション	
	第3回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） 関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動の前提となる基本的な態度 ・接近的行動と非接近的行動	
	第4回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） 効果的なコミュニケーションの技法 ・積極的傾聴、共感 ・看護学生にとっての共感	
	第5回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） 看護面接のトレーニング ・ロールプレイ、模擬患者参加型、バーチャル患者などの方法を用いて演習	
	第6回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：演習内容を振り返り、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） コミュニケーション障害への対応 ・コミュニケーションに障害がある人の特徴 ・言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ・コミュニケーション障害がある人への対応	
	第7回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） 高度なコミュニケーション ・臨地実習で看護学生遭遇する事例 ・他職種連携とコミュニケーション	
	第8回	事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間） 患者家族とのコミュニケーション ・患者と家族の関係 ・患者の家族とのコミュニケーション	
		事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（2時間） 事後学習：講義資料を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（2時間）	
テキスト	茂野香おる:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2025. 任和子:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2025.		
参考書・参考資料等	講義時、随時紹介		
学生に対する評価	1. レポート：40%		

	2. 定期試験：60%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時 可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 看護実践力Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
藤本 ひとみ・蔵屋敷 美紀・北川 敦子・吉江 由加里・寺島 喜代子・油野 規代・奥田 豊子・駒田 裕司・八杉 朱美			
講義		064006L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 看護師に求められる看護実践力について基盤となる知識を習得する。 2. 臨床判断をモデルとした「気づく」スキルを通して、対象者を全体的に把握することができる。 3. 課題について積極的かつ主体的に学習する能力を身につけることができる。		
授業の概要	V. ヘンダーソンの14項目の枠組みを用いた看護過程の一連の流れを理解し、生活者として入院している患者の援助の視点に気づくスキルを修得できる。		
授業計画	第1回	看護学における「生活」「生活者」とは 看護過程概説（基盤となる概念、看護過程のプロセス） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（0.5時間） 事後学習：講義内容の中で専門用語やわからない用語は意味を調べて、理解しながらテキストや講義資料に書き込むこと。（0.5時間）	
	第2～3回	看護過程とは、ヘンダーソンが考える看護 看護過程とは（看護過程の構成要素、看護過程と問題解決法、クリティカルシンキング、リフレクション、看護理論の関係看護過程の変遷、看護診断） V. ヘンダーソンの考える看護（人間、環境、健康、看護の概念枠組み） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（0.5時間）	
	第4～5回	V. ヘンダーソンの看護論と看護過程 ヘンダーソン看護論と看護過程（アセスメントのプロセス、情報収集） 事前学習：テキスト（基礎看護技術Ⅰ）の学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）	
	第6回	事例を通して考える看護過程の展開①（情報収集） 病態を理解する意味、情報収集の視点 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）	
	第7～8回	事例を通して考える看護過程の展開②（アセスメント） 情報のアセスメント（充足・未充足の判断） 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）	
	第9～10回	事例を通して考える看護過程の展開③（アセスメント） 情報のアセスメント（充足・未充足の判断） 看護計画の立案 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）	
	第11～12回	【演習】バイタルサイン 成人患者の基本的なバイタルサイン測定を、仰臥位で安全に実施できることを目的とし、バイタルサイン測定技術の評価を受ける。 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）	
	第13～14回	事例を通して考える看護過程の展開④ 看護計画の立案 事前学習：テキストの学習テーマを熟読し、講義の概略を掴んでおく。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、学習テーマの要点を確認すること。（各回0.5時間）	
	第15回	まとめ 事前学習：これまでの学習テーマを振り返り、看護過程のプロセスを把握しておくこと。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、授業資料の内容を見返して、生活支援実習で活用できるように整理しておく	

	くこと。（各回0.5時間）
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2025. 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2025. T.ヘザー・ハードマン，上鶴重美，カミラ・タカオ・ロペス：NANDA -Ⅰ看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第13版，医学書院，2025.
参考書・参考資料等	※講義時、随時紹介
学生に対する評価	①レポート50%（課題1:10%、課題2,3:40%） ②小テスト20% ③バイタルサイン30%（リフレクションレポート含む）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時可（月～金）
備考	オリエンテーション時、担当教員から伝達します。 必要時、各担当教員に事前に予約を取ってください。

講義科目名称： 診療・検査に伴う看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
蔵屋敷 美紀・藤本 ひとみ			
講義・演習		064007LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	診療・検査を受ける過程における看護師の役割を理解し、専門的な診療の補助と意義、および技術を安全・安楽に提供するために必要な知識を学習する。		
授業の概要	病気の検査や治療を受ける患者への援助は、看護師の重要な役割であり、正確性・安全性・安楽性、さらには高い倫理観が求められる。患者が安心して医療を受けることができるように必要な知識、技術、態度について教授する。 内容は、呼吸・循環など生命維持に必要な看護技術、創傷管理、感染予防技術、検査時における看護師の役割等であり、人体の構造や疾病を看護の視点で考え、看護が実践できるように、講義や演習を通して教授する。		
授業計画	第1～2回	創傷管理技術 ・創傷治癒過程 ・褥瘡の成り行きと治療 ・包帯法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）	第3～6回 呼吸管理技術 ・酸素吸入療法 ・人工呼吸療法 ・排痰ケア 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第7～8回 生体検査 ・看護師の役割 ・X線検査 ・MRI検査 ・内視鏡検査 ・心電図検査 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第9～11回 検体検査 ・排泄物の検査 ・喀痰検査 ・穿刺液の検査（腰椎穿刺、骨髄検査、胸水穿刺、腹水穿刺） ・血液検査（動脈血、静脈血） 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第12回 非経口的栄養摂取の援助技術 ・経管栄養法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第13～14回 排泄援助技術 ・自然排尿ができない患者への援助 ・一時的導尿 ・持続的導尿 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第15回 死の見取りの援助 ・死にいたるまでの過程 ・グリーフケア ・日本文化の葬送儀礼 ・死後の処置 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間）

	事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間）
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2021 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021
参考書・参考資料等	志自岐康子（編）：ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術、メディカ出版、2017 吉田みつ子（監）：基礎看護技術アドバンス、インターメディカ、2016 香春知永（編）：基礎看護技術（改訂第2版）、南江堂、2014 深井喜代子：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社、2016 深井喜代子：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社、2016
学生に対する評価	①小テスト 20% ②定期試験 80% ①②の評価を加算して最終評価とし、60点未満の場合は再試験対象とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9：00～17：00までの在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 薬物と看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
蔵屋敷 美紀・藤本 ひとみ			
講義・演習		064008LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	薬物が身体に与える影響や与薬方法を理解し、患者が安心して薬物療法を受けるための必要な知識、技術について学習する。		
授業の概要	近年の医療には薬物療法が不可欠であり、患者と直接関わる看護師は、薬物が身体に与える影響や与薬方法などについて、高度な知識や判断力が求められる。薬物が患者に適切に与薬され、適切に効果を発揮するまでのプロセスを踏まえ、患者が安心して薬物療法を受けるために必要な知識、技術について教授する。 内容は、薬物療法の意義、年代や病態に応じた薬物療法、内服や注射、点滴などの看護技術等であり、患者が安全・安楽に薬物療法を受けることができるように、講義や演習を通して教授する。		
授業計画	第1～2回 薬物療法の基礎知識 ・薬物動態 ・看護師の役割 ・薬物に関する法律 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第3回 感染予防技術 ・標準予防策 ・個人防護用具の装着 ・衛生的手洗い 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第4～6回 与薬方法 ・経口与薬 ・口腔内与薬 ・点眼法 ・経皮的与薬 ・直腸内与薬 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第7～12回 注射法 ・注射器、注射針の構造 ・注射の準備 ・皮下注射 ・皮内注射 ・筋肉内注射 ・静脈内注射 ・医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ） ・中心静脈栄養法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第13回 輸血管理 ・輸血の基礎知識 ・輸血の副作用 ・援助の実際 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第14～15回 年齢、治療に応じた薬物療法 ・小児、乳児への薬物療法 ・高齢者への薬物療法 ・糖尿病治療薬 ・抗がん剤 ・高カロリー輸液など 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間）		

テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2021 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021
参考書・参考資料等	志自岐康子（編）：ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術、メディカ出版、2017 吉田みつ子（監）：基礎看護技術アドバンス、インターメディカ、2016 香春知永（編）：基礎看護技術（改訂第2版）、南江堂、2014 深井喜代子：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社、2016 深井喜代子：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社、2016
学生に対する評価	①小テスト 20% ②定期試験 80% ①②の評価を加算して最終評価とし、60点未満の場合は再試験対象とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9：00～17：00までの在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 生命を護る看護

授業コード：

英文科目名称： Nursing to save lives

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
蔵屋敷 美紀・藤本 ひとみ			
講義・演習		064009LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	患者の生命や安全を護り、看護ケアの質を高めるために、人間を正しく「見る」ことができる		
授業の概要	患者の最も身近にいる看護師は、観察や医療的判断等の実施により、患者のいのちをまもることが求められる。患者の身体的状態を観察し、病態の変化に気づき、適切な医療につながる行動がとれるために必要な知識、技術、態度について教授する。 内容は、人体の構造と機能を看護に活用する視点、フィジカルアセスメント、気づく力と看護師の行動等であり、講義や演習を通して教授する。		
授業計画	第1回	ヘルスアセスメントの概念 ・必要な技術（問診・視診・触診・打診・聴診） ・患者を正しくみるための方法 ・異常に気づくための能力 ・全体像を把握する必要性 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間）	
	第2～5回	バイタルサインの観察とアセスメント ・体温測定 ・脈拍測定 ・呼吸測定 ・血圧測定 ・バイタルサインの変動因子 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）	
	第6～7回	バイタルサイン測定演習 バイタルサイン測定について、デモンストレーションを見学し、その後個人練習を行う。 事前学習：バイタルサイン測定の手順を復習し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、安全・安楽にバイタルサイン測定が実施できるようになるまで、自己練習すること。（各回0.5時間）	
	第8～9回	呼吸困難患者のアセスメント ・COPDの病態生理 ・呼吸器系のフィジカルアセスメント ・看護につなぐための方法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること。呼吸器系の解剖生理、COPDの病態を予習しておくこと。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）	
	第10～11回	胸痛を訴える患者のアセスメント ・心筋梗塞の病態生理 ・循環器系のフィジカルアセスメント ・看護につなぐための方法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること。循環器系の解剖生理、心筋梗塞の病態を予習しておくこと。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）	
	第12～13回	腹痛を訴える患者のアセスメント ・イレウスの病態生理 ・消化器系のフィジカルアセスメント ・看護につなぐための方法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること。消化器系の解剖生理、イレウスの病態を予習しておくこと。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）	
	第14～15回	意識障害患者のアセスメント ・くも膜下出血の病態生理 ・脳神経運動系のフィジカルアセスメント ・看護につなぐための方法	

	事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること。脳神経系の解剖生理、くも膜下出血の病態を予習しておくこと。（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2021 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021 横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社、2019
参考書・参考資料等	岡庭豊：フィジカルアセスメントがみえる、メディックメディア、2015 守田美奈子：看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス、インターメディカ、2016 藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研、2010 大久保暢子：日常生活行動からみるヘルスアセスメント、日本看護協会出版会、2016 堺章：目でみるからだのメカニズム、医学書院、2016 菱沼典子：改訂版 看護形態機能学 生活行動からみるからだ、日本看護協会出版会、2017
学生に対する評価	①疾患の病態生理についてのレポート、授業前小テスト 20% （慢性閉塞性肺疾患、心筋梗塞、イレウス、くも膜下出血） ②バイタルサイン測定技術チェック 10% ③定期試験 70% 上記①～③の評価を合わせて最終評価とする。この最終評価で60点未満の場合、再試験の対象となる。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9：00～17：00までの在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 看護管理

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	【必修】看護
担当教員			
永岩里美・吉江由加里			
講義		064010L4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 組織、マネジメントに関する考え方を理解できる。 2. 看護管理の対象と看護管理者の役割を説明できる。 3. 看護の質保証のための看護管理者の役割と機能を説明できる。 4. 医療・看護の質保証の観点から医療事故防止について説明できる。 5. 専門職として継続教育、キャリア開発の必要性について説明できる。 6. 医療・看護を取り巻く法律・諸制度について説明できる。		
授業の概要	医療、看護を取り巻く環境をふまえ、社会のニーズに対応した質の高い看護実践を行うために必要な看護マネジメントの機能について教授する。 具体的には、看護を取り巻く諸制度、看護サービスマネジメント、看護における人材育成、看護ケアマネジメントである。		
授業計画	第1回	社会の変化と看護職の役割、協働：他者と共に活動すること（担当：吉江） 1) 日本の看護職が活躍する多様な場を知り、少子高齢化、多様化が進む社会の中で看護職が果たす役割を考えよう。 2) 他者と協働し、チームを効果的に機能させるために、チームをとらえる視点を理解しよう。 3) リーダーシップ、フォロワーシップを理解し、チームへの貢献を考えることができるようになるろう。 4) 看護職、医療専門職として、チームで協働するためのスキルについて学ぼう。	
	第2回	事前学習：テキスト、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて学習内容を整理し、理解を深める（2時間）。 看護マネジメントとは（担当：吉江） 1) 看護マネジメントとは、なんのために（目的）、何をどのように行うことか（活動内容と方法）を説明することができるようになるろう。 2) 看護マネジメントのプロセスを説明することができるようになるろう。 3) 効率性と効果性の概念を理解し、看護実践の現場で効率性と効果性を高める方法を説明することができるようになるろう。	
	第3・4回	事前学習：テキスト、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて学習内容を整理し、理解を深める（2時間）。 組織で取り組む看護活動（担当：永岩） 1) 組織として看護を提供する意味を理解しよう。 2) 組織図の意味を理解しよう。 3) 組織を発展させ、人を活かす管理の方法を理解しよう。 4) 看護提供システムの特徴と、看護サービスの質の向上にどのように寄与するのかを理解しよう。 5) サービスマネジメントの概念を理解しよう。 6) ヒト、モノ、カネ、情報などの資源とその活用について、サービスマネジメントを通して理解しよう。 7) 看護師の労働衛生・安全についてのポイントを理解しよう。	
	第5・6回	事前学習：テキスト、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて学習内容を整理し、理解を深める（2時間）。 看護の質向上のための取り組み（担当：永岩） 1) 看護倫理を看護組織の課題としてとらえる視点を身に付けよう。 2) 医療安全の基本的な概念と組織として取り組むべきことを理解しよう。 3) 医療・看護の質の概念を理解し、その測定方法を、国内外の動向も踏まえ、整理して理解しよう。 4) 組織変革に関する理論やアプローチ法を理解しよう。	
	第7回	事前学習：テキスト、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて学習内容を整理し、理解を深める（2時間）。 業務のマネジメント（担当：吉江） 1) 看護業務の特性と計画策定の重要性を理解しよう。 2) 組織として看護サービスを提供する上で必要となる知識と行動について理解しよう。 3) チームメンバーとの情報共有の方法を理解しよう。 4) 報告・連絡・相談を効果的に行う方法を理解しよう。 5) 多重課題の遂行においての留意点を理解でき、優先順位の決定のための思考方法を理解しよう。 6) 業務遂行上の情報管理の必要性和要点を理解しよう。	
		事前学習：テキスト、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（2時間）。	

	時間)。 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて学習内容を整理し、理解を深める（2時間）。 看護専門職とキャリア 1) 社会人になるということはどういうことかを理解しよう。 2) 生涯学習を継続していく上で、利用可能な教育資源を知ろう。 3) 看護職のキャリアについて知ろう。 4) 看護専門職としてキャリアを重ね成長し続けるために必要なことを考えよう。 事前学習：テキスト、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて学習内容を整理し、理解を深める（2時間）。
テキスト	吉田千文ほか：ナースিং・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理，メディカ出版，最新版
参考書・参考資料等	適宜紹介する。
学生に対する評価	定期試験80％、レポート20％ 計100％ ①レポート、筆記試験による総合評価とする。 ②定期試験は、到達目標の達成状況を確認するために客観式及び論述式の問題とする。教科書、ノート等の資料の持ち込みはできない。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時対応可（メールでの対応も可能）
備考	臨床において看護管理の経験を有しており、その経験をふまえて教授する。

講義科目名称： 看護と医療安全

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
蔵屋敷 美紀・橋元 千鶴			
講義		064011L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 地域および病院・各種保健施設内において発生する感染症の概要と問題、その発生時の対処方法と予防策について説明できる。 2. 感染予防にかかわる看護の役割と責任及び組織管理について説明できる。 3. 医療の質保証のための組織的な医療安全対策について説明できる。 4. 事故発生のメカニズムと医療機関・在宅看護における安全対策について説明できる。 5. 事件事例を通して医療安全に対する実践的知識を習得する。 6. 医療現場における危機を予知し、危機を回避する行動について理解できる。
授業の概要	医療の質保証・向上につなげるためには、医療安全を保証することが重要である。医療安全の根幹となる原理・原則、ノンテクニカルスキル、失敗から学ぶ姿勢、レジリエンス力について教授する。また、医療関連感染対策は、患者の安全を守ることに直結することから、地域および病院・各施設内において発生する感染症のメカニズムや予防策、感染予防に関わる看護師の役割と責任、および組織管理について教授する。 これらのことを理解したうえで、実習や看護の現場で起こりうる医療事故について、事例を通して、患者の安全を守るための思考や行動がとれるように、講義や演習を通して学習する。
授業計画	第1回 医療関連感染の動向とマネジメント ・感染とは ・医療関連感染の動向 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第2回 標準予防策の基本 ・標準予防策 ・感染経路別予防策 ・手指衛生 ・個人防護用具の着脱 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第3回 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 ・洗浄、消毒、滅菌の実際 ・無菌操作の実際 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第4回 職業感染防止対策 ・針刺し、切創、皮膚粘膜汚染リスク ・流行性ウイルス疾患とワクチン接種 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第5～6回 医療機器・処置関連感染防止 ・カテーテル関連血流感染 ・尿道カテーテル関連感染 ・人工呼吸器関連肺炎 ・手術部位感染 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第7回 医療施設における感染管理① ・組織で行う感染管理（チーム医療） ・感染発生時の対応 ・アウトブレイク管理 ・感染管理認定看護師の役割 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第8回 医療施設における感染管理②（感染管理認定看護師：橋元） ・感染症パンデミックの対応

	・医療従事者としての基本的姿勢 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第9回 医療安全の概念と医療安全推進 ・医療安全の歴史 ・医療安全推進、対策 ・インシデント ・ヒヤリハット ・ヒューマンエラー ・エラーマネジメント ・クオリティマネジメント ・コンクリートマネジメント 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第10回 医療安全のマネジメント ・医療安全管理体制と基本的な考え方 ・医療事故、インシデントレポートの分析と活用 ・事故発生時の対応 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第11回 ミスを防ぐための対策 ・ダブルチェック ・指差し呼称 ・院内報告制度 ・医療事故の分析方法 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（0.5時間） 第12回 看護の現場で起こりうる医療事故の実例① 療養上の世話場面（入浴・食事・転倒など） 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第13回 看護の現場で起こりうる医療事故の実例② 薬剤関連（過量投与、危険薬、名称類似薬剤） 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第14回 看護の現場で起こりうる医療事故の実例③ チューブ・カテーテル関連 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間） 第15回 看護の現場で起こりうる医療事故の実例④ コミュニケーションエラー、SBAR 事前学習：テキストの該当箇所を熟読し、理解できないところを明確にすること（各回0.5時間） 事後学習：テキスト、講義資料などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深めること（各回0.5時間）
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2021 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021 小林美亜編集：医療安全改訂第2版、学研、2021
参考書・参考資料等	佐藤エキ子編集：看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全、メディカルフレンド社 最新版 川村治子：系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院、最新版 川村治子：医療安全ワークブック、医学書院、最新版 嶋森良子編集：医療安全とリスクマネジメント
学生に対する評価	①レポート：10% ②確認テスト：20% ③定期試験：70% ①②の評価を加算して最終評価とし、60点未満の場合は再試験対象とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9：00～17：00までの在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： キャリア開発入門

授業コード：

英文科目名称： Getting Started with Career Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
吉江 由加里、近藤 やよい、赤尾 和美、北川 加奈子			
講義		064012LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護専門職に必要な社会人基礎力ならびに自己理解、批判的思考について理解し、看護専門職としてのキャリアについて考える。		
授業の概要	実践現場において求められる社会人基礎力と、看護専門職としての役割を理解し、自己理解ならびに批判的思考を重ねながら、今後のキャリア（生き方、働き方）について考えられるよう教授する。		
授業計画	第1回目	看護専門職に必要な社会人基礎力とは、キャリアとは（担当：吉江） 内容：看護専門職に必要な社会人基礎力およびキャリアについて講義をうけ、理解する。	
	第2回目	事前学習：シラバスを確認し、テキストや参考書に目を通しておくこと（2時間）。 事後学習：社会人基礎力を身につけるための大学生活について意識化しておく（2時間）。 自己理解と他者理解（担当：近藤） 内容：自己紹介ならびに他者紹介をワールド・カフェ形式で開催する。	
	第3回目	事前学習：主体的にワールド・カフェに参加できる準備を整えておく（2時間）。 事後学習：自己の強みや今後の課題について明確にしておく（2時間）。 看護の先輩を知る①（担当：渡邊） 内容：様々なフィールドで実践されている先輩方をゲストスピーカーにお招きし、話を聞く。	
	第4回目	事前学習：ゲスト講師の活動について調べ、当日、質問したいこと等を明確にしておくこと。また、メンバーと協力して、ゲスト講師をお迎えする準備を行うこと（2時間）。 事後学習：今後の看護キャリアについて意識化しておく（2時間）。 看護の先輩を知る②（担当：赤尾） 内容：様々なフィールドで実践されている先輩方をゲストスピーカーにお招きし、話を聞く。	
	第5回目	事前学習：ゲスト講師の活動について調べ、当日、質問したいこと等を明確にしておくこと。また、メンバーと協力して、ゲスト講師をお迎えする準備を行うこと（2時間）。 事後学習：今後の看護キャリアについて意識化しておく（2時間）。 思考・表現力を鍛える一書籍の紹介－（担当：近藤） 内容：履修生全員を3つのグループに分け、1グループ20名程度のメンバーで、人の生老病死に纏わるおすすめの本や映画、DVDをPOPと文書を用いて紹介する。他の2グループは、第8回目の看護キャリア発表会の準備を行う。	
	第6回目	事前学習：紹介する書籍・DVDの選択とPOPの作成、紹介文の作成を行う（6時間）。 事後学習：他者のプレゼンを聴き、今後の学修生活に活かす（2時間）。 思考・表現力を鍛える一書籍の紹介－（担当：近藤） 内容：履修生全員を3つのグループに分け、1グループ20名程度のメンバーで、人の生老病死に纏わるおすすめの本や映画、DVDをPOPと文書を用いて紹介する。他の2グループは、第8回目の看護キャリア発表会の準備を行う。	
	第7回目	事前学習：紹介する書籍・DVDの選択とPOPの作成、紹介文の作成を行う（6時間）。 事後学習：他者のプレゼンを聴き、今後の学修生活に活かす（2時間）。 思考・表現力を鍛える一書籍の紹介－（担当：北川） 内容：履修生全員を3つのグループに分け、1グループ20名程度のメンバーで、人の生老病死に纏わるおすすめの本や映画、DVDをPOPと文書を用いて紹介する。他の2グループは、第8回目の看護キャリア発表会の準備を行う。	
	第8回目	事前学習：紹介する書籍・DVDの選択とPOPの作成、紹介文の作成を行う（6時間）。 事後学習：他者のプレゼンを聴き、今後の学修生活に活かす（2時間）。 私の看護キャリアプラン（担当：吉江） 内容：看護キャリアについて資料にまとめ、発表する。	
		事前学習：看護キャリアについて発表するための資料作成など準備を行う（2時間）。 事後学習：他者の看護キャリアについて知り、自己の看護キャリアについて再考し、チューターへ報告する。また、クラスのメンバー1人ひとりが、希望するキャリアを実現するため、みんなで助け合い、協力し合うことの重要性について意識する（2時間）。	
テキスト	無し		
参考書・参考資料等	赤尾和美：この小さな笑顔のために―日本人ナースのカンボジア奮闘日記，フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJA，2008。 三森ゆりか：大学生・社会人のための言語技術トレーニング，大修館書店，2013。 松川絵里他：哲学カフェのつくりかた（シリーズ臨床哲学），大阪大学出版，2014。		
学生に対する評価	定期試験による評価はありません。書籍の紹介（26点）、講演会レポート（16点）、発表会（30点）、グループワーク・講演会等の授業参加態度（28点）で評価します。詳細は、初回講義日に配布される評価表を参照す		

	ること。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義前後ならびにメールでの問い合わせ可能（オリエンテーション時に周知予定）。
備考	

講義科目名称： 看護研究方法

授業コード：

英文科目名称： Methodology of Nursing Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
吉田 美幸・小俣 直人・寺島 喜代子			
講義		064013L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 看護研究の基本的概念や研究方法を学修する。 2. 研究の役割、研究過程および研究のための一連の基礎的知識を修得する。 3. 質的・量的研究の基礎的知識を修得する。 4. 研究論文をクリティークする基礎的能力を修得する。		
授業の概要	看護実践上の疑問や問いを明らかにしていく方法、文献のクリティークの視点、研究計画書作成の基本を教授し、看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲへの基礎とする。その学習過程の中で、看護研究に取り組む基本的態度と基礎的知識を教授する。 授業内容としては、看護における研究の意義と目的、研究デザイン、データ収集方法、文献検討や研究計画書の作成、研究倫理など研究過程の概要である。 (オムニバス方式全15回) (小俣直人/5回) 研究とは何か、その意義や接し方について概観を説明する。また、主に量的研究のデザインやデータの分析方法について教授する。 (吉田美幸/8回うち5回は寺島教員と合同) 主に、質的研究デザインと特徴、質的研究のデータ収集・分析、論文のクリティークについて教授する。また、近田教員とともに、クリティークの実際について演習形式で教授する。 (寺島喜代子/7回うち5回は吉田教員と合同) 主に、看護研究の倫理、研究デザイン、研究計画書の作成について教授する。また、吉田教員とともに、クリティークの実際について演習形式で教授する。		
授業計画	第1回 研究とは何か、研究の目的・意義 (担当：小俣 直人) 内容：研究とは何かについて、研究の種類や目的・意義なども含めて講義を受け、理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする(時間：30分)。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める(時間：30分)。 第2回 文献検索、文献レビュー (担当：小俣 直人) 内容：文献の種類や、文献のデータベースとその検索方法についての講義を受けたうえで、文献をレビューするということの全体像を理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする(時間：30分)。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める(時間：30分)。 第3回 文献の読み方 (担当：小俣 直人) 内容：文献(特に論文)の構成に関する講義を受け、クリティークの概略も含めた文献の読み方について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする(時間：30分)。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める(時間：30分)。 第4回 看護研究の倫理 (担当：寺島 喜代子) 内容：人を対象とする研究における研究倫理や研究者倫理に関する講義を受け、理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする(時間：30分)。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める(時間：30分)。 第5回 研究デザイン・研究計画書 (担当：寺島 喜代子) 内容：リサーチクエスションに応じた研究デザインならびに研究計画書に記載すべき内容についての講義を受け、理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする(時間：30分)。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める(時間：30分)。 第6回 量的研究デザインと特徴 (担当：小俣 直人) 内容：科学的根拠の強さに応じてどのような量的研究がどのようにデザインされているかについ		

	て講義を受け、理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。
第7回	量的研究の分析 （担当：小俣 直人） 内容：記述統計の概説や統計的仮説検定の流れに関する講義を受け、量的データがどのように分析されるかについて理解する。
第8回	事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 質的研究デザインと特徴 （担当：吉田 美幸） 内容：質的研究デザインと特徴（質的研究とは、質的研究デザインの特徴、質的研究における信憑性の基準、質的研究デザインの種類）について講義を受け、理解する。
第9回	事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 質的研究のデータ収集・分析 （担当：吉田 美幸） 内容：質的研究のデータ収集（データの収集、インタビューデータの収集、観察データの収集）および、質的データの分析について講義を受け、理解する。
第10回	事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 論文のクリティーク （担当：吉田 美幸） 内容：文献の読み方・クリティークについて講義を受け、理解する。
第11回	事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 クリティーク演習GW①：量的研究論文 （担当：寺島 喜代子・吉田 美幸） 内容：グループに分かれ、事前学修した量的研究論文に対するクリティークを発表しあい、クリティーク内容について討議し、理解を深める。
第12回	事前学習：個人で、教員が指定した量的研究論文をクリティークするとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。クリティーク資料は、2部準備し、1部は授業開始時に教員に提出する。 事後学習：テキスト、資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 クリティーク演習GW②：質的研究論文 （担当：吉田 美幸・寺島 喜代子） 内容：グループに分かれ、事前学修した質的研究論文に対するクリティークを発表しあい、クリティーク内容について討議し、理解を深める。
第13回	事前学習：個人で、教員が指定した質的研究論文をクリティークするとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。クリティーク資料は、2部準備し、1部は授業開始時に教員に提出する。 事後学習：テキスト、資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 クリティーク演習GW③ （担当：吉田 美幸・寺島 喜代子） 内容：グループで、教員が指定した1論文についてクリティークをする。
第14回	事前学習：グループメンバーで、教員が指定した論文リストの中から1論文選択する。各自で、医中誌、メディカル・オンラインなどから文献検索し、選択した論文を入手する。各自で、論文を熟読し、グループ内で意見を発表できるよう準備する（時間：30分）。 事後学習：グループメンバーでまとめたクリティーク内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 クリティーク演習GW④ 発表 （担当：吉田 美幸・寺島 喜代子） 内容：グループで担当した論文クリティークを発表しあい、クリティーク内容について討議し、理解を深める。
第15回	事前学習：グループメンバーで発表資料の作成および、発表内容の検討をする。また、各自で、他グループの発表資料を熟読し、理解できないところを明確にしておく（時間：30分）。 事後学習：発表された各グループの内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 クリティーク演習GW⑤ 発表 （担当：吉田 美幸・寺島 喜代子） 内容：グループで担当した論文クリティークを発表しあい、クリティーク内容について討議し、

	理解を深める。 事前学習：グループメンバーで発表資料の作成および、発表内容の検討をする。また、各自で、他グループの発表資料を熟読し、理解できないところを明確にしておく（時間：30分）。 事後学習：発表された各グループの内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。
テキスト	坂下玲子他：系統看護学講座 別館 看護研究、医学書院
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	定期試験 吉田20%、寺島20%、小俣20% 演習課題（レポート・受講態度） 40%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜日17：00で随時対応します。
備考	医師、看護師の実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 看護研究Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
寺島喜代子・北川敦子・吉田美幸・吉江由加里・猪口徳一・油野規代・青井利哉・藤本ひとみ・蔵屋敷美紀・駒田裕司・近藤やよい・北川加奈子・奥田豊子・八杉朱美・前川弓枝・今井田真実			
演習		064014S3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	学生が臨地実習やこれまでの学習等から看護に関する研究テーマを選定し、看護研究活動を通して看護に必要とされる問題解決方法を習得する。そのために看護研究の目的と意義を明らかにし、文献検索および文献検討の実際、研究計画書の作成に至るまでの看護研究活動の一連のプロセスを修得することを目的とする。 1. 看護研究方法のプロセスが理解できる 2. 臨地実習で発見した疑問、課題について記述できる 3. 質的および量的研究論文をクリティークし、プレゼンテーション、ディスカッションをすることができる 4. 選択した研究領域の文献検索・収集・クリティーク、文献カードを作成することができる		
授業の概要	看護研究方法で学んだ知識をもとに、学生の臨地実習の体験や看護学の学修から、学生自身が興味や関心を持った看護に関するテーマを選定し、文献を検索し検討する。 看護学の領域あるいは関心のあるテーマの共通性から学生の希望に沿ったグループを作成し、各指導教員とともに、収集した既存の研究論文について、演習を中心としてクリティークし、文献検討の結果をまとめることにより、看護研究への関心と理解を深め、自らが探求していく能力を養う。		
授業計画	第1回 ガイダンス（担当：科目責任者） 内容：興味・関心のある研究領域でグループを決定 看護研究の全体像（授業計画）、評価の説明 事前学習：臨地実習での体験や看護学の学修から学生自身が興味や関心を持った疑問を考える。 事後学習：ガイダンスの内容を整理し、学修の進め方を理解する。 第2～13回 研究疑問の精錬化（演習） 以下のStepに沿って自身の研究疑問を個人ワークおよびゼミでのディスカッションを通して精錬し、研究課題（研究目的）につなげる。 〈Step1〉自身の動機（関心ある疑問・課題）を考える。 〈Step2〉文献検索：自身の動機に対する情報を調べる。 〈Step3〉文献クリティーク：得られた情報を吟味して、今回調べて分かったことをまとめる。 〈Step4〉文献整理：そのテーマで「現在分かっていること」と「分かっていないこと」を明らかにする。 〈Step5〉仮の研究課題：未だ「分かっていないこと」の中から、これが分かればいいのにと考えることを整理する。 事前学習：自身の研究疑問の文献検索・クリティーク・文献カード作成を計画的に行う。 学習内容で理解できない箇所を明確にする。 事後学習：毎回のゼミで学修した内容を整理し、理解を深める。 第14～15回 4年生の研究発表会に参加する。（演習） 事前学習：4年生の研究計画書を読み、理解できない箇所を明確にする。 事後学習：4年生の全体発表会で学習した内容を整理し、自身の研究計画書作成に活かす。 定期試験 なし		
テキスト	看護研究方法で使用したテキストを活用する		
参考書・参考資料等	看護研究方法で使用したテキストや参考図書 参考文献は適宜紹介する		
学生に対する評価	演習・グループワーク100% 配点の詳細については、オリエンテーション時に説明する。		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	各担当教員が在室時は随時対応する		
備考	看護研究として取り組むテーマ・領域を3年後期の領域別実習開始までに決定する。 担当教員は、研究業績を有しており、その業績に基づいて教授する。		

講義科目名称： 看護研究Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	2	【必修】看護
担当教員			
寺島喜代子・北川敦子・吉田美幸・吉江由加里・猪口徳一・油野規代・青井利哉・藤本ひとみ・蔵屋敷美紀・駒田裕司・近藤やよい・北川加奈子・奥田豊子・八杉朱美・前川弓枝・今井田真実			
演習		064015S4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	学生が臨地実習やこれまでの学習等から看護に関する研究テーマを選定し、看護研究活動を通して看護に必要とされる問題解決方法を習得する。そのために看護研究の目的と意義を明らかにし、文献検索および文献検討の実際 、研究計画書の作成に至るまでの看護研究活動の一連のプロセスを修得することを目的とする。 1. 研究テーマを明確にすることができる 2. 研究におけるデザイン、データ収集方法、倫理的配慮等について検討できる 3. 研究計画書が作成できる 4. 研究計画書をプレゼンテーション、ディスカッションすることができる 5. 自己の看護の課題について明らかにし、解決方法を理解することができる看護研究方法のプロセスが理解できる		
授業の概要	看護研究Ⅰの成果を活かし、研究テーマを明らかにし、研究方法を検討し、研究計画書を作成する。 各担当教員の指導を受けながら、学生自らが、研究計画書作成に向けて、テーマに関連する文献を精緻に調べ、自身の研究テーマを明確にし、テーマに沿って研究デザイン、データ収集方法、分析、倫理的配慮等の研究方法を検討した研究計画書を作成する。		
授業計画	第1～10回 研究課題の決定（演習） 看護研究Ⅰで行った研究疑問の精錬化のStepを繰り返し、本研究における研究課題（研究目的）を決定する。 〈Step1〉自身の動機（関心ある疑問・課題）を考える。 〈Step2〉文献検索：自身の動機に対する情報を調べる。 〈Step3〉文献クリティーク：得られた情報を吟味して、今回調べて分かったことをまとめる。 〈Step4〉文献整理：そのテーマで「現在分かっていること」と「分かっていないこと」を明らかにする。 〈Step5〉研究課題を決定する。 事前学習：研究課題決定に向けて、文献検索・クリティーク・文献カード作成を計画的に行う。 事後学習：毎回のゼミで学修した内容を整理し、理解を深める。 第11～25回 研究計画書作成（演習） 執筆要領に基づき研究計画書を作成する。 ゼミでのディスカッションを通して以下の内容について検討する。 〈はじめに〉研究の必要性について、先行文献を整理しその根拠を論理的に述べられているか。 〈研究方法〉再現性が保証された研究方法であるか。 対象：研究対象の属性や選出方法、選定基準などの明記 調査内容：研究目的との一貫性 データ収集方法：再現性の確保のための方法 分析方法：研究デザインとの関連性 倫理的配慮：倫理原則に基づいた擁護する権利の明記 〈引用文献〉執筆要領に基づいた文献の示し方 事前学習：研究計画書作成を計画的に行う。 作成過程で理解できない箇所を明確にする。 事後学習：毎回のゼミで検討した内容を理解し、その内容を活かし研究計画書を修正する。 第26～28回 研究計画書発表（演習） 規定された時間内で研究動機、研究目的、研究方法を伝える。 会場からの質問に対し、質問の意図を理解し回答する。 事前学習：規定された時間内に研究動機、研究目的、研究方法が伝えられるよう発表練習を行う。 想定される質問に対し準備を行う。 事後学習：研究計画書発表の質問に対し、内容を再考し必要時修正を行う。 まとめ（研究計画書の修正）（演習） 事前学習：研究計画書発表の質問に対し、内容を再考し必要時修正を行う。 第29～30回 定期試験 なし		
テキスト	看護研究方法で使用したテキストを活用する。		
参考書・参考資料等	看護研究方法で使用したテキストや参考図書 参考文献は適宜紹介する。		
学生に対する評価	演習・グループワーク100% 配点の詳細については、オリエンテーション時に説明する。		

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	各担当教員が在室時は随時対応する。
備考	担当教員は、研究業績を有しており、その業績に基づいて教授する。

講義科目名称： 女性のライフサイクルと看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
小笹 幸子			
講義		064101L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人々のリプロダクティブ・セクシュアルヘルス/ライツのための看護および女性とそのパートナー・子どもの健康障害の予防、健康の保持・増進にむけた看護について理解する。		
授業の概要	リプロダクティブ・セクシュアルヘルス/ライツの概念とその実現のための看護、女性のライフサイクルにおける各期の特徴と健康課題の予防と看護、女性とパートナー・子どもを取り巻く社会や保健の動向および課題と法律・施策、女性や子どもの成長や子供との関係形成に関連する主要理論等について学習する。		
授業計画	第1回 授業予定、授業内容、男女の生殖器の形態と機能 事前学習 解剖生理学で学習した男女の生殖器の構造と性ホルモンについて確認する（30分） 事後学習 女性の生殖器の構造と性ホルモンの分泌機構について整理する（30分） 第2回 女性の性周期の調節機序と生殖器の周期性変化 月経異常 月経随伴症状の異常 月経困難症 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 月経周期とその異常、性ホルモンによる周期性変化について整理する（30分） 第3回 女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルス/ライツ プレコンセプションケア ヘルスプロモーション 事前学習 ライフサイクルとその課題、ヘルスプロモーションについて確認する（30分） 事後学習 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と課題について整理する（30分） 第4回 性の多様性 妊娠の成立 胎児の性分化 セクシュアルヘルス/ライツ 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 妊娠の成立と胎児への発育・性の分化について整理する（30分） 第5回 思春期の特徴・健康問題と看護 月経異常 若年妊娠への支援 性感染症とその予防 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第6回 生殖器の悪性腫瘍の予防・早期発見と看護 喫煙が女性の健康に及ぼす影響 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第7回 不妊治療と看護 高度生殖補助医療 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第8回 DVの発見と看護 DV被害女性への支援 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第9回 更年期・老年期の特徴・健康問題と看護 更年期症状 骨粗鬆症 尿失禁 性器脱 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第10回 日本と世界の母子保健統計の動向と課題 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第11回 家族計画と受胎調節の方法 人工妊娠中絶と看護 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第12回 乳幼児・児童虐待とその予防 外国人母子への支援 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第13回 日本社会とライフコースの変化 少子化と関連施策法規 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第14回 母子保健に関連する施策と法規 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 第15回 遺伝性疾患・先天異常の出生前診断と生命倫理 授業のまとめ 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する（30分） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する（30分） 定期試験		
テキスト	森 恵美：系統看護学講座，専門分野，母性看護学概論，母性看護学1 医学書院 厚生統計協会編：国民衛生の動向，厚生統計協会		
参考書・参考資料等	授業中に紹介します。		

学生に対する評価	筆記試験60% 講義中の小テスト30%レポート10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義前後いつでも可能です。
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 母子の健康と看護Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
北川 加奈子・前川弓枝			
講義		064102L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	周産期における妊産褥婦の身体・心理・社会的変化と特徴および胎児・新生児の成長・発育とその看護、家族の心理・社会的変化と発達について理解する。
授業の概要	妊婦・産婦の生理的な経過や胎児の成長発達、起こりやすい健康問題についての予防的な看護および、褥婦・新生児の生理変化と適応の特徴と家族の変化を踏まえた看護や生活・育児支援, さらに、ハイリスク妊娠、妊娠合併症・合併症妊娠、異常分娩・産褥、ハイリスク新生児と新生児の異常の看護について学習する。
授業計画	第1回 妊娠期の母体の生理的变化 妊婦・家族の心理・社会的特性 事前学習 妊娠の成立についてテキスト等で確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第2回 妊娠経過のアセスメント 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第3回 胎児の発育と健康状態のアセスメント 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第4回 妊婦と母子保健サービス 妊婦の日常生活と保健相談 親準備教育 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第5回 分娩の要素と分娩経過のアセスメント 産婦・家族の看護 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第6回 新生児の胎外生活適応と健康状態のアセスメント 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第7回 新生児の看護 出生直後の看護 出生後から退院までの看護 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第8回 産褥経過のアセスメント 産褥期の生理的变化 身体的変化 心理的变化 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第9回 褥婦と家族の看護 セルフケア 育児への支援 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第10回 ハイリスク妊娠・合併症妊娠・妊娠合併症と看護1 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第11回 ハイリスク妊娠・合併症妊娠・妊娠合併症と看護2 事前学習 前回の学習内容及び疾病論の配布資料等含め、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第12回 分娩の異常・産科処置・異常分娩と看護 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第13回 帝王切開時の看護 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第14回 新生児の異常と看護 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 第15回 産褥の異常と看護 授業のまとめ 事前学習 前回の学習内容を配布資料、テキストで確認する (30分) 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容を整理する (30分) 定期試験
テキスト	森 恵美：系統看護学講座，専門分野，母性看護学各論，母性看護学2医学書院
参考書・参考資料等	授業中に紹介します。
学生に対する評価	筆記試験70％ 講義中実施する小テスト等30％
課題（試験やレポート）	在室中いつでも可能です。

等) に対応するフィードバックの方法	
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 母子の健康と看護Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
北川加奈子・前川弓枝			
演習		064103L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	周産期における母子の健康状態をアセスメントする方法や母性看護に必要な援助技術について理解する。		
授業の概要	妊婦・産婦・褥婦・新生児の健康状態についての母性特有の情報収集（観察）・アセスメントに基づく、看護過程の展開について学習する。 母性看護学実習に必要な援助技術について学習する。		
授業計画	第1回	妊婦・産婦・褥婦、胎児・新生児の健康状態のアセスメントの視点と情報収集 事前学習 看護過程の展開について確認する（2時間） 事後学習 母性看護学の看護過程の展開のアセスメントの視点と必要な情報について整理する（2時間）	
	第2回	妊婦健診の意義と方法 母体の計測と触診 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第3回	超音波診断による胎児の発育の評価 胎児心音の聴取・モニタリング 母子健康手帳の活用 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第4回	妊婦体験ジャケット 妊婦体操 親準備教育 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第5回	出産環境の調整 産痛緩和方法の実際 胎児附属物の観察 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第6回	出生直後の新生児の計測と観察 新生児のフィジカルアセスメント 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第7回	新生児のおむつ交換・沐浴 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第8回	褥婦の子宮底の測定 乳房乳頭の観察 授乳方法ポジショニング 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第9回	母性看護過程の展開 妊婦・褥婦・新生児の情報収集と情報の分類 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第10回	事例展開演習 褥婦・新生児の情報収集とアセスメント1 事前学習 本シラバス内容について、母子の健康と看護Ⅰの配布資料、テキストを確認する（2時間） 事後学習 履修したことについて自分が理解した内容や技術を整理する（2時間）	
	第11回	事例展開演習 褥婦・新生児の情報収集とアセスメント2 事前学習 第1回の母性看護学の看護過程の展開の特徴について確認する（2時間） 事後学習 事例の看護過程の展開、情報の整理とアセスメントをする（2時間）	
	第12回	事例展開演習 褥婦・新生児の情報収集とアセスメント3 事前学習 看護過程の展開の疑問点とポイントを確認する（2時間） 事後学習 事例の看護過程の展開、情報の整理とアセスメントをする（2時間）	
	第13回	事例展開演習 褥婦の事例展開 関連図の作成 看護計画の作成 事前学習 看護過程の展開の疑問点とポイントを確認する（2時間） 事後学習 事例の看護過程の展開、アセスメントから関連図を作成する（2時間）	
	第14回	事例展開演習 新生児の事例展開 看関連図の作成 看護計画の立案 事前学習 看護過程の展開の疑問点とポイントを確認する（2時間） 事後学習 事例の看護過程の展開、アセスメントと関連図から看護計画を作成する（2時間）	
	第15回	褥婦・新生児の看護計画 事例演習のまとめ 事前学習 看護過程の展開の疑問点とポイントを確認する（2時間） 事後学習 事例の看護過程の展開から理解した内容を整理し、実習に活用できるようにする（2時間）	

テキスト	森 恵美：系統看護学講座，専門分野，母性看護学各論，母性看護学2医学書院，
参考書・参考資料等	授業中で紹介します。
学生に対する評価	筆記試験40％ 演習課題及び事例展開レポート60％
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室中いつでも可能です。
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、演習・講義で教授する。

講義科目名称： 子どもの成長発達と看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
吉田 美幸			
講義	養護教諭対象科目		064104L2NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 医療・看護における子どもの人権について説明できる。 2. 子どもの健やかな発達を支える法・施策について説明できる。 3. 子ども、親・家族、また子どもを取り巻く環境との相互作用を理解するための理論を学ぶ。 4. 子どもの成長発達的一般性・共通性、成長発達の評価方法、および支援について述べるができる。 5. 子どもの発達段階の特徴とそれに応じた日常生活援助について述べるができる。		
授業の概要	成長発達過程にある子どもの特徴とヘルスプロモーションを踏まえて子どもの看護の基盤となる知識について教授する。 小児看護学の変遷、小児保健の動向、子どもの権利、小児看護の特徴と理念、子どもの成長・発達と養育及び看護、子どもの生活環境や発達に関連した健康問題や課題について理解することを目標とする。		
授業計画	第1回	小児看護の特徴と理念 内容：小児看護の対象、小児看護の目標と役割、子ども観の変遷、小児医療・小児看護の変遷、小児看護の課題、小児医療における子どもの権利 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第2回	小児看護と法律・施策 内容：子どもと家族を取り巻く社会環境、母子保健施策、子どもの福祉 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第3回	小児看護で用いられる概念と理論 内容：発達段階と発達課題、発達理論、親子関係論、家族理論 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第4回	子どもの成長発達1 内容：成長発達の原則・影響要因、子どもの形態的成長 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第5回	子どもの成長発達2 内容：子どもの機能的発達、成長発達の評価方法 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第6回	乳児期の発達の特徴 内容：Ⅰ. 新生児期の形態的特徴、身体生理の特徴 Ⅱ. 乳児期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、運動機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第7回	幼児期の発達の特徴 内容：幼児期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能、基本的生活習慣の獲得 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第8回	学童・思春期の発達の特徴 内容：Ⅰ. 学童期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、感覚・運動機能、知的機能、社会機	

	能 Ⅱ．思春期の子どもの形態的特徴、身体生理の特徴、知的機能、情緒的発達、自我発達、社会性の発達、性的傾向 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。
テキスト	奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①、医学書院。 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生統計協会
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	定期試験 70% レポート 30%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日～金曜日の9：00～17：00に随時対応いたします。
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

講義科目名称： 子どもの健康障害と看護Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
吉田 美幸			
講義	養護教諭対象科目	064105L2NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護について説明できる。 2. 各病期にある子どもとその家族への看護の特徴について説明できる。 3. 健康障害を持つ子どもとその家族に対して紙上で看護過程を展開し、看護展開の一連のプロセスを述べられる。
授業の概要	子どもの成長発達に関する基礎知識を基に、病気や障がいを持つ子どもとその家族への看護について教授する。 疾病・障がいを持つ子どもと家族の看護、子どもの疾病の経過と看護、生活制限のある子どもと家族の看護、疾病の症状を示す子どもへの看護、入院・外来・在宅における看護、NIC・GCUの看護、災害時の看護、子どもの虐待とその看護について理解することを目標とする。
授業計画	第1回 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護 内容：健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護について講義を受け、理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第2回 子どもによくみられる症状のアセスメントと看護Ⅰ（GW） 内容：グループごとに分担された子どもによくみられる症状と看護について学修し理解する。本時では、担当課題について、事前に個人学修したレポートを持参し、グループメンバーで共有し理解しまとめる（GW）。授業終了時にまとめたレポートを提出する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読する。割り当てられた症状について、各自でレポートし、授業開始時に提出する（時間：30分）。 事後学習：授業終了時に提出したGWレポート内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 子どもによくみられる症状のアセスメントと看護Ⅱ（GW発表） 内容：子どもによくみられる症状のアセスメントと看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁、配布された資料を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第4回 子どもによくみられる症状のアセスメントと看護Ⅲ（GW発表） 内容：子どもによくみられる症状のアセスメントと看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁、配布された資料を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第5回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護Ⅰ：急性期にある子どもと家族の看護 内容：急性期にある子どもと家族の看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第6回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護Ⅱ：周手術期にある子どもと家族の看護 内容：周手術期にある子どもと家族の看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第7回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護Ⅲ：慢性期にある子どもと家族の看護 内容：慢性期にある子どもと家族の看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第8回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護Ⅳ：終末期にある子どもと家族の看護 内容：子どもの生命・死についての捉え方、終末期にある子どもと家族の看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確

	にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第9回 外来における子どもと家族への看護、低出生体重児とその家族への看護、心身障がいのある子どもとその家族への看護 内容：外来における子どもと家族への看護、低出生体重児とその家族への看護、心身障がいのある子どもとその家族への看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第10回 在宅における子どもと家族への看護、災害を受けた子どもと家族への看護 内容：在宅における子どもと家族への看護、災害を受けた子どもと家族への看護について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第11回 マルトリートメント：子どもの虐待とその看護 内容：子ども虐待の概要と現状及びそれにかかわる看護職の役割について理解する 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第12回 事例による看護の展開：子どもと家族の紹介 内容：事例に対して、看護過程を用いた看護展開を理解する。（オリエンテーション、アセスメントの枠組み、事例紹介、疾患と治療の捉え方） 事前学習：既習の知識（疾患、病態生理、治療方法、合併症などの疾患の特徴、検査及び検査データの基準値、成長発達の水準、子どもと家族のライフサイクル、各発達段階における子どもと家族の発達課題など）をもとに、健康障害を有して入院する子どもの看護について、看護過程を用いて学修する。したがって、演習までにこれらの知識を再確認し、不足するものは学修しておく（時間：30分）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第13回 事例による看護の展開：関連図・分析（GW） 内容：グループで、事例に対して情報収集・情報整理、アセスメント、関連図作成を行う。 事前学習：グループで情報収集・情報整理、アセスメント、関連図作成ができるよう準備する。個人課題として、事例に対する情報収集・情報整理、アセスメント、関連図作成をし（2部準備）、授業開始時に1部提出する（時間：30分）。 事後学習：グループで検討し、まとめた内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第14回 事例による看護の展開：看護問題（ニーズ）の抽出・看護計画（GW） 内容：グループで、事例に対して看護問題の抽出・看護計画立案を行う。 事前学習：グループで看護問題の抽出・看護計画立案ができるよう準備する。個人課題として、事例に対する看護問題の抽出・看護計画立案をし（2部準備）、授業開始時に1部提出する（時間：30分）。 事後学習：グループで検討し、まとめた内容を整理し、理解を深める（時間：30分）。 第15回 事例による看護の展開：GWの発表とまとめ 内容：事例に対する看護過程をまとめ、発表する。 事前学習：グループ内で資料を熟読し、発表するための資料作成など準備を行う（時間：30分）。 事後学習：他グループの発表内容について知り、自分たちのグループの内容について再考し、疾病を持つ子どもと家族のライフサイクル、発達課題、生活状況に合わせた看護について理解を深める（時間：30分）。
テキスト	奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①、医学書院 奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②、医学書院
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	定期試験 70% レポート 30%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日～金曜日の9：00～17：00の間で随時対応いたします。 必要時、アポイントを取ってください。
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

講義科目名称： 子どもの健康障害と看護Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
吉田 美幸・荒木 真壽美			
演習		064106L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	小児看護において必要な子どもとその家族への関わり方、アセスメント技術、検査や処置における看護、子どもに起こりやすい事故とその予防について演習を通して理解できる。		
授業の概要	子どもの成長発達に関する基礎知識を基に、子どもの発達や健康の回復・保持増進に向けた支援技術を教授する。 具体的内容は、子どもとその家族への関わり方とコミュニケーション、子どもの特徴や全体像の把握方法・アセスメントに必要な技術、検査・処置を受ける子どもへの看護技術、子どもの心肺蘇生法、子どもに多い事故や外傷とその対処方法や事故防止のための育児指導について理解することを目標とする。		
授業計画	第1回	子どものアセスメント技術（１）（吉田 美幸） 内容：子どもにとっての家族の特徴とアセスメントについて講義を受け理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第2回	子どものアセスメント技術（２）（荒木 真壽美） 内容：子どものコミュニケーションの特徴・方法、バイタルサイン測定方法について講義を受け理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第3回	子どものアセスメント技術（３）（荒木 真壽美） 内容：子どもの身体計測・発達アセスメントについて講義を受け理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第4回	子どものアセスメント技術（４）（荒木 真壽美） 内容：子どものフィジカルアセスメントについて講義を受け理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第5回	検査・処置を受ける子どもの看護（１）（吉田 美幸） 内容：子どもにとっての検査・処置体験、プレパレーションについて講義を受け理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第6回	検査・処置を受ける子どもの看護（２）（荒木 真壽美） 内容：薬物動態と薬用量について講義を受け理解する。経口与薬、注射、輸液療法、抑制、講義を受け子どもの発達段階に合わせた実施方法および注意点について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：GWの内容を整理し理解を深め、発表の準備をする（時間：2時間）。	
	第7回	検査・処置を受ける子どもの看護（３）（荒木 真壽美） 内容：採尿・導尿採血、骨髄穿刺、腰椎穿刺、について講義を受け、子どもの発達段階に合わせた実施方法および注意点について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第8回	検査・処置を受ける子どもの看護（４）（荒木 真壽美） 内容：経管栄養、浣腸、吸引、酸素療法、吸入療法について講義を受け、子どもの発達段階に合わせた実施方法および注意点について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。	

	第9回 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。 検査・処置を受ける子どもの看護基礎技術（技術演習）（吉田 美幸・荒木 真壽美） 内容：学生を2グループに分け、乳児の身体計測、乳児の衣服の着脱、乳幼児のバイタルサイン測定、乳児の採尿、乳幼児の輸液管理について技術演習を行う。 第10回 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。 子どもに起こりやすい事故とその予防、子どもの心肺蘇生法、異物除去、傷の手当（技術演習含む）（吉田美幸） 内容：子どもに起こりやすい事故とその予防について講義を受けるとともに、子どもの心肺蘇生法、異物除去、傷の手当について技術演習を行い理解する。 第11回 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。 子どもの発達段階・疾病および症状に応じた検査・処置への援助（1）：プレパレーション演習GW（吉田美幸） 内容：グループごとに、検査・処置を受ける子どもと家族の事例を理解し、子どもの状況に合わせたプレパレーションを検討する。事例の病態生理、検査・処置内容、子どもの成長発達の特徴について理解し、事例の全体像を理解する。子どもが検査・処置を受けるにあたって起こりうること、気がかりなことを予測する。 第12回 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。 子どもの発達段階・疾病および症状に応じた検査・処置への援助（2）：プレパレーション演習GW（吉田美幸） 内容：グループごとに、検査・処置を受ける子どもと家族の事例を理解し、子どもの状況に合わせたプレパレーションを検討する。第11回の内容を踏まえ、プレパレーションの5段階に沿ったケア計画立案、必要なプレパレーションツールを作成する。また、発表に向けた資料作成、役割分担とロールプレイの準備を行う。 第13回 事前学習：第11回の内容を踏まえ、テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：プレパレーション発表に向けて、資料内容の確認、ロールプレイに向けた準備を行う（時間：2時間）。 子どもの発達段階・疾病および症状に応じた検査・処置への援助（3）：プレパレーション演習発表（吉田美幸） 内容：グループごとに検査・処置を受ける子どもと親へのプレパレーションについて発表する。また、他グループのプレパレーションに対して、質問や意見・感想を発表し、その内容について共有し理解する。 第14回 事前学習：発表の準備をする。また、配布された他グループの資料、テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。 子どもの発達段階・疾病および症状に応じた検査・処置への援助（4）：プレパレーション演習発表（吉田美幸） 内容：グループごとに検査・処置を受ける子どもと親へのプレパレーションについて発表する。また、他グループのプレパレーションに対して、質問や意見・感想を発表し、その内容について共有し理解する。 第15回 事前学習：発表の準備をする。また、配布された他グループの資料、テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。 子どもの発達段階・疾病および症状に応じた検査・処置への援助（5）：プレパレーション演習振り返り（吉田美幸） 内容：演習のプロセス・内容を振り返り、評価する。他のグループからの意見や感想を踏まえ、演習を通して学んだプレパレーションの意義、看護者の役割、自己の課題について整理し、レポートする。それと同時に、グループ内での自己・他者の役割について省察し、協力して実施する重要性に気づく。 定期試験 事前学習：プレパレーションに関するテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読し、実施したプレパレーション内容やGWのプロセスと重ねて振り返り、整理しておく（時間：2時間）。 事後学習：子どもに対するプレパレーションの意義、子どもの状況に合わせたプレパレーション実施の重要性、自己の課題について整理し、理解を深める（時間：2時間）。
テキスト	奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①、医学書院。 奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②、医学書院。 添田恵子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村佳士枝：看護実践のための根拠がわかる小児看護技術、メジカルフレンド社。
参考書・参考資料等	

学生に対する評価	定期試験 60% レポート 40%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日～金曜日の9：00～17：00に随時対応します。
備考	実務経験のある教員による授業科目である

講義科目名称： 思春期健康論

授業コード： 315600A

英文科目名称： Adolescence Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【選択】看護
担当教員			
坂本 理香			
講義・演習		064107L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	思春期の健康問題と健康教育の必要性について理解する。		
授業の概要	思春期の定義や身体的・心理的特徴、思春期に出現しやすい健康問題および保健予防教育について学習する。		
授業計画	第1回	思春期とは何か 事前学習 思春期の定義、現代における思春期の特徴についてまとめる（2時間） 事後学習 思春期の性ホルモン分泌と心身の変化について確認する（2時間）	
	第2回	思春期の健康課題と健康問題 1 事前学習 思春期の危機・同一性（アイデンティティ）についてまとめる（2時間） 事後学習 摂食障害、社会不安障害、自傷行為、自殺について考察する（2時間）	
	第3回	思春期の健康課題と健康問題 2 事前学習 思春期世代をとりまく社会的な変化についてニュースを通して確認する（2時間） 事後学習 薬物乱用問題、SNSをめぐる問題、非行、引きこもりについて考察する（2時間）	
	第4回	思春期に考える性と生 1 事前学習 プレコンセプションケアの概念についてまとめる（2時間） 事後学習 人間関係、価値観、人権、文化、セクシュアリティ、ジェンダーの理解について考察する（2時間）	
	第5回	思春期に考える性と生 2 事前学習 暴力と安全確保、健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキルについて考察する（2時間） 事後学習 人間のからだと発達、セクシュアリティと性的行動、性と生殖に関する健康について確認する（2時間）	
	第6回	思春期の健康教育演習 1 小・中・高校生に対するピア・エデュケーション 事前学習 1～5回の学習内容を確認する（2時間） 事後学習 ピア・エデュケーションで取り上げたい内容を決め、情報を集める（2時間）	
	第7回	小・中・高校生に対するピア・エデュケーション内容発表 相互評価 1 事前学習 1～5回の学習内容を確認する（2時間） 事後学習 作成したピア・エデュケーションの指導案を自己評価する（2時間）	
	第8回	小・中・高校生に対するピア・エデュケーション内容発表 相互評価 2 授業のまとめ 事前学習 1～5回の学習内容を確認する（2時間） 事後学習 作成したピア・エデュケーションの指導案を自己評価する（2時間） 定期試験	
テキスト	特に指定しない		
参考書・参考資料等	授業で紹介します。		
学生に対する評価	レポート試験50% 演習課題発表評価50%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室中いつでも可能です。		
備考	教育現場（中学校・高等学校）での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。		

講義科目名称： 大人の健康と看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
北川 敦子			
講義		064108LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	大人の健康と看護の理念を基礎として、大人の対象の特性及び多様な健康問題について理解を深める。また大人における健康破綻による対象や家族への影響、回復に向けての看護者の役割と援助の基礎となる諸理論について理解する。		
授業の概要	大人の健康と看護の概略として、大人の生活と健康と看護アプローチの基本、大人の健康レベルに対応した看護と健康生活を促すための看護技術について教授する。 具体的内容は、大人の生涯発達と生活、大人の生活を取り巻く社会や環境、大人の看護の基本となる考え方と方法論および健康レベル対応した看護、大人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術について教授する。		
授業計画	第1回	成人期にある人の理解 1：成人期の定義・成長発達の特徴 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。「対象理解の実習」から成人期にある対象から学んだことについて自分なりにまとめて置く（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第2回	成人期にある人の理解 2：身体機能の特徴と看護・成人の生活を理解する視点と方法 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第3回	成人期にある人の理解 3：健康観の多様性と看護・学習の特徴と看護 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第4回	成人期にみられる健康障害 1：生活習慣に関連する健康障害・ワークライフバランスと健康障害 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第5回	成人期にみられる健康障害 2：セクシャリティーとジェンダーに関連する健康障害 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第6回	成人への看護に有用な概念 1（GW）：病みの軌跡・セルフケア・ストレス・危機理論・ロイの適応モデル・自己効力・ヘルスプロモーションをグループに分かれて調べ学習 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第7回	成人への看護に有用な概念 2（GW）：資料をまとめて発表準備 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	第8回	成人への看護に有用な概念についてのグループ発表 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（時間：2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。（時間：2時間）	
	定期試験		
テキスト	安酸史子他：ナースンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版、最新版		
参考書・参考資料等	適宜紹介する。		
学生に対する評価	・第1～5回は毎回、授業終了後に確認テスト（各3点＝15点） ・第1回目レポート課題（授業中に記載します）：3点 ・グループワークとグループ発表（第6～8回）は自己評価と他者評価および教員による資料と発表態度と内容の評価（計12点） ・定期試験：70点。		
課題（試験やレポート等）に対応する方	在室時は対応します。授業ごとの確認テストは希望者へ返却し、希望者へは質問事項に解説をします。		

トピックの方法	
備考	大学病院や緩和ケア病棟で慢性期看護・がん看護・終末期看護を実践した経験を基に、当講義を進める。 ※出席日数が規定より不足している場合は、定期試験を受験する資格はなくなりますので、自分で出席日数を確認してください。授業後の確認テストは、授業に出席した方でないと受けることができませんので、特段の理由がなく欠席した場合は、その確認テストの点数は0点となります。また指示のない場合は、確認テスト時にテキスト・授業資料を見ながら回答した場合は、点数は0点となります。 ※本講義においてグループで調べ学習をする際に、ChatGPTなどの生成系AIの使用は禁止します。発覚した場合は、グループワークの評価は0点となりますので、十分に気を付けてください。

講義科目名称： 高齢者の健康と看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
寺島 喜代子			
講義		064109LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	後期高齢者が生きてきた時代を知り、超高齢社会の実態と社会保障制度、高齢者を取り巻く社会の実態を理解する		
授業の概要	生活者として的高齢者を基盤として、病気や障害をもちながらもその人らしく生活するための支援を視点とする。そのためには、理論を含めて老年期としての捉え方や健康観について教授する。 加齢による身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな変化、超高齢化社会における人口動態の変化、高齢者疾病や死亡および少子高齢化との関係・家族関係、および高齢者虐待、また高齢者のケアリングについては、看護倫理やQOL、高齢者医療、介護保険制度について理解することを目標とする。		
授業計画	第1回	超高齢社会の現状と高齢者の身体的変化を理解する 内容：高齢者の定義と超高齢社会の現況、高齢者のからだところと社会を理解する 事前学習：教科書から日本の高齢化の実際と身体的特徴を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、新旧老化モデルと高齢者の身体的特徴とところと社会の関係を整理する（0.5時間）	
	第2回	後期高齢者が生きてきた時代を知る（1） 内容：先輩学生の実習での高齢患者との関わりの場面を通して、後期高齢者が生きてきた時代を学ぶ 事前学習：後期高齢者が生きてきた日本の時代を振り返る（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書、視聴したDVDから後期高齢者にとっての「食」に対する認識を学び、高齢患者の反応意味を理解する（1時間）	
	第3回	後期高齢者が生きてきた時代を知る（2） 内容：先輩学生の実習での高齢患者との関わりの場面を通して、後期高齢者が生きてきた時代を学ぶ 事前学習：後期高齢者が生きてきた日本の時代（教育制度）を振り返る（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書、視聴したDVDから後期高齢者にとっての「高等教育」に対する認識を学び、高齢患者の反応意味を理解する（1時間）	
	第4回	日本の超高齢社会の特徴を理解する 内容：死亡率の推移と高齢者の死因、少子高齢化や世帯構成の変化が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する 事前学習：教科書から戦後の死亡率の推移と、主要死因、世帯構成の推移を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から高齢者の主要死因の変化が高齢化率に及ぼす影響や、家族構成の変化が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する（1時間）	
	第5回	高齢者の保健医療福祉システムを理解する 内容：高齢者の健康状態（有訴率、受療状況）や少子高齢化社会における国民医療費の今後と後期高齢者医療制度を学ぶ 事前学習：教科書から高齢者の有訴率や受療状況、医療保険制度を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、高齢社会を支える医療保険制度と国民医療費の推移が今後の高齢者に及ぼす影響を整理する（1時間）	
	第6回	高齢者の障害と介護保険制度を理解する 内容：疾病構造の変化と障害を有する高齢者の推移と介護保険制度創設の背景を踏まえて制度の理解と今後の課題を理解する 事前学習：教科書から介護保険制度について事前学習する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、介護保険制度の背景と障害高齢者の実際、家族構成の変化と介護保険制度の関連、介護保険サービスの内容を理解する（2時間）	
	第7回	高齢者を取り巻く社会の実態（その1） 内容：1年間の全国版新聞記事から、高齢者の経済、介護者の実態、虐待、感染症による介護保険利用の実際などのテーマに分けて、記事をまとめグループ発表し、高齢者を取り巻く社会の実態を知る 事前学習：テーマごとに新聞記事を要約し、グループディスカッションする（1時間） 事後学習：配布資料とグループ発表から、高齢者を取り巻く社会が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する（1時間）	
	第8回	高齢者を取り巻く社会の実態（その2） 内容：1年間の全国版新聞記事から、高齢者の経済、介護者の実態、虐待、感染症による介護保険利用の実際などのテーマに分けて、記事をまとめグループ発表し、高齢者を取り巻く社会の実態を知る	

	事前学習：テーマごとに新聞記事を要約し、グループディスカッションする（1時間） 事後学習：配布資料とグループ発表から、高齢者を取り巻く社会が高齢者の生活に及ぼす影響を理解し レポートにまとめる（2時間） 第9回 定期試験
テキスト	系統的看護学講座 老年看護学 医学書院 2026
参考書・参考資料等	こちらで用意します
学生に対する評価	定期試験 80% 課題レポート 20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜日の9：00～17：00までで随時対応する。
備考	教員や実習学生が経験した多くの経験を踏まえて教授する。

講義科目名称：健康課題をもつ高齢者の看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
寺島 喜代子、八杉朱美			
講義		064110L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	高齢者に多い健康障害の特徴を理解し、生活者としての自立に向けた援助について理解する。		
授業の概要	I 人間にとって運動とは何かを学び、高齢者の姿勢が日常生活の心理的、社会的側面に及ぼす影響を理解する。さらに高齢者の不動状態がフレイルやサルコペニアにつながる負の連鎖や、援助者の高齢者に対するスティグマが廃用症候群につながる実態を学ぶ。 II 生命力アセスメントモデルの【生活する力】を脅かす高齢者の健康障害の特徴と日常生活の自立に向けた看護を学ぶ ＜活動と休息＞変形性関節症、骨折、慢性関節リウマチ、パーキンソン病と高齢者の転倒、高齢者の睡眠パターンと活動能力評価 ＜食と排泄＞高齢者の栄養の実態と栄養障害の社会的要因、高齢者の嚥下機能、高齢者の排泄障害の特徴とアセスメントの視点、食と排泄に関する専門職連携の実際		
授業計画	第1回	加齢に伴う運動機能の変化が自立した生活に及ぼす影響を理解する（担当：寺島喜代子） 内容：加齢に伴う運動機能の変化が高齢者のこころと社会に及ぼす影響を理解する 事前学習：教科書（解剖生理学・疾病論）で加齢に伴う運動機能の疾患を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、加齢に伴う運動機能の障害（骨関節系、心肺機能、中枢神経系）を理解し、高齢者の生活に及ぼす影響を理解する（1時間）	
	第2回	高齢者疑似体験発表（担当：寺島喜代子） 内容：高齢者体験スーツを着用し、グループ課題（活動、食、排泄、整容、更衣）に臨み資料を作成し発表する 事前学習：体験スーツを着用し、課題に沿ってグループ意見をまとめる 事後学習：ほかのグループ発表を聞き、自グループの体験と併せて、姿勢の変化が高齢者のこころと社会に及ぼす影響を理解しレポートにまとめる（2時間）	
	第3回	看護の視点から見た全身の構造を学ぶ（担当：寺島喜代子） 内容：①直立姿勢を可能にする条件と看護の視点から見た頭部、体幹、上肢、下肢の機能を理解する ②直立姿勢を困難にする高齢者の運動器系の障害を理解する 事前学習：解剖生理の復習（椎体・脊椎の構造、脊柱起立筋や抗重力筋、脊髄と脊髄神経、神経叢）（1時間） 事後学習：直立姿勢を可能にする条件と加齢に伴う筋力や椎間板の変性と神経障害を理解する（1時間）	
	第4回	人間にとって運動とは何かを学ぶ（担当：寺島喜代子） 内容：①人間にとって運動の意味を理解し（運動の三重構造）、運動が骨や神経にもたらす影響を学ぶ ②高齢者の運動機能を学ぶ（フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、運動器不安定症） 事前学習：配布資料（瀬江千文：育児の生理学）の熟読し、人間にとって運動の意味を予習（0.5時間） 事後学習：人間にとって運動の意味を理解し、骨を強くする生活や高齢者における運動の意味を理解する（1時間）	
	第5回	姿勢の変化が高齢者の生活に及ぼす影響を学ぶ（担当：寺島喜代子） 内容：高齢者の4大骨折と直立姿勢を困難にする脊椎の変性疾患と関節可動域を学ぶ 事前学習：解剖生理復習（骨代謝、骨の構造、関節の構造と機能）（1時間） 事後学習：①高齢者の上肢の骨折が高齢者の活動に及ぼす影響を理解する ②脊椎骨折の治療と看護を理解する ③関節の種類と関節可動域、関節可動域他動運動の実際を理解する（1.5時間）	
	第6回	廃用症候群と生命力アセスメントモデルを学ぶ（担当：寺島喜代子） 内容：①不動状態によってもたらされる廃用症候群の発生機序と援助者の老年観との関連を理解する ②生命力アセスメントモデルで看護実践の評価をすることを学ぶ 事前学習：教科書から廃用症候群とは何かを整理する（0.5時間） 事後学習：①廃用症候群の発生機序と、援助者の老年観がもたらす影響を理解する ②生命力アセスメントモデルを使った学生の看護実践の評価の実際を理解する（1時間）	
	第7回	【活動と休息】（1）変形性関節症の理解と看護（担当：寺島喜代子） 内容：加齢に伴う変形性関節症の発生機序と看護を理解する 事前学習：解剖生理の復習（関節の構造と関節軟骨、骨の構造）（0.5時間） 事後学習：①変形性関節症（膝、股関節）の発生要因と進行機序と治療を理解する ②人工膝関節置換術後の看護を理解する	

	③慢性関節リウマチの発生機序と病態進行の特徴と看護を理解する (1時間) 第8回 【活動と休息】 (2) 外傷性運動機疾患の理解と看護 (その1) (担当: 寺島喜代子) 内容: ①脱臼、捻挫の保存的治療と看護を理解する ②骨折の定義と骨の構造から骨折の治癒過程を理解する 事前学習: 解剖生理の復習 (関節の構造、骨の構造、骨代謝) (1時間) 事後学習: 脱臼、捻挫、骨折の定義と骨の構造から治癒過程の違いを理解する (1時間) 第9回 【活動と休息】 (3) 外傷性運動機疾患の理解と看護 (その2) (担当: 寺島喜代子) 内容: ①高齢者の骨代謝と骨折の治癒過程を理解する ②大腿骨転子部骨折、頸部骨折の理解と術後の看護を理解する 事前学習: 解剖生理の復習 (大腿骨の関節構造と筋肉) (0.5時間) 事後学習: 高齢者のこれまでの生活と骨代謝の関連を理解し、大腿骨骨折の治療方針の決定 (ガーデン分類) と骨接合術と人口骨頭置換術後のリハビリテーションと看護を理解する (1時間) 第10回 【活動と休息】 (4) パーキンソン病の理解と高齢者の転倒・転倒予防の理解 (担当: 寺島喜代子) 内容: ①パーキンソン病の病態と薬物治療と外科的治療を理解する ②高齢者の転倒の特徴とアセスメント、転倒予防の取り組みを理解する 事前学習: 解剖生理、疾病論復習 (パーキンソン病の病態と症状) (0.5時間) 事後学習: ①パーキンソン病と看護を理解する ②高齢者の転倒要因と看護の実践を理解する (1時間) 第11回 【栄養・食と排泄】 (1) 加齢に伴う栄養状態の特徴と栄養障害の理解 (担当: 八杉朱美) 内容: 高齢者の生活場所の違いによる栄養状態の実態と栄養障害の要因を理解する 事前学習: 教科書から高齢者の栄養障害につながる、味覚、咀嚼力、口渴中枢の変化を整理 (1時間) 事後学習: 配布資料と教科書から高齢者の栄養状態を悪化につながる機能低下と背景要因を理解する (1時間) 第12回 【栄養・食と排泄】 (2) 経口摂取を可能にするフィジカルアセスメントの実践と看護 (担当: 八杉朱美) 内容: ①加齢に伴う摂食嚥下機能の変化を学ぶ ②摂食嚥下機能のアセスメントの実践を学ぶ ③経口摂取の支援の方法を学ぶ (食前、食事中、食後のケア) ④経管栄養の利点と問題点、看護の実践を学ぶ 事前学習: 教科書から嚥下機能の復習 (姿勢、食材、認知、摂食嚥下の5相) (1時間) 事後学習: ①安全な経口摂取に向けたアセスメントと援助を理解する ②経管栄養の機序を理解したうえで、安全な経管栄養の実践を理解する (1時間) 第13回 【食と排泄】 (3) 加齢に伴う排泄機能の変化と排泄障害の理解 (担当: 八杉朱美) 内容: 加齢に伴う排泄機能の変化と排泄障害を理解する 事前学習: 基礎看護技術で排尿の仕組み、排便の仕組み、膀胱と大腸皮質のつながりを復習 (1時間) 事後学習: ①排泄機能の加齢変化を理解する ②排尿の自立を脅かす高齢者の身体的、認知的特徴を理解する ③各種尿失禁の発生機序と看護を理解する (1時間) 第14回 【食と排泄】 (4) 高齢者の排泄障害の理解と排泄援助の理解 (担当: 八杉朱美) 内容: 高齢者の排泄障害のアセスメントと排泄援助を理解する 事前学習: 基礎看護技術で学んだ「排便、排便のメカニズム」を復習 (0.5時間) 事後学習: 高齢者の排尿アセスメントと排便アセスメントが理解できる (1時間) 第15回 【食と排泄】 (5) 高齢者の食と排泄に関連した専門職連携 (担当: 八杉朱美) 内容: 栄養アセスメントチームと排尿アセスメントに関連した専門職の機能と連携の実践を学ぶ 事前学習: 看護の役割と機能で学んだ専門職連携について復習 (0.5時間) 事後学習: ①病院や高齢者施設における栄養アセスメントチームや栄養サポートチームの役割が理解できる ②排尿自立支援加算や尿失禁関連皮膚炎を予防するための皮膚排泄認定看護師の役割を理解する (1時間) 第16回 定期試験
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2025 系統的看護学講座 運動器 成人看護学10 医学書院 2026
参考書・参考資料等	講義内容に関連する解剖学・生理学・疾患論のテキスト。そのほか、講義中にも提示する。
学生に対する評価	定期試験 100%
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	月曜日から金曜日 9:00~17:00で対応する。
備考	講義内容や講義時の状況によって、講義内容等を変更することがあるが、事前に通知する。

講義科目名称： 高齢者の生活支援と看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
寺島 喜代子			
演習		064111L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 生命力アセスメントモデルの【生きる力】を脅かす高齢者の循環機能の障害（心不全）と脳血管疾患（脳梗塞発症急性期）によって生じる障害を事例展開をとおして理解できる 2. 生命力アセスメントモデルの【生活する力】の＜衣と清潔＞について高齢者の皮膚の特徴を理解し、技術演習をとおして看護の実際が理解できる 3. 生命力アセスメントモデルの【人と関わる力】について高齢者の3D：高齢者うつ（Depression）、せん妄（Delirium）、認知症（Dementia）の特徴を理解し、看護の実際の事例をとおして援助の方向性が理解できる
授業の概要	1. 慢性心不全の急性増悪の事例と中大脳動脈領域脳梗塞急性期の事例を基に、高齢者の循環器系の障害と治療の実際、脳梗塞領域から急性期の観察Pointとその意味や障害を理解し、看護の方向性を明らかにする看護過程の展開を学ぶ 2. 皮膚の機能を理解したうえで加齢変化に伴って生じる皮膚トラブル（スキンテア、MDRPU、失禁関連皮膚炎）の発生要因を理解して必要な援助を学ぶ 3. 高齢者うつ、せん妄の発症要因や援助の方向性を、実際の看護実践の事例から明らかにする。3大認知症の特徴とうつやせん妄との違いを学ぶ
授業計画	第1回 高齢者の循環機能の変化が生活に及ぼす影響が理解できる（その1） 内容：循環器系の基礎知識を整理し加齢変化を理解する （1）主要死因第2位の心疾患の特徴 （2）肺循環、体循環と加齢による動脈の変化、心臓弁や刺激伝導系の加齢変化 （3）心臓弁膜疾患が生じる理由と治療（置換術や内服治療が高齢者に及ぼす影響）を理解する 事前学習：解剖生理と疾病論での循環器と呼吸器の復習（1時間） 事後学習：加齢に伴う動脈の構造と加齢変化、心臓弁膜の機能、刺激伝導系の復習（1時間） 第2回 高齢者の循環機能の変化が生活に及ぼす影響が理解できる（その2） 内容：高齢者に多い不整脈、虚血性心疾患 （1）心電図波形の意味を理解し、徐脈、心房細動、心室性期外収縮が心機能に及ぼす影響を理解する （2）虚血性心疾患の理解：急性冠症候群と狭心症、発作時心電図と変化、治療、検査、薬物療法 事前学習：心電図の肢誘導と12誘導から読み取る心臓の意味、心電図波形の意味、虚血性心疾患の種類（1時間） 事後学習：心電図の理解、不整脈の波形とその意味、高齢者に多い不整脈の特徴、虚血性心疾患の治療の特徴（1時間） 第3回 慢性心不全急性増悪の事例から看護過程展開に必要な知識の整理と看護の方向性を考える 内容：心機能を規定する4因子と事例の心機能を理解する （1）心機能を規定する4因子を基に、事例の慢性心不全に至った情報を理解する （2）慢性心不全急性増悪における治療の意味を事例の情報から理解する （3）急性増悪の状態から回復期に移行し、退院後の生活指導に繋げるうえで事例の情報を判断できる 事前学習：心機能を規定する4因子とこれまでの授業内容との繋がりを整理する（1時間） 事後学習：事例の情報を整理し、慢性心不全に至った経緯、急性増悪時の治療の理解、回復期にある事例の現状が心機能にもたらす影響を関連図にまとめられる（1.5時間） 第4回 脳血管系の障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する：看護過程展開に必要な知識の整理（その1） 内容：脳血管疾患の特徴、脳卒中初期診療アルゴリズムとその意味を理解する （1）脳血管障害の分類とその特徴を理解する （2）脳卒中発症によって生じる脳ヘルニアの発症メカニズムと観察内容、治療の意味を理解する （3）脳卒中治療ガイドラインに沿った治療を理解する 事前学習：脳の解剖生理、疾病論から脳血管障害を復習（1時間） 事後学習：脳卒中の特徴と脳ヘルニアの種類と観察内容のつながりを解剖学的に復習する（1時間） 第5回 事例（中大脳動脈領域脳梗塞）の発作時、緊急入院時、回復期の情報の意味を理解する：看護過程展開に必要な知識の整理（その2） 内容：心原性脳塞栓（中大脳動脈領域）の事例の情報の意味を読み解く上で必要な知識を整理する （1）提示された事例の情報から、何が治療方針の決定につながるか、実施された治療の意味、急性期段階での看護師の観察内容の意味を理解する 事前学習：第4回授業の復習；治療のガイドライン、心原性脳塞栓と脳ヘルニア、脳卒中治療ガイドライン（1時間） 事後学習：事例の情報を所定の情報整理用紙に整理し、判断を記入（1時間）

第6回	事例（中大脳動脈領域脳梗塞）の発作時、緊急入院時、回復期の情報の意味を理解する：看護過程展開に必要な知識の整理（その3） 内容：脳の機能局在の知識を整理して中大脳動脈領域の脳血管障害から起こり得る症状を予測する (1) 脳の機能局在を理解（復習）し、中大脳動脈脳梗塞の症状を理解する；運動障害（麻痺とは）、感覚障害、言語障害、嚥下障害、高次脳機能障害 事前学習：大脳皮質、大脳基底核、機能局在、大動脈から脳への血管走行、頸動脈－椎骨動脈脳循環（1時間） 事後学習：中大脳動脈領域の支配領域と障害を結び付けて理解する（1時間）
第7回	事例（中大脳動脈領域脳梗塞）の発作時、緊急入院時、回復期の情報の意味を理解する：看護過程展開に必要な知識の整理（その4） 内容：離床に向けた関わり；入院3日目以降の情報の意味を理解する (1) 脳卒中の離床基準と安全な離床（座位訓練）のすすめ方と事例の情報を照合する (2) 覚醒不良が続く事例の情報から今後予測される問題を考えることができる（廃用症候群、座位耐性能力と食事への影響など） 事前学習：起立性低血圧の発生機序、廃用症候群、姿勢と覚醒の神経機構、嚥下障害と姿勢（1時間） 事後学習：所定の記録用紙に入院3日目以降の情報の整理とアセスメントを記入（1.5時間）
第8回	事例（中大脳動脈領域脳梗塞）の情報の整理、判断、関連図作成 内容：入院5日目から学生の実習開始となる前提で、それまでの情報と判断を基に関連図が作成できる (1) 本事例がなぜ心原性脳塞栓を発症したのか (2) 発症直後治療や意識レベルが入院3日目以降の状態にどのような影響をもたらしているのか (3) 入院3日目以降に実習開始となると、今後どのようなことが予測されるか 事前学習：第4回～第7回の講義で学んだ知識の整理（1時間） 事後学習：病態関連図と予測される問題が整理できている（1.5時間）
第9回	事例（中大脳動脈脳梗塞）の看護の方向性 内容：生命力アセスメントモデルの4つの力で生命力を大づかみで判断し図示化し言語化できる 事前学習：生命力アセスメントモデルとはの復習（0.5時間） 事後学習：4つの力で表現できているか自己評価する（1時間）
第10回	事例（中大脳動脈脳梗塞）の計画立案 内容：看護計画の立て方を理解し、計画立案できる 事前学習：看護計画の立て方（寺島資料）の理解（0.5時間） 事後学習：看護の方向性に基づいた計画が立案できているか自己評価（1時間）
第11回	高齢者の皮膚の特徴を理解した生活援助の実際が理解できる（その1） 内容：皮膚の構造と機能を理解し、高齢者の皮膚の特徴を理解する (1) 皮膚の機能と加齢変化がなぜ起きるのか：生理的老化、皮脂量と水分量の低下、光老化 (2) 高齢者の皮膚トラブルとスキンケアの実際：スキントケア、ドライスキン、失禁関連皮膚炎 事前学習：皮膚の構造の復習（0.5時間） 事後学習：高齢者の皮膚トラブルの発生メカニズムが理解できる（1時間）
第12回	高齢者の皮膚の特徴を理解した生活援助の実際が理解できる（その1） 内容：医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）と皮膚・排泄ケア認定看護師との連携や排尿ケアチームの多職種連携の実際 (1) 「静脈血栓塞栓予防弾性ストッキング」「非侵襲的陽圧換気療法マスク」「抑制帯」によるMDRPUの発生状況やその予防の実際を学ぶ (2) オムツの構造やオムツの不適切な使用と失禁関連皮膚炎との関連や認定看護師とジェネラリストとの連携の実際を学ぶ (3) 排尿自立指導料加算に伴う排尿ケアチームから多職種連携の実際を学ぶ 事前学習：解剖生理と基礎看護技術の教科書から、弾性ストッキングの構造と下肢循環に及ぼす影響を復習（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、オムツの構造と高齢者の排尿パターン、弾性ストッキングの目的と下肢循環に及ぼす影響を理解（1時間）
第13回	【技術演習】失禁状態にある高齢者のおむつの選択の仕方とオムツ交換の実際、弾性ストッキングの着脱介助とMDRPUの観察 方法：第12回と第13回の技術演習はクラスを半分に分けて交替で実施 内容 (1) 濡れたオムツを着用したまま歩行や車いすで生活する不快やオムツ装着のずれを実感する (2) 体位変換に全介助を要する対象者のオムツ交換と失禁関連皮膚炎の観察の実際を理解する (3) 弾性ストッキング装着（30分）による皮膚の違和感を実感し、全介助による弾性ストッキングの着脱とMDRPU観察のPointを理解する 事前学習：MDRPUの発生メカニズム、オムツの構造の復習（0.5時間） 事後学習：所定の演習レポート提出：オムツ着用の実体験や弾性ストッキングの着脱介助を体験しての学び（1時間）

	第14回 【技術演習】臥床期間が長い高齢者の座位耐性訓練と離床過程の援助の実際、移乗方法のアセスメントと移乗の実際 方法：第3回と第4回の技術演習はクラスを半分に分けて交替 内容 (1) 座位耐性訓練を行うための環境のととのえとは何かを学ぶ (2) 座位耐性訓練で鍛える耐性筋と、遊びをととした訓練実際を学ぶ (3) 座位が未だ不安定で全介助が必要なベッドから車いすへの移乗の実際を学ぶ 事前学習：座位訓練とは何か（教科書）、人が座位姿勢が可能になるための耐性筋の条件（健康課題をもつ高齢者の看護の資料）の復習（0.5時間） 事後学習：所定の演習レポート：人間にとって立位になる時の姿勢を活かした移乗介助の実際を体験しての学び（1時間） 第15回 高齢者の【人と関わる力】：高齢者の3D 内容：高齢者のうつde-pression、せん妄delirium、認知症dementiaの病態と、違いを理解する (1) 高齢者のうつの特徴と認知症との違い (2) せん妄の病態と発生要因と高齢者に起こりやすい要因、看護の実際を事例をとおして学ぶ (3) 3大認知症の紹介とそれぞれの違い ※極めて一般的な知識のみ提示する。認知症看護援助論（選択）の履修が望ましい 事前学習：老年看護学教科書で予習（0.5時間） 事後学習：うつとせん妄と認知症の特徴と区別が整理できるように復習（1時間） 第16回 定期試験
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 2025 系統看護学講座 循環器 成人看護学3 医学書院 2025 系統看護学講座 脳・神経 成人看護学7 医学書院 2025
参考書・参考資料等	講義内容に関連する解剖学・生理学・疾患論のテキスト。そのほか、講義中にも提示する。
学生に対する評価	定期試験 80% レポート 20% 計100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日から金曜日 9：00～17：00で対応する。
備考	講義内容や講義時の状況によって、講義内容等を変更することがあるが、事前に通知する。

講義科目名称： 地域の人々の理解

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
油野 規代			
講義		064201LIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 地域で生活している人々の保健・医療・福祉・教育・仕事の実態を理解する。 2. 地域で生活をしている人々の生活と健康を担う保健・医療・福祉施設の役割を理解する。		
授業の概要	地域で生活する人々の生活と健康について教授する。 具体的内容は、地域で生活している人々、生活と健康等である。		
授業計画	第1回	福井市の事例を活用しながらコミュニティを構成する人々を理解する 人口動態（人口構成、出生率、死亡率、疾病構造など）、死因別統計などを講義する。 事前学習：人として生活していくにはどのような要素が必要なのかまとめる（2時間） 事後学習：福井市の人口動態から地域に住む人々を理解する（2時間）	
	第2回	自分が住む市・町の特徴から生活する人々を理解する 個人ワーク 自分が住む市・町を調査し、そこに住む人々の生活を理解する。 個人で収集したデータから市・町の特徴の違いについてディスカッションする。 事前学習：自分が住んでいる市・町の情報を収集する（2時間） 事後学習：地域環境が及ぼす健康への影響を理解する（2時間）	
	第3回	福井市（福井県）の保健・医療・福祉・教育・仕事(産業)の調査 福井市（福井県）の保健・医療・福祉・教育・仕事(産業)について情報収集する。 事前学習：地域アセスメントの内容を理解する（2時間） 事後学習：地域アセスメントに基づいて、福井市の特徴をまとめる（2時間）	
	第4回	福井市（福井県）の保健・医療・福祉・教育・仕事(産業)について)の特徴 保健・医療・福祉・教育・仕事(産業)について福井市（福井県）の特徴を明らかにする。 事前学習：福井市の地域アセスメントに必要な福井県調査項目をまとめる（2時間） 事後学習：福井市の地域アセスメントに基づいてを考察する（2時間）	
	第5回	福井市（福井県）の保健・医療・福祉・教育・仕事(産業)について課題と対策 保健・医療・福祉・教育・仕事(産業)について福井市（福井県）の課題から対策と放置した場合を考える。 事前学習：担当した地域アセスメントに必要な調査項目をまとめる（2時間） 事後学習：福井市の地域アセスメントに基づいて考察する（2時間）	
	第6回	福井市（福井県）課題と対策についての発表① 福井市（福井県）課題と対策について、影響を各自の生活と関連付けて考える。 に必要な調査項目をまとめる（2時間） 事後学習：福井市の地域アセスメントに基づいて考察する（2時間）	
	第7回	福井市（福井県）課題と対策についての発表② 福井市（福井県）課題と対策について、影響を各自の生活と関連付けて考える。 事前学習：グループワークの学びから個人の考えを明らかにする（2時間） 事後学習：福井市の特徴を考察し、健康課題と対策を考える。（2時間）	
	第8回	地域に住む外国人の理解 地域に住む外国人の就労と協働 事前学習：日本に住む外国人の実態を調べる。（2時間） 事後学習：日本に住む外国人との協働における課題を考える。（2時間）	
テキスト	特に指定はありません。資料は教員の方で準備します。		
参考書・参考資料等	石田千絵他：地域療養を支えるケア，地域・在宅看護論①，第8版第1刷，メディカ出版，2025。 河原加代子他：系統看護学講座，専門分野，地域・在宅看護の基盤，地域・在宅看護論1，第6版1刷，医学書院，2022.		
学生に対する評価	リアクションペーパー：30％ 最終レポート：30％ GW参加態度及び受講態度：10％ プレゼンテーション資料および発表内容；30％、		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	13：20～16：00の間で予約を取ってください。		
備考	看護師の実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。		

講義科目名称： 地域で生活する人々の健康と看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
油野 規代			
講義		064202L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 広域な場で実践される看護の概念や特徴、目的が理解できる。 2. 広域な場で看護が求められる社会的背景と法律制度を含む変遷が理解できる。 3. 広域な場で行われる看護の対象と広域で行われる看護に関する諸制度が理解できる。
授業の概要	広域で看護が必要とされる社会的背景を理解し、看護を展開する上で必要な基礎知識を教授する。 在宅看護は高齢多死社会、人口減少社会を迎えるわが国において、今後ますますニーズが高くなる。国民の誰もが、人生の終焉まで住み慣れた場所で自分らしく生きられるような看護支援を行うことができるよう、本科目では在宅看護の理解を促進することに本科目の特徴がある。 具体的内容は広域で実践される看護の概念・特徴、広域で実践される看護の種類と内容、看護の継続性、広域で展開される看護の理解を促す理論、倫理的課題等である。
授業計画	第1回 人々の暮らしと地域・在宅看護 地域・在宅看護の必要性、社会背景の理解 事前学習：暮らしとは何かを考える(0.5時間) 事後学習：人々の暮らしにおける看護職のかかわりを理解する(0.5時間) 第2回 地域包括ケアシステムと地域共生社会 地域包括ケアシステムと地域ケアマネジメント 事前学習：広域看護をめぐる社会的背景について考える(0.5時間) 事後学習：地域における看護の役割についてまとめる(0.5時間) 第3回 介護保険と地域包括支援センターの役割と機能 介護保険とは、地域包括支援センターの役割と機能 事前学習：介護保険制度の成り立ちを調べる(0.5時間) 事後学習：地域支援支援センターの機能を調べる(0.5時間) 第4回 居宅支援事業所、介護支援専門員の理解 居宅支援事業所、介護支援専門員の機能と役割 事前学習：居宅支援事業所の役割を調べる(0.5時間) 事後学習：介護支援専門員の役割と業務の理解(0.5時間) 第5回 訪問看護制度の歩み医療保険 訪問看護ステーションとは、訪問看護の利用者、看護小規模多機能型居宅介護の特徴 事前学習：継続看護の必要性について調べる(0.5時間) 事後学習：退院調整に関わる職種についてまとめる(0.5時間) 第6回 病院から地域・在宅につながる看護 退院支援、退院調整、多職種連携の必要性 事前学習：継続看護の必要性について調べる(0.5時間) 事後学習：退院支援に関わる多職種の役割を調べる(0.5時間) 第7回 暮らしにおけるリスクの理解 暮らしにおけるリスク、災害対策、災害対策における地域看護の役割 事前学習：生活の中で生じるリスクを調べる(0.5時間) 事後学習：在宅療養者への災害支援を考える(0.5時間) 第8回 地域・在宅看護に求められる地域保健対策推進 地域ネットワークづくり、保健所・保健センターの役割、保健師の活動 事前学習：保健所の機能を調べる(0.5時間) 事後学習：時代の変化に応じた地域・在宅看護の課題を考える(0.5時間)
テキスト	石田千絵他：ナースング・グラフィカ，地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア，第8班第1刷◎，メディカ出版 2025. 石田千絵他：ナースング・グラフィカ，地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術，第3班第1刷◎，メディカ出版 2025.
参考書・参考資料等	厚生統計協会編：国民衛生の動向 2025/2026，厚生統計協会.
学生に対する評価	リアクションペーパー：10% 定期試験：90%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	13：30-16：00の間で予約を取ってください。
備考	

講義科目名称： 在宅生活を支える看護Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
奥田 豊子			
講義・演習		064203L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 住み慣れた場所で生活しながら療養する人々と家族を理解する。 2. 住み慣れた場所で日常のなかに安全・安心な療養生活を織り交ぜながら送るための看護の基礎を理解する。 3. 医療ニーズの高い療養者と家族が安全・安心な療養生活を送るための看護の基礎を理解する。 4. 在宅における看取りを支える看護を理解する。		
授業の概要	在宅療養の主体である利用者・家族が住みなれた場所で、安心・安全な療養生活をおくることができるよう支援する看護を教授する。 内容は、暮らしのなかでとらえる健康、在宅リスクマネジメント、療養生活に伴う日常生活援助や医療ケアの意義・アセスメントとその実際、難病療養者・ターミナル期にある療養者・家族に関する看護などである。		
授業計画	第1・2回	在宅看護とは その対象とは 暮らしとは 暮らしのなかでとらえる健康 在宅看護実践に欠かせない要素 家庭訪問の意義とマナー 事前・事後学習：配布資料とテキストから、地域において健康な暮らしを支援するとは何をすることなのかを理解する (2時間)	
	第3回	要介護高齢者に対しての在宅看護・活動休息に関する在宅看護 要介護高齢者を取り巻く環境 要介護高齢者と家族の理解 要介護高齢者の暮らしの安全を確保する方法 要介護高齢者の看護 活動・休息に関する在宅看護 事前学習：加齢による身体機能の変化の復習 (0.5時間) 事後学習：授業内容の復習 (0.5時間)	
	第4・5回	食生活・嚥下に関する在宅看護 暮らしにおける食の意義 食の支援と栄養管理を必要とする在宅療養者の特徴 栄養状態・摂食嚥下機能のアセスメント 経管栄養をうける療養者の看護 在宅中心静脈栄養を受ける療養者の看護 事前学習：高齢者の栄養アセスメント、摂食・嚥下過程の復習 (1時間) 事後学習：授業内容の復習 (1時間)	
	第6回	清潔に関する在宅看護 在宅における薬物療法 清潔・整容の意義と目的 清潔・整容の支援の考え方と援助の実際 与薬の支援を必要とする療養者の特徴 生活の場における与薬の実際 事前学習：与薬の復習 (0.5時間) 事後学習：授業内容の復習 (0.5時間)	
	第7回	呼吸・循環に関する在宅看護 呼吸の支援を必要とする療養者の特徴 呼吸のアセスメントの視点 循環の管理を必要とする療養者の特徴 循環のアセスメントの視点 呼吸ケアの実際 呼吸機能を補う方法：在宅酸素療法 (HOT) 在宅人工呼吸療法 (NPPV・TPPV)	
	第8回	事前学習：授業で提示 (0.5時間) 事後学習：授業で提示 (0.5時間) ALSで在宅療養している方に対する看護 事例紹介 ALSの病態の解説 ALSの呼吸機能についてアセスメントしてみよう ALSの摂食・嚥下機能に関わる解剖生理 事例の摂食嚥下機能についてアセスメントしてみよう 事前学習：授業で提示 (0.5時間) 事後学習：病態関連図作成 (0.5時間)	

	第9・10回 在宅看護における看護過程の考え方 ALS療養者に対する食事に向けた援助【講義→技術演習】 姿勢を保持する抗重力筋とは 在宅看護における看護過程の考え方 呼吸機能障害や摂食・嚥下障害のあるALS療養者に対する食事に向けた援助 事前学習：ALSの病態関連図（1時間） 事後学習：授業で提示（1時間） 第11回 ALS療養者の意思決定支援 在宅終末期の看護 演習の振り返り ALS療養者の意思決定支援 在宅終末期の看護 自宅死亡の現状 看取り期の特徴：がん療養者と非がん療養者 暮らしのなかの看取りに置ける看護師の役割 看取り看護の要点 事前学習：授業で提示（0.5時間） 事後学習：授業で提示（0.5時間） 第12・13回 在宅緩和ケア 在宅緩和ケアとは 在宅緩和ケアの条件 緩和ケアを療養者・家族に提供する方法 在宅療養の儒実のための社会資源 がん療養者の疼痛の理解 事前学習：授業で提示（1時間） 事後学習：授業内容の復習（1時間） 第14・15回 在宅における疼痛緩和ケア 疼痛コントロールを行いながら暮らす人への支援の実際 薬物療法とその看護の実際 薬物療法以外の苦痛緩和ケア グループケア 事前学修：授業で提示した課題（1時間） 事後学修：授業で提示した課題（1時間）
テキスト	石田千絵他：地域療養を支えるケア 第8版，メディカ出版，2025. 石田千絵他：地域療養を支える技術 第3版，メディカ出版，2025. 宮下光令他：成人看護学6 緩和ケア，第3版第1冊，メディカ出版，2022. 系統看護学講座 老年看護学，医学書院， 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論，医学書院
参考書・参考資料等	河原加代子他：地域・在宅看護の基盤 第6版，医学書院，2024. 河原加代子他：地域・在宅看護の実践 第6版，医学書院，2024. 正野逸子他：看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術，第4版，メヂカルフレンド社 泉キヨ子他：看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術，第3版，メヂカルフレンド社
学生に対する評価	定期試験：筆記試験70% レポート：20% 小テスト：10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	10：00～15：00の間で予約を取って下さい。
備考	授業形式は講義・演習の他、グループワークを含む体験学修型の授業です。各自が予習・復習を主体的に行いましょう。 地域の人々の理解、地域で生活する人々の健康と看護の内容を復習した上で授業に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
油野 規代・奥田 豊子			
演習		064204L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 在宅療養を支える制度と社会資源を理解して、在宅利用者と家族の療養生活を支えるために必要なケアマネジメント・ケアプランについて理解する。 2. 既存の制度や資源にとらわれず、療養する人々とその家族が安楽に安全に自分らしく療養生活を送るためにどのような社会資源が必要か考察できる。 3. 医療依存度の高い在宅利用者の看護について看護過程を展開することで、保健医療福祉制度や社会資源の活用、利用者と家族の価値観や主体性を尊重した看護、自立を支える援助方法について考察できる。
授業の概要	療養者と家族をケアの一単位として捉え支援する視点から、既存の学習を統合、分析して支援に結びつける一連の看護を教授する。 具体的内容は、①高齢者の療養生活を支える社会制度と看護支援、②障害児・者の療養生活を支える社会制度と看護支援、③難病患者の療養生活を支える社会制度と看護支援、④難病療養者と家族の事例に基づくケアマネジメントとケアプラン、⑤在宅療養者と家族を理解する情報収集と把握枠組み、⑥在宅療養者と家族を支援するリハビリテーション看護などである。
授業計画	第1回 地域にある社会資源 社会資源の定義・内容、社会資源活用における看護の役割、ネットワークの種類と構築 事前学習：地域で生活する人々の健康について考える（2時間） 事後学修：社会資源活用における看護の役割について整理する（2時間） 第2回 高齢者の療養生活を支える社会制度と看護 在宅療養する高齢者の暮らしの理解、介護保険制度、後期高齢者医療制度の理解 事前学修：高齢者の身体・心理・社会的側面を復習する（2時間） 事後学修：高齢者の動向に関連した看護の必要性を整理する（2時間） 第3回 障害児/者の療養生活を支える社会制度と看護 障害児/者の在宅における療養生活の理解、障害児/者に対する社会制度の理解 医療的ケア児/者の在宅移行への課題 事前学修：障害児/者に対する国の政策を調べる（2時間） 事後学修：障害児/者の在宅療養における看護の必要性を整理する（2時間） 第4回 難病患者の療養生活を支える社会制度と看護 難病患者の在宅療養における生活の理解、難病患者に対する社会制度の理解 事前学修：難病患者の動向を調べる（2時間） 事後学修：難病患者の在宅療養における看護の必要性を整理する（2時間） 第5回 地域・在宅看護における看護過程 地域・在宅看護過程の展開に必要な枠組み 事前学修：在宅療養者を捉えるアセスメントを復習する（2時間） 事後学修：在宅療養者の健康上・生活上の課題を理解する（2時間） 第6回 ICFを用いた在宅療養者の全体像の把握 パーキンソン病在宅療養者の全体像の把握（ICFの概念の理解） 事前学修：看護過程のプロセスを復習する（2時間） 事後学修：対象の強みに着目した看護を理解する（2時間） 第7回 在宅療養者と家族の理解1 在宅療養者における生活に着目した情報収集とアセスメント 事前学修：前回の授業内容の振り返り（2時間） 事後学修：対象の強みに着目した看護を理解する（2時間） 第8回 在宅療養者と家族の理解2 在宅療養者と家族における情報の統合と看護の必要性 訪問看護を想定した事例展開、思考プロセスを用いた在宅看護への理解 事前学修：前回の授業内容の振り返りを行う（2時間） 事後学修：在宅看護における思考プロセスを整理する（2時間） 第9回 在宅療養者と家族の理解3 訪問看護を想定した事例展開、思考の整理 在宅療養における多職種との連携 事後学修：前回の授業内容の振り返りを行う（2時間） 事後学修：在宅看護の展望を考える（2時間） 第10回 ケアマネジメントとは パーキンソン病療養者の事例を通しケアプランの理解 事前学修：介護認定までの一連の流れ、障害者総合支援法を復習する（2時間） 事後学修：ケアマネジメントのプロセスを理解する（2時間） 第11回 ケアマネジメントに必要なアセスメントの理解 グループワーク① 療養者、ケアマネジメントに必要なアセスメントの理解 グループワーク① 療養者、家族の在宅における課題とニーズの把握、目標の設定、情報収集と課題分析 事後学修：在宅療養者の生活を考える（2時間） 事後学修：ケアプラン作成に向けて課題を整理する（2時間） 第12回 ケアプランの作成 グループワーク②

	ケアプラン原案の作成、居宅サービス計画書（１）（２）の作成 事前学修：居宅サービス計画書の内容を理解する（２時間） 事後学修：ケアマネジメントのプロセスを理解する（２時間） 第13回 ケアマネジメント・ケアプランの決定グループワーク③ 居宅サービス計画書の作成、給付管理の理解、サービス担当者会議など 事前学修：前回のグループワークの内容を整理する（２時間） 事後学修：ケアプラン作成における介護報酬との関係を考える（２時間） 第14回 ケアマネジメント・ケアプランの発表 居宅サービス計画書の根拠、居宅サービス計画書（１）（２）の発表 事前学修：サービス計画に必要な情報の整理を理解する（２時間） 事後学修：居宅サービス計画書の作成に向けた担当者の役割を理解する（２時間） 第15回 在宅生活を支える看護Ⅱのまとめ 訪問看護ステーションの概要 訪問看護の対象者とサービス内容等 演習の振り返り／全体まとめ 事前学習：訪問看護に必要な制度の整理 事後学修：広域看護学実習に向けての制度の理解
テキスト	石田千絵他：地域療養を支えるケア 第8版，メディカ出版，2025. 石田千絵他：地域療養を支える技術 第3版，メディカ出版，2025. 系統看護学講座 老年看護学，医学書院， 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論，医学書院 厚生統計協会編：国民衛生の動向 2024/2025、厚生統計協会，最新版
参考書・参考資料等	木下由美子編：新版在宅看護論，医歯薬出版株式会社，2014. 河野あゆみ編：強みと弱みからみた在宅看護過程+総合機能関連図，医学書院，2018. 荒川善子監修：医療福祉総合ガイドブック2021年度版，日本看護協会出版会，最新版
学生に対する評価	定期試験：筆記試験60点 課題レポート20点 グループワークの参加状況・資料20点（参加状況10点、資料10点）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	13：20～15：00の間で予約を取ってください。
備考	

講義科目名称： こころの健康と看護

授業コード：

英文科目名称： Mental health and nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】看護
担当教員			
川村 みどり			
講義	養護教諭対象科目	064205L2NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神保健上の問題を抱えた対象を全人的に理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする。		
授業の概要	精神保健上の問題を抱えた対象を全人的に理解するため、人間の精神構造の機能や病の経験をはじめ、精神医療の歴史的変遷や精神医療における法と倫理の重要性についてPBL方式を活用しながら教授する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、精神看護学とは 事前学習：テキストの第1章を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業時に指示された重要ポイントについて整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる(オフィスアワー時)など、学習する(2時間)。	
	第2回	精神障碍と治療の歴史 世界 事前学習：テキスト7章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点 は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる(オフィスアワー時)など、学習する(2時間)。	
	第3回	精神障碍と治療の歴史 日本 事前学習：テキスト7章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点 は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる(オフィスアワー時)など、学習する(2時間)。	
	第4回	精神障碍と法制度 人権・倫理(1) 事前学習：看護職の倫理綱領、精神科看護倫理綱領、既存の看護理論を読み、概要を整理する(2時間)。 事後学習：事例に対する倫理的問題について不足部分があれば補い、課題提出の準備をする(2時間)。	
	第5回	精神障碍と法制度 人権・倫理(2) 事前学習：精神科の入院形態についてテキストの該当箇所を読み、概要を整理する(2時間)。 事後学習：事例に対する自分の考えとその理由を明確にし、課題提出の準備をする(2時間)。	
	第6回	精神障碍と法制度 人権・倫理(3) 事前学習：テキストの該当箇所を読み、概要を整理する(2時間)。 事後学習：事例に対する自分の考えとその理由を明確にし、課題提出の準備をする(2時間)。	
	第7回	精神障碍と法制度 人権・倫理(4) 事前学習：テキストの該当箇所を読み、概要を整理する(2時間)。 事後学習：事例に対する自分の考えとその理由を明確にし、課題提出の準備をする(2時間)。	
	第8回	精神障碍と法制度 人権・倫理(5) 事前学習：提出課題を読み直し、グループメンバーと共有したい事項を整理し書き留める(2時間)。 事後学習：個々の学びをグループメンバーと共有し、その後クラス全体に発表する。全グループの発表からさらに学んだことや、今後の授業につながるポイントを整理する(2時間)。	
	第9回	精神の健康と精神障碍 事前学習：テキスト第2章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる(オフィスアワー時)など、学習する(2時間)。	
	第10回	対象を理解するための考え方(1) 人間の精神構造とはたらき 事前学習：テキスト第3章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる(オフィスアワー時)など、学習する(2時間)。	
	第11回	対象を理解するための考え方(2) 危機・ストレス・コーピング 事前学習：テキスト第2章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点 は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる(オフィスアワー時)など、学習する(2時間)。	
	第12回	対象を理解するための考え方(3) 学習と行動に関する理論 事前学習：テキスト第3章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。	

	事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる（オフィスアワー時）など、学習する(2時間)。 第13回 対象を理解するための考え方（４） 関係の中の個人 事前学習：テキスト第4章、第13章の該当箇所を読み、よく学びたい箇所や疑問点などをピックアップする(2時間)。 事後学習：授業で提示されたポイント等を整理し、事前学習に対する答え合わせを行う。新たに知りたい点は、図書館で資料を調べる、教員に尋ねる（オフィスアワー時）など、学習する(2時間)。 第14回 精神疾患、精神障害をもつ人の理解ー精神を病むことと生きることー（１） 事前学習：テキスト第5章を読み、自分の考えとその理由を書き留める(2時間)。 事後学習：授業を通して変化した、自分の考えやその理由を確かめる(2時間)。 第15回 精神疾患、精神障害をもつ人の理解ー精神を病むことと生きることー（２） 事前学習：テキスト第5章を読み、自分の考えとその理由を書き留める(2時間)。 事後学習：授業を通して変化した、自分の考えやその理由を確かめる(2時間)。 定期試験
テキスト	武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学（１），第6版 医学書院，2021. 武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学（２），第6版 医学書院，2021.
参考書・参考資料等	萱間真美：対話でリカバリーを支えるストレングスモデル実践活用術，第2版，医学書院，2024. 田中美恵子編：精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版，2024. 中井久夫、山口直彦：看護のための精神医学，第2版，医学書院，2004. 増川ねてる，藤田茂治編：シリーズWRAPを始める！ー精神科看護師とのWRAP(元気回復行動プラン)入門，精神看護出版，2016より．
学生に対する評価	定期試験（持ち込み不可）（70％），提出物（30％） ※精神看護学実習を履修するための必修科目です。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	メールでの問い合わせ可能（オリエンテーション時に周知予定）
備考	総合病院での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： こころの疾患の理解と看護Ⅰ

授業コード：

英文科目名称： Psychiatric understanding and nursing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
近藤 やよい			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(看護)	064206L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者を支えるために必要な基礎的知識と技法、ならびに人権と安全を守る看護を実践できる基礎的能力を身につけることを目標とする。		
授業の概要	精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者を支えるために必要な基礎的知識と技法について、①精神疾患をもつ人への働きかけの技法（人間関係論、プロセスレコード、治療的コミュニケーション、精神症状の評価）、②様々な治療と看護（薬物療法、社会生活技能訓練、認知行動療法、心理教育、ストレングスモデル）、③人権と安全を守る（精神医療における行動制限/法と倫理）という観点から教授する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、精神疾患をもつ人への働きかけの技法（１）人間関係論（近藤） 事前学習：テキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること(0.5時間)。	
	第2回	精神疾患をもつ人への働きかけの技法（２）プロセスレコード、治療的コミュニケーション（近藤） 事前学習：テキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること(0.5時間)。	
	第3回	精神疾患をもつ人への働きかけの技法（３）精神症状と状態の評価①（近藤） 事前学習：テキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験において、どのように出題されるのかを確認しておくこと。授業時間内で終えられなかった課題は、空き時間を活用して、グループメンバーとともに、課題を仕上げること(0.5時間)。	
	第4回	精神疾患をもつ人への働きかけの技法（４）精神症状と状態の評価②（近藤） 事前学習：テキストの第5章を読み、質問項目をまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時間内で終えられなかった課題は、空き時間を活用して、グループメンバーとともに、課題を仕上げること(0.5時間)。	
	第5回	様々な治療と看護（１）精神科薬物療法と看護①（近藤） 事前学習：テキストの第6章を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験において、どのように出題されるのかを確認しておくこと(0.5時間)。	
	第6回	様々な治療と看護（１）精神科薬物療法と看護②（近藤） 事前学習：2年次に履修した「精神保健看護学総論」の学習と行動に関する理論について復習しておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時間内で終えられなかったグループは、空き時間を活用して、グループメンバーとともに、課題を仕上げること(0.5時間)。	
	第7回	様々な治療と看護（３）認知行動療法（近藤） 事前学習：テキストの第6章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験において、どのように出題されるのかを確認しておくこと(0.5時間)。	
	第8回	様々な治療と看護（２）SST・心理教育、リラクゼーション（近藤） 事前学習：テキストの第6章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験において、どのように出題されるのかを確認しておくこと(0.5時間)。	
	第9回	人権と安全を守る（１）精神障害と法制度（近藤） 事前学習：テキストの第7章、第11章、13章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験において、どのように出題されるのかを確認しておくこと(0.5時間)。	
	第10回	人権と安全を守る（２）法制度と倫理（近藤） 事前学習：テキストの第7章、第11章、13章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習：授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験において、どのように出題されるのかを確認しておくこと(0.5時間)。	
	第11回	人権と安全を守る（３）法制度と倫理（近藤） 事前学習：課題提出に向けて、グループメンバーでスケジュールを確認しておくこと(0.5時間)。 事後学習：課題の進捗状況を踏まえて、グループメンバーで今後のスケジュールを調整したり、授業時間内で終えられそうにないと判断した場合は、空き時間を活用して、グループメンバーと	

	ともに、課題を仕上げること(0.5時間)。 第12回 様々な治療と看護(6)回復を支えるー精神を病むことと生きること(近藤) 事前学習:課題提出に向けて、グループメンバーでスケジュールを確認しておくこと(0.5時間)。 事後学習:課題の進捗状況を踏まえて、グループメンバーで今後のスケジュールを調整したり、授業時間内で終わらせられないと判断した場合は、空き時間を活用して、グループメンバーとともに、課題を仕上げること(0.5時間)。 第13回 様々な治療と看護(6)回復を支えるーストレングス、リカバリー、エンパワメント(近藤) 事前学習:テキストの第9章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習:授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること(0.5時間)。 第14回 様々な治療と看護(6)回復を支えるー社会資源の活用(近藤) 事前学習:テキストの第7章、第9章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習:授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること(0.5時間)。 第15回 様々な治療と看護(6)回復を支えるー地域生活支援、ACT、リエゾン精神看護(近藤) 事前学習:テキストの第10章、第14章の該当箇所を読み、質問項目についてまとめておくこと(0.5時間)。 事後学習:授業時に示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること(0.5時間)。
テキスト	武井麻子編著:系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学(1), 第6版, 医学書院, 2024. 武井麻子編著:系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学(2), 第6版, 医学書院, 2024.
参考書・参考資料等	田中恵美子編著:精神看護学ー学生-患者のストーリーで綴る実習展開ー, 第2版, 医歯薬出版, 2015. (公財)日本障がい者スポーツ協会(編), 障がいのある人のスポーツ指導教本, 株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	定期試験(持ち込み不可)50%、提出物:個人課題15%、グループ課題20%、レポート課題15% ※精神看護学実習を履修するための必修科目です。
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	講義前後ならびにメールでの問い合わせ可能(オリエンテーション時に周知予定)。
備考	総合病院での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
近藤 やよい			
演習		064207L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者を支えるために必要なアセスメントの知識や状態に応じた看護の方向性について理解することを目標とする。		
授業の概要	精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者を支えるために必要なアセスメントの知識や状態に応じた看護の方向性について理解するため、2大精神疾患である統合失調症と気分障害患者の看護行為ならびに事例のアセスメントを中心に、学修する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、気分障害患者の理解と看護（1）【講義】（近藤） 事前学習：テキストの第5章の該当箇所を読み、質問項目をまとめておくこと（0.5時間）。 事後学習：授業時に指示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験でどのように出題されるのかを確認しておくこと（0.5時間）。	
	第2回	気分障害患者の理解と看護（2）【演習】（近藤） 事前学習：前回の講義内容を復習しておくこと（0.5時間）。 事後学習：課題の進捗状況を踏まえて、授業時間内に終わられそうにないと判断した場合は、空き時間を利用して課題に取り組むこと（0.5時間）。	
	第3回	気分障害患者の理解と看護（3）【演習】（近藤） 事前学習：課題の進捗状況を踏まえて、授業時間内に終わられそうにないと判断した場合は、空き時間を利用して課題に取り組むこと（0.5時間）。 事後学習：課題提出に向けて、より良い内容にできるよう、空き時間を利用して課題に取り組むこと（0.5時間）。	
	第4回	統合失調症患者の理解と看護（1）急性期 【講義】（近藤） 事前学習：テキストの第章の該当箇所を読み、質問項目をまとめておくこと（0.5時間）。 事後学習：授業時に指示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験でどのように出題されるのかを確認しておくこと（0.5時間）。	
	第5回	統合失調症患者の理解と看護（2）急性期 【演習】（近藤） 事前学習：前回の講義内容を復習しておくこと（0.5時間）。 事後学習：課題の進捗状況を踏まえて、授業時間内に終わられそうにないと判断した場合は、空き時間を利用して課題に取り組むこと（0.5時間）。	
	第6回	統合失調症患者の理解と看護（3）急性期 【演習】（近藤） 事前学習：課題の進捗状況を踏まえて、授業時間内に終わられそうにないと判断した場合は、空き時間を利用して課題に取り組むこと（0.5時間）。 事後学習：課題提出に向けて、より良い内容にできるよう、空き時間を利用して課題に取り組むこと（0.5時間）。	
	第7回	依存症、パーソナリティ障害、神経症性障害、摂食障害患者の理解と看護 【講義】（近藤） 事前学習：テキストの第5章の該当箇所を読み、質問項目をまとめておくこと（0.5時間）。 事後学習：授業時に指示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。また、本日の講義内容が、看護師国家試験でどのように出題されるのかを確認しておくこと。の第5章の該当箇所を読み、質問項目をまとめておくこと（0.5時間）。	
	第8回	看護過程の展開（1）セルフケアモデル【講義】（近藤） 事前学習：テキストの第8章の該当箇所を読み、質問項目をまとめておくこと（0.5時間）。 事後学習：授業時に指示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（0.5時間）。	
	第9回	看護過程の展開（2）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近藤） 事前学習：第4・5・6回目の講義内容を復習しておくこと（0.5時間）。 事後学習：授業時に指示された重要ポイントについて整理し、不明な点は図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること（0.5時間）。	
	第10回	看護過程の展開（3）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近藤） 事前学習：提示された事例を熟読し、アセスメントに必要な知識や、わからない用語等について調べておくこと（0.5時間）。 事後学習：演習時に指示された重要ポイントについて整理し、グループメンバーで、次の演習に向けてタイムスケジュールの確認をするなど、準備を進めておくこと（0.5時間）。	
	第11回	看護過程の展開（4）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近藤） 事前学習：提示された事例を熟読し、アセスメントに必要な知識や、わからない用語等について調べておくこと（0.5時間）。 事後学習：演習時に指示された重要ポイントについて整理し、グループメンバーならびに個人で次の演習の準備しておくこと（0.5時間）。	
	第12回	看護過程の展開（5）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近藤） 事前学習：提示された事例を熟読し、アセスメントに必要な知識や、わからない用語等について調べておくこと（0.5時間）。 事後学習：演習時に指示された重要ポイントについて整理し、グループメンバーならびに個人で次の演習の準備しておくこと（0.5時間）。	

	第13回 看護過程の展開（6）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近藤） 事前学習：提示された事例を熟読し、アセスメントに必要な知識や、わからない用語等について調べておくこと。課題提出に向けて、タイムスケジュールを確認、必要時は修正しておくこと（0.5時間）。 事後学習：演習時に指示された重要ポイントについて整理し、グループメンバーならびに個人で次の演習の準備しておくこと（0.5時間）。 第14回 看護過程の展開（7）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近田、近藤） 事前学習：提示された事例を熟読し、アセスメントに必要な知識や、わからない用語等について調べておくこと。課題提出に向けて、タイムスケジュールを確認、必要時は修正しておくこと（0.5時間）。 事後学習：演習時に指示された重要ポイントについて整理し、グループメンバーならびに個人で次の演習の準備しておくこと（0.5時間）。 第15回 看護過程の展開（8）事例展開 統合失調症 急性期～回復期【演習】（近藤） 事前学習：進捗状況に応じて、グループメンバー全員で、空き時間を活用して課題提出の準備を進めること（0.5時間）。 事後学習：提出課題の内容について、既存の知識を踏まえた上でアセスメントできていたか、個人ならびにグループメンバーで確認しておくこと（0.5時間）。
テキスト	武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学（1），第6版，医学書院，2023. 武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学（2），第6版，医学書院，2023.
参考書・参考資料等	田中恵美子編著：精神看護学—学生-患者のストーリーで綴る実習展開—，第2版，医歯薬出版，2015. 阿保順子編集：統合失調症急性期看護マニュアル，すびか書房，2013.
学生に対する評価	授業時間内に実施する2回の小テスト（持ち込み不可）（50%）、個人課題やグループ課題を含む提出物（40%）、授業態度（10%）。詳細はオリエンテーション時に周知予定。※精神看護学実習を履修するための必修科目です。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	演習前後ならびにメールでの問い合わせ可能（オリエンテーション時に周知予定）。
備考	総合病院での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 周手術期看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
駒田 裕司			
講義		064208L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標】 1. 周手術期にある患者の特徴とその家族の特徴について理解できる。 2. 手術侵襲に対する生体反応と手術・麻酔の影響を理解し、周手術期の経過に応じた特徴的な健康問題について説明できる。 3. 周手術期の過程（術前・術中・術後）に必要な対象とその家族に対する看護援助について説明できる。 4. 疾患や手術に伴う身体的・心理的特徴を理解し、その対象に必要な看護援助について説明できる。 【テーマ】 健康問題が急性期状態（周手術期）の対象に対して命を護り、対象がもつ自然治癒力を最大限に発揮して健康を回復し、生活の質を低下させないための看護援助を学ぶ。		
授業の概要	健康問題が急性期状態（周手術期）の対象に対して命を護り、対象がもつ自然治癒力を最大限に発揮して健康を回復し、生活の質を低下させないための看護援助を教授する。 具体的内容は、周手術期の患者とその家族の身体的・心理的・社会的特徴、意思決定による支援をはじめとする周手術期の看護師の役割、手術による身体への侵襲とそれに対する生体反応、手術・麻酔に関する看護問題と回復を促進する周手術期（術前・術中・術後）の過程に応じた看護援助、腹腔鏡下手術・開腹手術・開胸手術・開頭手術・運動器手術の経過と術後合併症の予防および回復を促進する看護援助、術後の生活指導とライフスタイルの構築への支援について教授する。		
授業計画	第1回	周手術期の患者・家族の特徴とその看護および意思決定への支援 周手術期の患者とその家族の心理的特徴とその看護について講義する。 事前学習：ストレスと健康生活について学修する。（0.5時間） 事後学習：インフォームドコンセントにおける倫理的課題・看護師の役割について復習する。（0.5時間）	
	第2回	手術の侵襲と生体反応 手術侵襲と生体反応について講義する。 事前学習：ムーアの分類について学修する。（0.5時間） 事後学習：ムーアの分類 第Ⅰ相～Ⅱ相の臨床所見、内分泌状態、代謝、創部について復習する。（0.5時間）	
	第3回	麻酔による身体への影響と手術中の看護 麻酔による身体への影響と手術中の看護について講義する。 事前学習：麻酔の種類・手術中の体位について事前学修する（0.5時間） 事後学習：①全身麻酔の影響（呼吸・循環・体温・消化器症状）についてまとめる ②脊髄くも膜下麻酔（腰椎麻酔）の薬剤の種類による体位について復習する（0.5時間）	
	第4回	手術室の看護 手術室の環境・安全管理・手術中の看護師の役割（直接看護・間接看護）、について講義する。 手術体位とその介助について講義する。 事前学習：手術体位の末梢神経障害及び合併症予防について学修する（0.5時間） 事後学習：手術室の看護について復習する。（0.5時間）	
	第5回	手術前の看護 手術前の看護について講義する ・術前オリエンテーションの意義と目的 ・術前の身体のアセスメントの必要性と項目 事前学習：手術体位と神経麻痺について学修する（0.5時間） 事後学習：身体のアセスメント項目について検査データの基準値を踏まえまとめる。（0.5時間）	
	第6回	手術後合併症と予防方法 手術後の合併症と予防法について講義する 事前学習：術後の循環器合併症について学修する。（0.5時間） 事後学習：せん妄の発生要因、誘発要因、準備要因についてまとめる。 無気肺の予防方法について、復習する 術後合併症を発生日、発生機序、症状、予防対策、発症時の対策についてまとめる（0.5時間）	
	第7回	手術後の回復を促進するための看護 手術後患者の身体的・心理的变化についてアセスメントの視点、早期離床の意義、術後疼痛について講義する。術後の創傷治癒過程、ドレナージの目的とそのケアについて講義する。 事前学習：術後の呼吸器合併症、循環器合併症、消化器合併症について学修する。 創傷治癒過程について学修する（0.5時間） 事後学習：ドレナージの目的・意義・ドレナージ管理について復習する 早期離床の意義・方法、術後疼痛が生体に及ぼす影響、術後せん妄について復習する。（0.5時間）	
	第8回	内視鏡下手術を受ける患者の看護：腹腔鏡下手術 分節麻酔の整理：帝王切開術 腹腔鏡下手術を受ける患者の看護について講義する。 帝王切開術の麻酔看護について講義する。 事前学習：麻酔による身体への影響について復習する。（0.5時間） 事後学習：腹腔鏡下手術の合併症について学修する（0.5時間）	

	第9回 消化器外科手術を受ける患者の看護：胃がん・大腸がん・人工肛門造設 消化器外科手術を受ける患者（胃がん・大腸がん・人工肛門造設術）の看護について講義する 事前学習：胃の4つの機能、胃の解剖について学修する。（0.5時間） 事後学習：胃切除後の合併症（早期ダンピング・晩期ダンピング）について機序、発症しないための看護 ストーマの正常と異常、ストーマサイトマーキングのポイント、ストーマの管理（退院指導） 装具交換の具体的手順について学修する（0.5時間） 第10回 胸部手術を受ける患者の看護1：肺がん 乳がん（ボディーイメージの変化を伴う手術） 肺の手術・乳房の手術を受ける患者の看護について講義する。 事前学習：咽頭から肺胞までの構造、胸膜と胸膜腔について、解剖生理を学習する。 ボディーイメージの変容する患者の心理過程を学習する（成人看護学総論P323-324）喪失に対する適応 過程を理解する。（0.5時間） 事後学習：乳房切除後の合併症の留意点について学修する 胸腔ドレナージの原理と看護について学修する（0.5時間） 第11回 胸部手術を受ける患者の看護2：心臓手術を受ける患者の看護 心臓手術を受ける患者の看護について講義する。 事前学習：心臓の解剖生理、体循環、肺循環を学習する（0.5時間） 事後学習：致死的不整脈とその治療について学修する。 心臓手術後の合併症について（後出血・心タンポナーデ・低拍出量症候群（LOS））学修する 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護について学修する。（0.5時間） 第12回 開頭手術を受ける患者の看護 開頭手術を受ける患者の看護について講義する 事前学習：脳の解剖について学習する 意識レベルJCS・GCSについて学修する（0.5時間） 事後学習：急性頭蓋内圧亢進症状と発生する機序について学修する 頭蓋内圧亢進させないための看護について学修する 脳ヘルニアの病態生理と脳ヘルニアの症状について学修する 脳室ドレナージ施行中の患者の看護について学修する（0.5時間） 第13回 運動器疾患の手術を受ける患者の看護 運動器疾患の手術を受ける患者の看護について講義する 事前学習：運動器疾患の出現しやすい神経障害について学修する。（0.5時間） 事後学習：運動器疾患の術後合併症の予防と患者教育について学修する。（0.5時間） 第14回 周術期の看護過程 事例：胃切除術を受ける患者の看護過程 術前の情報アセスメント 事前学習：胃切除術の基礎病態、全身麻酔への影響について学修する（0.5時間） 事後学習：術前オリエンテーションについて学修する（0.5時間） 第15回 周術期の看護過程 事例：胃切除術を受ける患者の看護過程 術前の看護診断、看護計画 事前学習：胃切除術の術前のアセスメント、検査データについて整理する（0.5時間） 事後学習：術前の看護計画の根拠を整理する（0.5時間）
テキスト	矢永勝彦編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 北川雄光、江川幸二他編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 南川雅子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学5 医学書院 浅野浩一郎他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学2 医学書院 吉田俊子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学3 医学書院 野崎真奈美他編：成人看護学 成人看護技術 南江堂 系統看護学講座 脳・神経 成人看護学7 医学書院 系統的看護学講座 運動器 成人看護学10 医学書院
参考書・参考資料等	山勢博彰他著：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 鎌倉やよい他著：周手術期の臨床判断を磨く 医学書院 中島恵美子他編：ナースング・グラフィカ成人看護学④周術期看護 メディカ出版 林直子、佐藤まゆみ編：NiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰー概論・周手術期看護 南江堂
学生に対する評価	学習確認・受講姿勢10%、看護過程10%、定期試験80%、
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。
備考	急性期病棟、集中治療部、救急部、手術部勤務を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： リハビリテーション看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
吉江由加里			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(看護)	064209L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. リハビリテーションの意義およびリハビリテーション看護の専門性について説明できる。 2. リハビリテーション看護を創造するために必要な主要概念について説明できる。 3. 急性期・回復期・生活期のリハビリテーションの特徴およびリハビリテーション看護の目的と方法が説明できる。 4. 生活機能障害をもつ人とその家族に対する看護が説明できる。 5. リハビリテーションにおける倫理的課題について考えることができる。 6. 地域リハビリテーションの理念と地域包括ケアとの関係について説明できる。
授業の概要	リハビリテーション看護は、生活機能障害を有する人のQOL (Quality of Life) を向上するという目的を有する活動である。さまざまな看護活動を創造するために必要な概念・理論を教授する。また、多様な生活機能障害への看護活動を実践的に考えていくことができるように、その具体的な方法を教授する。さらに、リハビリテーション看護に特有の倫理的課題を検討し、倫理的感性を養う。
授業計画	第1回 リハビリテーションとは 1) リハビリテーションの定義、目的、領域 2) リハビリテーションにかかわる法律 3) 生活機能分類と生活機能障害の分類 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする (30分) 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める (30分) 第2回 リハビリテーション医療に必要なチームアプローチ、 1) チームとは、チームアプローチを促進する体制 2) リハビリテーション医療に携わる専門職の役割・機能 3) リハビリテーション看護の専門性 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする (30分) 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める (30分) 第3・4回 リハビリテーション看護の展開に必要な概念 1) QOL: quality of life 2) セルフケア 3) 動機と主体性 4) 協働的パートナーシップ 5) 相互作用 6) 動きやすい環境 7) 日常生活活動 (ADL) の構造 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする (30分) 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める (30分) 第5回 リハビリテーション看護の目的と方法 1) 不動・低活動の予防 2) 活動の促進 3) 参加の促進 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする (30分) 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める (30分) 第6回 回復過程とリハビリテーション看護 1) 急性期におけるリハビリテーション看護 2) 回復期におけるリハビリテーション看護 3) 生活期におけるリハビリテーション看護 4) 終末期におけるリハビリテーション看護 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする (30分) 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める (30分) 第7回 生活機能障害とリハビリテーション看護① 脳血管疾患による運動機能障害のある人への看護 脳血管疾患患者 (事例：脳梗塞) の看護過程展開

	第8回 事前学習：各生活機能障害のメカニズムをまとめる（30分） 事後学習：事例の看護展開（アセスメント、全体像把握（関連図）、看護問題抽出、優先順位の決定、成果の設定、看護計画立案） 生活機能障害とリハビリテーション看護② 脊髄損傷による運動機能障害のある人への看護 第9回 事前学習：脊髄損傷の疾病治療について復習する（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） 生活機能障害とリハビリテーション看護③ 大腿骨近位部骨折・下肢切断による運動機能障害のある人への看護 第10回 事前学習：大腿骨近位部骨折・下肢切断の疾病治療について復習する（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） 生活機能障害とリハビリテーション看護④ 関節リウマチによる運動機能障害のある人への看護 第11回 事前学習：関節リウマチの疾病治療について復習する（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） 生活機能障害とリハビリテーション看護⑤ 高次脳機能障害のある人への看護 第12回 事前学習：高次脳機能障害のメカニズムについて学習する（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） 生活機能障害とリハビリテーション看護⑥ 摂食嚥下障害のある人の看護 第13回 事前学習：摂食嚥下障害、排泄機能障害のメカニズムについて学習する（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） リハビリテーション看護における倫理的課題、地域リハビリテーションの考え方、リハビリテーションにおける障がい者スポーツの理念と実際 1) リハビリテーションにおける倫理的課題（過小な治療、過剰な治療） 2) 各回復過程（急性期、回復期、生活期）のリハビリテーションにおける倫理的課題 3) 倫理的課題への対応：ジョンセンの四分割表） 4) 地域リハビリテーション（CBR）の定義 5) 障がい者スポーツの意義と価値 6) 障がい者スポーツ指導員の役割、心構え、視点 第14回 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） 生活の再構築へのアセスメントと援助 1) 生活の再構築とは 2) 生活の再構築のための支援：主体性回復への支援、安全・安楽の確保、活動・参加促進にむけたADL支援（学習支援） 第15回 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分） 心理社会的なアセスメント、まとめ：脳血管疾患患者の看護過程展開の解説 1) 自己概念と障害受容 2) 家族：心理社会的反応、家族の支援能力のアセスメント、家族支援の方法 3) 社会の態度：スティグマと自己アイデンティティ、社会受容 事前学習：テキストの該当ページ、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする（30分） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し理解を深める（30分）
テキスト	酒井郁子、金城利雄、深堀浩樹（編）：リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む、南江堂、最新版。 系統看護学講座 脳・神経 成人看護学7 医学書院 系統的看護学講座 運動器 成人看護学10 医学書院
参考書・参考資料等	奥宮暁子（編）：ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護，メディカ出版，最新版。 安酸史子（著）：ナーシンググラフィカ成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版，最新版。 安酸史子（著）：ナーシンググラフィカ成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得，メディカ出版，最新版。 石川ふみよ（著）：健康の回復と看護⑤ 運動機能障害，メディカ出版，最新版。 （公財）日本障がい者スポーツ協会（編）：障がいのある人のスポーツ指導教本，株式会社ぎょうせい。

学生に対する評価	定期試験：50% 確認テスト：20%（指定授業回の授業開始10分間で実施、10回分20%に換算する） 看護過程展開：20% 課題レポート：10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時対応可，メールでの対応も可能 確認テスト：採点し返却するとともに、授業時間内で解説を行う。 看護過程展開：授業時間内やメール等を利用し解説を行う。 課題レポート：添削し返却するとともに、授業時間内やメール等を利用し解説を行う。
備考	回復期リハビリテーション病棟での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 生活再構築を支援する看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
北川 敦子			
講義		064210L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【授業の到達目標】 1. 生活機能障害をもつ対象とその家族の現状について説明できる。 2. 生活の再構築に必要な理論について説明できる。 3. 生活機能障害をもつ対象とその家族に対する生活の再構築に向けた支援方法について説明できる。 4. 退院支援に向けた保健医療福祉チームとの連携と看護師の役割について説明できる。 【テーマ】 疾患により生活機能障害をもった対象およびその家族に向けた生活を再構築するための支援方法について主体的に学ぶ。授業の中から、保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割を意識し、自らのあるべき姿や課題について考察する。		
授業の概要	生活機能障害をもつ対象を理解し、機能障害に対する受容と自己概念、生活の再構築にむけたリハビリテーションを支援するための看護の具体的方法について教授する。また、慢性疾患をもつ対象に対して、セルフケアの維持・向上を促し生活を再構築する（セルフマネジメント）ための看護の方法について教授する。さらに、退院支援にむけた保健医療福祉チームとの連携と看護師の役割について教授する。		
授業計画	第1回目 セルフケアとセルフマネジメントとは1 事前学習：セルフケアとセルフマネジメントとは何か、教科書などで調べ学習（0.5時間） 事後学習：授業での学びをもとに、事前学習での自分の考えについて考察する（0.5時間） 第2回目 セルフケアとセルフマネジメントとは2 事前学習：学習成人教育の特徴、コミュニケーションの取り方、セルフケアとセルフマネジメントを推進する看護方法を調べる（0.5時間） 事後学習：セルフケアとセルフマネジメントを支える看護とは何かについて考察する（0.5時間） 第3回目 消化器疾患とともに生きるセルフマネジメント支援 事前学習：消化器の解剖生理について既習学習の復習（0.5時間） 事後学習：疾患と看護の繋がり、保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割について考察する（0.5時間） 第4回目 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援1 事前学習：膵臓を中心とした内分泌の解剖生理、糖尿病の検査と治療について既習学習の復習（0.5時間） 事後学習：膵臓の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく（0.5時間） 第5回目 糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援2 事前学習：糖尿病とともに生活する人とその家族への看護について調べ学習（0.5時間） 事後学習：疾患と看護の繋がり、保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割について考察する（0.5時間） 第6回目 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援1 事前学習：心臓をはじめとする循環器の解剖生理について既習学習の復習（0.5時間） 事後学習：循環器系の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく（0.5時間） 第7回目 慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援2 事前学習：慢性心不全とともに生活する人とその家族への看護について調べ学習（0.5時間） 事後学習：疾患と看護の繋がり、保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割について考察する（0.5時間） 第8回目 慢性腎臓病とともに生きるセルフマネジメント支援1 事前学習：腎臓の病態生理、治療方法について既習学習の復習（0.5時間） 事後学習：腎臓の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく（0.5時間） 第9回目 慢性腎臓病とともに生きるセルフマネジメント支援2 事前学習：慢性腎不全とともに生活する人とその家族への看護について調べ学習（0.5時間） 事後学習：疾患と看護の繋がり、保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割について考察する（0.5時間） 第10回目 慢性呼吸不全・気管支喘息とともに生きるセルフマネジメント支援1 事前学習：呼吸器（肺・気管支）の解剖生理・慢性呼吸不全の検査と治療についての調べ学習（0.5時間） 事後学習：呼吸器系の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく（0.5時間） 第11回目 慢性呼吸不全・気管支喘息とともに生きるセルフマネジメント支援2 事前学習：慢性呼吸不全と気管支喘息とともに生活する患者とその家族への看護について調べ学習（0.5時間） 事後学習：疾患と看護の繋がり、保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割について考察する（0.5時間） 第12回目 肝硬変などの肝・胆道疾患とともに生きるセルフマネジメント支援 事前学習：肝臓・胆嚢・胆道の解剖生理・肝硬変の検査と治療についての調べ学習（0.5時間） 事後学習：肝硬変の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく		

	く。さらに保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割を考察する（0.5時間） 第13回目 がんとともに生きるセルフマネジメント支援 事前学習：がんの特徴、がんの集学的治療方法についての学習（0.5時間） 事後学習：がんの疫学、特徴および治療方法から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく。さらに保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割を考察する（0.5時間） 第14回目 難病（ALS・パーキンソン病）とともに生きる生活の再構築にむけた支援方法 事前学習：ALS・パーキンソン病の病態生理、治療方法について既習学習の復習（0.5時間） 事後学習：ALSまたはパーキンソン病の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく。さらに保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割を考察する（0.5時間） 第15回目 HIV感染とともに生きるセルフマネジメント支援 事前学習：HIV感染症の疫学、感染経路、治療について調べ学習（0.5時間） 事後学習：肝硬変の解剖生理から、看護への繋がり、使用できる理論との関係性を整理しておく。さらに保健医療福祉チームの一員としての看護師としての役割を考察する（0.5時間）
テキスト	・安酸史子他：ナースンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント、メディカ出版、最新版 ・1, 2年生で使用した該当臓器（呼吸器・循環器・内分泌・免疫・血液・腎臓・泌尿器、消化器等）の解剖生理から疾病の病態生理、治療、検査、看護について記載してある教科書を用意すること
参考書・参考資料等	・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 1 消化器、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 2 循環器、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 4 呼吸器、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 5 血液、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 7 脳・神経、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器、メディックメディア、最新版 ・医療情報科学研究所：病気がみえる vol. 11 運動器・整形外科、メディックメディア、最新版 ・糖尿病食事指導療法のための食品交換表、第6版、文光堂、2005
学生に対する評価	・定期試験70%、授業中に小テストを行います。小テストの解答率により、その時間の配点を付与します(30%)
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	・在室時は対応します。授業内の小テストは希望者に返却します。 ・授業計画が変更になる場合があります。変更になる場合は、第1回目の授業時にお知らせしますので、必ず確認してください。
備考	・大学病院および一般病院にて慢性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。

講義科目名称： エンド・オブ・ライフケア

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
北川 敦子			
講義		064211L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標】 1. 終末期医療の概念と現状について説明できる 2. 人生の終末期にある人とその家族の特徴について説明できる 3. 人生の終末期にある人およびその家族の全人的苦痛とその援助について説明できる 4. 様々な対象のエンド・オブ・ライフケアについて説明できる 5. 学生自身の死生観を意識化し、死に向き合う対象やその家族に関わる自己の態度の醸成に向け、エンド・オブ・ライフケアに対する考えを表現できる。 【テーマ】 人生の最終段階にある対象者とその家族を理解し、緩和ケアアプローチ方法を習得することで、最善のエンド・オブ・ライフケアとは何かを問い、自ら答えを見出していく能力を学ぶ。 ・本授業は、講義とグループワークを基本とした演習、発表と全体討議など、受講した学生と教員との相互交流をしながら学ぶ学習スタイルをとる。 【確認】全ての回数で、「死」に関するDVDや話題が提供されます。「死」について、辛い思いをしている場合など、授業に参加が心理的に負担になる場合は、事前に教員へ相談ください。また、授業途中に具合が悪くなった場合は、教員へその旨申告後、退出は可能です。
授業の概要	あらゆるライフサイクル、ライフステージ、場における人生の終焉にある人々とその家族のもつ全人的苦痛（身体的・精神的・社会的苦痛およびスピリチュアルペイン）を理解し、その具体的な援助方法について教授する。授業を通して、自己の価値観・死生観を意識化し、エンドオブライフに際した対象者にとって最善のケアを学生自ら考察し、考察した内容を教員とともに検討する過程において、看護職者としての倫理観・看護観を育みながら知と技の活用方法を習得する。
授業計画	第1回 生と死について考える（演習） 講義前に読んだ「死」についての感想・考えをグループでディスカッションし、生と死について考える。 事前学習：事前課題（別紙）を作成する（0.5時間） 事後学習：授業でのグループディスカッションを基に、今後の授業で自分が何を学ぶべきかについて考察し、具体的な学習方法を立案する（0.5時間） 第2回 エンド・オブ・ライフにある患者の実際1 成人期にあるがん患者の終末期患者のありようをDVD視聴する 事前学習：エンド・オブ・ライフにある患者への援助に必要なことを調べ学習する（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第3回 エンド・オブ・ライフにある患者の実際2 成人期にあるがん患者の終末期患者のありようをDVD視聴したのち、グループディスカッションにてエンド・オブ・ライフケアについて深く考察する 事前学習：エンド・オブ・ライフにある患者への援助に必要なことを調べ学習する（0.5時間） 事後学習：授業でのグループディスカッションを基に、終末期看護について考察する（0.5時間） 第4回 エンド・オブ・ライフの3つの概念と現状 終末期の概念と現状を学び、がん専門看護師の機能について学修する 事前学習：終末期の概念を教科書で調べておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第5回 緩和ケアをめぐる倫理的問題、終末期における意思決定支援 事前学習：既習の倫理学のテキストを復習しておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第6回 エンド・オブ・ライフにある人のがん性疼痛コントロール方法とその看護 事前学習：痛みに影響をもたらす要因について自身の経験からまとめておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第7回 エンド・オブ・ライフにある人の症状マネジメント（身体的側面） 事前学習：身体的苦痛にはなにかがあるかについて調べておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第8回 エンド・オブ・ライフにある人の精神的苦痛とその援助 事前学習：こころの疾患の理解と看護Ⅰの授業資料に目を通しておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第9回 エンド・オブ・ライフにある人の社会的苦痛・スピリチュアルペインとその援助 事前学習：社会的苦痛・自己概念について教科書にて調べておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第10回 エンド・オブ・ライフにある家族の全人的苦痛とその援助および、家族の生と死への思いとその援助 事前学習：家族とは何かについて、自身の考えをまとめておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間）

	第11回 非がん患者、小児、高齢者、在宅で生活する人の緩和ケア 非がん性疾患の患者の緩和ケア（慢性心不全、慢性・進行性の呼吸疾患、神経筋疾患、透析中止） 小児の緩和ケア 高齢者の緩和ケア 在宅で生活する人の緩和ケア 事前学習：治療の中止について、延命治療についての自身の考えをまとめておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第12回 臨死期および死亡後の対象者および家族への看護 エンゼルケアについての演習も含む。 事前学習：エンゼルケアとは何かについて自身の考えをまとめておく（0.5時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（0.5時間） 第13回 事例展開1（情報の整理） エンド・オブ・ライフ期に多く見られる症状について事例とともに看護展開をする 事前学習：第12回で患者像について提示するので、それについて定義からケア、看護問題の考え方を学習しておく（0.5時間） 事後学習：事例展開をする（0.5時間） 第14回 事例展開2（看護問題の抽出） 第14回で行った事例の患者像から看護問題を抽出する 事前学習：第14回での症状について、その症状を緩和する治療やケア、看護目標のあげ方を学習しておく（0.5時間） 事後学習：事例展開をする（0.5時間） 第15回 事例展開3（看護計画の立案） 第14回で行った事例の症状緩和について看護計画を立案する 事前学習：第14回での症状について、その症状を緩和する治療やケア、看護目標のあげ方を学習しておく（0.5時間） 事後学習：事例展開をする（0.5時間）
テキスト	・資料配布 ・宮下光令：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版、最新版
参考書・参考資料等	・梅田恵、射場典子：NiCE 緩和ケア、南江堂、最新版 ・鈴木志津枝、内布敦子：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論[第2版] ・平原佐斗司編：チャレンジ！非がん疾患の緩和ケア、南山堂 ・関連図や病態について理解できるような参考書 他、講義時に紹介する
学生に対する評価	定期試験80%、事前レポート3%、授業中の課題17%（各種レポートと看護展開）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。
備考	大学病院および一般病院にて主に終末期にある患者の看護、がん看護、緩和ケア病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 演習で取り組んだ課題に対するフィードバックは授業の中で行います。 事前課題： この講義を受講するにあたり以下の事前課題を提出すること。 ・事前学習として、「死」についての書籍を1冊読み、感想文を初講後に提出すること（授業中に使用します）。 なお書籍の対象は「死産、流産、新生児の死」、「乳幼児、学童の死」、「青年期にある人の死」、「成人期にある人の死」、「老年期にある人の死」とし、死因となった疾患はがんに限定せず、神経難病や自殺など、どのような疾患、死因でも構わない。感想文はA4用紙1～2枚程度で冒頭に「タイトル」、「学籍番号」、「氏名」を記載する。表紙は不要です。感想文の書き方については、次の項目構成で記載する。①この本を選んだ理由、②あらすじ（いつ、どこで、誰が、なにをしたかなど短くまとめる）、③心に残ったところ、④自分だったらどうするだろうか（「自分だったら、こうする」や、本を読んで「これからはこうしよう」と思ったことなどを書いてもいいです） 書式設定：上下左右余白20mm、MS明朝体10.5ポイント、45字45行

講義科目名称： クリティカルケア看護

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
駒田 裕司			
講義	養護教諭対象科目	064212L3NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	救急・クリティカル領域の患者の特徴、看護の特徴を理解し、患者と家族に適切な看護を提供するために、クリティカル領域の病態とその治療・処置・看護に関する知識・技術を習得する。 1. 救急・クリティカル領域の医療の現状・看護の特徴と役割について理解する。 2. 一次救命処置・二次救命処置・急変対応について理解し、一次救命処置を実施できる。 3. 救急・クリティカル領域の患者の特徴、主要な病態と治療および看護について理解する。 4. 生命の危機的状況下にある患者・家族の心理・看護ケアについて理解する。 5. 臓器提供・臓器移植医療とその看護ケアについて理解する。
授業の概要	クリティカルケアを必要とする生命危機状態にある重症患者の身体的・心理的・社会的側面を理解し、患者の生命を護り支え、家族を支える援助方法について教授する。 具体的内容は、クリティカルケア看護の基本的概要、クリティカルケアが必要な患者の身体的・心理的・社会的特徴および家族の特徴、クリティカルケアを必要とする患者・家族への援助方法、クリティカルケア看護における倫理的課題について教授する。
授業計画	1回 救急・クリティカルケア看護の特性 救急・クリティカルケア看護の特性について講義する。 事前学習：救急・クリティカル医療とその看護の特徴について事前学習する。（2時間） 事後学習：救急・クリティカル看護師の役割・看護の特徴について復習する。（2時間） 2回 ショック・循環障害患者への対応 ショックについて、病態、処置、看護ケアについて講義する。 事前学習：ショックの分類・特徴について事前学習する。（2時間） 事後学習：ショックの病態、処置、治療、看護について復習する。（2時間） 3回 外傷患者への対応 外傷の病態・処置・看護ケアについて講義する。 ・多発外傷（頭部外傷・胸部外傷・腹部外傷・四肢外傷） 事前学習：頭部の解剖生理について事前学習する。（2時間） 事後学習：多発外傷の特徴的な病態・処置・看護ケアについて復習する。（2時間） 4回 熱傷・急性腹症患者への対応 熱中症・熱傷患者への対応について講義する。 急性腹症患者への対応について講義する。 事前学習：皮膚の解剖生理、腹部（消化器）の解剖生理について事前学習する。（2時間） 事後学習：熱中症・急性腹症の症状、看護ケアについて復習する。（2時間） 5回 クリティカル領域における危機的状況にある患者・家族ケア 危機的状況にある患者・家族の心理の心理について講義する 事前学習：危機介入について事前学習する。（2時間） 事後学習：救急・クリティカル領域の患者・家族の心理、意思決定支援について復習する。（2時間） 6回 臓器提供・臓器移植と家族看護 臓器移植の歴史・移植コーディネーターの役割・家族ケアについて講義する。 事前学習：臓器提供・臓器移植医療について学習する。（2時間） 事後学習：危機的状況にある家族への支援、危機介入について自分の行いたい看護ケアをまとめる。（2時間） 7回 心肺停止状態への対応、心肺蘇生法 心肺停止状態への対応、心肺蘇生法、急変患者への対応について講義する。 一次救命処置（BLS）、二次救命処置（ALS） 事前学習：致死的な不整脈について学習する。（2時間） 事後学習：心肺停止状態の傷病者の対応について復習にする。（2時間） 8回 心肺停止状態への対応、心肺蘇生法 一次救命処置（BLS）、AED（自動体外式除細動器）の手技を演習により修得する。 事前学習：一次救命処置・二次救命処置について学習する。（2時間） 事後学習：BLS, AEDの手技について確実に実施できるように復習する。（2時間）
テキスト	佐藤まゆみ、林直子他編：成人看護学急性期看護Ⅱクリティカルケア、南江堂 野崎真奈美、林直子他編：成人看護学、成人看護技術、南江堂。
参考書・参考資料等	山勢博彰他：系統看護学講座 別巻 救急看護学、医学書院。 山勢博彰他：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 永廣信治、田村綾子他著：ナーシンググラフィカEX 疾患と看護 5 脳・神経 MCメディカ出版 吉田俊子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 3 循環器、医学書 南川雅子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 5 消化器、医学書院 益田美津美：急性期看護・クリティカルケア メヂカルフレンド社
学生に対する評価	定期試験90% 演習態度10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。

備考	救急部・集中治療部・手術部の勤務経験および認定看護師の活動経験を踏まえ教授する
----	---

講義科目名称： 看護理工学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【選択】看護
担当教員			
北川 敦子・駒澤 真人			
講義		064213L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【授業の到達目標】 1. 看護理工学とはなにか説明できる 2. 看護理工学的手法を用いた研究の方法を説明できる 3. 看護現場での疑問を解決する手段を見出せる 【テーマ】 看護の対象者となる方々（患者とその家族、医療従事者）の安全・安心を第一とした「療養生活の支援」を目的とし、新たな看護技術を開発し、その評価をする手順を学ぶ。		
授業の概要	看護理工学とは、人々の健康・疾病に関する「療養生活の支援」を目的として、看護の視点を重視した研究を指し、新たな技術開発を行う学問領域と定義されている。人々の生活の支援を目指すために、まず人々に起こっている問題の抽出の方法から、理工学との連携方法と新たな看護技術開発までの過程を教授する。問題の抽出に当たっては、学生主導で行い自ら考えだす力や、教員や他の受講者との対話から、事象を柔軟にとらえる力を養うことを目標とする。		
授業計画	第1回	看護の中にある疑問をみつける①（レポート作成）（北川） 事前学習：看護の現象での疑問を見つける（2時間） 事後学習：：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（2時間）	
	第2回	看護理工学とは（北川） 事前学習：看護の現象での疑問を見つける（2時間） 事後学習：：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（2時間）	
	第3回	看護学における生物学的アプローチ と看護理工学研究の様々な手法（北川） サーモグラフィ、超音波画像装置検査法、質的スケッチ法、スキンプロッティング法 事前学習：看護の現象での疑問を見つける（2時間） 事後学習：：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（2時間）	
	第4回	看護学における工学的アプローチ（駒澤） 事前学習：看護の現象での疑問を見つける（2時間） 事後学習：：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（2時間）	
	第5回	看護の中にある疑問を見つける②（北川） 事前学習：看護の現象での疑問を見つける（2時間） 事後学習：配布資料を読んで、その内容をノートにまとめること（2時間）	
	第6回	疑問を解決する方法を考察する（GW） 1：ニーズとソースのマッチング（北川） その疑問は看護学領域で解決できるのか、できないのであれば工学系、生物学系など他分野との共同で解決できるのかをディスカッションしながら考える。また、製品化をするのであれば、どの企業とマッチングしたらよいのかにも考察し調べ学習をする。 事前学習：看護の現象での疑問を見つける（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションでの考えをまとめる（2時間）	
	第7回	疑問を解決する方法を考察する（GW） 2：ニーズとソースのマッチング（北川） 事前学習：疑問はどのような方法で解決できるかを考える（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションでの考えをまとめる（2時間）	
	第8回	具体的な方策とまとめ：グループ発表（北川・駒澤） 授業の中で、ディスカッションしながら疑問を解決する研究方法や企業との連携について考える。 事前学習：具体的な疑問を解決する方法を考える（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションでの考えをまとめる（2時間）	
テキスト	・資料配布		
参考書・参考資料等	授業の中で紹介する。		
学生に対する評価	各授業ごとでレポートおよび発表点があります。授業と最終レポート提出内容をもって総合100点の評価とします。 ※講義・演習のレポートは講義・演習に出席していないと配点されませんので十分お気を付けください。 ※グループワークの評価：グループワーク協働活動状態を自己評価と他者評価し、さらに記載された内容を教員が評価します。 ※レポート作成時、ChatGPTなどの生成系AIの使用は、個人の考えと認めないので、使用を禁止します。使用が分かった段階で、当該レポートの点数は0点とします。		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。		
備考	北川：看護理工学会評議員であり、臨床研究の場で養った看護理工学との経験をもとに当講義を進める。 駒澤：ウェアラブルセンサーの開発に関わり工学的な手法をもち、健康課題に取り組んでいる。この経験をもとに当講義を進める。 履修登録された方は、登録されているかを必ず確認してください。		

講義科目名称： 医療的ケア

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【選択】看護
担当教員			
吉田 美幸			
講義		064214L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	①医療的ケア児の動向や法律、保健・障害福祉・保育・教育等における医療的ケアの現状と連携体制について理解できる。 ②医療的ケアが必要な子どもが、地域で生活できるための看護について理解できる。		
授業の概要	医療的ケアが必要な子どもが、地域で生活できるための看護について教授する。 具体的内容は、増加する医療的ケア児とその家族の現状、喀痰吸引等制度、保健・障害福祉・保育・教育等における医療的ケアの現状と連携体制、子どもへの医療的ケアに関する看護技術である。		
授業計画	第1回目	医療的ケア児とは・小児医療の現状と医療的ケア児の動向 内容：小児医療の現状と医療的ケア児の動向について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読し、不明な点を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献等を用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第2回目	医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律 内容：児童福祉法・医療的ケア児支援法等、医療的ケア児に関する法律について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読し、不明な点を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献等を用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第3回目	医療的ケア児への医療支援 内容：障害のある子どもの成長と発達の特徴、疾患の特徴、生理について理解する。 事前学習：テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読し、不明な点を明確にする（時間：2時間）。 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献等を用いて、学修した内容を整理し、理解を深める（時間：2時間）。	
	第4回目	在宅移行支援―退院の準備 内容：在宅移行支援の特徴、ポイント、支援のプロセス、NICUにおける在宅移行支援、訪問看護・訪問リハビリテーションとの連携、小児の緩和ケアと在宅移行支援について理解する。 事前学習：テキスト、関連書籍を熟読し、担当する医療的ケアに関する看護技術についてレポートする（時間：2時間）。 事後学習：事前に作成したレポートやグループワーク・実技練習した内容を振り返り、担当する医療的ケアに関する看護技術の理解を深める（時間：2時間）。	
	第5回目	在宅移行支援の実例―事例に対する医療的ケア技術（発表） 内容：事例に対する医療的ケア実技を発表し、理解を深める。 事前学習：担当する医療的ケアに関する看護技術の実技の練習、発表の準備を行う。テキスト、関連書籍を熟読し、医療的ケアに関する看護技術について学修する（時間：2時間）。 事後学習：事前学修した内容、各グループの発表と質疑応答の内容を振り返り、医療的ケアに関する看護技術の理解を深める（時間：2時間）。	
	第6回目	在宅移行支援の実例―医療的ケア指導技術（グループワーク） 内容：グループで、事例に必要な医療的ケアに対する指導ができるよう、計画及び指導に必要なソールの検討をする。 事前学習：テキスト、関連書籍を熟読し、担当する医療的ケアに対する指導技術についてレポートする（時間：2時間）。 事後学習：事前に作成したレポートやグループワークを振り返り、担当する医療的ケアに対する指導技術についての理解を深める（時間：2時間）。	
	第7回目	医療的ケアに関する指導技術（発表） 内容：事例に必要な医療的ケアに対する指導技術を発表し、理解を深める。 事前学習：担当する医療的ケアに対する指導ができるように練習や発表の準備を行う。テキスト、関連書籍を熟読し、医療的ケアに対する指導技術について学修する（時間：150分）。 事後学習：事前学修した内容、各グループの発表と質疑応答の内容を振り返り、医療的ケアに関する指導技術についての理解を深める（時間120分）。	
	第8回目	医療的ケアに関する指導技術（発表） 内容：事例に必要な医療的ケアに対する指導技術を発表し、理解を深める。 事前学習：担当する医療的ケアに対する指導ができるように練習や発表の準備を行う。テキスト、関連書籍を熟読し、医療的ケアに対する指導技術について学修する（時間：2時間）。 事後学習：事前学修した内容、各グループの発表と質疑応答の内容を振り返り、医療的ケアに関する指導技術についての理解を深める（時間：2時間）。	

テキスト	・奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学①、医学書院. ・奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②、医学書院. ・添田啓子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村佳士枝：看護実践のための根拠がわかる小児看護技術、メジカルフレンド社.
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	筆記試験50%、レポート・課題発表50%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日～金曜日の9:00～17:00に随時対応します。
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

講義科目名称： 看護実践力Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【必修】看護
担当教員			
奥田豊子・八杉朱美・寺島喜代子・北川敦子・吉江由加里・油野規代・藤本ひとみ・蔵屋敷美紀・駒田裕司			
講義		064215L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. コンセプトに基づき、患者の看護問題を特定し、看護ケアを提供することができる。 2. 経験した実践を振り返り、療養過程に基づいた看護実践につなげるための自己の課題が抽出できる。 本授業では、慢性閉塞性肺疾患増悪の高齢患者の事例について次のような内容を学ぶ。 ・人体の構造と機能・疾病治療論で学んだ知識を結び付け、対象の病態の関連（身体の中で何が起きているのか）を理解する。 ・病態の関連を基に、対象の情報の意味が看護の方向性にどのように繋がるのかを理解する。 ・事例の情報を整理し、分析・解釈・統合し、看護課題の優先順位を判断する。 ・事例の個別性にそった看護計画が立案できる。
授業の概要	あらゆる健康レベルにある人々への看護実践を行うために、実践的、包括的かつ実体験のように感じられるようシミュレーションをベースに、対象の複雑な病態や状況に対して、既習学習を統合させながら臨床判断を行い、学びを積み重ねながら看護実践能力を高めるための技能を教授する。 本授業は実践力の強化を主眼とし、コンセプト学習を行いながら臨床判断トレーニングを行う。
授業計画	第1回 ガイダンス、慢性閉塞性肺疾患の病態の理解 ガイダンス 看護過程の各プロセスと科目（看護実践力Ⅰ～Ⅲの関連を含め）の進み方の確認（復習） 病態生理とは 解剖生理と関連付けて慢性心不全の病態の関連の理解 事前学習：看護実践力Ⅰの資料を基に看護過程の各プロセスの概要を復習する（2時間）。 事後学習：学修するコンセプト（慢性閉塞性肺疾患）に関する知識確認のための課題に取り組む（2時間）。 第2回 慢性閉塞性肺疾患の病態生理事例からその原因の思考、事例の病態と治療の関連を思考 グループワーク：慢性閉塞性肺疾患の病態生理を病態関連図で表す① 事前学習：第1回事後課題の実施（2時間） 事後学習：（個人課題）慢性閉塞性肺疾患の病態関連図の修正・追加（2時間） 第3回 慢性閉塞性肺疾患の病態生理事例からその原因の思考、事例の病態と治療の関連を思考 事例の提示 グループワーク：慢性閉塞性肺疾患の病態生理を病態関連図で表す② 事前学習：第2回の事後学習の実施（2時間） 事後学習：（個人課題）事例に行われている治療の作用からその目的を考える、事例の病態関連図作成（2時間） 第4回 慢性閉塞性肺疾患の病態生理事例からその原因の思考、事例の病態と治療の関連を思考 グループワーク：慢性閉塞性肺疾患の病態生理を病態関連図で表す③ 慢性閉塞性肺疾患の治療についての確認 事例の入院後の治療の意味を考える 事前学習：第3回の事後学習の実施（2時間） 事後学習：（個人課題）事例の病態関連図完成（2時間） 第5回 慢性閉塞性肺疾患の病態生理事例からその原因の思考、事例の病態と治療の関連を思考 まとめ：事例の病態の関連の理解 ポスター発表&意見交換 事前学習：（グループ課題）事例の病態関連図完成（2時間） 事後学習：指定の事例の情報の意味を考える（2時間） 第6～8回 事例のアセスメント グループワーク：情報の整理とアセスメント 各機能的健康パターンとそのアセスメントの考え方 事例の情報の意味を病態の関連から考える 情報の意味が看護の方向性にどう繋がるか 事前学習：第6回 指定の事例の情報の意味を考える（2時間） 第7回 第6回事後学習と同じ（2時間） 第8回 第7回事後学習と同じ（2時間） 事後学習：第6回（個人課題）指定の機能的健康パターンについて情報の整理とアセスメント（2時間） 第7・8回（個人課題）事例のアセスメントの修正・追加（2時間） 第9～11回 事例の看護問題の明確化、看護問題の優先順位とその根拠 グループワーク：全体関連図を描く ①全体関連図から、病態と患者の生活の繋がりをみる（全体をみる） 考える ②①から、患者が望ましい生活を送るために看護がどこに介入するとよいかを ③看護問題の優先順位とその理由を考える 事前学習：第9回 第8回事後学習と同じ（2時間） 第10・11回 グループ課題、発表資料作成（各回2時間） 事後学習：第9・10・11回 グループ課題、発表資料作成（各回2時間） 第12・13回 グループ発表

	事例の看護問題の優先順位とその理由を考える 事前学習：グループ課題、発表資料作成（各回2時間） 事後学習：他グループの考え方を自グループの全体関連図に活かし、修正・追加する（各回2時間） 第14回 事例の看護計画の立案 慢性閉塞性肺疾患患者の看護援助について考える グループワーク：事例の今後の生活をととのえるための援助計画を考える 事前学習：グループ課題（2時間） 事後学習：グループ課題（2時間） 第15回 グループ発表 事例の看護計画の個性を含め妥当性を考える 事前学習：グループ課題、発表資料作成（2時間） 事後学習：他グループの計画およびコメントを含め自グループの看護計画の修正・追加する（2時間）
テキスト	編）関口恵子，北川さなえ：根拠がわかる症状別看護過程（改訂第3版），南江堂，2016. 既購入テキスト
参考書・参考資料等	編）医療情報科学研究所：看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア，2019. 三浦友理子，奥裕美：臨床判断ティーチングメソッド，医学書院，2020.
学生に対する評価	筆記試験 70点 グループ課題 30点 ※授業態度（グループワーク参加状況、遅刻状況）はグループ課題評価に反映させる。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	オリエンテーション時、担当教員から伝達します。 必要時、事前に予約をとってください。
備考	担当教員は臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 看護実践力Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
北川 敦子・吉江 由加里・寺島 喜代子・藤本 ひとみ・蔵屋敷 美紀・油野 規代・駒田 裕司・奥田 豊子・八杉 朱美			
演習		064216L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. シミュレーション事例の経過を追って、意図的な観察を行い、看護計画を立案し、個別的な看護を提供することができる。 2. 一連の実践を振り返り、さらなる実践能力向上のための課題が抽出できる。		
授業の概要	あらゆる健康レベルにある人々への看護実践を行うために、実践的、包括的かつ実体験のように感じられるようシミュレーションをベースに、対象の複雑な病態や状況に対して、既習学習を統合させながら臨床判断を行い、学びを積み重ねながら看護実践能力を高めるための技能を教授する。 本授業は実践力の強化を主眼とし、療養者の療養過程を追いながら臨床判断し看護ケア提供する。		
授業計画	第1・2回	周手術期にある患者への看護展開と看護実践能力を養うことができる：術後合併症の情報アセスメントができる1 内容：本講義のガイダンスおよび、事例に基づき手術患者のアセスメント(術後)の作成 胃がんの病態、術後合併症・麻酔による影響の学習(事例は周手術期看護の授業の事例)、事例に沿って術後のアセスメントを行う。 患者情報・術後観察の動画から胃切除術後患者の観察とアセスメントの視点を理解する。 事前学習：疾患と術式の基礎知識の整理(2時間) 事後学習：毎回の学修内容を習得して、事例患者の状態と特徴を整理し、看護のポイントを理解する(2時間)	
	第3回	周手術期にある患者への看護展開と看護実践力を養うことができる：術後患者の身体の観察、合併症予防のケアができる(OP中心) 内容：術後患者の全身状態の観察、合併症予防のケアを演習する(OP中心) 事前学習：事前トレーニングをしておくこと(2時間) 事後学習：事例患者に対する看護のポイントを理解する(2時間)	
	第4・5回	周手術期にある患者への看護展開と看護実践力を養う：術後患者の呼吸状態の観察、合併症予防のケアができる(TP・EP中心) 内容：術後患者の呼吸状態の観察、合併症予防のケアを演習する ★無気肺の機序と必要性を踏まえたケアの実践 ★深部静脈血栓症の機序と必要性を踏まえたケアの実践 ★ドレーン管理の必要性と必要性を踏まえたケアの実践 事前学習：術後患者の呼吸状態の観察、合併症予防のケアに必要な知識・技術を確認しておく。(2時間) 事後学習：実践を振り返り、患者教育の評価をする。(2時間)	
	第6・7回	生活機能障害のある対象の生活再構築にむけた看護実践力を養う①：事例の全体像および看護の方向性を明確にし、生活の再構築にむけた看護計画が立案できる。 内容：1) 本講義のガイダンス 2) 事例(アテローム血栓性脳梗塞)の機能障害の種類と程度を理解し、機能障害が活動(ADL)や参加に与えている影響を考える。 3) 事例の生活再構築にむけた看護の方向性と看護計画を立案する。 事前学習：リハビリテーション看護で行った看護過程の課題を見直し、全体像を再確認しておく。(2時間) 事後学習：事例の看護の方向性と看護計画を完成させる。(2時間)	
	第8・9・10回	生活機能障害のある対象の生活再構築にむけた看護実践力を養う②：設定場面における看護援助が実践できる。 内容：1) 立案した看護計画に基づき、設定場面における援助を実践する。 2) 実践内容を振り返り、今後の実践に向けた課題を明らかにすることができる。 事前学習：設定場面の状況を理解し、対象の生活再構築にむけた看護実践の方法と手順を考える。(2時間) 事後学習：対象の生活再構築にむけた実践内容を「リフレクションシート」に基づいて内省をする。(2時間)	
	第11回	生活機能障害(内部障害)のある対象の生活再構築にむけた看護実践力を養う③：内部障害(糖尿病)のある患者のセルフケアに向けた援助ができる。 内容：自己血糖測定とインスリン自己注射の演習 事前学習：自己血糖測定とインスリン自己注射の手技とその根拠を学習しておく(2時間) 事後学習：自己血糖測定とインスリン自己注射を必要とする患者とその家族への看護を考察する(2時間)	
	第12回	エンド・オブ・ライフ期にある対象者の看護計画に沿った看護の実践1：対象に応じたフィジカルアセスメントが実践できる。 内容：看護計画のOP計画項目でフィジカルアセスメントと患者の状態を把握することができることを目的に、1人10分以内で検温を実施する。 事前学習：各自バイタルサイン測定フィジカルアセスメントができるように事前トレーニングをしておく(2時間) 事後学習：演習でできなかった部分の手技を再確認しておく(2時間)	
	第13回	エンド・オブ・ライフ期にある対象者の看護計画に沿った看護の実践2：自分で情報収集したOPをもとに対象者の状態をアセスメントし、ケアの方法や内容の吟味ができる。	

	第14・15回 内容： 不足情報を提示し、現在の状態をアセスメント、アセスメントをもとに対象者の状態に即したケア方法を再立案する（TPの具体化） ケアを小グループ内で検討する 事前学習；事例に必要なアセスメントを実施する（2時間） 事後学習；アセスメントに従ってケアの具体的方法を調べる（2時間） エンド・オブ・ライフ期にある対象者の看護計画に沿った看護の実践3：対象者の状態に合わせたケアの実施と実施したケアの評価ができる 内容：学生1人で対象（模擬患者）に必要なケア実施する（小グループの学生1名が実施、他の3名は介助看護師役） さらに、ケア実施後、リフレクションをし、ケアの方法の吟味と評価を行う 事前学習：設定場面の状況を理解し、対象の生活再構築にむけた看護実践の方法と手順を考える（2時間） 事後学習：対象の生活再構築にむけた実践内容を「リフレクションシート」に基づいて内省をする（2時間）
テキスト	関口恵子：根拠がわかる症状別看護過程 第3版，南江堂，2016. 既購入全テキスト
参考書・参考資料等	医療情報科学研究所：フィジカルアセスメントがみえる 第1版，メディックメディア，2015. 三浦友理子，奥裕美：臨床判断ティーチングメソッド，医学書院，2020.
学生に対する評価	各回での課題（レポート、演習）での評価（各分野でルーブリック評価） 評価の割合は、生活再構築：35%、周手術期：35%、エンド・オブ・ライフ期：30%の計100%（100点）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	オリエンテーション時、担当教員から伝達します。 必要時，各担当教員に事前に予約を取ってください。
備考	担当教員は臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【選択】看護
担当教員			
寺島 喜代子			
講義		064217L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	高齢者の認知機能の特徴（高齢者うつ、せん妄、認知症）を理解し、認知機能が低下した高齢者との関わり方を学ぶ。		
授業の概要	1. 高齢者の認知機能の不具合（うつ、せん妄、認知症）の病態の発生要因を理解する 2. 認知症の病態や症状を理解し、認知症高齢者との関わり方を学ぶ 3. 先輩学生の認知症高齢者との関わり場面をとおして、認知症高齢者とのコミュニケーションを学ぶ		
授業計画	第1回	老年期の認知機能障害の理解と、高齢者のうつ病を理解する 事前学習：教科書から老年期の認知機能障害（うつ、せん妄、認知症）を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から高齢者のうつ病の原因、診断基準、特徴と薬物治療と認知症との関連を理解する（1時間）	
	第2回	高齢者のせん妄を理解する（1） 事前学習：教科書からせん妄の定義、高齢者のせん妄の特徴と認知症との違いを確認する（1時間） 事後学習：配布資料と教科書から高齢者のせん妄発症誘因、中核症状、診断基準とスクリーニング法を理解する（1時間）	
	第3回	高齢者のせん妄を理解する（2） 事前学習：教科書と第2回配布資料から、せん妄の危険因子とスクリーニングを復習する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書、授業内容からせん妄発症リスクの高い高齢者の特徴と援助の実際を理解する（1時間）	
	第4回	認知症の定義、認知症高齢者のこころを理解する 事前学習：教科書から認知症の定義を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書、授業で視聴したDVDの認知症高齢者のこころともてる力を理解する（1時間）	
	第5回	認知症の病態と評価方法、予防的取り組み（地域包括ケアシステムの意味）を理解する 事前学習：教科書から各種認知症の病態と認知機能評価方法を確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から各種認知症の特徴と違い、中核症状と周辺症状の関係、評価方法の違いと適応について理解する（1時間）	
	第6回	認知症の薬物治療とリハビリテーションの実際を理解する 事前学習：教科書から認知症の薬物療法とリハビリテーションを確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、中核症状と周辺症状に対する薬物療法と高齢者に及ぼす影響、各リハビリテーションが高齢者に及ぼす影響を理解する（1時間）	
	第7回	認知症の中核症状と周辺症状が日常生活に及ぼす困難を理解する 事前学習：教科書から、認知症高齢者の日常生活援助の方法について確認する（0.5時間） 事後学習：配布資料と教科書から、認知症が食事、排泄、活動、生活に及ぼす影響を理解したうえで援助の方向性を理解する（1時間）	
	第8回	認知症ケアの倫理と人権を支える地域包括ケアシステム 事前学習：教科書から認知症ケアと倫理、地域包括支援センターの役割について確認する（1時間） 事後学習：配布資料と教科書から認知症ケアにおける倫理的課題に直面する事案の背後にある意味と地域包括支援センターの機能について理解する（1時間）	

テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2025
参考書・参考資料等	プリントを配布する
学生に対する評価	試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜日 9：00～17：00で対応します。随時来て下さい。
備考	教員の実務経験・学外実習・研究を踏まえて教授する。

講義科目名称： 家族看護学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
油野 規代			
講義		064218L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 多様な家族の在り方を理解できる。 2. 家族の持つ力を活かすことができる。 3. 家族の看護方法を理解することができる。		
授業の概要	家族は家族成員が互いに関わり合って生活しており、家族をケアの一単位として捉え支援する必要がある。多様な家族の在り方を概観し、家族の持つ力を活かしながら看護介入する基礎的知識を教授する。 内容は、家族の捉え方、家族の持つ力、家族看護方法、事例検討などである。		
授業計画	第1回	家族とは 家族の定義、日本の家族の動向、家族の特性とセルフケア機能、健康問題への家族の対応能力 事前学習：健康な家族とはどのような家族のことをいうのかを事前に調べる（2時間） 事後学習：健康に影響する家族の特性、機能をまとめる（2時間）	
	第2回	多様な家族の在り方 多様な家族の在り方に看護の課題を考えることができる 事前学習：日本における家族形態の変化を調べる。（2時間） 事後学習：海外における家族あり方を調査する。（2時間）	
	第3回	家族看護の理解 家族看護の定義、家族看護における看護者の役割と援助時の基本姿勢 事前学習：家族を対象とした看護の必要性について理解を深める（2時間） 事後学習：家族を看護するとはどのようなことかをまとめる（2時間）	
	第4回	家族を理解するための諸理論 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論 事前学習：健康問題における家族の対応力の要素を復習する。（2時間） 事後学習：家族を理解するための基礎理論をまとめる（2時間）	
	第5回	渡辺式家族アセスメント/支援モデルの概要 代表的なアセスメントモデルの理解、家族看護の展開の特徴 事前学習：家族看護に必要な情報は何かをレポートにまとめる（2時間） 事後学習：アセスメントモデルを活用し、家族看護に必要な情報を整理する（2時間）	
	第6回	家族アセスメント演習 グループワーク① 事例を通して家族看護の理解を深める 事例1：治療を受ける子どもの家族への看護 事例2：精神疾患を持つ患者の家族への看護 事例3：高齢者介護を行っている家族への看護 事前学習：担当事例に対して疾患を理解し、家族の危機状況を調べる（2時間） 事後学習：アセスメントモデルを活用し、家族看護に必要な情報を整理する（2時間）	
	第7回	家族アセスメント演習 グループワーク② グループワークで得られた家族看護の学びを共通理解する 事前学習：担当事例に対して、人間関係見えるかシートの作成を行う（2時間） 事後学習：アセスメントモデルを活用し、家族看護に必要な支援を整理する（2時間）	
	第8回	グループワーク発表会 家族看護学の課題と展望について考える。授業全体のまとめ 事前学習：グループワーク発表の学びを整理する（2時間） 事後学習：家族看護学の課題と展望について考える（2時間）	
テキスト	石田千絵他：地域・在宅看護論①，地域在宅生活を支えるケア，第8版第1刷，メディカ出版，2025.		
参考書・参考資料等	鈴木和子他：家族看護学，理論と実践，第6版，日本看護協会出版会，2025. 中野綾美他：家族看護学 看護のエンパワーメントを支えるケア，メディカ出版，2020.		
学生に対する評価	定期試験：70% GW参加態度および発表資料：20% レポート：10%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	13：30-16：00の間で予約を取ってください。		
備考			

講義科目名称： 国際看護学

授業コード： 314900A

英文科目名称： International Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】看護
担当教員			
森山 悦子			
講義		064219L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	国際看護の現状や動向を理解し、地球的な規模の健康問題に対処するための看護活動を理解する。		
授業の概要	国際的な視野をもち活動することができるよう、国際看護学の意義、政治・経済・教育・文化・宗教が異なる多様な国々の人々の暮らしと、その人々の健康問題について学ぶ。 具体的内容は国際協力と開発、グローバリゼーションと健康、国際看護学の概念、異文化看護と理論、国際看護の必要性、世界の人々の健康と保健医療の現状への対策、保健医療対策における看護職の役割などである。		
授業計画	第1回	学科目『国際看護学』とは(講義概要の説明) 1) 学修内容と授業日程 2) 国際看護学とは 事前学習：教科書：①はしがき ②“国際看護学とは”を読み理解する。(2時間) 事後学習：教科書、講義内容等から学習した内容を整理し理解を深める。(2時間)	
	第2回	国際看護学を学ぶにあたり 1) グローバル社会と看護 2) 世界の人々に係る健康問題 3) 国際看護学の概念・定義、国際看護学の変遷 事前学習：講義内容に該当する教科書①第1章A看護とグローバル化した社会、②第4章A健康を取り巻く世界の情勢と国際看護の内容を読み理解する。(2時間) 事後学習：教科書、講義内容等から学習した内容を整理し理解を深める。(2時間)	
	第3回	グローバルヘルス 1) インターナショナルヘルスとグローバルヘルス 2) プライマリーヘルスとヘルスプロモーション 3) 安全保障と人々の生命・生活・尊厳をまもる 事前学習：講義内容に該当する教科書①第4章A-4国際看護に関する基礎知識の内容を読み理解する。(2時間) 事後学習：教科書、講義内容等から学習した内容を整理し理解を深める。(2時間)	
	第4回	国際協力・・・国際救援・保健医療協力に係る国際機関 1) 国連機関 2) 政府機関 3) 国際赤十字 4) NGO 事前学習：講義内容に該当する①第4章B国際協力の基礎知識の内容を読み理解する。(2時間) 事後学習：教科書、講義内容等から学習した内容を整理し理解を深める。(2時間)	
	第5回	国際協力(1) 文化を考慮した看護 1) 国際協力とは 2) 文化を考慮した看護とは 事前学習：講義内容に該当する教科書①第4章A-4-3文化を考慮した看護の内容を読み理解する。(2時間) 事後学習：教科書、講義内容等から学習した内容を整理し理解を深める。(2時間)	
	第6回	国際協力(2) 世界で活躍する看護師 1) 国際協力機構(JICA)、国際NGO等での活動(実践を語る) 事前学習：講義内容に該当する教科書の内容を読み、理解できない点や実践活動について質問できるように整理する。(2時間) 事後学習：聴講した具体的な活動内容を見直し、国際協力の仕組みを理解する。(2時間)	
	第7回	在留外国人への看護(1) 1) 国内で暮らす外国人の健康や生活の現状 2) 国内で暮らす外国人への看護 事前学習：講義内容に該当する教科書教科書①第4章A-4-3文化を考慮した看護 ②第4章D我が国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践の内容を読み理解する。(2時間) 事後学習：教科書、講義内容等から学習した内容を整理し理解を深める。(2時間)	
	第8回	在留外国人への看護(2) 1) 国内で暮らす外国人への看護実践(事例)まとめ(過去の国家試験問題の確認を含む)	

	事前学習：事例(第4章D我が国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践)で示されている実践事例)に目を通し、看護上の問題を考え整理する。(2時間) 事後学習：事例を通じた学習の内容を整理し、理解を深める。(2時間) 定期試験
テキスト	日本赤十字社 事業局看護部編集「系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践 3」医学書院 最新版
参考書・参考資料等	適宜紹介します。
学生に対する評価	次の2点で評価します。 ①定期試験 80% ②課題 20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義日の授業終了後対応致します。
備考	実務経験を有しており、その経験を踏まえて教授する。

講義科目名称： 専門職連携論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】看護
担当教員			
吉江由加里・油野規代			
講義		064220L2N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 専門職連携の必要性が理解できる。 2. 専門職連携に必要な能力が理解できる。 3. 専門職の役割と強み弱みが説明できる。 4. 専門職連携時の看護職の役割が考察できる。 5. 専門職連携の今後の課題が考察できる。		
授業の概要	多職種が互いの専門性を活かしながらチームとして連携するために、相互の専門性を理解し合い、ニーズに応じた連携を実践するための基礎的知識を教授する。 内容は、専門職連携が必要とされる背景と必要性、専職種連携コンピテンシー、アサーティブコミュニケーション、連携の実践とその評価等である。		
授業計画	第1回 専門職連携が必要な背景、専門職連携コンピテンシーとは（吉江） 事前学習：シラバスを確認し、関連書籍から専門職連携コンピテンシーについて調べておく（2時間）。 事後学習：授業資料、参考文献等を用いて学修内容を整理し、理解を深める（2時間）。 第2回 協働的能力のドメイン：自職種を省みる、他職種を理解する①（吉江） ・グループワーク：事例の退院支援にかかわる各専門職の説明（リーフレット作成） 第3回 事前学習：グループワーク事例に目を通し内容を理解しておく。資料を作成するにあたり必要な文献等を検索しておく（2時間）。 事後学習：資料（専門職種の紹介リーフレット）の作成を進める（2時間） 協働的能力のドメイン：自職種を省みる、他職種を理解する②（吉江） ・全体発表：事例の退院支援にかかわる各専門職の説明 第4回 事前学習：資料（専門職種の紹介リーフレット）の作成を進める（2時間） 事後学習：学修内容（グループワークおよび全体発表）を振り返り、自職種及び他職種の役割・機能の理解を深める（2時間）。 協働的能力のドメイン：患者・利用者・家族・コミュニティ中心（油野） ・グループワーク 1) 患者、利用者、家族、コミュニティの思いが推察する 2) 患者、利用者、家族、コミュニティの思いを中心として看護師として何をすべきか考える 第5回 事前学習：事例に目を通し内容を理解しておく（2時間）。 事後学習：学修内容（グループワークおよび全体発表）を振り返り、患者・利用者・家族・コミュニティの思いを中心として看護師として何をすべきか、自身の考えをまとめておく（2時間）。 協働能力のドメイン：職種間コミュニケーション・関係性に働きかける（油野） ・グループワーク：アサーティブコミュニケーション 1) DESC法で事例のアサーティブコミュニケーションを言語化する 第6・7回 事前学習：テキストの「自己表現のタイプ」「DESC法」の項目を読み要約をする（2時間）。 事後学習：学修内容（グループワークおよび全体発表）を振り返り、グループワーク（退院支援カンファレンス）において活用できるようにする（2時間） 協働能力のドメイン：自職種を省みる・職種役割を全うする①（油野） ・グループワーク 1) 事例の退院に向けて、各専門職の支援内容を検討する 第7回 事前学習：グループワーク事例に目を通し内容を理解しておく。資料を作成するにあたり必要な文献等を検索しておく。（2時間）。 事後学習：プレゼンテーション（退院支援カンファレンス）に向けて資料の作成を進める（2時間）。 協働能力のドメイン：自職種を省みる・職種役割を全うする②（油野） ・退院支援カンファレンス 1) 事例の退院に向けて、各専門職へ支援内容を提案する 第8回 事前学習：プレゼンテーション（退院支援カンファレンス）に向けて準備（資料作成、グループ内での打ち合わせ）をしておく（2時間）。 事後学習：他グループからの質問に対する回答集を作成する（2時間）。 専門職連携実践評価：リフレクションの理論（吉江） 事前学習：授業資料に目を通し、疑問点を明確にしておく（2時間）。 事後学習：授業資料、参考文献等を用いて学修内容を整理し、理解を深める（2時間）。 定期試験		
テキスト	平木典子，沢崎達夫，野木聖香編著：ナースのためのアサーション，金子書房，最新版。		

参考書・参考資料等	篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル，医学書院，2011. 野中猛：図説ケアチーム，中央法規，2013.
学生に対する評価	定期試験：30% レポート：10% グループワーク課題：50% グループワーク貢献度：10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時対応可（メールでの対応可）
備考	臨地での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 災害看護学

授業コード： 315900A

英文科目名称： Disaster Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【選択】看護
担当教員			
近藤やよい・高山 裕喜枝			
講義		064221L3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	災害医療の概念、災害が人間生活におよぼす影響について理解を深め、災害看護の基本的な心構えや姿勢について教授する。また、災害医療システムや災害医療サイクルについて理解し、災害看護の展開に必要な判断力や技術を教授する。		
授業の概要	災害の定義と分類および特性、災害時の人間の行動、災害の多面性と情報の大切さ、災害医療、救急医療体制、法律、国際支援システム、災害サイクルと各期に特徴的な健康問題と回復過程および医療・看護、トリアージの概念・方法、ストレス反応、被災者の生活の理解、他職種との連携、ボランティア活動などである。災害状況やフェーズに応じた活動現場における看護の実際から、多職種との連携、看護職をはじめとする各専門職の役割や対応等について教授する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション：災害とは、防災リテラシー（担当 高山） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：学習した内容を整理し、与えられた課題に取り組む。（2時間）	
	第2回	災害・災害看護に関する基礎知識①災害看護とは／災害の種類と健康被害／災害と情報（担当 高山） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間）	
	第3回	災害・災害看護に関する基礎知識②災害に関する法律と制度／災害時の支援体制（担当 高山） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間）	
	第4回	災害サイクルに応じた看護活動①（担当 高山） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間）	
	第5回	被災者と支援者の心理の理解と援助（担当 近藤） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間）	
	第6回	配慮を必要とする人への支援と看護（担当 近藤） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間）	
	第7回	災害サイクルに応じた看護活動② 避難所における看護（担当 高山、近藤） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間）	
	第8回	災害サイクルに応じた看護活動③ 避難所における看護（担当 高山、近藤） 事前学習：テキストの該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。（2時間） 事後学習：テキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。（2時間） 定期試験	
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践[3]「災害看護学・国際看護学」,第4版,医学書院,2023.		
参考書・参考資料等	ナース発 東日本大震災レポート、日本看護協会出版会、2012 加藤寛：消防士を救え！災害救援者のための惨事ストレス対策講座、東京法令出版、2009		
学生に対する評価	筆記試験（持ち込み不可）80%、授業態度・避難所運営のグループワーク等 20%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	メールでの問い合わせも可能（オリエンテーション時に周知予定）。		
備考	【実務経験について】		

	大学病院で救急部・集中治療部勤務を有しており、救急看護認定看護師としての活動、DMATの経験・阪神淡路大震災および東日本大震災の救護班の経験を踏まえ、教授する。（高山）。 NPOふくい災害ボランティアネットに所属し、能登半島地震より奥能登の避難所、仮設住宅を定期的に巡回訪問し、傾聴活動を含め、レクリエーション交流や炊出し等の災害ボランティア経験を有している（近藤）。
--	--

講義科目名称： 看護体験実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
蔵屋敷美紀・藤本 ひとみ			
実習	養護教諭対象科目	064301PINH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 病院の構造や機能について説明できる。 2. 看護の機能・役割について説明できる。 3. 学んだ技術を、患者に合わせて、安全に実施できる。 4. 看護専門職として、責任ある行動がとれる。 5. 実習を通して、自己の学びと課題を明確にできる。
授業の概要	実習は、実際に病気を治療中の対象（人間）に対して看護援助を提供している現場を見学し、体験的に学習することである。看護活動の対象となる人間が療養している場や、提供されている看護実践を見学することで、看護の機能と看護師の役割を知り、看護のメタパラダイム（人間、環境、健康、看護）を考える動機づけにつながるようにする。 また、対象（患者、医療従事者等）との関わりを通して、看護学生としての態度や姿勢を理解し、自己の課題を明確にできるよう教授する。
授業計画	第1～4回 実習オリエンテーション ・実習の概要 ・実習における感染予防対策 ・実習における安全管理対策 第5～8回 病院の構造や機能を学ぶ ・病院内の見学を行い、各部署の構造や機能を確認する ・病棟内の見学を行い、安全管理や感染予防の視点で確認する。 第9～16回 看護の機能や役割を学ぶ ・看護師の援助場面を見学し、技術の内容を深める。 ・看護師と他者（患者や家族、他職種）とのコミュニケーションを見学し、看護の役割を深める。 ・対象の療養環境について見学し、環境の整え方について考える 第17～21回 看護のメタパラダイム（人間、環境、健康、看護）について考える ・グループディスカッション ・発表 第22～23 まとめ ・学びの発表 ・最終カンファレンス
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2021 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021
参考書・参考資料等	適宜紹介
学生に対する評価	実習評価表100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9：00～17：00までの在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 生活支援実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【必修】看護
担当教員			
藤本ひとみ・蔵屋敷 美紀			
実習	養護教諭対象科目	064302P2NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 健康障害のある対象とのコミュニケーションを深めながら援助的関係を築くことができる。 2. 看護過程を展開し、健康障害のある対象の基本的ニーズの充足をめざした看護実践の方法が理解できる。 3. 看護実践を通して自己の学びを振り返り、看護観を深めることができる。 4. 看護学生として責任ある行動をとることができる。
授業の概要	看護の対象である人間を把握するために、身体的・精神的・社会的側面から情報収集を行い、看護実践能力Ⅰで学習したV. ヘンダーソンの14項目を用いて、アセスメント、看護問題（看護診断）、看護計画を立案する。また、バイタルサイン、その他、既習している技術を用いたケアの実施、評価ができるよう教授する。
授業計画	第1回 ガイダンス ・配属された病棟の理解（実習病棟の構造、週間予定、看護体制、実習の進め方等） ・受持ち患者の紹介 第2～12回 アセスメント①（情報収集） ・対象および家族とのコミュニケーションやさまざまな媒体を通して意図的に情報収集する。 ・対象とのコミュニケーションで得た情報や電子カルテから情報を収集した内容は、V. ヘンダーソンの記録用紙（様式2）の各項目別（基礎データ、1～14項目）に記載する。 第13～17回 アセスメント②（情報の分析・解釈）、看護問題の明確化（看護診断） ・対象から情報収集した内容をアセスメント（分析・解釈）し、所定の記録用紙（様式2）に記録する。 ・アセスメントした内容から、対象者に必要な基本的看護についてV. ヘンダーソンの1～14項目それぞれのについて看護問題（看護診断）を抽出し、所定の記録用紙（様式2）に記録する。 第18・19回 カンファレンス① ・V. ヘンダーソンの1～14項目それぞれのアセスメントと分析・解釈、看護問題（看護診断）の整合性・妥当性の確認をする。 第20・21回 看護計画の立案 ・対象の看護問題について看護計画を立案する。 ①期待される結果（目標）について、短期目標、長期目標を立案する。 ②それぞれについて、OP、TP、EPを立案する。 第22・23回 カンファレンス② ・看護計画の妥当性の確認する。 ①期待される結果（目標）について、短期目標、長期目標の妥当性 ②OP、TP、EPの妥当性（対象に合わせた実現できる内容か否か） 第24～40回 看護実践 ・対象の個別性に合わせた看護計画に基づいた看護実践を行う。 ①看護計画に基づいた援助の実施 ②実施した援助の評価 ③看護技術の実施・見学 ④バイタルサイン 第41～43回 評価 ・看護計画に基づいて実践した看護の評価を行う。 ①V. ヘンダーソンの項目別に充足・未充足、問題リストについて問題リスト用紙（発表資料①）に記載 した内容を発表し、問題リストの評価を行う。 ②対象の優先度の高い看護問題について、アセスメントした内容をアセスメント用紙（発表資料②）に記載 した内容を発表し、看護問題の評価を行う。 ③対象の優先度の高い看護問題について、期待される結果（目標）について、短期目標、長期目標、OP、TP、EPについて看護計画用紙（発表資料③）に記載した内容を発表し、看護計画の評価を行う。 ・実習での学びのレポートを作成し、健康障害のある対象者の個別性に合わせた看護について理解を深める。 第44～45回 最終カンファレンス ・受持ち患者の看護要約および実習での学びを発表し、現在の自己の看護観
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2025. 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2025. T. ヘザー・ハードマン，上鶴重美，カミラ・タカオ・ロペス：NANDA -Ⅰ 看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第13版，医学書院，2025.
参考書・参考資料等	随時紹介

学生に対する評価	実習評価表100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	*実習担当教員との報告・連絡・相談を密に行ってください。 在室時可（月～金）
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。

講義科目名称： 対象理解の実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】看護
担当教員			
寺島喜代子・吉田 美幸・八杉朱美・北川 加奈子・前川弓枝			
実習		064303PIN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	ライフサイクル各期にある人の生活（身体的・精神的・社会的特徴）と健康について、社会や医療・福祉施設での生活者としての実際を観察し、看護の役割について考察する。		
授業の概要	保健・医療・福祉において、看護の対象を理解するために、生涯発達の見点から小児期、成人期、老年期にある人々の健康や環境および看護の役割について教授する。 内容としては、小児期は、子どもの身体的・精神的・社会的発達の特徴を理解する。また、子どもの健康における看護の役割を考える機会とする。成人期は、健康な大人の身体的、精神的、社会的発達の特徴を理解する。また社会において人々が生活を営むうえで、中心的な役割を担う立場にある生活者の実態について理解し、健康行動における看護の役割について考える機会とする。老年期は、高齢者の身体的、精神的、社会的変化の特徴を理解する。また、老年期の生活者の実態について理解し、健康を維持する看護の役割について考える機会とする。		
授業計画	第1回 看護の対象となるライフサイクル各期の人の生活と健康の理解と看護の役割 第2回 乳幼児期の身体的・心理的・社会的な特徴と生活・健康についての理解 第3回 学童期の身体的・心理的・社会的な特徴と生活・健康についての理解 第4回 青年期の身体的・心理的・社会的な特徴と生活・健康についての理解 第5回 成人期の身体的・心理的・社会的な特徴と生活・健康についての理解 第6回 老年期（前期高齢者）の身体的・心理的・社会的な特徴と生活・健康についての理解 第7回 老年期（後期高齢者）の身体的・心理的・社会的な特徴と生活・健康についての理解 第8回 最終カンファレンス ライフサイクル各期にある人の生活と健康の支援について学生個々の学びを全体で共有する		
テキスト	1）茂野香おる他編：看護学概論 基礎看護学 1 専門分野 系統看護学講座，医学書院，最新版。		
参考書・参考資料等	1）山村豊、高橋一公：心理学 系統看護学講座，基礎分野 医学書院，最新版。 2）康永秀生：医学概論 系統看護学講座，基礎分野 医学書院，最新版。		
学生に対する評価	出欠状況およびカンファレンスの参加態度・レポートについて対象理解の実習評価表により評価する。		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	実習期間中は、担当教員が各実習場所におり、いつでも対応します。 実習時間以外は、在室中であれば対応します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
北川 加奈子・前川 弓枝			
実習		064304P3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的特徴や経過、病態を理解し、看護実践能力を養う。		
授業の概要	1. 産褥期・新生児期の母子を同時に受け持ち、看護過程の展開を通して褥婦・新生児の看護を学習する。 褥婦の退行性、進行性変化、母子関係、育児について観察し、必要な援助方法を学習する。 新生児の胎外生活の適応と発育といった全身の観察、感染予防、清潔とスキンケアについて学習する。 2. 妊娠後期の妊婦の妊婦健診の見学と看護過程の展開を通して妊婦の看護を学習する。 3. 経膈分娩、帝王切開の分娩に立会い、産婦の看護について学習する。		
授業計画	第1回	妊娠期の生理的特徴についての理解	
	第2回	妊婦の問診・外診・検査時における援助	
	第3回	妊娠中の生活で注意すべき点についての理解	
	第4回	妊娠中に起こりやすい異常についての理解	
	第5回	妊婦の気持ちの表出を促す援助	
	第6回	妊婦の健康診査結果に対する評価	
	第7回	産婦の分娩経過についての理解	
	第8回	産婦の分娩経過に応じた呼吸法（いきみの呼吸、短速呼吸）への援助	
	第9回	産婦の産痛緩和への援助	
	第10回	産婦の体力消耗を最小限にするための援助	
	第11回	産婦の清潔保持への援助	
	第12回	産婦に対する出産の労へのねぎらいや疲労回復への援助	
	第13回	産婦への援助の振り返り	
	第14回	産婦に付き添う家族の心理についての理解	
	第15回	産婦の分娩経過に対する評価	
	第16回	産褥期の生理的特徴についての理解	
	第17回	産褥期の経過についての理解	
	第18回	褥婦の心理についての理解	
	第19回	産褥期の子宮復古を促す援助	
	第20回	産褥期の乳汁分泌を促す援助	
	第21回	産褥期の感染症予防のための援助	
	第22回	産褥経過に対する評価	

	第23回 新生児の生理的特徴についての理解 第24回 新生児の観察の視点についての理解 第25回 新生児の清潔を保つ援助 第26回 新生児の栄養所要量と母乳哺乳量についての理解 第27回 新生児への感染症予防のための援助 第28回 新生児期の経過に対する評価 第29～43回 妊婦、産婦、褥婦、新生児に対する理解を深め、情報を評価し、必要な看護援助の実施 (1) 妊娠期では、妊婦が健康な妊娠期を送り、安全な分娩、育児期を迎えるための看護援助 (2) 分娩期では、分娩各期に応じた看護援助 (3) 産褥期では、褥婦の身体的変化に伴うニーズ、母親役割獲得、家族関係の再構成などへの看護援助 (4) 新生児期では、生理的变化や健康な発達への看護援助 第44回 実習全体を通して、自己の生命観、母性観（父性観）、母性看護のあり方やその役割について考えを深める（レポート作成） 第45回 最終カンファレンス（学びの発表） 個人の学びを学生全体で共有する
テキスト	森恵美他：系統看護学講座 専門 母性看護学各論 母性看護学2，医学書院. 森恵美他：系統看護学講座 専門 母性看護学概論 母性看護学1，医学書院.
参考書・参考資料等	石村由利子：根拠と事故防止からみた母性看護技術 最新版，医学書院. 佐世正勝，石村由利子：ウェルネスからみた母性看護過程 最新版，医学書院. 医療情報科学研究所編：病気がみえる vol.10 産科 最新版，メディックメディア. その他適宜提示.
学生に対する評価	出欠状況および育成期看護学実習Ⅰ評価表による評価点を総括して評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	実習時間中、教員は学生とともに実習施設にいるため、いつでも対応します。 実習時間以外は、在室中であれば対応します。
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、演習、講義で教授する。

講義科目名称： 育成期看護学実習Ⅰ（周産期）4年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
北川 加奈子・前川 弓枝			
実習		064304P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的特徴や経過、病態を理解し、看護実践能力を養う。		
授業の概要	1. 産褥期・新生児期の母子を同時に受け持ち、看護過程の展開を通して褥婦・新生児の看護を学習する。 褥婦の退行性、進行性変化、母子関係、育児について観察し、必要な援助方法を学習する。 新生児の胎外生活の適応と発育といった全身の観察、感染予防、清潔とスキンケアについて学習する。 2. 妊娠後期の妊婦の妊婦健診の見学と看護過程の展開を通して妊婦の看護を学習する。 3. 経膈分娩、帝王切開の分娩に立会い、産婦の看護について学習する。		
授業計画	第1回	妊娠期の生理的特徴についての理解	
	第2回	妊婦の問診・外診・検査時における援助	
	第3回	妊娠中の生活で注意すべき点についての理解	
	第4回	妊娠中に起こりやすい異常についての理解	
	第5回	妊婦の気持ちの表出を促す援助	
	第6回	妊婦の健康診査結果に対する評価	
	第7回	産婦の分娩経過についての理解	
	第8回	産婦の分娩経過に応じた呼吸法（いきみの呼吸、短速呼吸）への援助	
	第9回	産婦の産痛緩和への援助	
	第10回	産婦の体力消耗を最小限にするための援助	
	第11回	産婦の清潔保持への援助	
	第12回	産婦に対する出産の労へのねぎらいや疲労回復への援助	
	第13回	産婦への援助の振り返り	
	第14回	産婦に付き添う家族の心理についての理解	
	第15回	産婦の分娩経過に対する評価	
	第16回	産褥期の生理的特徴についての理解	
	第17回	産褥期の経過についての理解	
	第18回	褥婦の心理についての理解	
	第19回	産褥期の子宮復古を促す援助	
	第20回	産褥期の乳汁分泌を促す援助	
	第21回	産褥期の感染症予防のための援助	
	第22回	産褥経過に対する評価	

	第23回 新生児の生理的特徴についての理解 第24回 新生児の観察の視点についての理解 第25回 新生児の清潔を保つ援助 第26回 新生児の栄養所要量と母乳哺乳量についての理解 第27回 新生児への感染症予防のための援助 第28回 新生児期の経過に対する評価 第29～43回 妊婦、産婦、褥婦、新生児に対する理解を深め、情報を評価し、必要な看護援助の実施 (1) 妊娠期では、妊婦が健康な妊娠期を送り、安全な分娩を迎えるための看護援助 (2) 分娩期では、分娩各期に応じた看護援助 (3) 産褥期では、褥婦の身体的変化に伴うニーズ、母親役割獲得、家族関係の再構成などへの看護援助 (4) 新生児期では、生理的変化や健康な発達への看護援助 第44回 実習全体を通して、自己の生命観、母性観（父性観）、母性看護のあり方やその役割について考えを深める（レポート作成） 第45回 最終カンファレンス（学びの発表） 個人の学びを学生全体で共有する
テキスト	森恵美他：系統看護学講座 専門 母性看護学各論 母性看護学2，医学書院. 森恵美他：系統看護学講座 専門 母性看護学概論 母性看護学1，医学書院.
参考書・参考資料等	石村由利子：根拠と事故防止からみた母性看護技術 最新版，医学書院. 佐世正勝，石村由利子：ウェルネスからみた母性看護過程 最新版，医学書院. 医療情報科学研究所編：病気がみえる vol.10 産科 最新版，メディックメディア. その他適宜提示.
学生に対する評価	出欠状況および育成期看護学実習Ⅰ評価表による評価点を総括して評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	実習時間中、教員は学生とともに実習施設にいるため、いつでも対応します。 実習時間以外は、在室中であれば対応します。
備考	臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、演習、講義で教授する。

講義科目名称： 育成期看護学実習Ⅱ（子ども） 3年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
吉田 美幸・今井田 真実・近藤 めぐみ			
実習	養護教諭対象科目	064305P3NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	成長発達過程にある子どもとその家族を理解し、健康レベルに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。			
授業の概要	成長発達過程にある子どもとその家族を理解し、健康レベルに応じた看護が実践できる基礎的能力と態度を育成できるよう教授する。 内容としては、こども園、小児病棟、小児科外来における子どもとその家族への日常生活援助、環境調整、健康増進と疾病の回復への援助、成長発達の促進のための援助についてである。			
授業計画	第1回～第12回	子ども園実習：健康な子どもの成長発達、生活状況を理解し、自立度に応じた日常生活援助を指導のもとに実施できる。 内容： 1) 子どもの理解：成長発達、生活状況、健康状態 2) 子どものセルフケア能力、基本的な生活習慣の自立度にあわせた日常生活援助 3) 子どもの発達段階に合わせた遊びの援助、事故防止への援助 4) 子どもの特性を踏まえたコミュニケーション、子どもの意思を尊重した援助 5) 子どもの言動、子どもに実施した関わりや保育士の関わりを記述し、それを意味づけして説明できる。	第13回～第17回 小児科外来実習：健康な子どもおよび治療を必要とする子どもに対する健康レベルに応じた援助を指導のもとで実施できる。 内容： 1) 来院理由、症状の経過、来院するまでの過程でのケア状況の情報収集 2) 症状の観察、病態把握と緊急度の判断の仕方 3) 診察時、検査・処置時の援助 4) 感染防止の実践－スタンダードプリコーション、隔離 5) 予防接種の勧奨、健康教育の実践 6) 慢性的な疾患を持つ子どもに対する疾病や症状コントロールの方法、学校生活との調整、子どもへのセルフケア主体の移行に向けた指導の実践を学ぶ。 第18回～第42回 小児病棟実習：健康障害のある乳児・幼児・学童・思春期（18歳以下）の子どもを一人受け持ち、アセスメント・計画立案・実施・評価の一連の看護過程を通して看護を展開できる。 内容： 第18回～第20回：子どもの疾病・病態整理の理解、治療処置が子どもに及ぼす影響の理解 第21回～第22回：子どもの入院生活の理解 第23回～第25回：子どもと家族への看護計画立案 第26回～第42回：看護計画に基づいた看護実践・評価 第43回～第45回 実習過程の振り返り、実践の意味づけと自己の課題の明確化（レポート作成・カンファレンス）	
テキスト	・奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学①、医学書院。 ・奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②、医学書院。 ・添田啓子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村佳士枝：看護実践のための根拠がわかる小児看護技術、メジカルフレンド社。			
参考書・参考資料等				
学生に対する評価	1. 実習に対する態度と実践 2. カンファレンス参加度 3. 実習記録提出状況と内容 4. 実習評価表による評価点 以上の実習評価100%			
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	8：30～17：00に随時対応します。			
備考	実務経験のある教員による授業科目である。			

講義科目名称： 育成期看護学実習Ⅱ（子ども） 4年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
吉田 美幸・今井田 真実・近藤 めぐみ			
実習	養護教諭対象科目	064305P4NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	成長発達過程にある子どもとその家族を理解し、健康レベルに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。			
授業の概要	成長発達過程にある子どもとその家族を理解し、健康レベルに応じた看護が実践できる基礎的能力と態度を育成できるよう教授する。 内容としては、こども園、小児病棟、小児科外来における子どもとその家族への日常生活援助、環境調整、健康増進と疾病の回復への援助、成長発達の促進のための援助についてである。			
授業計画	第1回～第12回	子ども園実習：健康な子どもの成長発達、生活状況を理解し、自立度に応じた日常生活援助を指導のもとに実施できる。 内容： 1) 子どもの理解：成長発達、生活状況、健康状態 2) 子どものセルフケア能力、基本的な生活習慣の自立度にあわせた日常生活援助 3) 子どもの発達段階に合わせた遊びの援助、事故防止への援助 4) 子どもの特性を踏まえたコミュニケーション、子どもの意思を尊重した援助 5) 子どもの言動、子どもに実施した関わりや保育士の関わりを記述し、それを意味づけして説明できる。	第13回～第17回 小児科外来実習：健康な子どもおよび治療を必要とする子どもに対する健康レベルに応じた援助を指導のもとで実施できる。 内容： 1) 来院理由、症状の経過、来院するまでの過程でのケア状況の情報収集 2) 症状の観察、病態把握と緊急度の判断の仕方 3) 診察時、検査・処置時の援助 4) 感染防止の実践－スタンダードプリコーション、隔離 5) 予防接種の勧奨、健康教育の実践 6) 慢性的な疾患を持つ子どもに対する疾病や症状コントロールの方法、学校生活との調整、子どもへのセルフケア主体の移行に向けた指導の実践を学ぶ。 第18回～第42回 小児病棟実習：健康障害のある乳児・幼児・学童・思春期（18歳以下）の子どもを一人受け持ち、アセスメント・計画立案・実施・評価の一連の看護過程を通して看護を展開できる。 内容： 第18回～第20回：子どもの疾病・病態整理の理解、治療処置が子どもに及ぼす影響の理解 第21回～第22回：子どもの入院生活の理解 第23回～第25回：子どもと家族への看護計画立案 第26回～第42回：看護計画に基づいた看護実践・評価 第43回～第45回 実習過程の振り返り、実践の意味づけと自己の課題の明確化（レポート作成・カンファレンス）	
テキスト	・奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学①、医学書院。 ・奈良間美保他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②、医学書院。 ・添田啓子、鈴木千衣、三宅玉恵、田村佳士枝：看護実践のための根拠がわかる小児看護技術、メジカルフレンド社。			
参考書・参考資料等				
学生に対する評価	1. 実習に対する態度と実践 2. カンファレンス参加度 3. 実習記録提出状況と内容 4. 実習評価表による評価点 以上の実習評価100%			
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	8：30～17：00に随時対応します。			
備考	実務経験のある教員による授業科目である。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
寺島 喜代子、八杉 朱美			
実習	初級障がい者スポーツ指導員対象科目	064306P3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 介護老人保健施設に入所、または通所サービスを受けている要介護高齢者に対する生活援助技術の実際を学ぶ 2. 認知症高齢者の生活援助のすすめ方や関わり方を学ぶ 3. 通所サービスを受けながら生活している要介護高齢者とその家族の生活の実際を学ぶ 4. 入所や通所サービスにおける多職種連携の実際が高齢者やその家族に及ぼす影響を学ぶ
授業の概要	1. 高齢者個々の機能障害に応じて“もてる力”を引き出す生活援助技術（食事・排泄・清潔・活動）の実際を指導者と共に実践し、看護の視点から援助技術の意味を理解する 2. ①認知症高齢者と学生の関わりの実際をプロセスレコードに表現して振り返り、認知症の理解を深める ②認知症の中核症状の経年変化や周囲の人と関わりが認知症高齢者にもたらす影響をDVDを教材として理解する 3. 通所サービスを利用している高齢者の送迎に同行し、在宅で要介護高齢者を介護している家族や利用者の生活の実際を知る 4. 実習期間で学生が認識した入所、通所サービスでの職種間や家族との連携の実際が高齢者や家族にどのような意味があるのかを理解する
授業計画	実習前OR <学内> オリエンテーション 1. 実習目標確認 2. 事前学習課題内容の確認 (1) 介護保険制度創設の経緯と目的、理念の意味 (2) 介護保険制度の仕組みとサービスの理解 (3) 介護保険施設其々の違いと地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の果たす役割 (4) 世帯構成の変化と社会保障費の推移が要介護高齢者の生活にもたらす影響 (5) 認知症の理解；三大認知症の病態と特徴、中核症状と周辺症状、認知症評価スケールなど 3. 技術演習：全介助を要する高齢者のオムツ交換の方法 ※ 体位変換の技術、オムツ交換、IAD の観察Point、ガウンテクニック、清潔操作 4. 実習方法の紹介：実習スケジュール、実習施設の概要、担当利用者の決定 第1回 施設実習 <実習内容> 1. 施設オリエンテーション；利用者の特徴、職種間連携の実際、業務スケジュールの把握 2. 実習フロアの利用者の特徴（どのような生活援助を受けている利用者が多いのか）の理解 3. 担当利用者の紹介と全体像理解のための情報収集、生活援助の自立度把握と介助内容の把握 4. 受け持ち対象者に提供されている施設サービスの実際を見学 <カンファレンス>メンバーが体験した利用者の生活援助の実際をみたうえでの学びを共有する 第2回 施設実習 <実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 3. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <カンファレンス> 生活援助技術実践および認知症高齢者との関わり振り返り⇒メンバーが体験した生活援助技術の実際と認知症高齢者との関わり（プロセスレコードを用いて）について学びを共有する 第3回 学内 <演習目的> 1. 認知症発症後、中核症状の進行の実際をDVDに登場する高齢者の生活の様子から学ぶ 2. 認知症発症後から認知症の症状が高齢者にどのような思いをもたらしているのかを理解する 3. 認知症の症状によって高齢者とともに生活している人たちの生活に及ぼす影響を理解する 5. 関わり方の違いによって認知症高齢者にどのような影響があるのかを学ぶ 6. DVD学習を通して、認知症高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を維持するための社会（家族や近隣、学生自身）の関わりについて考える 可能 と認知症高齢者がが発症後から<演習方法> 1. 2グループに分ける 2. 指定した7つのDVDの中からグループで演習目的を果たすために適していると判断したDVDを選択する 3. 演習目的に沿って目的に沿って発表する（DVDでの具体的な場面を示しながらPPT原稿を作成し発表） 第4回 学内 <発表準備> 1. グループで発表準備（DVD場面の決定と発表原稿作成） 2. 発表原稿は12：00までに提出し、その後、別グループが選択したDVDを視聴し、内容を理解して発表に臨む <発表> 発表45分＋質疑応答20分 1. 演習目的に沿って発表

	2. 別グループおよび教員の質問に答え、認知症の理解を深める グループ全体で ①本日の実践を振り返り、施設サービスが高齢者に及ぼす影響を理解する ②認知症高齢者との関わりを振り返り、関わり方を学ぶ 第5回 施設実習 <実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 3. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <カンファレンス> 生活援助技術実践および認知症高齢者との関わりを振り返り：メンバーが体験した生活援助技術の実践と認知症高齢者との関わりを（プロセスレコードを用いて）振り返り学びを共有する⇒DVD学習で得た認知症の理解を活かす 第6回 施設実習+デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 2 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実践に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第7回 施設実習+デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 2 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実践に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第8回 施設実習+デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 2 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実践に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第9回 施設実習+デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 2 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実践に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第10回 施設実習 <実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 3. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <実習のまとめカンファレンス（指導者参加）> 実習目的について学生の学びを発表
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2025
参考書・参考資料等	老年看護学、解剖学・生理学・薬理学・疾患論のテキスト。 その他、適宜紹介する。 老年看護学領域の授業資料の携行は必須である
学生に対する評価	評価内容 1. 実習姿勢（出席、態度、身だしなみ等） 2. 受け持ち利用者との関わり方や関心度 3. カンファレンス参加度

	4. 実習記録提出（毎日提出、アセスメント、気づき等） 5. まとめのカンファレンス資料資料、認知症の理解、実習最終レポートの内容 6. 事前学習課題の取り組み 1～6の内容を基に総合評価とする.
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日から金曜日対応する.
備考	多領域の実務経験・学外実習を踏まえて、指導・評価を行う.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
寺島 喜代子、八杉 朱美			
実習	初級障がい者スポーツ指導員対象科目	064306P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 介護老人保健施設に入所、または通所サービスを受けている要介護高齢者に対する生活援助技術の実践を学ぶ 2. 認知症高齢者の生活援助のすすめ方や関わり方を学ぶ 3. 通所サービスを受けながら生活している要介護高齢者とその家族の生活の実践を学ぶ 4. 入所や通所サービスにおける多職種連携の実践が高齢者やその家族に及ぼす影響を学ぶ
授業の概要	1. 高齢者個々の機能障害に応じて“もてる力”を引き出す生活援助技術（食事・排泄・清潔・活動）の実践を指導者と共に実践し、看護の視点から援助技術の意味を理解する 2. ①認知症高齢者と学生の関わりの実践をプロセスレコードに表現して振り返り、認知症の理解を深める ②認知症の中核症状の経年変化や周囲の人と関わりが認知症高齢者にもたらす影響をDVDを教材として理解する 3. 通所サービスを利用している高齢者の送迎に同行し、在宅で要介護高齢者を介護している家族や利用者の生活の実践を知る 4. 実習期間で学生が認識した入所、通所サービスでの職種間や家族との連携の実践が高齢者や家族にどのような意味があるのかを理解する
授業計画	実習前OR <学内>オリエンテーション 1. 実習目標確認 2. 事前学習課題内容の確認 (1) 介護保険制度創設の経緯と目的、理念の意味 (2) 介護保険制度の仕組みとサービスの理解 (3) 介護保険施設其々の違いと地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の果たす役割 (4) 世帯構成の変化と社会保障費の推移が要介護高齢者の生活にもたらす影響 (5) 認知症の理解；三大認知症の病態と特徴、中核症状と周辺症状、認知症評価スケールなど 3. 技術演習：全介助を要する高齢者のオムツ交換の方法 ※ 体位変換の技術、オムツ交換、IAD の観察Point、ガウンテクニック、清潔操作 4. 実習方法の紹介：実習スケジュール、実習施設の概要、担当利用者の決定 第1回 施設実習 <実習内容> 1. 施設オリエンテーション；利用者の特徴、職種間連携の実践、業務スケジュールの把握 2. 実習フロアの利用者の特徴（どのような生活援助を受けている利用者が多いのか）の理解 3. 担当利用者の紹介と全体像理解のための情報収集、生活援助の自立度把握と介助内容の把握 4. 受け持ち対象者に提供されている施設サービスの実際を見学 第2回 <カンファレンス>メンバーが体験した利用者の生活援助の実践をみたうえでの学びを共有する 施設実習 <実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実践を指導者と共に実施する 2. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <カンファレンス> 生活援助技術実践および認知症高齢者との関わりでの振り返り⇒メンバーが体験した生活援助技術の実践と認知症高齢者との関わり（プロセスレコードを用いて）について学びを共有する 第3回 学内演習 <演習目的> 1. 認知症発症後、中核症状の進行の実践をDVDに登場する高齢者の生活の様子から学ぶ 2. 認知症発症後から認知症の症状が高齢者にどのような思いをもたらしているのかを理解する 3. 認知症の症状によって高齢者とともに生活している人たちの生活に及ぼす影響を理解する 4. 関わり方の違いによって認知症高齢者にどのような影響があるのかを学ぶ 5. DVD学習を通して、認知症高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を維持するための社会（家族や近隣、学生自身）の関わりについて考える 可能 と認知症高齢者が発症後から<演習方法> 1. 2グループに分ける 2. 指定した7つのDVDの中からグループで演習目的を果たすために適していると判断したDVDを選択する 3. 演習目的に沿って目的に沿って発表する（DVDでの具体的な場面を示しながらPPT原稿を作成し発表） 第4回 学内演習 <発表準備> 1. グループで発表準備（DVD場面の決定と発表原稿作成） 2. 発表原稿は12：00までに提出し、その後、別グループが選択したDVDを視聴し、内容を理解して発表に臨む <発表> 発表45分＋質疑応答20分 1. 演習目的に沿って発表 2. 別グループおよび教員の質問に答え、認知症の理解を深める 第5回 施設実習

	<実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 3. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <カンファレンス> 生活援助技術実践および認知症高齢者との関わりの振り返り：メンバーが体験した生活援助技術の実際と認知症高齢者との関わりを（プロセスレコードを用いて）振り返り学びを共有する⇒DVD学習で得た認知症の理解を活かす 第6回 施設実習＋デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 2. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実際に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第7回 施設実習＋デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 2. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実際に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第8回 施設実習＋デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 2. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実際に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第9回 施設実習＋デイケア実習（学生一人当たり2日間） <入所棟・実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 2. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <デイケア実習内容> 1. 学生は利用者の送迎に同行し自宅を訪問し、要介護高齢者が生活している家屋や療養環境や家族と職員の関わりを観察する 2. 送迎に同行した利用者のデイケア滞在中の過ごし方や、食事、排泄、清潔の生活援助の実際に関わる 3. デイケアで提供されているサービスから、自宅での過ごし方を想像する <カンファレンス> 入所棟実習学生とデイケア実習学生が、実践内容を報告しその内容からメンバー全体の学びを深める 第10回 施設実習 <実習内容> 1. 担当および担当以外の利用者の、食事、排泄、清潔援助の実際を指導者と共に実施する 3. 担当および担当以外の認知症高齢者とコミュニケーションを実施する <実習のまとめカンファレンス（指導者参加）> 実習目的について学生の学びを発表
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 2025
参考書・参考資料等	老年看護学、解剖学・生理学・薬理学・疾患論のテキスト。 その他、適宜紹介する。 老年看護学領域の授業資料の携行は必須である
学生に対する評価	評価内容 1. 実習姿勢（出席、態度、身だしなみ等） 2. 受け持ち利用者との関わり方や関心度 3. カンファレンス参加度 4. 実習記録提出（毎日提出、アセスメント、気づき等） 5. まとめのカンファレンス資料資料、認知症の理解、実習最終レポートの内容 6. 事前学習課題の取り組み 1～6の内容を基に総合評価とする。

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日から金曜日対応する.
備考	多領域の実務経験・学外実習を踏まえて、指導・評価を行う.

講義科目名称： 広域看護学実習 3年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
油野 規代、奥田 豊子			
実習		064307P3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 地域で生活する療養者と家族の生活をとらえ、生活上・健康上の課題を把握し。在宅で必要とされる看護実践を学ぶ。 2. 地域で生活する人々の生活上・健康上の課題解決にかかわる多様な職種の役割・機能をりかいし、連携・協働の実践を学ぶ。 3. 地域で生活する人々健康の保持、増進、疾病予防を支援するための保健医療福祉活動の実践を学ぶ。
授業の概要	保健医療福祉制度の活用と多職種連携を行いながら対象に応じた看護実践の基礎的能力と態度を養う。 内容は、内容を地域における一次予防、二次予防の実践、利用者と家族を一単位とした看護支援、連携・協働、退院調整と支援の実践、利用者と家族の望む生活を支える支援等である。
授業計画	第1～19回 訪問看護ステーション実習（4日間） 訪問看護ステーションでは1日2～4件の利用者宅を訪問し、事前学習で抽出した自己の学習課題に応じた学びと学修課題以外で学んだ内容を抽出する。 訪問事例を通して広域な場で療養している利用者と家族が安心してして住み慣れた場所で、自分たちの望む自分らしい生活を送ることができるよう行われている看護支援を学ぶ。 第20～24回 前半カンファレンス（1日） 事前学修で抽出した自己の学修課題に応じた学びについてレポートを作成し、チームメンバー、教員とともにディスカッションを行う。 他者の意見によって得られた多様な視点から、再度レポートを見直し学びを深める。 第25～41回 多職種施設（2日間ずつ） 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、看護小規模多機能等の多施設実習では、スタッフと同行し、スタッフが実践する対象への支援方法を学ぶ。 看護職としてスタッフや多職種との連携の必要性、連携方法、内容について学ぶ。 第42～45回 後半カンファレンス（1日） 事前学修で抽出した自己の学修課題に応じた学びについてレポートを作成し、チームメンバー、教員とともにディスカッションを行う。 他者の意見によって得られた多様な視点から、再度レポートを見直し学びを深める。
テキスト	1) 河原加代子他：系統看護学講座，専門分野，地域・在宅看護の基盤，地域・在宅看護論1，医学書院、第6版1刷2022。 2) 河原加代子他：系統看護学講座，専門分野，地域・在宅看護の実践，地域・在宅看護論2，医学書院、第6版1刷2022。
参考書・参考資料等	1) 厚生統計協会編：国民衛生の動向，2022/2023，厚生統計協会，最新版。 2) 鈴木和子他：家族看護学 理論と実践5，第5版，日本看護協会出版会。 3) 鳥羽研二他：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，老年看護 病態・疾患論，医学書院，第5版5刷2021。 4) 北川公子他：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，老年看護学，医学書院，第9版5刷2021。 5) 横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント，メヂカルフレンド社，第2版第5刷2024。
学生に対する評価	実習評価表（事前学習、実習、カンファレンス、事後学習を含む）100％で評価する。 日々の記録を翌日提出しない場合は、欠席扱いでその日の実習を中止する可能性がある。 記録の提出期日を守らない場合、出席日数が満たない場合、評価放棄として単位を認定しない（不合格）。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在宅看護学実習、課題設定理由の提出（3施設分） 事前学修課題の提出 実習後の小テストの実施
備考	

講義科目名称： 広域看護学実習 4年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
油野 規代、奥田 豊子			
実習		064307P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 地域で生活する療養者と家族の生活をとらえ、生活上・健康上の課題を把握し。在宅で必要とされる看護実践を学ぶ。 2. 地域で生活する人々の生活上・健康上の課題解決にかかわる多様な職種の役割・機能をりかいし、連携・協働の実践を学ぶ。 3. 地域で生活する人々健康の保持、増進、疾病予防を支援するための保健医療福祉活動の実践を学ぶ。
授業の概要	保健医療福祉制度の活用と多職種連携を行いながら対象に応じた看護実践の基礎的能力と態度を養う。 内容は、内容を地域における一次予防、二次予防の実践、利用者と家族を一単位とした看護支援、連携・協働、退院調整と支援の実践、利用者や家族の望む生活を支える支援等である。
授業計画	第1～19回 訪問看護ステーション実習（4日間） 訪問看護ステーションでは1日2～4件の利用者宅を訪問し、事前学習で抽出した自己の学習課題に応じた学びと学修課題以外で学んだ内容を抽出する。 訪問事例を通して広域な場で療養している利用者と家族が安心してして住み慣れた場所で、自分たちの望む自分らしい生活を送ることができるよう行われている看護支援を学ぶ。 第20～24回 前半カンファレンス（1日） 事前学習で抽出した自己の学修課題に応じた学びについてレポートを作成し、チームメンバー、教員とともにディスカッションを行う。 他者の意見によって得られた多様な視点から、再度レポートを見直し学びを深める。 第25～41回 多職種施設（2日ずつ） 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、看護小規模多機能等の多施設実習では、スタッフと同行し、スタッフが実践する対象への支援方法を学ぶ。 看護職としてスタッフや多職種との連携の必要性、連携方法、内容について学ぶ。 第42～45回 後半カンファレンス（1日） 事前学習で抽出した自己の学修課題に応じた学びについてレポートを作成し、チームメンバー、教員とともにディスカッションを行う。 他者の意見によって得られた多様な視点から、再度レポートを見直し学びを深める。
テキスト	1) 河原加代子他：系統看護学講座，専門分野，地域・在宅看護の基盤，地域・在宅看護論1，医学書院、第6版1刷2022。 2) 河原加代子他：系統看護学講座，専門分野，地域・在宅看護の実践，地域・在宅看護論2，医学書院、第6版1刷2022。
参考書・参考資料等	1) 厚生統計協会編：国民衛生の動向，2022/2023，厚生統計協会，最新版。 2) 鈴木和子他：家族看護学 理論と実践5，第5版，日本看護協会出版会。 3) 鳥羽研二他：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，老年看護 病態・疾患論，医学書院，第5版5刷2021。 4) 北川公子他：系統看護学講座，専門分野Ⅱ，老年看護学，医学書院，第9版5刷2021。 5) 横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント，メヂカルフレンド社，第2版第5刷2024。
学生に対する評価	実習評価表（事前学習、実習、カンファレンス、事後学習を含む）100%で評価する。 日々の記録を翌日提出しない場合は、欠席扱いでその日の実習を中止する可能性がある。 記録の提出期日を守らない場合、出席日数が満たない場合、評価放棄として単位を認定しない（不合格）。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在宅看護学実習、課題設定理由の提出（3施設分） 事前学修課題の提出 実習後の小テストの実施
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
駒田 裕司			
実習		064308P3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標】 1. 手術前の患者の身体的・心理的・社会的情報を系統的に収集し術前の看護計画が立案できる。 2. 手術が患者の身体的・心理的に与える影響を理解し、手術前の看護援助ができる。 3. 手術中の看護について理解する。 4. 手術後の患者の状態変化に応じた看護計画を立案し、行った援助の評価ができる。 5. 患者の安全・安楽・自立、優先順位を考慮しながら術後の看護援助が実施できる。 6. 看護学生として倫理的行動がとれ自己の看護実践を省察できる。 【テーマ】 手術により健康破綻をきたす患者の術前・術中・術後の状態を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解し、周手術期の健康レベルに応じた患者中心の看護実践について学ぶ。
授業の概要	手術により健康破綻をきたす患者の術前・術中・術後の状態を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解し、周手術期の健康レベルに応じた患者中心の看護実践について教授する。 手術前・手術中・手術後の患者を受け持ち、身体・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・実施・評価の一連の段階を踏まえて周手術期患者の回復過程を促進するための看護実践の基礎的能力を養うことを目標とする。
授業計画	第1～4回 手術前の患者の身体的・心理的・社会的情報を系統的に収集し術前の看護計画の立案 1) 手術療法を受ける患者の疾患・病態と治療方針（予定している術式、麻酔法）について説明できる。 2) 予定している術式と麻酔法による身体的影響と合併症について説明できる。 3) 術前の情報を基に術後の回復を促進するための看護援助につなげるアセスメントができる。 事前学修：担当患者の疾患・術式・麻酔方法・麻酔の身体に及ぼす影響・術後合併症について学修する 第5～8回 手術が患者の身体的・心理的側面に与える影響を理解し、手術前の患者の心身の準備への援助の実際 1) 患者と家族の疾病や治療の受け止め、術前の疑問や不安を理解し援助ができる。 2) 患者の身体的・心理的状态に適した術前オリエンテーションや術前訓練が実施できる。 3) 術前の処置や援助の目的を理解し、手術当日の援助が実施できる 第9回 手術室の環境の特徴の理解 1) 手術室の環境の特徴を説明できる。 2) 手術室の安全対策が理解できる。 第10～12回 手術術式と麻酔法についての理解 1) 手術開始までの処置、術中体位による影響と予防策について説明できる。 2) 麻酔導入時、麻酔覚醒時、術直後の患者の状態と看護について説明できる。 第13～26回 手術後の患者の状態変化に応じた看護計画の立案、行った援助の評価 1) 術後の患者の状態に関して情報収集し、アセスメントできる。 2) アセスメント結果を関連・統合させ優先順位をつけた看護診断名を明示できる。 3) 術後の回復状態や患者の個別性を踏まえた看護計画が立案できる。 4) 患者の状態に応じた本日の計画と実施時間を計画できる。 5) 期待される結果と照らし合わせ実施した結果を評価できる。 6) 手術による機能障害と日常生活への影響に対する患者・家族への看護計画が立案できる。 7) 看護問題ごとにケアの経過と評価、継続する問題について看護要約できる。 第27～44回 患者の安全・安楽・自立・優先順位を考慮した術後の看護援助の実施 1) 回復過程に沿い、合併症を予防し回復を促進する援助を、安全・安楽、優先順位を考慮し実施できる。 2) 患者の訴えや表情、全身状態から心身の苦痛の原因を明らかにし、苦痛を緩和する援助が実施できる。 3) 術後の機能変化に対しての患者の自立、自己管理に向けた教育・指導が実施できる。 4) 患者のプライバシー保護のため、守秘義務を守り情報を管理できる。 5) 規範を守り看護学生としての立ち振る舞いができる。 6) 医療スタッフ・指導者・教員・学生との報告・連絡・相談・確認ができ連携がとれる。 第45回 周手術期における看護師の役割と機能の理解 1) 実習体験から周手術期における看護師の役割と機能を述べるができる。 事前学修：自己の看護実践に対して客観的に振り返り自己評価する。 事後学修：カンファレンスの学びから自己の看護を振り返り、学修する。
テキスト	矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院 北川雄光、江川幸二編他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院 野崎真奈美他：成人看護学 成人看護技術, 南江堂 南川雅子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器, 医学書院 荻野浩、山本恵子他著：ナースンググラフィカEX 疾患と看護 7 運動器 MCメディカ出版
参考書・参考資料等	医学書院の系統看護学講座 参考文献は適宜紹介します。

学生に対する評価	周手術期実習評価表にて評価 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。
備考	急性期病棟、集中治療部、救急部、手術部で勤務した経験をもとに教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
駒田 裕司			
実習		064308P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標】 1. 手術前の患者の身体的・心理的・社会的情報を系統的に収集し術前の看護計画が立案できる。 2. 手術が患者の身体的・心理的に与える影響を理解し、手術前の看護援助ができる。 3. 手術中の看護について理解する。 4. 手術後の患者の状態変化に応じた看護計画を立案し、行った援助の評価ができる。 5. 患者の安全・安楽・自立、優先順位を考慮しながら術後の看護援助が実施できる。 6. 看護学生として倫理的行動がとれ自己の看護実践を省察できる。 【テーマ】 手術により健康破綻をきたす患者の術前・術中・術後の状態を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解し、周手術期の健康レベルに応じた患者中心の看護実践について学ぶ。
授業の概要	手術により健康破綻をきたす患者の術前・術中・術後の状態を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解し、周手術期の健康レベルに応じた患者中心の看護実践について教授する。 手術前・手術中・手術後の患者を受け持ち、身体・心理・社会的側面の情報を総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・実施・評価の一連の段階を踏まえて周手術期患者の回復過程を促進するための看護実践の基礎的能力を養うことを目標とする。
授業計画	第1～4回 手術前の患者の身体的・心理的・社会的理解情報を系統的に収集し術前の看護計画の立案 1) 手術療法を受ける患者の疾患・病態と治療方針（予定している術式、麻酔法）について説明できる。 2) 予定している術式と麻酔法による身体的影響と合併症について説明できる。 3) 術前の情報を基に術後の回復を促進するための看護援助につなげるアセスメントができる。 事前学修：担当患者の疾患・術式・麻酔方法・麻酔の身体に及ぼす影響・術後合併症について学修する 第5～8回 手術が患者の身体的・心理的側面に与える影響を理解し、手術前の患者の心身の準備への援助の実際 1) 患者と家族の疾病や治療の受け止め、不安を理解し援助ができる。 2) 患者とその家族の術前の不安を理解し、不安への援助ができる。 3) 患者の身体的・心理的状态に適した術前オリエンテーションや術前訓練を実施できる。 4) 術前の処置や援助の目的を理解し、手術当日の援助を実施できる。 第9回 手術室の環境の特徴の理解 1) 手術室の環境の特徴を説明できる。 2) 手術室の安全対策が理解できる。 第10～12回 手術中の看護についての理解 1) 手術開始までの処置、術中体位による影響と予防策について説明できる。 2) 麻酔導入時、麻酔覚醒時、術直後の患者の状態と看護について説明できる。 第13～26回 手術後の患者の状態変化に応じた看護計画の立案、行った援助の評価 1) 術後の患者の状態に関して情報収集し、アセスメントできる。 2) アセスメント結果を関連・統合させ優先順位をつけた看護診断名を明示できる。 3) 術後の回復状態や患者の個別性を踏まえた看護計画が立案できる。 4) 患者の状態に応じた本日の計画と実施時間を計画できる。 5) 期待される結果と照らし合わせ実施した結果を評価できる。 6) 手術による機能障害と日常生活への影響に対する患者・家族への看護計画が立案できる。 7) 看護問題ごとにケアの経過と評価、継続する問題について看護要約できる。 第27～44回 患者の安全・安楽・自立・優先順位を考慮しながら計画に基づく看護の実際 1) 回復過程に沿い、合併症を予防し回復を促進する援助を、安全・安楽、優先順位を考慮し実施できる。 2) 患者の訴えや表情、全身状態から心身の苦痛の原因を明らかにし苦痛を緩和する援助が実施できる。 3) 術後の機能変化に対しての患者の自立、自己管理に向けた教育・指導が実施できる。 4) 患者のプライバシー保護のため、守秘義務を守り情報を管理できる。 5) 規範を守り看護学生としての立ち振る舞いができる。 6) 医療スタッフ・指導者・教員・学生との報告・連絡・相談・確認ができ連携がとれる。 第45回 周手術期における看護師の役割と機能の理解 1) 実習体験から周手術期における看護師の役割と機能を述べることができる。 事前学修：自己の看護実践に対して客観的に振り返り自己評価する。 事後学修：カンファレンスの学びから自己の看護を振り返り、学修する。
テキスト	矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院 北川雄光、江川幸二他編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論, 医学書院 野崎真奈美他：成人看護学 成人看護技術, 南江堂 南川雅子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器, 医学書院 荻野浩、山本恵子他著：ナースングラフィカEX 疾患と看護 7 運動器 MCメディカ出版

参考書・参考資料等	医学書院の系統看護学講座 参考文献は適宜紹介します。
学生に対する評価	周手術期実習評価表にて評価 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時はいつでも対応します。
備考	急性期病棟、集中治療部、救急部、手術部で勤務した経験をもとに教授する。

講義科目名称： 生活再構築看護実習 3年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	3	【必修】看護
担当教員			
吉江由加里			
実習	養護教諭対象科目	064309P3NH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 生活機能障害のある対象が抱える課題をライフプロセスをふまえて包括的に捉え、障害によって変化した生活を再構築するために必要な看護実践を学ぶ。 2. 在宅復帰に向けて、対象の生活上・健康上の課題解決にかかわる各専門職の役割・機能を理解するとともに、連携・協働の実践を学ぶ。
授業の概要	生活機能障害のある対象を受け持ち、対象の個人因子・環境因子をふまえて、健康障害および各機能障害が活動や参加に及ぼす影響をアセスメントし、看護診断、計画立案、実施、評価の一連の看護過程を展開し、対象の生活の再構築を促進するための看護実践の基礎的能力を養う。また、健康障害のある対象のチームアプローチ実際に体験し、在宅復帰を支える専門職間の連携・協働について考察する。
授業計画	第1回～第17回 病棟実習：オリエンテーション、情報収集 ・実習病棟の概要、機能、看護の役割 ・受け持ち患者紹介 ・情報収集 ・看護過程展開（アセスメント、看護診断、看護計画立案） 第18回～第21回 カンファレンス 立案した看護計画を発表し、下記の視点に沿ってチームメンバー、臨地実習指導者、教員とディスカッションを行う。 ・対象の全体像の把握：各生活機能障害が生活に及ぼす影響の理解 ・看護問題（看護診断）の整合性、優先順位の妥当性 ・目標・成果・成果指標の妥当性 ・看護計画の妥当性 第22回～第53回 病棟実習：看護計画に基づいた看護実践・評価・修正 ・立案した看護計画に基づく看護実践 ・実施した看護実践の評価（日々の記録におけるリフレクション） ・看護計画の評価、修正 第54回～第58回 外来・透析室実習 〈透析室実習〉内部障害（慢性疾患）の治療方法の1つである血液透析の実践を見学し、透析治療を受ける対象とその家族への看護を学ぶ ・透析室の配置と役割を学ぶ ・血液透析の流れを見学する。 ・血液透析を受ける対象とその家族への看護（フットケア含む）を見学する。 ・血液透析を受ける対象とその家族の思いを聴き考察する。 〈外来実習〉 内部障害（慢性疾患）をもつ患者の日常の健康管理にむけた学習支援の実践を学ぶ ・管理栄養士が実施する障害の状態や生活スタイルに応じた個別の食事管理の実践を見学する。 第59回～第63回 入退院調整室実習 入退院調整室のスタッフに同行し、スタッフが実践する対象への退院支援の実践を学ぶ。看護職として多職種との連携の必要性、連携方法、内容について学びを深める。 第64回～第68回 カンファレンス 下記内容についてレポートを作成し、チームメンバー、臨地実習指導者、教員とディスカッションを行う。 ・対象に行った看護実践の意味づけ ・実習過程の振り返り：看護要約作成 ・専門職間連携における看護師の役割 ・自己の課題の明確化
テキスト	なし
参考書・参考資料等	既修学修に使用したテキスト
学生に対する評価	実習評価表（実習に対する態度と実践、実習記録提出状況と内容、カンファレンス参加度等）100%で評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時対応可（月～金）

備考	回復期リハビリテーション病棟での臨床実践および看護管理経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。 事前・事後学修については、実習直前オリエンテーションで説明する。
----	---

講義科目名称： 生活再構築看護実習 4年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	3	【必修】看護
担当教員			
吉江由加里			
実習	養護教諭対象科目		064309P4NH
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 生活機能障害のある対象が抱える課題をライフプロセスをふまえて包括的に捉え、障害によって変化した生活を再構築するために必要な看護実践を学ぶ。 2. 在宅復帰に向けて、対象の生活上・健康上の課題解決にかかわる各専門職の役割・機能を理解するとともに、連携・協働の実践を学ぶ。
授業の概要	生活機能障害のある対象を受け持ち、対象の個人因子・環境因子をふまえて、健康障害および各機能障害が活動や参加に及ぼす影響をアセスメントし、看護診断、計画立案、実施、評価の一連の看護過程を展開し、対象の生活の再構築を促進するための看護実践の基礎的能力を養う。また、健康障害のある対象のチームアプローチ実際に体験し、在宅復帰を支える専門職間の連携・協働について考察する。
授業計画	第1回～第17回 病棟実習：オリエンテーション、情報収集 ・実習病棟の概要、機能、看護の役割 ・受け持ち患者紹介 ・情報収集 ・看護過程展開（アセスメント、看護診断、看護計画立案） 第18回～第21回 カンファレンス 立案した看護計画を発表し、下記の視点に沿ってチームメンバー、臨地実習指導者、教員とディスカッションを行う。 ・対象の全体像の把握：各生活機能障害が生活に及ぼす影響の理解 ・看護問題（看護診断）の整合性、優先順位の妥当性 ・目標・成果・成果指標の妥当性 ・看護計画の妥当性 第22回～第53回 病棟実習：看護計画に基づいた看護実践・評価・修正 ・立案した看護計画に基づく看護実践 ・実施した看護実践の評価（日々の記録におけるリフレクション） ・看護計画の評価、修正 第54回～第58回 外来・透析室実習 〈透析室実習〉内部障害（慢性疾患）の治療方法の1つである血液透析の実践を見学し、透析治療を受ける対象とその家族への看護を学ぶ ・透析室の配置と役割を学ぶ ・血液透析の流れを見学する。 ・血液透析を受ける対象とその家族への看護（フットケア含む）を見学する。 ・血液透析を受ける対象とその家族の思いを聴き考察する。 〈外来実習〉 内部障害（慢性疾患）をもつ患者の日常の健康管理にむけた学習支援の実践を学ぶ ・管理栄養士が実施する障害の状態や生活スタイルに応じた個別の食事管理の実践を見学する。 第59回～第63回 入退院調整室実習 入退院調整室のスタッフに同行し、スタッフが実践する対象への退院支援の実践を学ぶ。看護職として多職種との連携の必要性、連携方法、内容について学びを深める。 第64回～第68回 カンファレンス 下記内容についてレポートを作成し、チームメンバー、臨地実習指導者、教員とディスカッションを行う。 ・対象に行った看護実践の意味づけ ・実習過程の振り返り：看護要約作成 ・専門職間連携における看護師の役割 ・自己の課題の明確化
テキスト	なし
参考書・参考資料等	既修学修に使用したテキスト
学生に対する評価	実習評価表（実習に対する態度と実践、実習記録提出状況と内容、カンファレンス参加度等）100%で評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時対応可（月～金）

備考	回復期リハビリテーション病棟での臨床実践及び看護管理経験を有しており、その経験を踏まえ教授する。 事前・事後学修については、実習直前オリエンテーションで説明する。
----	--

講義科目名称： エンド・オブ・ライフケア実習 3年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
北川 敦子			
実習		064310P3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標】 1. エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解することができる 2. エンド・オブ・ライフ期にある健康障害が身体的・心理・社会的・スピリチュアルな側面に及ぼす影響を理解し、対象者に必要な看護をアセスメントできる 3. 対象者が望む生活を実現するための最善のエンド・オブ・ライフケア（症状マネジメント方策も含む）を実践できる 4. 対象および家族の意思決定支援について理解できる 5. 多職種間で行われるトータルマネジメントについて理解できる 5. 看護実践を通して看護者としての自己を成長させることができる 【テーマ】 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解し、その人らしい生活が最期まで実現できるように支援するための最善の看護実践能力を学ぶ。		
授業の概要	対象者（その家族を含む）が人生の終焉まで尊厳を保てるよう、全人的苦痛の状態のアセスメント、病状をコントロールし心安らかな時間を提供できるような援助方法について、立案し実施する過程において習得する。対象者の意思決定を保証し、希望を支えられるケアについて、多職種で行うトータルマネジメントの実践について見学し考察する。学生自身が行った看護について、論理的・批判的思考を用いて振り返り、最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察する。		
授業計画	第1回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 実習病棟の理解（構造、役割、週間予定等）（オリエンテーション） 第2回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(1)健康障害の種類や特徴、障害部位・症状、健康の段階 第3回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(2)健康障害に対するこれまでと今の治療・検査 第4回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(3)健康障害に対する心理的・社会的・スピリチュアル的側面への影響、検査・治療に対する反応や受け止め方 第5回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(4)対象のこれまでおよび現在の心理・社会的・スピリチュアル的側面の特徴（生活者としての在りよう）、ライフサイクルや発達段階 第6回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(5)対象の家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴、対象者との関係性 第1回から第6回までの項目について、さまざまな媒体や患者・家族との援助的なコミュニケーションを通して意図的に情報を収集し、アセスメントする。 第7回 対象者の身体的側面についてのアセスメント 第8回 対象者の心理的側面についてのアセスメント 第9回 対象者の社会的側面についてのアセスメント 第10回 対象者のスピリチュアル的な側面についてのアセスメント 第11回 看護上の問題の抽出とその根拠の考察(1) 看護上の問題の優先順位の考察 第12回 看護上の問題の抽出とその根拠の考察(2) 看護問題の根拠の考察 第13回 看護問題とその根拠についてカンファレンス(1)1病棟ごと 看護問題の方向性の確認を学生、臨床実習指導者、教員で行う 第14回 看護問題とその根拠についてカンファレンス(2)1病棟ごと 看護目標の方向性の確認を学生、臨床実習指導者、教員で行う 第15回 カンファレンスで明らかとなった看護問題とその根拠の修正 第16回 看護問題とその根拠の修正カンファレンス(1)1病棟ごと 第17回 看護問題とその根拠の修正カンファレンス(2)1病棟ごと		

第18回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画の立案（１）
第19回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画の立案（２）
第20回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画のカンファレンス(1)1病棟ごと
第21回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画のカンファレンス(2)1病棟ごと
第22回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 第22回から第40回まで、看護過程の展開は計画立案後から開始する。そのため援助の実施・評価・再計画立案はその援助時に実施する。回数に分けることができなく、まとめて記載する。また、受け持ちの対象のニーズに応じて、下記のキーワードを全て網羅して学習するため、授業回数を分けることができなく、これもまとめて記載する。 (1)看護計画に応じた援助の実施 (2)実施した援助の評価 (3)評価後の計画の変更 (5)家族への援助 (6)社会資源の活用方法 (7)意思決定支援の実際（ACPがどのように行われているかの見学）
第23回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第24回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第25回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第26回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第27回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第28回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第29回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第30回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第31回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第32回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第33回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第34回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第35回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第36回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第37回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第38回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第39回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第40回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第41回	看護実践の評価のカンファレンス（病棟反省会） （学生、臨床実習指導者、教員で行う）
第42回	最終カンファレンスのレポート作成 1 エンド・オブ・ライフケアにおける意思決定支援および最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察し、レポートを作成する。 実習で行った看護実践について振り返り、文献を用いながらよりよい看護の方法を検討する。
第43回	最終カンファレンスのレポート作成 2 エンド・オブ・ライフケアにおける意思決定支援および最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察し、レポートを作成する。

	第44回 実習で行った看護実践について振り返り、文献を用いながらよりよい看護の方法を検討する。最終カンファレンス（自己の看護の振り返り） 第45回 最終カンファレンス（自己の看護の振り返り・実習評価）
テキスト	・宮下光令：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版、最新版 ・これまで授業で用いた疾患に関する教科書や資料全て
参考書・参考資料等	これまで用いた関係事項の教科書や資料全て
学生に対する評価	（課題レポート5%、看護実践と実習記録75%、グループディスカッションへの参加状況5%、実習への学習姿勢 15%）の4点で総合的に判断する
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時は随時対応します。
備考	大学病院および一般病院での慢性期疾患、がん疾患患者の看護、緩和ケア病棟での看護を行ってきた経験を有しており、その経験を踏まえ、実習で教授する。

講義科目名称： エンド・オブ・ライフケア実習 4年

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
北川 敦子			
実習		064310P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標】 1. エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解することができる 2. エンド・オブ・ライフ期にある健康障害が身体的・心理・社会的・スピリチュアルな側面に及ぼす影響を理解し、対象者に必要な看護をアセスメントできる 3. 対象者が望む生活を実現するための最善のエンド・オブ・ライフケア（症状マネジメント方策も含む）を実践できる 4. 対象および家族の意思決定支援について理解できる 5. 多職種間で行われるトータルマネジメントについて理解できる 5. 看護実践を通して看護者としての自己を成長させることができる 【テーマ】 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解し、その人らしい生活が最期まで実現できるように支援するための最善の看護実践能力を学ぶ。		
授業の概要	対象者（その家族を含む）が人生の終焉まで尊厳を保てるよう、全人的苦痛の状態のアセスメント、病状をコントロールし心安らかな時間を提供できるような援助方法について、立案し実施する過程において習得する。対象者の意思決定を保証し、希望を支えられるケアについて、多職種で行うトータルマネジメントの実践について見学し考察する。学生自身が行った看護について、論理的・批判的思考を用いて振り返り、最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察する。		
授業計画	第1回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 実習病棟の理解（構造、役割、週間予定等）（オリエンテーション） 第2回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(1)健康障害の種類や特徴、障害部位・症状、健康の段階 第3回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(2)健康障害に対するこれまでと今の治療・検査 第4回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(3)健康障害に対する心理的・社会的・スピリチュアル的側面への影響、検査・治療に対する反応や受け止め方 第5回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(4)対象のこれまでおよび現在の心理・社会的・スピリチュアル的側面の特徴（生活者としての在りよう）、ライフサイクルや発達段階 第6回 エンド・オブ・ライフ期にある対象者とその家族を理解する 対象の理解(5)対象の家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴、対象者との関係性 第1回から第6回までの項目について、さまざまな媒体や患者・家族との援助的なコミュニケーションを通して意図的に情報を収集し、アセスメントする。 第7回 対象者の身体的側面についてのアセスメント 第8回 対象者の心理的側面についてのアセスメント 第9回 対象者の社会的側面についてのアセスメント 第10回 対象者のスピリチュアル的な側面についてのアセスメント 第11回 看護上の問題の抽出とその根拠の考察(1) 看護上の問題の優先順位の考察 第12回 看護上の問題の抽出とその根拠の考察(2) 看護問題の根拠の考察 第13回 看護問題とその根拠についてカンファレンス(1)1病棟ごと 看護問題の方向性の確認を学生、臨床実習指導者、教員で行う 第14回 看護問題とその根拠についてカンファレンス(2)1病棟ごと 看護目標の方向性の確認を学生、臨床実習指導者、教員で行う 第15回 カンファレンスで明らかとなった看護問題とその根拠の修正 第16回 看護問題とその根拠の修正カンファレンス(1)1病棟ごと 第17回 看護問題とその根拠の修正カンファレンス(2)1病棟ごと		

第18回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画の立案（1）
第19回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画の立案（2）
第20回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画のカンファレンス(1)1病棟ごと
第21回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 看護計画のカンファレンス(2)1病棟ごと
第22回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 第22回から第40回まで、看護過程の展開は計画立案後から開始する。そのため援助の実施・評価・再計画立案はその援助時に実施する。回数に分けることができなく、まとめて記載する。また、受け持ちの対象のニーズに応じて、下記のキーワードを全て網羅して学習するため、授業回数を分けることができなく、これもまとめて記載する。 (1)看護計画に応じた援助の実施 (2)実施した援助の評価 (3)評価後の計画の変更 (5)家族への援助 (6)社会資源の活用方法 (7)意思決定支援の実際（ACPがどのように行われているかの見学）
第23回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第24回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第25回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第26回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第27回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第28回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第29回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第30回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第31回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第32回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第33回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第34回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第35回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第36回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第37回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第38回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第39回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第40回	看護問題・看護目標を明確にし、症状緩和およびその人らしい生活を支援するための看護の実践 エンド・オブ・ライフ期にある対象とその家族が求める生活を送れるための援助活動を行う
第41回	看護実践の評価のカンファレンス（病棟反省会） （学生、臨床実習指導者、教員で行う）
第42回	最終カンファレンスのレポート作成 1 エンド・オブ・ライフケアにおける意思決定支援および最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察し、レポートを作成する。 実習で行った看護実践について振り返り、文献を用いながらよりよい看護の方法を検討する。
第43回	最終カンファレンスのレポート作成 2 エンド・オブ・ライフケアにおける意思決定支援および最善のエンドオブライフケアとは何かについて考察し、レポートを作成する。

	第44回 実習で行った看護実践について振り返り、文献を用いながらよりよい看護の方法を検討する。最終カンファレンス（自己の看護の振り返り） 第45回 最終カンファレンス（自己の看護の振り返り・実習評価）
テキスト	・宮下光令：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版、最新版 ・これまで授業で用いた疾患に関する教科書や資料全て
参考書・参考資料等	これまで用いた関係事項の教科書や資料全て
学生に対する評価	（課題レポート5%、看護実践と実習記録75%、グループディスカッションへの参加状況5%、実習への学習姿勢 15%）の4点で総合的に判断する
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	在室時は随時対応します。
備考	大学病院および一般病院での慢性期疾患、がん疾患患者の看護、緩和ケア病棟での看護を行ってきた経験を有しており、その経験を踏まえ、実習で教授する。

講義科目名称： 精神看護学実習（3年）

授業コード： 314300A

英文科目名称： Clinical Practice: Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	【必修】看護
担当教員			
近藤 やよい			
実習		064311P3N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神保健上の問題を抱えている人々を生活の観点から理解し、自らをケアの道具として活用し、必要な看護の方向性を導き出すことを目標とする。
授業の概要	精神看護学実習では、対象との関係性を構築しながら対象理解ならびに自己洞察を深め、ストレングスの視点から必要な看護計画を立案・実施する。
授業計画	第1回～第2回 オリエンテーション 1) 精神看護学実習の目的・目標・評価の確認 2) 精神科病院（開放病棟、閉鎖病棟、精神科デイケア）の説明 3) 精神疾患を抱えた当事者の理解 第3回～6回 精神科病院・開放病棟での実習 第7回～第20回 精神科病院・閉鎖病棟での実習 1) 対象との出会い 2) 対象との関係性を構築しながら情報収集、アセスメント 3) 関連図、看護計画の立案 第21回～29回 カンファレンス 実習期間中、以下のカンファレンスを行う 1) 患者紹介カンファレンス 2) プロセスレコードの検討 3) 看護計画カンファレンス 4) 最終カンファレンス 第30回～43回 精神科病院・閉鎖病棟での実習 1) 看護計画にもとづく看護実践 2) 実施した看護の評価 3) 看護計画の修正 第43回～第45回 精神科デイケアでの実習 1) 精神科デイケアの役割を理解する 2) 地域で生活する当事者との出会い 3) デイケア利用者と一緒にプログラムへ参加する 4) 当事者の地域生活を支援する専門職の役割について理解する
テキスト	武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学（1），第6版，医学書院，2023. 武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学（2），第6版，医学書院，2023.
参考書・参考資料等	田中恵美子編著：精神看護学—学生-患者のストーリーで綴る実習展開—，第2版，医歯薬出版，2015. 萱間真美編著：精神看護 パーフェクト臨床実習ガイド，第2版，照林社，2015.
学生に対する評価	実習時間の4/5を満たした者で、説明書に違反する行為が見られなかった者を対象に評価する。評価は『精神看護学実習ルーブリック評価表』100%で評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	実習オリエンテーション時に説明します。
備考	総合病院での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 精神看護学実習（４年）

授業コード： 314300B

英文科目名称： Clinical Practice: Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
近藤やよい			
実習		064311P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神保健上の問題を抱えている人々を生活の観点から理解し、自らをケアの道具として活用し、必要な看護の方向性を導き出すことを目標とする。
授業の概要	精神看護学実習では、対象との関係性を構築しながら対象理解ならびに自己洞察を深め、ストレングスの視点から必要な看護計画を立案・実施する。
授業計画	第1回～第2回 オリエンテーション 1) 精神看護学実習の目的・目標・評価の確認 2) 精神科病院（開放病棟、閉鎖病棟、精神科デイケア）の説明 3) 精神疾患を抱えた当事者の理解 第3回～第6回 精神科病院・開放病棟での実習 第7回～第20回 精神科病院・閉鎖病棟での実習 1) 対象との出会い 2) 対象との関係性を構築しながら情報収集、アセスメント 3) 関連図、看護計画の立案 第21回～第29回 カンファレンス 実習期間中、以下のカンファレンスを行う 1) 患者紹介のカンファレンス 2) プロセスレコードの検討 3) 看護計画カンファレンス 4) 最終カンファレンス 第30回～第43回 精神科病院・閉鎖病棟での実習 1) 看護計画にもとづく看護実践 2) 実施した看護の評価 3) 看護計画の修正 第44回～第45回 精神科デイケアでの実習 1) 精神科デイケアの役割を理解する 2) 地域で生活する当事者との出会い 3) デイケア利用者と一緒にプログラムへ参加する 4) 当事者の地域生活を支援する専門職の役割について理解する
テキスト	武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学（１），第6版，医学書院，2022. 武井麻子編著：系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学（２），第6版，医学書院，2022.
参考書・参考資料等	田中恵美子編著：精神看護学—学生-患者のストーリーで綴る実習展開—，第2版，医歯薬出版，2015. 萱間真美編著：精神看護 パーフェクト臨床実習ガイド，第2版，照林社，2017.
学生に対する評価	実習時間の4/5を満たした者で、説明書に違反する行為が見られなかった者を対象に評価する。評価は『精神看護学実習ルーブリック評価表』100%で評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	実習オリエンテーション時に説明します。
備考	総合病院での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 看護統合実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】看護
担当教員			
吉江由加里・油野規代・藤本ひとみ・蔵屋敷美紀・駒田裕司・近藤やよい・奥田豊子・八杉朱美・前川弓枝			
実習		064312P4N	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 看護チームの一員として、メンバーとともにケアが実践できる。 2. 看護実践の場の特性に応じた看護が実践できる。 3. 看護業務遂行におけるタイムマネジメントと役割分担、優先順位の決定方法を説明できる。 4. 看護チームの一員として、メンバーシップ・リーダーシップのあり方を考察できる。 5. 専門職間連携および地域連携の実際を見学し、連携に必要なスキルと看護師の役割について説明できる。 6. 安全・安楽な医療・療養環境を保証するためのシステム・整備および看護師の調整役割を説明できる。 7. 医療施設における看護ケアマネジメントの視点で考えを深め、質保証のための看護の目的と役割、機能について考察できる。
授業の概要	既習の学びを統合し、看護の対象および看護実践現場の特性をふまえて対象に必要な看護を展開するための総合的能力を養う。また、病院における療養生活と継続看護を支える保健医療福祉チームとの連携を理解し、チーム医療の中で看護師としてのリーダーシップ、メンバーシップを実践する能力を養う。さらに、看護ケアの質を保証するためのシステム、整備および看護師の調整役割について学習する。
授業計画	第1～5回 オリエンテーション 1) 全体オリエンテーション 担当教員から実習目的、実習目標、実習方法、実習評価、実習記録用紙の使い方、注意事項等について説明を受ける。 2) 病院オリエンテーション ・看護部長から、福井総合病院や福井病院の看護組織のシステム、看護ケアの質保証のための看護管理者および看護師の役割について説明を受ける。 ・各分野（ICT・SCT・NST）の認定看護師から、チームにおける専門職連携の実際と看護師の役割について説明を受ける。 ・地域連携および入退院調整室の看護師から、病棟から外来・在宅への看護の継続システムおよび専門職連携・協働の実際について説明を受ける。 第6～25回 病棟実習 1) 看護チームの一員としてメンバーに同行し、複数の対象の看護ケアの実際を学ぶ。 ・看護実践の場の特性に応じた看護を学ぶ。 ・看護業務遂行におけるタイムマネジメント、優先順位の決定方法を学ぶ。 ・看護チームの一員としてメンバーシップのあり方を学ぶ。 2) チームリーダーに同行し、チームアプローチの実際およびリーダーの役割について学ぶ。 ・チームリーダーに必要な能力（リーダーシップ、調整等）について学ぶ。 3) 病棟看護管理者に同行し、看護ケアマネジメントの実際について学ぶ。 ・安全・安楽な医療・療養環境を保証するためのシステム、整備および看護師の調整役割を学ぶ。 ・看護ケアの質保証のための看護組織のシステムおよび看護管理者、看護師の役割について学ぶ。 第26～41回 学内実習（シミュレーション課題） 1) 看護業務遂行におけるタイムマネジメント、優先順位の決定方法を学ぶ。 ・紙上事例のアセスメントを行い、ケアの優先順位の根拠を既修の知識を統合し説明する。 ・それぞれの多重課題の場面（同時発生多重課題、急変時多重課題、タイムマネジメント）に応じて、対象の安全と安楽に基づいたケアを実践する。 第42～45回 カンファレンス 1) 以下の内容について実習過程を振り返り、レポートを作成し発表する。 ・複数受け持ち時の優先順位の決定方法 ・チームアプローチにおけるメンバーシップ・リーダーシップのあり方 ・質保証のための看護ケアマネジメントのあり方と病棟看護管理者の役割 2) 実践の意味づけから看護専門職を目指すものとしての自己の課題および将来の展望を明らかにする。
テキスト	専門基礎科目、専門科目で使用した教科書
参考書・参考資料等	1) 編）吉田千文他：ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理，メディカ出版，最新版 2) 編）秋山智弥：看護管理学学修テキスト 看護サービスの質管理，日本看護協会出版会，最新版 3) 編）勝原裕美子：看護管理学学修テキスト 組織管理論，日本看護協会出版会，最新版 4) 篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル，医学書院，2011 5) 編）小林美亜：医療安全改訂 第2版，学研，2021 その他必要時、資料を配布する。
学生に対する評価	実習評価表（別途ルーブリックあり）100%

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	1) 在室時対応可（月～金） 2) 担当教員と密に報告・連絡・相談を行うこと
備考	担当教員は臨床での実務経験を有しており、その経験を踏まえて教授する。

講義科目名称： 学校保健

授業コード： 500100A

英文科目名称： School Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【自由】看護
担当教員			
坂本 理香			
講義	養護教諭対象科目	088001L2H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 学校保健・学校安全の基本的概要を理解する。 2. 児童生徒の心身の健康実態と学校保健の課題を関連付けて説明ができる。 3. 学校組織における教職員の職務内容を理解し、校内外に連携が取れる。 4. 学校保健を構成する組織活動について具体的に説明ができる。		
授業の概要	学校保健・学校安全管理について理解し、学校組織としての教職員が果たす役割を理解する。 学校保健の具体的実践のようすを、領域別に学ぶことで、教育職員としての養護教諭の実践能力・資質を培う。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、学校教育と学校保健 学校保健の法的根拠、しくみ、教職員の役割と責任、歴史について学ぶ ・事前学習(2時間)：シラバスを確認し、学校保健の学びの全容を掴む ・事後学習(2時間)：教育行政の仕組みを確認する	
	第2回	学校保健行政と学校教育・学校保健組織活動 公衆衛生行政のしくみ、学校保健行政との関係を理解したうえで、学校保健行政と学校教育・学校保健組織活動について学ぶ ・事前学習(2時間)：学校保健関係者の職務内容を整理しておく ・事後学習(2時間)：教職員間及び学校外の機関との連携のようすを分かりやすく図示する	
	第3回	学校保健・学校安全計画、保健室経営計画 学校教育目標を具現化するためにそれぞれの分野で計画を作成し、PDCAサイクルを活用し、組織的・計画的に活動の推進を図ることの重要性を理解する ・事前学習(2時間)：出身校のHPのスクールプランを見て教育目標、各組織の重点目標を書き出す ・事後学習(2時間)：学校における各計画の関連性を確認する	
	第4回	保健教育①（保健指導と教科保健） 教科保健と保健指導の位置付けを確認し、その内容、評価について学ぶ 教科保健と特別活動の保健の指導、個別の保健指導の特質が理解できる ・事前学習(2時間)：保健教育の種類と、それらの特性を調べる ・事後学習(2時間)：教科保健と特別活動の保健の指導、個別の保健指導の特質をまとめる	
	第5回	保健教育② 保健の指導 学校のあらゆる活動の中で行われる保健指導の役割と進め方を理解する ・事前学習(2時間)：学校のどのような場面でどのような保健指導の機会があるか調べる ・事後学習(2時間)：担任が学級活動で利用できる保健教育の資料（教材）を作成する	
	第6回	健康観察・保健調査・健康診断① 保健管理としての健康観察・健康診断は、児童生徒の健康の保持増進を図るための役割のほか、自らが健康を考える教育の機会であることを理解する 健康診断の種類、法的根拠、進め方、各検査項目の目的と意義、方法が理解できる ・事前学習(2時間)：検査項目とその結果からわかる病気や異常についてまとめる ・事後学習(2時間)：健康診断票・歯口腔の健康診断票の記入ができるようになる	
	第7回	健康診断② 各検査項目の目的と意義、方法、健康診断の結果からわかる病気や異常について理解する ・事前学習(2時間)：健康診断票・歯口腔の健康診断票の取り扱い方を確認する ・事後学習(2時間)：健康診断事後措置後の扱いや日常の疾病管理について確認する	
	第8回	健康相談・こころの健康問題 健康相談の対象者の理解と、その対象となる児童生徒等への教職員の対応についての基本を理解する ・事前学習(2時間)：社会環境や生活様式の変化に伴う子どもの健康課題について調べる ・事後学習(2時間)：健康相談の基本的留意点をまとめる	
	第9回	発育・発達 / 学校における 感染症の予防と対応 子どもたちの発育・発達における現状と課題と、成長曲線の見方を理解する 学校における感染症の予防と対応について理解し、予防教育の実践ができる ・事前学習(2時間)：国民衛生の動向や教科書などから、発育発達の現状を把握する ・事後学習(2時間)：学校で感染症や食中毒が起こった際の対応について教職員研修の資料を作成する	
	第10回	学校生活で特に注意をすべき 子どもの病気 子どもによくみられる疾患や異常について学ぶ ・事前学習(2時間)：学校で管理を要す病気には、どのようなものがあるか調べる ・事後学習(2時間)：緊急時対応が必要な対策をまとめる	
	第11回	特別支援教育と学校保健 特別支援教育を行う意義と、特別支援教育が置かれている現状と動向を把握し、特別支援教育体制がどのように整備されているか理解する ・事前学習(2時間)：支援が必要な児童の小学校入学先の決定について確認する ・事後学習(2時間)：特別支援学級や特別支援学校で学ぶ際の、子供のメリットとデメリットを考える	
	第12回	学校環境衛生	

	学校環境衛生の歴史や法的枠組み、学校環境衛生を考える視点を押さえたうえで、学校現場での取組の実際について学ぶ ・事前学習(2時間)：学校で行われている定期検査・日常検査について調べる ・事後学習(2時間)：学校での日常検査を実践してみる 第13回 学校安全、学校危機管理 事件・事故災害の発生前と発生時・後の段階ごとに、必要な対処を考えられるようになる ・事前学習(2時間)：日本スポーツ振興センターのホームページで学校災害について調べる ・事後学習(2時間)：学校での危機（安全）管理内容を、生活・災害・交通の面で整理して覚える 第14回 給食・食育 成長や発達に必要な栄養素について理解し、それを前提として考えられる学校給食のしくみと役割・食育について学ぶ ・事前学習(2時間)：食育に関係する法律を調べる ・事後学習(2時間)：食物アレルギー対応を確認する 第15回 ミニ保健教育発表会、これからの学校保健 朝の会で実施するミニ保健指導をのようすを発表する。 これまで学んできた学校保健について、その充実を図るために教員が理解しておくべきことをまとめる ・事前学習(2時間)：子どもの権利や個人情報保護、チーム学校などを調べる ・事後学習(2時間)：求められる教師像、養護教諭像を確認する
テキスト	「学校保健」ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	期末試験70%、課題30%（小テスト、授業への参加意欲・態度を含む）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義前後に、適宜返答する。メール対応、場合によっては研究室での相談日時を伝える。
備考	学校での実務（勤務）経験と近年の学校現場の状況を踏まえ教授する。

講義科目名称： 養護概説

授業コード： 500200A

英文科目名称： Introduction to School Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【自由】看護
担当教員			
坂本 理香			
講義	養護教諭対象科目	088002L3H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	養護教諭としての必要な基本的内容を理解し、養護活動全般について考えたり、自ら学び続けようとしたりする態度を身につけることができる。 ・養護教諭の歴史的変遷や制度について説明できる。 ・養護教諭の職務の特質と保健室の機能について説明できる。 ・養護教諭の具体的な役割と実践について説明できる。		
授業の概要	養護教諭として必要な基本的内容である養護の本質と概念、養護教諭の歴史、制度や役割の変遷について理解するとともに、学校における養護教諭の実践・活動について理解を深め、専門職として必要な基礎を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、養護の解釈と養護教諭 ・事前学習(2時間)：学校教育における養護の概念、定義を調べる ・事後学習(2時間)：養護教諭の執務と役割について法規定や答申の内容を調べる	
	第2回	養護教諭の歴史と役割の変遷 ・事前学習(2時間)：養護教諭制度の変遷について調べる ・事後学習(2時間)：子どもの健康課題に応じた養護教諭の役割の変化について確認する	
	第3回	専門職としての養護教諭 ・事前学習(2時間)：倫理の基本、養護教諭としての倫理について確認する ・事後学習(2時間)：養護教諭が行う研究の必要性和基本的プロセス、方法を確認する	
	第4回	学校における連携・協働と養護教諭の役割 ・事前学習(2時間)：多職種連携、チーム学校について復習しておく（2年次学校保健） ・事後学習(2時間)：特別支援教育および危機管理の視点から連携・協働を考察する	
	第5回	養護教諭と学校保健活動 ・事前学習(2時間)：学校保健の領域と目的および内容について復習しておく（2年次学校保健） ・事後学習(2時間)：学校保健計画における養護教諭の役割を理解する	
	第6回	養護教諭と保健室・保健室経営 ・事前学習(2時間)：出身校（小学校・中学校）の学校教育目標と重点目標を調べる ・事後学習(2時間)：保健室経営計画の法的根拠を確認し、作成する	
	第7回	養護教諭の活動過程（児童生徒の課題解決の進め方） ・事前学習(2時間)：子どもの現代的な健康課題についてまとめる ・事後学習(2時間)：情報収集、アセスメント、問題の明確化、目標、計画、実施、評価のプロセスを確認する	
	第8回	保健管理① 健康観察 ・事前学習(2時間)：健康観察の目的、意義、法的根拠について調べる ・事後学習(2時間)：健康観察の方法と内容、実施機会と流れを確認する	
	第9回	保健管理② 健康診断 ・事前学習(2時間)：健康診断の目的、意義、法的根拠について復習する（2年次学校保健） ・事後学習(2時間)：健康診断の実施、事後措置、健康診断の記録と保管について確認する	
	第10回	保健管理③ 疾病管理と感染症予防 ・事前学習(2時間)：学校での疾病管理の目的、意義、法的根拠について調べる ・事後学習(2時間)：学校での疾病管理の方法と感染症予防について確認する	
	第11回	保健管理④ 学校救急処置 ・事前学習(2時間)：学校救急処置の目的、意義、法的根拠、方法について調べる ・事後学習(2時間)：養護教諭に求められる救急処置について確認する	
	第12回	保健管理⑤ 学校環境衛生 ・事前学習(2時間)：学校環境衛生検査について復習しておく（2年次学校保健） ・事後学習(2時間)：学校環境衛生の目的、意義、法的根拠を確認する	
	第13回	保健教育① ・事前学習(2時間)：教科保健と特別活動における保健指導について復習する（2年次学校保健） ・事後学習(2時間)：学級活動（保健の指導）の対象、題材、ねらいおよび指導過程を整理する	
	第14回	保健教育② ・事前学習(2時間)：特別活動における（保健の指導）案を作成する ・事後学習(2時間)：模擬授業の内容を整理し、教材、ワークシートを修正する	
	第15回	保健組織活動 学びの振り返り ・事前学習(2時間)：学校保健委員会における養護教諭の役割を確認する ・事後学習(2時間)：自分の目指す養護教諭像を確認し、養護教諭観をまとめる	
テキスト	「新版養護学概論」―養護養護教諭の専門性と根拠に基づく養護実践 東山書房		
参考書・参考資料等			

学生に対する評価	1 評価の方法2 ①定期試験（筆記試験）70% ②課題（小テスト・発表・提出物）30% 2 最終評価 上記1で示す2点の評価を合わせて最終評価とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義前後に、適宜返答する。他にはメール及び研究棟の演習室で個別対応する。
備考	実務（勤務）経験と、近年の教育現場の状況を踏まえ教授する。

講義科目名称：健康相談活動の理論及び方法

授業コード：500300A

英文科目名称：Health Consultation Activities in school: Theory and Methodology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【自由】看護
担当教員			
坂本 理香			
講義	養護教諭対象科目		088003L3H
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	養護教諭の専門性と保健室の機能を生かし、児童生徒の発達課題に即した健康相談活動ができる。		
授業の概要	1) 健康相談活動の意義と基本について理解する。 2) 児童生徒が抱える現代的課題と具体的な支援方法を知る。 3) 連携すべき関係者や各機関、連携の方法を知る。		
授業計画	第1回	健康相談・健康相談活動の基本的理解 ・事前学習(2時間)：健康相談・健康相談活動の重要性、法的位置づけについて調べる ・事後学習(2時間)：健康相談の意義、目的、対象者、プロセスについてまとめる	
	第2回	発達段階別の心身の健康問題の特徴と理解 ・事前学習(2時間)：発達段階別の心身の健康問題をしらべる ・事後学習(2時間)：「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」で、養護教諭の役割を確認する	
	第3回	養護教諭と健康相談活動 ・事前学習(2時間)：健康相談の対象と保健室における相談活動の特質について調べる ・事後学習(2時間)：養護教諭に求められる力についてまとめる	
	第4回	学校における相談活動の進め方と支援体制づくり ・事前学習(2時間)：チーム学校を意識した学校内外の支援体制について確認する ・事後学習(2時間)：支援計画、支援検討会議（事例検討会）について調べる	
	第5回	養護教諭の職の特質と保健室の機能を活かした健康相談活動 ・事前学習(2時間)：養護教諭が行う健康相談のプロセスを確認する ・事後学習(2時間)：保健室の機能についてまとめる	
	第6回	子どもの問題と健康相談活動の実際① 健康相談の事例をもとに実践場面をイメージする ・事前学習(2時間)：保健室で取り扱うことの多い健康問題について調べる ・事後学習(2時間)：健康相談にかかわる記録の情報管理についてまとめる	
	第7回	子どもの問題と健康相談活動の実際② 継続的な健康相談 ・事前学習(2時間)：継続的な健康相談の事例を検索する ・事後学習(2時間)：継続的な健康相談について復習する	
	第8回	健康健康相談の事例検討① 養護教諭の初動と支援を考える ・事前学習(2時間)：保健室でありがちな対応を整理する ・事後学習(2時間)：グループワークでの気づきをまとめる	
	第9回	健康相談活動の事例検討② ロールプレイング1 ・事前学習(2時間)：対象事例の内容を確認する ・事後学習(2時間)：ロールプレイングの各登場人物の心理に触れたことで分かったことをまとめる	
	第10回	健康相談活動の事例検討③ ロールプレイング2 ・事前学習(2時間)：対象事例の内容を確認する ・事後学習(2時間)：ロールプレイングの各登場人物の心理に触れたことで分かったことをまとめる	
	第11回	健康相談活動の事例検討④ 事例の分析 ・事前学習(2時間)：前時に体験したロールプレイングの事例から必要な情報をとらえる ・事後学習(2時間)：ロールプレイングの実践から見えた課題について考える	
	第12回	校内外の連携のための情報整理と支援方法 ・事前学習(2時間)：ロールプレイングの事例に関する保護者、教員、外部機関との連携についてまとめる ・事後学習(2時間)：ロールプレイングの事例について第6回で学んだ健康相談記録を作成する	
	第13回	支援検討会議（事例検討会）の演習① ・前時学習(2時間)：支援検討会議の目的と意義についてまとめる ・事後学習(2時間)：支援検討会議の資料を作成する	
	第14回	支援検討会議（事例検討会）の演習② ・前時学習(2時間)：支援検討会議の進め方を確認する ・事後学習(2時間)：支援検討会議での記録、運営、協議についてまとめる	
	第15回	授業の振り返りとまとめ ・事前学習(2時間)：確認テストの準備を行う ・事後学習(2時間)：全講義の学びのまとめと評価を行う	
テキスト	プリント配付		
参考書・参考資料等	「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援 養護教諭の役割を中心として」 平成29年3月 文部科学省 「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き」 令和4年3月 日本学校保健会		

学生に対する評価	授業に対する意欲・態度（20％）・課題提出（20％）、筆記試験（60％）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義前後または次回講義時に返答するか、研究棟演習室で個別対応する。
備考	学校での実務（勤務）経験と、近年の学校現場の状況を踏まえ教授する。

講義科目名称： 食品学

授業コード： 500400A

英文科目名称： Sitology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【自由】看護
担当教員			
鳴瀬 碧			
講義	養護教諭対象科目	088004L2H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康に生きていくために必要な栄養成分を含む食品についての知識、食品と人間の関わりについて修得する。		
授業の概要	主な内として、食品に関する栄養学的特性、食品成分、食品の分類、保存、貯蔵に関する知識など、食品全般に関する知識を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、食品成分表の使い方、食品 p214～219、食品 p 1～7 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	植物性食品、穀類、いも類 p 8～41 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	豆類、種実類、野菜類 p 42～75 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	果実類、キノコ類、海藻類 p 76～103 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	動物製食品 食肉類 p 104～122 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	乳類、卵類 P123～146 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	魚介類、油脂類 p147～181 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料トアルコール飲料、まとめ p182～213、まとめ 事前学習：教科書に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験	
テキスト	1. 「新版 食品学Ⅱ 第2版」建帛社・編著 田所忠弘・安井明美 2. 八訂食品成分表		
参考書・参考資料等	随時紹介 関連資料（配布等）		
学生に対する評価	筆記試験90% 提出物10%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【自由】看護
担当教員			
寺岡 英男			
講義	養護教諭対象科目	088005L1H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	今の子どもや学校をとりまく状況を考えながら、子どもの教育を受ける権利やそれを保障する教師のあり方を学ぶ		
授業の概要	戦後の優れた教育実践のいくつかを取り上げながら、わかるということ、学力と評価の問題と課題、発達を保障するとはどういうことなのかなどを検討する。それを踏まえて「ども教育を受ける権利とそのための教育、教師の仕事の役割を検討する。特に子どもをとりまく養護教諭の役割とその学校の中での重要な役割を考える。		
授業計画	第1回	養護教諭となった先輩のメッセージから： 先輩のメッセージを読みながら、いま子どもが抱えている問題について考え、養護教諭や保健室の学校の中で果たす役割を検討する。 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：授業を振り返り内容を理解・確認する（2時間）	
	第2回	特別支援の実践から① 障害を持った子どもとそれに関わる教師との関係を記録した実践を読み、教育や子どもの発達について、どのような課題が提起されているかを各自まとめる。 事前学習：これまでに関わった発達支援の必要な子どもの状況を振り返り整理する（2時間） 事後学習：授業の中で各自まとめた内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第3回	特別支援の実践から② 前回各自まとめた内容を紹介し、提起されている課題について意見を述べ、まとめる。 事前学習：各自まとめた内容を整理する。（2時間） 事後学習：授業の中でまとめた内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第4回	ホーム運営の実践から 今回は特別支援の必要な子どもとそれを支援する教師との1対1の取組だったが、この回はホーム運営というクラスの集団の中での教師との関りと成長を1年間というスパンで検討する。 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：授業内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第5回	ホーム運営の実践から② この実践の提起する教育的な課題を検討する。 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：授業内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第6回	算数のある授業実践を取り上げ、概念や知識を新たになに学ぶことの意義と問題性について、デューイの論にも触れながら学ぶ 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：授業内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第7回	数学の授業実践から② 因数分解のつまづきを紹介し、因数分解についてベキタイル教材を用いた発見的、構成的な学びを体験する。 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：感想を小レポートにまとめる（2時間）	
	第8回	数学の授業実践から③ ベキタイルを並べることによって、学生自らがつまづきの疑問に答える 事前学習：これまでの授業について振り返る（2時間） 事後学習：つまづきの疑問に答えることをまとめなおす（2時間）	
	第9回	これまでの事例をもとに、わかること、学力と評価について批判的にとらえなおす 事前学習：これまでの授業から、わかること、学力と評価について考えてみる（2時間） 事後学習：授業内容について振り返り、理解する（2時間）	
	第10回	これまでの授業についてレポートにまとめる 事前学習：前回の学びを振り返る（2時間） 事後学習：レポートを吟味する（2時間）	
	第11回	ユニセフ・イノチェンティ・レポートカード16等から子どもをめぐる日本や外国の状況を学ぶ。 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：授業内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第12回	イノチェンティ・レポートカード16等から子どもの教育についての課題を検討する。 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：授業内容を振り返り、確認する（2時間）	
	第13回	子どもの教育を受ける権利について、そしてその権利を保障するための教育について検討する 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：取り組み事例について感想を小レポートにまとめる（2時間）	
	第14回	前2回の授業を踏まえて、教師の専門性のあり方について検討する	

	第15回 事前学習：資料に事前に目を通す（2時間） 事後学習：取り組み事例について感想を小レポートにまとめる（2時間） 報告と討議 授業の後半で取り上げたことをまとめ、報告と討議を行う 事前学習：これまでの授業や資料の振り返りを行う（2時間） 事後学習：報告と討論の振り返りを行い、自分の感想も加えて小レポートにまとめる（2時間） 定期試験 レポートを作成する
テキスト	特に定めずその都度資料配付
参考書・参考資料等	デューイ『学校と社会』、ピアジェ「世界人権宣言教育条項の解説」、教科書裁判判決、『ハンドブック子どもの権利条約』（岩波ジュニア新書）ユニセフ・イノチェンティ・レポートカード16
学生に対する評価	通常の小レポート（50％）と最終レポート（50％）で評価する 評価基準：教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

講義科目名称： 学校経営論

授業コード： 500700A

英文科目名称： School Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【自由】看護
担当教員			
杉浦 由香里			
講義	養護教諭対象科目	088006L3H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	わが国の教育制度についての基本的な理解と共に、これまでに指摘されてきた課題や賛否が分かれてきた論点について理解をしている。また、現在の学校に求められる役割や意義を考え、養護教諭の専門職性の観点から、望ましい学校経営の姿を構想することができる。		
授業の概要	この授業では、将来どのような教師になりたいのか、あるいはなるべきなのかを考える前提として、まず、教育や学校組織を成り立たせている歴史、そして法律に基づく制度的基盤があることを確認する。そして、そうした基盤が現在の学校が存在する意味や、その現代的な変化について考察できるよう意図している。最終的には、学校経営という営みを、教師という視点のみならず、子どもの幸せを生み出せる「学校づくり」という観点から捉え、考察したいと考えている。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方と授業内容の概要を説明する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	今日の教育改革動向と学校づくりの課題 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	教育法規の体系 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	子どもの人権と権利 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	開かれた学校づくり 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	日本国憲法と教育基本法 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	新教育基本法 2006年改正とその後 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	法律に定められた学校と学校設置者 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	多様な教育機会の保障に向けて（フリースクール・ホームスクール） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	教育の機会均等と子どもの貧困 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	教育委員会制度 設立の理念と変容の歴史 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第12回	学校経営(1) 教員の働き方改革 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第13回	学校経営(2) 学校と地域の連携 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	

	第14回 学校経営(3) 学校安全と学校事故 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 第15回 まとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間) 定期試験
テキスト	なし(講義中に資料を配付するので、各自ファイルを用意し整理、保存すること)
参考書・参考資料等	川口洋誉・中山弘之編著『【新版】未来を創る教育制度論』北樹出版、2020年。 福井雅英・山形志保編著『保健室から創る希望』新日本出版社、2023年。 他、講義中に適宜紹介する。
学生に対する評価	① 授業中の課題やディベート・グループワーク等への積極的な参加姿勢 (60点) ② テーマに沿ったミニレポート (20点) + 最終レポート (20点)
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【自由】看護
担当教員			
三橋 美典			
講義	養護教諭対象科目		088007L2H
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	特別な支援が必要な子どもは、どのような特性を持つのだろうか。本講義では、特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達について理解することが目標である。さらに、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの学習上または生活上の困難とその対応についても学ぶ。		
授業の概要	特別な支援を必要とする子どもの学習上、生活上の困難さについて理解を深め、個別支援のあり方について説明していく。そのためには、人の発達について知り、障害特性、人の生活とは何かということを深めていく必要がある。講義では、特別支援教育にいたる歴史の変遷を概説し、障害の具体的説明と、障害特性に応じた支援計画作成方法について、事例を示しながら説明していく。障害を持つ子どもの支援は、組織的に対応していく必要があるため、学校内における支援体制および関係機関との連携についても説明する。		
授業計画	第1回	心身障害の分類と障害概念 省庁の分類や医療・福祉の国際分類（ICD, ICF等）と「障害」の捉え方や用語について学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	障害児者支援の歴史と特別支援教育 障害児者に対する医療・福祉・教育制度の歴史的経緯と特別支援教育の教育課程・体制の概要を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	心身の発達過程と障害特性の診断・評価法 子どもの成長発達の過程と学習の生理的機構について知り、発達や学習状況を測定・評価する方法を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	視覚障害の理解と支援 視覚障害児の心理・生理・病理特性とその診断・評価法および療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	聴覚障害と言語障害の理解と支援 聴覚/言語障害児の心理・生理・病理特性とその診断・評価法および療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	肢体不自由の理解と支援 肢体不自由児の心理・生理・病理特性とその診断・評価法および療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	病弱・虚弱の理解と支援 病弱・虚弱児の心理・生理・病理特性とその診断・評価法および療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	知的障害の理解と支援 知的障害児の心理・生理・病理特性とその診断・評価法および療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	重複障害・重度障害の子ども 複数の障害を併せ持つ重度児の特性と学級編成や訪問教育など支援体制について学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	発達障害の子ども ①学習障害（LD） LD児の心理・生理・病理特性を理解し、その診断・評価法と療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。	

	事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第11回 発達障害の子ども ②注意欠如多動性障害（ADHD） ADHD児の心理・生理・病理特性を理解し、その診断・評価法と療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第12回 発達障害の子ども ③自閉症[※]・トラウマ障害（ASD） ASD児の心理・生理・病理特性を理解し、その診断・評価法と療育・教育支援の方法・体制を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第13回 情緒障害と子どもの「こころ」の問題 不登校、いじめ、暴力行為や被虐待等の教育・養育環境に関係した問題、抑うつ、不安障害等の精神症状を抱える子どもの現状理解と支援方策について学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第14回 特別支援教育の校内体制 通級による指導や校内委員会等の支援体制、学級での合理的配慮や個別の支援計画立案等、インクルーシブ教育、特別なニーズ教育の実践例を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第15回 関係機関や社会的資源との連携 家庭や地域との連携、教育・医療・福祉の専門機関・施設との連携および学校間の連携のあり方を学ぶ。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）
テキスト	指定しない。適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	全国特別支援教育推進連盟／全国養護教諭連絡協議会（編）：特別支援教育における養護教諭の役割、東洋館出版社、2016 宮川充司、大野久、谷口明子、大野木裕明（編）：子どもの発達と学校〈2〉-特別支援教育への理解、ナニシ出版、2019 国立特別支援教育総合研究所（編）：特別支援教育の基礎・基本〈2020〉：新学習指導要領対応、ジヤース教育新社、2020 小林 倫代（編）：教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト、学研教育みらい、2022
学生に対する評価	レポート試験のみ
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	質問・要望等は、所定の用紙に記入して講義終了後に提出すれば、次回の講義中で回答する。 公開したくない内容の場合等は、メールでの送受信も可能。メールアドレス：mituhasi@u-fukui.ac.jp
備考	

講義科目名称： 教育課程論

授業コード： 500800A

英文科目名称： Teaching Curriculum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【自由】看護
担当教員			
趙 雪梅			
講義	養護教諭対象科目	088008L2H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	教育課程の概念・意義や歴史の変遷を理解し、21世紀における新しい動向を考察する。学校教育の中で、児童生徒にいつの時期にどのような目的や方法で何を学ばせるのかといった教育計画や、事後の評価など教育課程に関する基本的な知識について理解する。		
授業の概要	教育課程の概念・意義や歴史、学習指導要領および教科書の変遷、日本の学校教育課程および教育改革等について、具体的な事例を通して理解を深める。		
授業計画	第1回	教育課程の概念とその歴史 事前学習：教育に関する既知知識を確認する。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第2回	IEA/TIMSSとカリキュラム 事前学習：TIMSSに関する資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第3回	OECD/PISAの展開 事前学習：PISAに関する資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第4回	リテラシーとコンピテンシー 事前学習：学校教育と学力を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第5回	学習指導要領の変遷 事前学習：日本戦後教育史を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第6回	教科書の変遷：算数・数学を例として 事前学習：学校で使った教科書に関する思いを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第7回	小括と討議 事前学習：これまでの学習から興味関心があることを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第8回	児童生徒の学習のレディネス 事前学習：学習という意味を考え、やり方を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第9回	学校教育課程の全般 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第10回	理論と実践のバランス：ケースデザイン 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第11回	理論と実践のバランス：ケーススタディー（1） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第12回	理論と実践のバランス：ケーススタディー（2） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第13回	世界のカリキュラム改革の動向（1） 事前学習：外国における教育を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第14回	世界のカリキュラム改革の動向（2） 事前学習：外国における教育を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
	第15回	小括と討議 事前学習：これまでの学習から興味関心があることを考える。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）	
テキスト	特に定めずその都度資料を提供		
参考書・参考資料等	田中耕治他「新しい時代の教育方法」有斐閣、2012 年、文科省「小・中学校学習指導要領（現行と新も含む）」		
学生に対する評価	通常の小テスト（40％）とレポート（60％）で評価する。 評価基準：教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する		

備考	
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【自由】看護
担当教員			
寺岡 英男			
講義	養護教諭対象科目		088009L2H
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	(1) 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成されていることがわかる。 (2) 特別活動では、学校・学級における児童・生徒の共同の生活の向上や理想・利益の追求に取り組み、人権・人格を尊重し、統治的能力を形成し、広範多様な交友関係を育成・拡大し、市民社会を視野に入れた道徳性・文化性を発達させることが重要であることがわかる。 (3) 総合的な学習の時間は教科横断的な学習、探究的な活動を行うことを主な目的とする教育活動であることがわかる。 (4) 総合的な学習の時間では個別教科の枠を超えた学校現場での横断的学際的共同の推進、地域的現代的諸課題に関する学習への意欲的主体的な参加の実現等の可能性があることがわかる。 (5) 特別活動及び総合的な学習の時間の指導計画・学習指導案を適切に作成することができる。		
授業の概要	現実社会とその問題から主題を構築し長期にわたり探究を進める総合的な学習の時間と、民主的で自治的な能力の形成を図ることを目的とする特別活動への理解を深め、相互の運動性と螺旋性及び教科学習との重層性を、主に優れた教育実践を通して学ぶ。この学びを通して、総合的な学習の時間・特別活動・教科学習を統合する教師のカリキュラム・マネジメント能力の素地を構築する。		
授業計画	第1回	イントロダクション：教育課程と特別活動（学習指導要領の変遷と内容） 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第2回	特別活動の実践事例1．ホーム運営 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第3回	ホーム運営の実践事例（続き） 事前：資料に目を通す（2時間） 事後：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第4回	実践事例2．（生徒がつくる運動会） 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第5回	実践事例2．の続き 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第6回	実践事例3．（文化祭） 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第7回	実践事例3の続き 事前学習：これまでの記録を読む（2時間） 事後学習：討議を振り返りまとめる（2時間）	
	第8回	これまでの実践事例を通して学ぶもの 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第9回	実践事例4、学校行事・卒業式・入学式 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第10回	学校行事・卒業式・入学式の実践事例（続き） 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第11回	実践事例5 学校を超えた事例（愛知県高校生フェスティバル） 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第12回	実践事例5（続き） 事前学習：これまでの記録を読む（2時間） 事後学習：討議を振り返りまとめる（2時間）	
	第13回	特別活動で形成される能力 事前学習：資料に目を通す（2時間） 事後学習：振り返りを行い記録する（2時間）	
	第14回	総括的な討論 事前学習：資料に目を通し、自分の意見を整理する（2時間） 事後学習：討論を振り返り記録する（2時間）	
	第15回	学習の省察と記録 事前学習：これまでの記録を整理する（2時間） 事後学習：改めて自分の学びと考えを省察しまとめる（2時間）	

	小レポートと最終レポート
テキスト	「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」文部科学省 東京書籍 「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）総合的な探究の時間編」文部科学省 東京書籍
参考書・参考資料等	授業中に随時紹介する。
学生に対する評価	授業中に実施する探究の中間報告（50％）と最終発表及びレポート（50％）で評価する。 評価基準：特別活動及び総合的な学習の時間の意義と取組の実際が、協働での探究を通して身についたかどうかを中間報告・最終発表・レポートの内容より評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	【実務経験について】 中学校・高校での特別活動及び総合的な学習の時間の学校教師とのカリキュラム協働開発及び実施の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

講義科目名称： 道徳教育指導論

授業コード： 501000A

英文科目名称： Research in Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【自由】看護
担当教員			
川崎 清美			
講義	養護教諭対象科目		088010L3H
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	【授業のテーマ】 道徳教育の理論と実践 【授業の到達目標】 教員に必要な道徳教育に関する基礎的知識を習得するとともに、道徳教育の理論と「特別の教科 道徳」における多様な指導法と評価法などの実践についての理解を深める。		
授業の概要	まず、道徳教育の意義とともに、日本の道徳教育の変遷とともに世界の道徳教育の特徴について解説する。次に、道徳教育の有力な諸理論について概説する。さらに、日本の道徳授業の諸相を確認したうえで、質の高い多様な指導法と評価法について広い視野から多面的・多角的に考察する。毎回課題について、学生のプレゼンテーションを求める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方と授業内容の概要を説明する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	道徳と道徳教育 道徳教育に関する基本的知識について理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	道徳教育の変遷 1 明治期の道徳教育について理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	道徳教育の変遷 2 大正期、昭和前期、第二次世界大戦直後の道徳教育を理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	道徳教育の変遷 3 戦後の道徳教育について、学習指導要領の変遷を中心に理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	道徳教育の変遷 4 最近の心理主義に偏った道徳教育の問題状況を考え、議論できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	諸外国の道徳教育 1 欧米諸国を中心に、諸外国の道徳教育について理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	諸外国の道徳教育 2 東アジア諸国も加えて、諸外国の道徳教育について理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	日本の道徳教育の基準 基本方針、「特別の教科 道徳」について学習指導要領にて理解する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	日本の道徳教育の基準 基本方針、目的、内容、指導計画、学習指導案を理解している。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	日本の道徳授業の諸相 道徳授業の現状と問題点、特に評価法について探ることができる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間）	

	事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第12回 「特別の教科 道徳」の理念の実践 1 先進的な実践の試みを理解し、模擬授業を行う。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第13回 日本の道徳教育の課題と展望 2 模擬授業を行い、日本発の道徳教育を構想できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第14回 日本の道徳教育の課題と展望 3 模擬授業を行い、未来の道徳教育を構想できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第15回 総復習 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』
参考書・参考資料等	文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』2017年、 その他については、授業の際に必要なに応じて紹介する。
学生に対する評価	試験：40％ 基本的知識の理解度を確認するとともに個々人の道徳教育に関する見解を問う。 平常点評価：60％ 授業内容の理解度と、そこでの授業に取り組む姿勢や態度を評価するために、毎回、学生のプレゼンテーションを求めるとともに、出席確認を兼ねて授業時間の最後に質問・意見・疑問等のレポートを提出してもらう。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	【実務経験について】

講義科目名称： 生徒指導論

授業コード： 501200A

英文科目名称： Student Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【自由】看護
担当教員			
赤星 昇			
講義	養護教諭対象科目	088011L3H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	子どもたちを取り巻く、学校や家庭・地域社会で起きている諸問題、いじめ・不登校・虐待などの問題についてその背景や具体的な事例を通して理解を深め、学校での指導に必要な基本的考え方、指導方法について学ぶ。		
授業の概要	生徒指導の意義や方法を理解する。さらに、生徒指導の実際は一人ひとりの成長・発達過程や生活状況など学校での生活外の領域に及ぶこともあるため、個々の児童・生徒を全人的に理解し、その子らしい自立的な生き方ができるように導くことが重要課題であることを学ぶ		
授業計画	第1回	ガイダンス、生徒指導の基本原理 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	徒指理解の方法① 生徒指導の意義、歴史と理論、内容（生徒指導の3機能、治療的・予防的・開発的指導等、教育課程における児童生徒指導） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	生徒理解の方法② 生徒の発達課題と心理、生徒のアセスメント、集団指導と個別指導方法 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	学校運営と生徒指導 生徒指導の校内組織体制、生徒指導主事、学級経営と学級担任の役割 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	児童生徒指導と法制度 校則と懲戒、体罰、出席停止、コンプライアンス（法令遵守） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	生徒指導と教育相談 教育相談の意義、組織と計画（スクールカウンセラー、養護教諭等の役割）、教育相談の進め方、学校外の専門機関等との連携 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	生徒指導と今日的課題① いじめ、不登校、中途退学、学校への適応障害 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	生徒指導と今日的課題② 暴力行為、非行少年、心身の健康問題とそれへの取り組み 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	生徒指導と今日的課題③ 家出、薬物乱用、性犯罪被害など 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	生徒指導と今日的課題④ 自殺、児童虐待など 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	生徒指導とキャリア教育 進路指導・キャリア教育の意義、歴史と理論、内容、組織と計画 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	

	間) 第12回 学校安全と危機管理 学校安全・危機管理の意義、内容、進め方、マスコミ対応の基本 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第13回 児童生徒指導・進路指導に関する諸外国の実態や動向 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第14回 生徒指導をめぐる時事的問題の事例研究 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第15回 レポート作成について～課題、内容、留意点など
テキスト	「生徒指導提要」（文部科学省 令和4年12月発行）
参考書・参考資料等	その都度講師が必要な資料を準備する
学生に対する評価	一方的な説明ばかりでなく、資料派を用いたグループ討議や意見の共有も取り入れながら、①学ぶ様子の観察、②レポート評価、の2観点で評価する
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中に適宜返答する。
備考	（実務経験） 担当は、学校現場、教育行政機関などでの経験を有しており、それらを踏まえ講義を進める。

講義科目名称： 教育相談

授業コード： 501300A

英文科目名称： Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【自由】看護
担当教員			
坂本 理香			
講義	養護教諭対象科目	088012L2H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	児童・生徒に深刻な問題として関わる事象が多発している昨今において、 教育相談の意義、教育相談を必要とする状況、基本的な知識や考え方等について理解する。		
授業の概要	児童・生徒を取り巻く社会問題等、時代と共に変化する状況の中で教育相談のもつ役割がどのように変化してきたかを理解する。さらに、教師として児童・生徒が抱えている問題に適切に対応できるための専門的な知識やカウンセリング等の理論や方法・技術を学び、個々の児童・生徒への教育支援としての教育相談について理解する。本授業は随時カウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の関係機関との連携を重視しながら進める。		
授業計画	第1回	教育相談とは 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第2回	教育相談を行う際の専門性 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第3回	教育相談の実例 1（特別支援学級在籍の発達障害児のある児童） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第4回	教育相談の実例 2（通常学級在籍の発達障害児のある児童） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第5回	教育相談の実例 3（特別支援学校に在籍する障害のある児童） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第6回	教育相談の実例 4（不登校 1） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第7回	教育相談の実例 5（不登校 2） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第8回	教育相談の実例 6（いじめ 1） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第9回	教育相談の実例 7（いじめ 2） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第10回	教育相談と保護者支援 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第11回	教育相談のロールプレイ 1（対面相談） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第12回	教育相談のロールプレイ 2（メール相談） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第13回	教育相談と多職種連携 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）	
	第14回	教育相談と合理的配慮 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間）	

	事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 第15回 教育相談についてのまとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験 定期試験は行わずポートフォリオを作成 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）
テキスト	必要に応じて指定する
参考書・参考資料等	必要に応じて、講師が準備する
学生に対する評価	毎回参加した記録等を元にポートフォリオを作成し、その内容によって評価する。ポートフォリオの評価割合は、教育相談の概要把握30%，ロールプレイの省察内容50%，ポートフォリオ全体の構成20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	

講義科目名称： 養護実習

授業コード： 501400A

英文科目名称： Practical Training for Student Yogo Teacher

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	4年	5	【自由】看護
担当教員			
坂本 理香			
講義・実習	養護教諭対象科目	088013P4H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	前期：養護実習の目標を達成するための具体的方策を身に付ける 後期：①養護実習では学校保健活動及び養護教諭の職務を教育活動の一環として捉え、保健室の在り方及び養護教諭の果たすべき役割を理解する。 ②「養護」の対象であり、成長過程にある児童生徒のありのままの姿を理解する。 ③養護実習を終了して、養護教諭になるための自己課題を明らかにし、力量を形成しようとする態度を養う		
授業の概要	養護実習（事前事後指導1単位を含む5単位） 小学校又は義務教育学校又は中学校又は高等学校又は特別支援学校3週間（120時間） 事前指導では、養護実習の目的達成のため、養護教諭の職務・役割について学習（座学・グループワーキング）を行う。 実習では、学校現場で指導教官の養護教諭をはじめ、学内の全教職員の指導を得て、実践力を身に付ける。事後指導では、実習の振り返りを行い、自己課題をまとめ、実習体験の共有を図る。		
授業計画	第1回	養護実習の意義 養護実習での学びの全容 養護実習要綱の確認 養護実習生調査書の書き方指導 ・事前学習(2時間)：養護実習要綱・実習記録で実習の具体的内容を確認 ・事後学習(2時間)：実習生調査書用、自己PR・養護実習への抱負の下書き作成	
	第2回	学校保健と学校安全 学校保健や学校安全の概要とその中心となる養護教諭の職務について振り返る ・事前学習(2時間)：学校保健の構造および学校保健を裏付けする法律を確認する ・事後学習(2時間)：学校保健の機能及びその具体的内容を再確認する	
	第3回	学校組織と保健管理（健康診断・健康観察・疾病管理・救急処置） 学校組織における各教職員の役割（校務分掌）と養護教諭の関わりをイメージする。 学校でトラブルになりやすい事例から、その対応を学ぶ（歯の破折・脱臼、給食時の誤嚥・窒息） ・事前学習(2時間)：養護教諭の職務を振り返る ・事後学習(2時間)：健康観察のプロセスを覚える	
	第4回	養護教諭の職の専門性と保健室の機能を活かした関わり（健康相談） 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の実際…校内外の連携を視野に考える 養護教諭だからできること・保健室だからできることを確認する ・事前学習(2時間)：養護教諭の職務内容と保健室の機能を確認再確認する ・事後学習(2時間)：実習校の保健室の機能を活かしたかかわりをイメージし、流れをまとめる	
	第5回	保健教育（教科保健と学級活動における保健の指導・個別指導） 学校での保健教育の機会のなかで養護教諭の関わる保健教育の時間を有効的にとらえる。 （担任が行う教科保健や総合的な学習・学級活動、保健室での個別指導、健康相談と保健指導） ・事前学習(2時間)：各保健教育の特性（対象・機会・位置付け等）を確認 ・事後学習(2時間)：健康課題をとらえた指導を考える	
	第6回	学級活動（保健の指導）の授業づくり① 健康課題解決に向けた保健の指導の指導案作成を行う ・事前学習(2時間)：健康課題解決に向けた、題材・ねらいを決めてくる ・事後学習(2時間)：指導案を完成させる	
	第7回	学級活動（保健の指導）の授業づくり② 模擬授業を体験し、実習校での実践に備える ・事前学習(2時間)：授業の流れを確認して工夫する ・事後学習(2時間)：模擬授業をした反省をもとに指導案の修正を行う	
	第8回	養護実習直前オリエンテーション 養護実習要項の内容を理解する 実習開始時持参書類の確認 ・事前学習：養護実習生調査書清書、実習校事前訪問について質問事項をまとめる。 ・事後学習：実習開始時挨拶を考える（教職員向け・児童生徒向け）	
	3週間	養護実習（小中学校） 実習校での3週間の教育実習	
	第9回	実習の振り返り① 現場実習での体験の共有 事前学習（2時間）：健康観察、健康診断、救急処置、保健室経営、健康相談等の体験をまとめる。 事後実習（2時間）：グループワークでの共有体験から自身の実践を振り返る。	
	第10回	実習の振り返り② 保健指導体験の共有。 事前学習（2時間）：実習で行った保健指導の資料をまとめる。 事後学習（2時間）：保健指導の相互評価を通して、自身の保健指導を精査する。	
	第11回	養護実習記録、自己課題に関する報告書作成① 事前学習（2時間）：養護実習記録をまとめる。	

	第12回 事後学習（2時間）：養護実習の自己課題から、実際の体験を捉えなおす。 養護実習記録、自己課題に関する報告書作成② 事前学習（2時間）：自己の気づきをグループワークで伝える資料を作成する。 事後学習（2時間）：養護実習での体験を後期開講の「教職実践演習」に関連づける。
テキスト	前期の学内講義では学校保健・養護概説の教科書、および配布プリント
参考書・参考資料等	養護実習録（記録）
学生に対する評価	事前指導での学習状況および実習校での養護実習担当教員による評価をもとに総合的に評価する。実習校では全日の出席を原則とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義後、適宜返答する。
備考	学校での実務（勤務）経験と近年の学校現場の状況を踏まえ教授する。

講義科目名称： 教職実践演習(養護教諭)

授業コード： 501500A

英文科目名称： Teaching Practice (Yogo Teacher)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	【自由】看護
担当教員			
坂本理香、趙雪梅、青井 利哉			
講義・演習	養護教諭対象科目	088014S4H	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	養護実習を振り返り、養護教諭としての専門的力量を深めることができたか確認する。 教育現場における養護教諭としての学校保健の重要性を認識し、さらに卒業後養護教諭になるための自らの課題を深く理解する。		
授業の概要	「教職実践演習」は国が定めた必修科目で、4年間の学びの集大成として、教育職員としての基本的な知識や理解、教職の専門性などについて省察する科目である。養護教諭として学校保健の重要性を認識し、養護実習で体験したことを振り返り、履修すべき目標に到達できるよう省察し補完する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画と評価方法 養護実習の振り返り（坂本） 養護実習の学びの自己評価と現在の自己の課題の検討 ・事前学習(2時間)：実習校で養護教諭に望まれていたことは何か振り返る ・事後学習(2時間)：養護実習で得た学びと反省点、今後の課題をまとめる	
	第2回	事例検討を通した養護実習の再構築（趙 坂本） 養護実習の場面を想定した事例検討を通して実習の学びを深める グループワーク、ロールプレーイング ・事前学習(2時間)：養護実習での経験から、検討する事例を作成する ・事後学習(2時間)：グループワーク、ロールプレーイングを通して、客観的、体験的に場面を振り返る	
	第3回	学校組織と養護教諭（趙） 子どもの学びを支える学校の組織とその中での養護教諭・保健室の役割を学ぶ ・事前学習(2時間)：配付された関係資料に目を通す ・事後学習(2時間)：授業を振り返り、記録する	
	第4回	養護教諭以外の他職種との連携のあり方（坂本） 養護教諭が会う子供たちは学校の中での通常の姿とは異なる場合が多く、その深さ、広さへの対応として他の職種との連携・協働も必要になってくる ・事前学習(2時間)：配付された関係資料に目を通す ・事後学習(2時間)：授業を振り返り、記録する	
	第5回	教育相談 学級担任と子供たちとのかかわり（青井） 学校生活では学習面だけでなく、健康、友人関係など、多彩な相談場面がある。 学級担任が子供たちを日常的観察する中で、どのように気付き対応するのかについて学ぶ ・事前学習(2時間)：担任が学級で注していたこと、工夫していたことは何だったか思い出す ・事後学習(2時間)：講義での新たな気づきをまとめる	
	第6回	養護教諭の主な職務・他職種とのかかわり（坂本） 履修カルテと実習記録から不足とされる学びの補完を行う 養護実習で体験したことを仲間と共有することで、教育職として必要な学びを深める ・事前学習(2時間)：3年次までの講義と養護実習を合わせて振り返る ・事後学習(2時間)：実習で体験が十分なされなかったことや、さらなる学びが必要なことを書き出す	
	第7回	不登校・保健室登校（青井） 学校現場の状況や近年の社会情勢から学び合う ・事前学習(2時間)：3年次までの講義と養護実習を合わせて振り返る ・事後学習(2時間)：実習で体験が十分なされなかったことや、さらなる学びが必要なことを書き出す	
	第8回	教職員の役割と 養護教諭に求められる力（趙） 学校における教職員の組織的役割 ・事前学習(2時間)：養護実習や今までの講義で知りえた教員の職務についてまとめる ・事後学習(2時間)：養護実習での学びを報告する準備をする	
	第9回	養護教諭に求められる力（坂本） 養護教諭は新採用であってもミドルリーダー的役割を担うことになる そのために求められる力は何かについて教授する ・事前学習(2時間)：今、養護教諭に求められる力は何かを考える ・事後学習(2時間)：学校現場で必要とされることを確認する	
	第10回	関係機関・地域との連携（趙） 養護教諭と学校内外の連携・体制づくりにおける養護教諭の役割 ・事前学習(2時間)：地域の関係機関を調べる ・事後学習(2時間)：チーム学校にかかわる人々の仕事の内容を確認する	
	第11回	子どもに分かりやすい保健教育 授業づくり（坂本） GW:現状を踏まえ、健康課題を捉えた授業を考える ・事前学習(2時間)：自分の指導案を考える ・事後学習(2時間)：仲間の意見を参考に、指導案を完成させる	
	第12回	保健教育に必要なメディアリテラシー（坂本）（ゲストティーチャー・中日新聞社NIEコーディネーター） 教材、資料等に新聞等のメディアを活用するマナーや手法を習得することで教職員としての学びを深める	

	第13回 ・事前学習(2時間)：保健教育・保健指導の資料として新聞の活用方法を考える ・事後学習(2時間)：新聞記事を活用して、保健だよりを作成する 学びの報告会準備（坂本） 養護実習・教職課程の授業全般について下級生に紹介する 養護実習・教採などに関する座談会を企画・実施する ・事前学習(2時間)：教職課程の学びを振り返る ・事後学習(2時間)：看護研究レポート作成 第14回 養護の学び報告会（趙 坂本） 養護教諭に求められる力（坂本） 養護教諭としての力学びを整理し下級生に伝えることで、職務への理解を深める ・事前学習(2時間)：報告会のための情報をまとめる ・事後学習(2時間)：保健教育の指導案を再度見直す 第15回 教職課程の学びを終えて（趙・坂本） 各自、学びの振り返りを行い、今後の目標を見極める ・事前学習(2時間)：教育職としての抱負をまとめる ・事後学習(2時間)：学びのまとめをする
テキスト	特に指定しない。
参考書・参考資料等	随時、授業中に紹介する。
学生に対する評価	授業ごとの課題に関する記載内容により評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義時間前後および研究棟の演習室で対応します。
備考	